

2019(平成 31)年度入学生用シラバス目次

科目区分	授業コード	科目名称	担当教員	配当年次	期間	必修・選択	単位数	ページ
専門基礎学修の基礎	ENA0101	基礎ゼミナール	准教授、講師、助教全員	1	前	必	1	27
	ENA0201	人間環境学	城田純平	1	前	必	2	29
	ENA0301	医療キャリアの基礎	三並めぐる、藤本千里、田中正子、大西ゆかり、羽藤典子、永江真弓	1	前	必	1	32
コミュニケーションの基礎	ENB0101 ENB0102	英語Ⅰ	松浦淳子	1	前	必	2	34
	ENB0201 ENB0202	英語Ⅱ	高久保文恵	1	前	必	2	37
	ENB0301 ENB0302	英語Ⅲ	松浦淳子	1	後	必	2	40
	ENB0401 ENB0402	英語Ⅳ	高久保文恵	1	後	必	2	43
	ENB0501	コンピュータ基礎・情報処理法	野口一人、上西孝明	1	前	必	1	46
基礎科目	ENC0101	日本国憲法	中曾久雄	1	前	選	2	48
	ENC0201	愛媛を学ぶ	森賀盾雄、八木健	1	前	選	2	50
	ENC0301	人間関係論	富田英司	1	後	選	2	52
	ENC0401	教育心理学	富田英司	1	前	選	2	54
	ENC0501	フィットネススポーツ	佐野和幸	1	前	選	1	56
	ENC0601	体育実技	田中雅人	1	後	選	1	59
	ENC0701	社会・環境と健康	岡靖哲	1	後	選	2	61
	ENC0801	家族社会学	岡多枝子	1	後	選	2	63
	ENC0901	生命倫理学	野元正弘	1	前	選	2	66
	ENC1001	社会福祉学	岡多枝子	1	後	必	2	68
	ENC1101	教育社会学	石川良子	1	後	選	2	71
	ENC1201	社会保障論	岡多枝子	1	前	選	2	73
	ENC1301	哲学	森川孝吉	1	前	選	2	76
	ENC1401	芸術の世界	菅春二	1	前	選	2	79
	ENC1501	日本の歴史と文化	山内譲	1	後	選	2	81
	ENC1601	経営学の基礎	森賀盾雄	1	前	選	2	83
専門基礎科目	END0101	解剖生理学ⅠA	吉村裕之	1	前	必	1	85
	END0201	解剖生理学ⅡA	本田和男	1	前	必	1	87
	END0301	解剖生理学ⅠB	本田和男	1	後	必	1	89
	END0401	解剖生理学ⅡB	吉村裕之	1	後	必	1	91
	END0501	微生物学	加納誠	1	後	必	2	93
	END0601	生化学	東山繁樹	1	後	必	2	95
	END0701	栄養学	藤井文子	2	前	必	1	97
専門基礎科目	ENE0101	病理学	本田和男	2	前	必	1	99
	ENE0201	疾病・治療論Ⅰ	本田和男、檜垣實男	2	前	必	2	101
	ENE0301	疾病・治療論Ⅱ	高田清式、石川正憲	2	前	必	1	104
	ENE0401	疾病・治療論Ⅲ	杉山隆他、江口真理子 他	2	後	必	1	106
	ENE0501	老年疾病治療論	伊賀瀬道也	3	前	選	1	108
	ENE0601	薬理学	吉村裕之	2	後	必	1	110

科目区分		授業コード	科目名称	担当教員	配当年次	期間	必修・選択	単位数	ページ
専門基礎科目	健康と生活支援	ENF0101	統計学	吉村裕之	1	後	必	2	112
		ENF0201	疫学	中村哲	2	後	必	1	114
		ENF0301	保健看護情報学	船田千秋	3	前	必	1	116
		ENF0401	公衆衛生学	中村哲	1	後	必	1	118
		ENF0501	保健医療福祉行政論	宮内清子	3	前	必	2	120
		ENF0601	臨床心理学	吉田京子	2	後	選	1	122
		ENF0701	カウンセリング	相模健人	3	前	選	2	124
		ENF0801	チームケア論	小西美智子	4	後	必	1	126
		ENF0901	医療リスクマネジメント論	村上早苗	3	前	必	1	128
		ENF1001	人権擁護と成年後見制度	菅野慎二	3	前	選	1	131
		ENF1101	医療経営論	中橋恒、一井美哉子	4	後	選	1	133
専門科目	基礎看護学	ENG0101	看護学概論Ⅰ	河野保子	1	前	必	2	136
		ENG0201	看護学概論Ⅱ	奥田泰子、三並めぐる、宮崎博子、アダラ—コリンズ、慈観、田中正子、別宮直子、上西孝明、永江真弓	1	前	必	1	139
		ENG0301	看護学概論Ⅲ	河野保子	4	後	必	1	141
		ENG0401	生活援助方法論	中島紀子	1	後	必	1	143
		ENG0501	生活援助方法演習	中島紀子、讚井真理	1	後	必	2	145
		ENG0601	診療援助方法論	中島紀子	2	前	必	1	148
		ENG0701	診療援助方法演習	中島紀子、讚井真理	2	前	必	2	150
		ENG0801	看護コミュニケーション論	中島紀子	1	後	必	1	153
		ENG0901	看護倫理	河野保子	4	後	必	1	155
	看護管理学	ENH0101	看護管理学	村上早苗	3	前	必	1	157
	ENH0201	組織とリーダーシップ論	村上早苗	4	後	選	1	159	
専門科目	発達看護学	ENI0101	小児看護学概論	三並めぐる	2	前	必	2	161
		ENI0201	小児看護援助論Ⅰ	三並めぐる、羽藤典子	2	後	必	1	163
		ENI0301	小児看護援助論Ⅱ	三並めぐる、羽藤典子	3	前	必	1	165
		ENI0401	小児看護援助論Ⅲ	三並めぐる、羽藤典子	4	前	選	1	167
		ENI0501	小児看護技術論	三並めぐる、羽藤典子	4	前	選	1	169
		ENI0601	小児看護学外演習	三並めぐる、羽藤典子	4	前	選	1	171
		ENI0701	小児看護演習	三並めぐる、羽藤典子	4	後	選	1	173
	母性看護学	ENJ0101	母性看護学概論	永江真弓	2	前	必	2	175
		ENJ0201	母性看護援助論Ⅰ	永江真弓	2	後	必	1	177
		ENJ0301	母性看護援助論Ⅱ	永江真弓、高田律美	3	前	必	1	179
専門科目	成人・高齢者看護学	ENK0101	成人看護学概論	大西ゆかり、上西孝明	2	前	必	2	182
		ENK0201	成人急性期看護援助論Ⅰ	本田和男、大坪かなえ、上西孝明	2	後	必	1	184
		ENK0301	成人急性期看護援助論Ⅱ	本田和男、大坪かなえ、上西孝明	3	前	必	2	186
		ENK0401	成人慢性期看護援助論Ⅰ	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美	2	後	必	1	189
		ENK0501	成人慢性期看護援助論Ⅱ	大西ゆかり、岩崎智之、村上早苗、山本千恵美	3	前	必	2	191
		ENK0601	がん看護援助論	大西ゆかり、アダラ—コリンズ、慈観、山本千恵美	4	前	選	1	194
		ENK0701	がん看護技術論	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美	4	前	選	1	196
		ENK0801	がん看護学外演習	大西ゆかり、アダラ—コリンズ、慈観、村上早苗、山本千恵美	4	前	選	1	198
		ENK0901	がん看護演習	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美	4	後	選	1	200

科目区分		授業コード	科目名称	担当教員	配当年次	期間	必修・選択	単位数	ページ
成人・高齢者看護学	高齢者看護学	ENL0101	高齢者看護学概論	奥田泰子	2	前	必	2	202
		ENL0201	高齢者看護援助論Ⅰ	棚崎由紀子、眞鍋瑞穂	2	後	必	1	204
		ENL0301	高齢者看護援助論Ⅱ	棚崎由紀子、眞鍋瑞穂	3	前	必	1	206
		ENL0401	認知症看護援助論	奥田泰子	4	前	選	1	208
		ENL0501	認知症看護技術論	棚崎由紀子、眞鍋瑞穂	4	前	選	1	210
		ENL0601	認知症看護学外演習	奥田泰子、棚崎由紀子、眞鍋瑞穂	4	前	選	1	212
		ENL0701	認知症看護演習	奥田泰子、棚崎由紀子、眞鍋瑞穂	4	後	選	1	214
専門科目	在宅看護学	ENM0101	在宅看護学概論	田中正子、永井康徳	2	前	必	2	216
		ENM0201	在宅看護援助論Ⅰ	田中正子、村岡由佳里	2	後	必	1	219
		ENM0301	在宅看護援助論Ⅱ	田中正子、村岡由佳里	3	前	必	1	222
		ENM0401	終末期看護学	田中正子、村岡由佳里	3	前	必	1	224
		ENM0501	在宅・終末期看護援助論	田中正子、村岡由佳里	4	前	選	1	226
		ENM0601	在宅・終末期看護技術論	田中正子、村岡由佳里	4	前	選	1	228
		ENM0701	在宅・終末期看護学外演習	田中正子、村岡由佳里	4	前	選	1	230
		ENM0801	在宅・終末期看護演習	田中正子、村岡由佳里	4	後	選	1	232
地域看護学	地域看護学	ENN0101	地域看護・公衆衛生看護学概論	宮崎博子	2	前	必	2	234
		ENN0201	公衆衛生看護援助論Ⅰ	宮崎博子、岡多枝子、藤本千里、日川幸江	2	後	選	2	236
		ENN0301	公衆衛生看護援助論Ⅱ	岡多枝子、藤本千里、日川幸江	3	前	選	1	239
		ENN0401	公衆衛生看護援助論Ⅲ	宮崎博子、藤本千里、日川幸江	4	前	選	2	241
		ENN0501	公衆衛生看護援助論Ⅳ	宮崎博子	4	後	選	1	243
		ENN0601	学校保健	岡多枝子、矢野美恵子	2	後	選	2	245
		ENN0701	養護概説	岡多枝子	3	前	選	2	247
		ENN0801	健康相談活動論	岡多枝子、矢野美恵子	3	前	選	2	250
国際看護学	国際看護学	ENO0101	国際看護学Ⅰ	アダラ—コリンズ、慈観	1	後	必	2	252
		ENO0201	国際看護学Ⅱ	アダラ—コリンズ、慈観	2	前	必	2	257
		ENO0301	国際看護学Ⅲ	アダラ—コリンズ、慈観	3	前	選	2	262
		ENO0401	国際看護学Ⅳ	アダラ—コリンズ、慈観	4	後	選	1	266
		ENO0501	国際看護学海外研修	アダラ—コリンズ、慈観	2	前	選	1	269
精神看護学	精神看護学	ENP0101	精神保健看護学概論	別宮直子	2	前	必	2	271
		ENP0201	精神看護援助論Ⅰ	別宮直子	2	後	必	1	273
		ENP0301	精神看護援助論Ⅱ	別宮直子	3	前	必	1	275
統合看護	統合看護	ENQ0101	家族看護論	金子省子	2	後	必	1	277
		ENQ0201	看護過程	棚崎由紀子、中島紀子、羽藤典子、上西孝明	2	前	必	1	279
		ENQ0301	ヘルスマセメントⅠ	大坪かなえ、上西孝明、山本千恵美	2	後	必	2	281
		ENQ0401	ヘルスマセメントⅡ	大坪かなえ、上西孝明、山本千恵美	4	後	必	1	283
		ENQ0501	看護教育論	河野保子	4	後	選	1	286
		ENQ0601	災害看護学	大坪かなえ、松井豊	2	後	必	1	288
		ENQ0701	緩和ケア・ターミナル看護論	宮脇聰子	4	後	選	1	290
		ENQ0801	ストレスマネジメント論	小西美智子	4	後	選	1	292
		ENQ0901	研究方法論	奥田泰子、三並めぐる、田中正子、大西ゆかり、棚崎由紀子、中島紀子、羽藤典子	3	前	必	1	294
		ENQ1001	看護研究	専任教員全員	4	通	必	2	296

科目区分	授業コード	科目名称	担当教員	配当年次	期間	必修・選択	単位数	ページ
専門科目	臨地実習	ENR0101	基礎看護学実習Ⅰ	中島紀子 他	1	前	必	1 298
		ENR0201	基礎看護学実習Ⅱ	中島紀子 他	2	後	必	2 300
		ENR0301	小児看護学実習	三並めぐる、羽藤典子 他	3	後	必	2 302
		ENR0401	母性看護学実習	永江真弓 他	3	後	必	2 304
		ENR0501	精神看護学実習	別宮直子 他	4	前	必	2 306
		ENR0601	成人急性期看護学実習	大坪かなえ、上西孝明 他	3	後	必	3 308
		ENR0701	成人慢性期看護学実習	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美他	3	後	必	3 310
		ENR0801	在宅高齢者看護学実習	奥田泰子、棚崎由紀子、眞鍋瑞穂 他	2	前	必	1 312
		ENR0901	高齢者看護学実習	奥田泰子、棚崎由紀子、眞鍋瑞穂 他	3	後	必	3 314
		ENR1001	在宅看護学実習	田中正子、村岡由佳里 他	4	前	必	2 316
		ENR1101	公衆衛生看護学実習Ⅰ	宮崎博子、藤本千里、日川幸江 他	4	前	選	3 318
		ENR1201	公衆衛生看護学実習Ⅱ	宮崎博子、藤本千里、日川幸江 他	4	後	選	2 320
		ENR1301	統合実習	看護系専任教員全員	4	前	必	2 322

授業コード	ENA0101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	基礎科目－専門学修の基礎				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	基礎ゼミナール	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1年／前期	単位数	1		判断力		
担当教員	准教授、講師、助教全員				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
1.	初年次教育としてアカデミックスキルの必要性を理解できる。						
2.	大学で学ぶために必要なスキルを学び、効果的な学修方法を身につける。						
3.	少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発する。						
授業内容							
よりよい学生生活を送るために必要なスキルとは何か、これまでの学習とは違った、大学で学ぶために必要なスキルとは何かを理解し、効果的な学修へつなげる。 受講方法、ノート・テイキング、クリティカル・リーディング、アカデミック・ライティングといったスキルを学ぶとともに、パソコンの使い方、文献検索の方法も学修する。また、これらのスキルを使いグループワークでまとめたものをプレゼンテーション、発表することでアカデミックスキルを修得する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	オリエンテーション 大学生活への導入と4年間の学び	大学で学ぶために必要なスキルとは何か、効果的な学修方法とは何か理解することができる。また大学生としてのマナーを理解できる。					
2	パソコンの使い方	Windows の基本操作(トラブルシューティングを含む)を理解し、電子メールの設定・送受信ができる。					
3	ノート・テイキング	大学でのノートの取り方の必要性や方法を理解することができる。					
4	アカデミック・ライティング①	アカデミック・ライティング(レポートの書き方)を理解することができる。					
5	アカデミック・ライティング②	グループワークを通して、レポートの書き方の理解を深め、レポートを書くことができる。					
6	ポートフォリオ	ポートフォリオとは何かを理解できる。					
7	クリティカル・シンキング クリティカル・リーディング	クリティカル・シンキングの意味やクリティカル・リーディングの手法(文章の要約など)を理解することができる。					
8	文献検索	これまでに学んだスキルを使い、テーマに沿った文献検索を行うことができる。					
9	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの方法や PowerPoint を用いた資料作成の要点について理解することができる。					
10	グループワークとは	グループワークの意義を理解することができる。					
11	グループワークの進め方	リーダーシップ、メンバーシップとしての役割を理解し、実践することができる。					
12	医療・保健・看護に関連するテーマの決定 グループワーク①	興味・関心のあるテーマを決定し、グループで調べて話し合うことができる。					
13	グループワーク②	グループでディスカッションしながら、決定したテーマについてまとめることができる。					
14	グループワーク③	グループでのまとめを発表できるよう、プレゼンテーションの準備ができる。					

15	グループワークの発表	グループでの発表を通し、学びを共有することができる。
留意事項(履修条件等)		
<p>本講義は、アクティブラーニングで実施します。グループワーク、プレゼンテーション、質疑応答には積極的に参加してください。</p> <p>課題がある場合には事前に自己学習して講義にのぞんでください。</p> <p>グループワークを行うときは、各担当教員の指示に従ってください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別およびグループワークのフィードバックは時間外に設定します。</p>		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習: 講義までにシラバスを読み、毎回の講義内容を確認してください。</p> <p>事後学習: 講義内で提示された課題についてはしっかりと事前事後学習をして、期限内に必ず提出するようにしてください。</p>		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
<p>本科目は、複数の教員が担当します。各教員のオフィスアワーは、各自で確認してください。</p>		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
<p>毎回の講義内でレジュメ、講義内容を配布します。</p>		
最終到達目標		
<p>大学で学ぶために必要なアカデミックスキルを身につけ、4 年間効果的に学習できるようスキルを活用することができる。グループ活動を実践できる。</p>		
評価方法及び評価基準		
<p>提出課題 50% (アカデミック・ライティング; 個人レポート、アカデミック・リーディングおよびグループワーク課題、最終個人レポート) グループワーク活動 20% グループワーク発表 20% 授業への参加態度 10%</p> <p>これらを統合して 100 点満点で評価します。</p>		
成績評価基準 (学則第 34 条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		
学生へのメッセージ		
<p>大学での学びは、これまで学んできた学習方法と異なり、自ら積極的に講義に参加していくなければ単位の修得につながりません。本科目では、今後 4 年間を通して大学で学修するために必要なスキルを学びますので、グループワークを含め積極的に参加してください。</p>		

授業コード	ENA0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	基礎科目-専門学修の基礎				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	人間環境学	選択・必修	必修		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力		
担当教員	城田純平				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的

人間環境大学の建学の精神である人間環境学について、その学問の起りと理念を理解することが本講義の目的である。また同時に、受講生各自が看護学部での専門的な学びを、人間環境学という理念のもとに捉えられるようになることを狙う。

授業内容

「人間環境学」という建学の理念のもとに目指されているのは、〈知の全体性を取り戻すこと〉に他ならない。学問の個別専門化が進む中で、学問知はその全体的な〈まとまり〉を失い、私たち一人ひとりの生との具体的な〈つながり〉を欠きつつある。では、私たちはこの危機的状況をいかにして打ち破ることができるのか。人間環境学の理念は、こうした鋭い問題意識のもとに建立されたものである。そのため、「人間と環境」と言われるときの「環境」には、自然環境という、狭い意味での環境にとどまらず、精神環境、歴史環境、文化環境、社会環境など、私たち人間を取り巻くあらゆるもののが含まれている（「environment」とは元々「取り巻くもの」を意味している）。他方で、ここでの「人間」とは、（西洋近代において前提とされたような）孤立的な個人のことではなく、むしろ共同体の中で他者と共に生きる存在を意味しており、また同時に、それは単に精神的存在であるだけでなく身体的存在でもある。そして、このようにして「人間」と「環境」それぞれについての知の全体的な〈まとまり〉を保った上で、私たち「人間」と「環境」との間の生きた〈つながり〉——すなわち「人間と環境」の「と」——これを追究し、恢復（かいふく）するのが、人間環境学である。本講義では、この理念が指示すところに従って、私たち一人ひとりが「生きる」ということ、すなわち人間の「生」という根本現象——ここにはいつも既に環境との関わりが見られるわけであるが——に焦点を合わせることで、知の〈まとまり〉と〈つながり〉を維持しつつ、看護学・心理学・環境科学という、人間環境大学の各学部・学科の柱となっている領域へと向かって議論を開いていく。

具体的には、第一回・第二回で人間環境学への導入を行った後に、第三回から第五回にかけては私たちの生と自然環境との関わりについて、第七回から第十回にかけては他者の生への関わりについて、第十二回から第十四回にかけては心と身体の問題について考えていく。なお、第六回・第十一回・第十五回はそれぞれ、それまでの内容を復習し、まとめるためのコマとする。本講義では、折にふれて Web アンケート（Google フォーム）を利用することで、クラス全体で意見を共有すると共に、教員からの即時のフィードバックを行う（「ICT を活用した双方向型授業」）。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	人間環境学概論	「なぜ人間環境学が必要なのか？」という問い合わせに対して、〈学問の在り方〉というキーワードを用いて、400 字程度で説明できる。
2	私たちの「生」から始める人間環境学	日常の「生」の現場において、私たちが個々の「もの」や「ひと」とどのように関わっているのかを、〈自己への関心（気遣い・ケア）〉というハイデガーの用語を用いて、400 字程度で説明できる。
3	私たちの「生」の二重性—人間的な「生」（ビオス）と生物的な「生」（ゾエー）—	Life に対応する、二つのギリシア語の意味を説明できる。また、魂と肉体の関係についての、プラトンとニーチェの主張の違いを 400 字程度で説明できる。
4	私たちの「生」は「環境」とどのように関わっているのか？—動物との比較から—	20 世紀に活躍した哲学者シェーラーが、〈人間の「（環境）世界」への関わり〉は、〈生き物の「環境世界」への関わり〉とどのように異なっていると考えているのかを、人間の「世界開放性」というキーワードを用いて 200 字程度で説明できる。

5	人間が環境を守ることの「なぜ」と「どのように」—社会環境との関わりの中で—	ハンス・ヨナスによる「責任のバトン」の考え方とはどのようなものであるか、200字程度で説明できる。また、私たちはどのように環境を守っていくことができるのかという点について、ルーマンとサンデルの考え方の対立点を、「環境の価値」、「経済的な価値」という二つのキーワードを用いて200字程度で説明できる。
6	復習コマ(1)—日本と西洋における「人間環境」の捉え方の違いを視野に入れて—	丸山眞男の議論において、日本と西洋それぞれにおける自然環境の捉え方は、どのように異なるものと考えられているのか、300字程度で説明できる。その際、日本と西洋それぞれにおける自然環境の捉え方が、「人間中心主義」、「非人間中心主義」の立場とそれほどのような関係にあるのかも示すことができる。
7	私たちの「生」の本質としてのケア—他者への「ケア」とはどのようなことか?—	ハイデガーが挙げている、「他者への関心(気遣い・ケア)」の二つのタイプとはどのようなものであるか、それぞれのタイプについて、「自己への関心」というキーワードを用いつつ100文字程度で説明できる。また、19世紀の哲学者ニーチェが「道」の比喩で述べていることについて、(ア)それはどのようなことを表現しているのか、また(イ)それは上の二つのタイプの「他者への関心」とどのような関係にあるのかを、それぞれ150字程度で説明できる。
8	他者の「生」と「環境」—二人称の生と三人称の生—	ハイデガーにおける「同行」の概念を、「自己への関心」というキーワードを用いて、しかも「感情移入」との違いを示しつつ、200字程度で説明できる。
9	他者の「生」の終わりへの眼差し—「脳死」の問題を例として—	他者の「死」を考える際の二つの視点(「二人称の視点」、「三人称の視点」)の違いについて、「脳死」の問題を例として、400字程度で説明できる。
10	他者の「生」の始まりへの眼差し—「人工妊娠中絶」の問題を例として—	二人称の視点から見る場合と、三人称の視点から見る場合では、人の生はいつから始まるかという問題について、どのような異なった考えが成立するか、400字程度で説明できる。
11	復習コマ(2)—時間性の観点から—	人の生／死を二人称の視点から捉える場合と三人称の視点から捉える場合とでは、その時間性にどのような違いが生じるか、400字程度で説明できる。
12	「生」の学としての「プシュケーの学」—古代ギリシアにおける「プシュケー」(魂)と「ソーマ」(身体)—	プラトンとアリストテレスにおいては、「プシュケー」がそれほどのようなものとして捉えられているか、両者の主張の違いを明らかにしつつ、300文字程度で説明できる。
13	私たちの「心」と「身体」はどのように関わっているのか?—「心身問題」—	「心身問題」とはどのようなものであるかを、この問題の前提となっている、デカルトの「心身二元論」の考え方を踏まえた上で、400文字程度で説明できる。また、デカルトの議論が、プシュケーとソーマに関する、プラトンやアリストテレスの議論とどのような関係にあるのかを200文字程度で説明できる。

14	「生きた身体」—私たちの「生」の現場へ戻る—	メルロ=ポンティによる、「媒体としての身体」という「身体」の捉え方について、それは、デカルトの「心身二元論」における身体の捉え方とどのように異なるものであるか、400字程度で説明できる。また、メルロ=ポンティの言うところの「習慣としての身体」に関して、歴史的・文化的環境によって規定された身体的習慣の例を挙げつつ 400 字程度で説明できる。
15	まとめ	第一回から第十四回までの全ての回の学習課題について、定められた条件(文字数、必要語句等)を満たしつつ説明できる。
留意事項(履修条件等)		
私語・遅刻は厳禁である。なお、確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に実施する。全体のフィードバックについては講義時間内に、個別のフィードバックは時間外に設定する。		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。		
事前学習:各回に教材として使用するプリントをあらかじめ配布しておくので、それを熟読しておくと共に、各回の課題欄に具体的に記載してある予習課題にも取り組む。具体的な予習の方法については授業内で指示する。		
事後学習:各回の復習欄を参考にして、その回のポイントを3分程度で説明できるようにしておく。また、適宜ミニレポートを課すことがある。具体的な復習の方法については授業内で指示する。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
集中講義のため、講義終了後の時間およびメール(アドレスは講義内にて周知する)にて対応。		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
なし(講義内でプリントを配布)。		
最終到達目標		
人間環境大学の建学の精神である人間環境学について、学問の起りと理念を理解することができる。看護学部での専門的な学びを、人間環境学という理念のもとに捉えられるようになる。		
評価方法及び評価基準		
論述試験 100%		
成績評価基準 (学則第 34 条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		
学生へのメッセージ		
集中講義のため講義日の間隔が空くこともありうるので、各回の予習・復習課題の実施を徹底し、理解の不十分な点は放置することなく講義内のアクションペーパーおよびメール等で質問するように心掛けること。自ら学ぶ姿勢を強く要求する。		

授業コード	ENA0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	基礎科目—専門学修の基礎				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	医療キャリアの基礎	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力		
担当教員	三並めぐる、藤本千里、田中正子、 大西ゆかり、羽藤典子、永江真弓				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
看護は実践の科学であり、看護を支える基盤が看護学である。看護学は諸科学の知識を活用し、看護の哲学を中心に看護の現象を説明する学問として体系化されていることを学ぶ。そして将来の医療キャリア形成のために必要な考え方や看護職の基本的な仕事内容を理解するとともに、医療職業人として必要な接遇について基本的な態度を身につける。これらの学びを通し、自身の将来を見据えたキャリア形成について具体的な目標を描くことができる。							
授業内容							
本授業では、将来、医療職として成長していくための生涯プロセスの在り方を理解し、看護師、保健師、助産師、養護教諭になるための道筋や教育の仕組みを理解する。さらに、具体的な看護職の活動内容を学び、大学入学後早期より自分自身のキャリア設計を描くことができる。また、看護職として必要な接遇やマナーを理解し意識して行動できるようとする。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	医療キャリアの基礎の授業概要説明(三並) 看護の学問体系について(大西)	授業の目的と内容、流れを理解できる。 看護学を支える諸科学、看護学を構成する主要な概念について理解し、大学で看護学を学ぶ意義について説明することができる。					
2	看護専門職者と生涯学習について(大西)	看護専門職者として、看護学とは何か、看護学の価値と自律性、生涯学習の重要性について理解することができる。					
3	看護師の仕事とは(三並)	看護師の基本的な仕事について理解でき、医療専門職者として基本的態度を身につけることができる。					
4	助産師の仕事とは(永江)	助産師の免許取得について理解し、助産師の仕事の内容、および働く場所や地域での実践活動について理解することができる。					
5	保健師の仕事とは(藤本)	健康の定義、WHO の現状等から目的、内容、活動範囲等を理解することができる。					
6	養護教諭の仕事とは(三並)	養護教諭の免許状取得について理解し、学校保健(保健教育、健康管理、組織活動)を担う教育職としての養護教諭像を理解できる。					
7	看護職に必要なマナー・接遇(羽藤)	看護職に必要なマナー・接遇について学び実践できる。					
8	自分のキャリア設計についての演習(田中)	自分の将来を見据えたキャリアデザインを描くことができる。					

留意事項(履修条件等)					
次回の講義内容をシラバスで確認し、事前に予習し、授業に臨んでください。 専門職として自身の将来を見据えたキャリア形成について具体的な目標を描けるように授業で学んだ内容は、さらに関連事項を図書などで調べてください。 全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習)に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習: 次回の授業内容の予習と事前に指示された課題がある場合は課題を行ってください。 事後学習: 毎回の授業内容を自分自身が理解・納得できるように、配布資料や参考書等を参考にしてノートに整理してください。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
本科目は、オムニバス授業です。各教員のオフィスアワーの時間と場所に従ってください。					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書:なし 講義内でレジメ配布					
最終到達目標					
1. 4 年間で看護を学ぶ意味と医療専門職者としてのキャリア形成に必要な考え方、および看護師の基本的な仕事内容を理解し、今後の学習につなげることができる。 2. 医療専門職者として必要な接遇を理解することができる。 3. キャリア形成について具体的な目標・「なりたい私像」が描くことができる。					
評価方法及び評価基準					
リフレクションシート 40%、授業後レポート 40%、演習のまとめ 10%、グループワーク 10%とし、合計 100 点満点で総合評価する。					
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
看護学生として学問体系の中で看護学を学ぶ意味を考える基盤となる科目です。医療専門職業人としてのキャリア形成に向けて具体的なイメージを膨らませられるよう、毎時間事前学習事後学習を継続して取組んで下さい。看護職者のマナーも身につけ、それを学生生活にも活かしながら自分のキャリア設計ができるようにしましょう。					

授業コード	ENB0101, ENB0102			定める養成する能力 デイブロマボリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	英語Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年／前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	松浦淳子				探求心	○	

講義目的

- ・『英語Ⅰ』は看護業務や看護技術の基本的な概念として様々な医療情報を、患者や看護師、医師や医療スタッフとの間で「英語」や「日本語」による効果的で円滑なコミュニケーションを図るための「実践力」を習得することを目的とする。
- ・本コースは「世界共通」と云われる「英語の医療語彙」や様々な医療現場の「英語表現」を習得し、医療現場で必要な異文化理解を深め、各医療接觸現場における人材の多様化に合わせた「英語と日本語」の「混用」コミュニケーション能力を育成する。
- ・「日本語非母語話者の患者」や「外国人の看護師や医師」との関係性において『言葉の壁』が「誤解」や『ヒューマンエラー』の要因にならぬよう、両言語による「相互理解」「察知力」「メタ認知力」を向上させるための「ストラテジー」も育成する。

授業内容

今後日本は『多言語多文化共生社会』の構築化が加速していく！故に「医療現場」においても例外ではない。その多様化した医療現場においては「第1言語の壁」を超えて、「第2言語」である「英語の医療用語」を相互にそして瞬時に「理解・認識」できるだけでも「患者の命」を救うことも可能となることを提唱する。「英語の医療用語」は『単義語（1つの意味定義しかもない語）』である！依って、各医療現場に特化した「日本語の意味・概念」を提示し、両言語による理解力・認識力を促進させる。『医療人』に最も必要なことは、一般的な英語の生活用語や表現ではなく、「医療」に特化した英語の用語や表現であることを意識化させていく。

尚、全ての講義は「ICT」を活用し、受講formatは「peer learning in small collaborative groups」で実践していく！

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	Introduction, Course organization, Roster, Syllabus, and more (シラバス&スケジュールの説明等) ／「医療」に特化した「大学」における学習とは？／「What is GRIT？」(GRIT とは何なのか？)	The differences Between High School and College Learning ("College knowledge is self-taught"とはどういう意味なのかを認識し理解できる)／各自が『GRIT Scale』測定を実践し、その結果を今後の学習に応用するために自己認識化が実践できる
2	Human memory and brain function & Forgetting Curve (記憶のメカニズム&脳機能&『忘却曲線』)	学習方法に関連する「記憶術」「脳機能」「忘却回避」を理解した上で、自己の「記憶のメカニズム」を認識し活用術を構築できる
3	Human Body Parts (身体部位) & Respiratory & Digestive system (呼吸器系 & 消化器系の部位)	医療現場における基本的な「身体部位」や「英語の器官部位&機能」に関する語彙が認識できる
4	語彙「痛み」の類義語における相違点と使い分け／Classification of Pain (「痛みの分類」) の把握	患者による「痛み」の具体的な表現を把握・認識できる／外来＆入院患者と看護師への「痛み」に関する問診内容が理解できる
5	Describing Medical Symptoms & Health Problems ／Difference-cold-or-flu ／Various Headache Symptoms	様々な「症状」英語語彙を認識／「風邪」と「インフルエンザ」の相違点を把握・認識できる／様々な「頭痛」症状の英語語彙が理解できる
6	Stethoscopes (聴診器) & Lung Auscultations——Using a stethoscope, nurse may hear various types of breathing sounds 「呼吸音」 & 「ラ音」 (肺副雑音)	「聴診器」による「肺音」の聞き分けと基本的な定義の認識／捻髪音(fine crackles)と水泡音(coarse crackles)の違い／「聴診器」を用いて肺音を聴く際のモデル対話が「scenario practice」として実践できる
7	Vital Signs & Body Measurements (バイタルサイン) Body Temperature (体温測定) ／Various types of Thermometer (体温計の種類) ／Measurement methods and specific precautions (体温測定部位&注意点)	「バイタルサイン」「身体測定」の意義&必要性が理解できる The signs and symptoms of fever (発熱の徵候&症状を理解・認識ができる)／Measuring Temperature Using various types of Thermometer (体温測定の際に患者と対話し測定ができる)
8	Sites For Taking Pulse (脈拍の測定部位) ／Factors Affecting Pulse (脈拍に影響する要因とは)	What is Pulse? (「脈拍」測定の重要性が理解できる)／Measuring a Radial Pulse (wrist) (「橈骨動脈」の脈拍測定時に患者と対話し測定ができる
9	Measuring Blood Pressure (血圧測定) & Circulatory System (循環器系の部位) ／Definition of Hypertension & Hypotension／Blood Pressure Stages	Systolic pressure & Diastolic pressure 相違点が理解できる／New Hypertension Guidelines／Sphygmomanometers (血圧計)／artery and vein (様々な動脈と静脈)／血圧測定の必要性が理解できる
10	Blood Components (血液成分&「血液」の構成要素) ／most common blood tests (「血液検査」の種類)	「白血球」「赤血球」「血小板」「血漿」の意味定義が理解できる／様々な「血液検査」(CBC) 等の種類や目的が理解できる
11	Circulatory System (循環器系の部位) & Cardiovascular System (「心臓血管系」)	heart and blood & circulatory system (主な心臓血管部位名 & 循環器系の部位名) が理解・認識できる
12	How to Draw Blood (採血) ／Equipment Necessary to Perform a Routine Venipuncture (採血用の器具類)	Locate the vein／Needles & Syringes & collection tubes (採血用の器具や採血管の用途識別が可能) ／「静脈穿刺」が理解できる

13	Final Exam Study Guide (期末試験要項等々の説明) / Evaluation Grading (採点評価の説明) / 「総復習」 Final Exam Part 1 & Part 2 の各問に関し、重要キーワード等々が再理解でき「総復習」できる / 期末試験も含め全ての採点評価の内容が理解できる	
14	Each Group Work for Final Exam Part 1 課題遂行開始	講義時間内に各グループで「課題」準備ができる
15	Each Group Work for Final Exam Part 1 課題継続&提出	講義時間内に前週の「課題」プレゼンができる

留意事項（履修条件等）

- ◆Note: Lecture Schedule (The schedule listed on this page is tentative and may change during the term!!!)
- ★小テスト等々全ての講義内容の Feedback は次回の講義中に実施し、時間外では個別に対面／メールで実施する。
- ◆入学時に保持している「英語」に対する「好き・嫌い」等々のトラウマ的先入観や偏見はここで一度封印すること。
- ◆成人の言語学習において『自然習得』(13歳頃までは可能) はすでに無理！依って、本コースにおける「英語学習」は「第2言語習得」として捉え「自動化する丸暗記的習得」ではなく「思考する学習」を実践すること。
- ◆本コースで学習する「英語の語彙＆表現」は必ずやその他の科目に関連するものであることを意識しておくこと。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

- ★科目的単位を修得するに当り、およそ 60 時間の学習時間外の学修（本枠内の事前・事後学習内容）が必要である
- 事前学習：毎回の講義に、すでに受け取った全ての「配布プリント」等々を必ず持参すること！
また、前回までのその講義内容や配布プリント内容を 1 ~ 2 時間ほど『精緻化リハーサル』（短期記憶で一時的に保持している情報を他の知識と結びつけたり構造を理解しながら反復学習）し、効果的に復習しておく。
- 事後学習：当日の「配布プリント」内容を復習し、1 時間ほど重要な用語は「反芻」し記憶し、脳内に定着化させること！
また、毎回講義内容に関し、「自律学習（学習者による自主的な学び）」を実践し、同時進行しているその他の「科目」内容と関連させ、「自問自答」を繰り返し、最終的には「自分の言葉」で他者に説明できるようにする
- 各グループのメンバーで、相互的に学習内容を共有し、意識化し、今後の「チーム医療」へ繋がる「協働学習」を実践する

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

N/A ★正式な Office Hours は設定されていないが、「講義前」や「講義後」の時間帯を利用することを推奨！
★Contact: E-mail: joycemsayohime@beetle.ocn.ne.jp (Email によるコンタクトも可能)

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

- 教科書：原則、毎回の講義は配布する「Lecture Note」を活用し、PROJ で投影し講義を遂行する！
 - No Required text. (本授業では特定の教科書は使用しない) ★「辞書」「電子辞書」「スマホ」「PC」等々を持参すること！
 - Supplemented by additional handouts, visual materials, and videos. 「配布プリント」等々で実施
- 参考書：『Google 検索エンジン』 & 『Weblio 翻訳機能』等々を活用する等々、様々な「IT 媒体」を駆使し課題を遂行する。

最終到達目標

- 基本的で基礎的な「医療用語」は「日本語」&「英語」両語で運用が可能となる。
- 本コースで提示される「英語」の様々な「語彙＆表現」は他科目、特に『解剖生理学』等々の際に再度学習することになるため、脳内に「種をまき」他の科目の学習中に「芽が出る」ように役立つ知識となる。
- 各医療接觸現場における「日本語」&「英語」による「混用」コミュニケーションの全体像が認識でき実践が可能となる。
- 「英語」は『語学』ではなく、医療知識を伝え実践する「媒体・手段」であることを意識化することが可能となる。
- 多言語が飛び交う医療現場で怯むことなくその多様性や複雑性に対峙し臨機応変に対応する「柔軟性や判断力」が促進される。

評価方法及び評価基準

- ★下記の評価方法&基準に関しては「第 1 週目」&「第 13 週目」講義中に説明するため、質問等々はその際に受けることとする！
 - Final Exam : The final exam is divided into two parts: Part 1 & Part 2 —Percent Complete — **45%**
 - ★Part 1 is an in-class group work assignment or presentation 各グループによる「課題」/「プレゼン」試験
 - ★Part 2 is an Open-Book Exam (multiple choice questions) 各グループによる「多项選択式の筆記問題」試験
 - Quiz, Homework, Group Work Reports, etc. (小テスト/宿題/グループレポート等々) — **30%**
 - Performance/Participation/Diligent Attitude in class (授業態度/積極的授業参加/真面目な姿勢) — **10%**
 - Great Efforts on learning in class and out of class (クラス内外における最大限の学習「努力」達成率) — **15%**
- ※状況に応じ Extra Credit/Bonus Points あり！ **★Total Percent Complete (総計達成率) — 100%**

成績評価基準（学則第 34 条）

- | |
|---|
| S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D (59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure) |

学生へのメッセージ

- ★この「シラバス」内容に関する「質問」等々は担当講師である「わたくし」に「直接」問うこと！他講師に尋ねることは厳禁！
 - ・講義中の「態度」や「姿勢」、そして最大限の「努力」が「最終評価」に大きく影響するため、主体的に受講すること。
 - ・講義中は様々な「動画」を活用するため、その「動画」再生中は、再生後のディスカッションができるよう真剣に観ること。
 - ・各グループメンバーはチームの一員としてお互いの「協働学習」を促進させ、主体的に対話的な「深い学び」を実践すること。
 - ・『小テスト』『宿題』等々に關し、必ずグループメンバー「全員」で課題を遂行すること。（★『他力本願』的な行為は禁止！）
 - ・『小テスト』『宿題』等々の採点返却後は翌講義中に詳細な解説を実施するため、その解説内容を真剣に受容しメモをとること！
- ★課題遂行のため活用した資料や情報は全て「引用文献」や「参照文献」として宿題提出用紙に必ず明記しておくこと！
- ★たとえ「他のグループメンバー」と共に協力し合って遂行した場合にも、正直にそのグループ番号を必ず明記しておくこと。

授業コード	ENB0201,ENB0202			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎				広い視野と倫理観		
授業科目名	英語Ⅱ	選択・必須	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力		
担当教員	高久保 文惠				探求心		
講義目的	<p>1. 英語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能のうち、「聞く」「読む」「話す」に焦点を当て、将来の医療現場で役立つ英語スキルの向上を図る。</p> <p>2. 特に代替医療(Alternative medicine)について英語での理解を深め、日本の代替医療について英語で説明できる能力の向上を目指す。</p> <p>3. 代替医療に関する自分の経験や意見を英語で発信するコミュニケーション能力の向上も目的とする。</p>						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・BBC の Natural Remedies についての美しい DVD やその他の DVD などを教材に、映像の助けをかりながらリスニング能力を向上させる。 ・代替医療について読み、英語の語彙力向上と内容理解を図る。 ・発音、リズム、イントネーションなどにも注意を払い、聞き取れるだけではなく自分の発話も向上させる。 ・日本の代替医療について英語で説明する練習をし、能力を向上させる。 ・代替医療に関する自分の経験や意見を英語で表現し、発信する能力を向上させる。 						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	イントロダクション	授業の概要、学習の進め方、評価法などについて理解し、これからの学習のポイントを理解できる。					
2	Animal Therapy I	アニマルセラピーに関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。					
3	Animal Therapy II	アニマルセラピーの読み物やDVDなどから、情報を抽出し理解できる。					
4	Animal Therapy III	日本のアニマルセラピーについて英語で説明できる。アニマルセラピーに関し、自分の意見、経験などを英語で発信できる。					
5	Herbal Medicine I	薬草療法に関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。					
6	Herbal Medicine II	薬草療法の読み物やDVDなどから、情報を抽出し理解できる。					
7	Herbal Medicine III	日本の薬草療法について英語で説明できる。薬草療法に関し、自分の意見、経験などを英語で発信できる。					
8	Healing Touch I	ヒーリングタッチに関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。					
9	Healing Touch II	ヒーリングタッチの読み物やDVDなどから、情報を抽出し理解できる。					
10	Healing Touch III	日本のヒーリングタッチについて英語で説明できる。ヒーリングタッチに関し、自分の意見、経験などを英語で発信できる。					
11	Yoga and Meditation I	ヨガと瞑想に関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。					

12	Yoga and Meditation II	ヨガと瞑想の読み物やDVDなどから、情報を抽出し理解できる。
13	Review	第2~12回の語彙・用法、英語表現、内容などを復習し、応用できる。
14	まとめ I	習得したスキルと学習した内容を基盤に、自分の意見を持つことができる。
15	まとめ II	習得したスキルと学習した内容を基盤に、自分の意見を英語で発信できる。

留意事項(履修条件等)

- ・辞書(電子辞書を含む)は、毎回必ず授業に持参すること。
- ・英語をできるだけ吸収し発信しようとする姿勢を高く評価する。これらの姿勢を持って授業に臨むこと。
- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習:

- ・わからない単語や表現は、辞書などであらかじめ調べてから授業に臨むこと。
- ・予習の目的で課された宿題や課題は必ず行い、忘れずに授業に持ってくること。

事後学習:

- ・授業中の活動をもとにした提出物や課題は、学習内容を復習しながらしっかりと仕上げ、締め切りまでに忘れずに提出すること。
- ・試験には準備して臨むこと。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

- ・授業中にプリントを配布する。
- ・授業では DVD、CDなどの視聴覚教材をできるだけ使用する。

最終到達目標

- ・代替医療について英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。
- ・代替医療について、英語の読み物やDVDなどから重要な情報を抽出し理解できる。
- ・より良い英語発音、リズム、イントネーションで発話できる。
- ・日本の代替医療について英語で説明できる。
- ・代替医療に関する自分の経験や意見を英語で発信し、コミュニケーションできる。

評価方法及び評価基準

- ・授業: 30%(授業態度、積極的授業参加、提出物などによる総合評価)
- ・終講時筆記試験: 30%
- ・終講時実技試験: 40%

など配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準 (学則第34条)

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| S(100~90点) | : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80点) | : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70点) | : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60点) | : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59点以下) | : C のレベルに達していない (Failure) |

学生へのメッセージ

- ・授業はペア・ワーク、グループ・ワークを中心に進めるので、人まかせにせず積極的に参加すること。
- ・授業中にペアやグループでプレゼンテーションを行う場合が有る。授業は遅刻や欠席をしないこと。
- ・プレゼンテーションでは英語を読み上げるのではなく、できるだけ覚えて自分の言葉として英語を発信すること。
- ・宿題、予習、復習は自分の英語力向上のためなので、必ずやっておくこと。
- ・辞書(電子辞書を含む)は、必ず毎回授業に持参し試験時以外は使用すること。
- ・独創性を大切にすること。人マネや、何かをそのままコピーした英語ではないこと。

授業コード	ENB0301, ENB0302			デイブロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	英語 III	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年／後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	松浦淳子				探求心	○	

講義目的

- 本コースは前期コース（『英語 I』）で体得した既習知識や向上させた competency と、本コースの学習内容とを最大限に融合させ、脳内に「概念スキーマ」の再構築を促進化させ、「reasons that should make you feel proud to be a nurse!」を探求していく。
- 看護業務や看護技術に関する様々な医療関連書類・文書に記述されている内容概念を把握する能力を向上させる。
- 前期コース（『英語 I』）で学習した基本的な医療用語を復習しつつ、外来患者用「問診票」等の医療関係書類、「History and Physical (H&P) Report」、入院＆退院時要約、医療検査／健康診断書、経過記録書等々の記載内容を正確に且つ迅速に解釈するための「推論力」や「判断力」を促進させると共に、「マンネリ化／慣れ／惰性」による「医療ミス」を防ぐためのストラテジーを育成する。
- 「care と caring の違い」「sympathy と empathy の違い」等々を認識し医療現場における様々な人間関係を再認識していく。

授業内容

- 看護師の職務において「看護師の意思決定が患者の生命に影響を及ぼす」ことになる。患者への安全性・安心性は、看護師の「医療リテラシー」能力を向上させ、「コミュニケーションエラー」を防止することにより保持される。しかし、「読む」という行為は単に「字面を追う」・「ラベル」表示の語彙認識を行なうことではなく、それ以上の「行間を読む／含意を読み取る」ような「読解力」が要求されることを認識させていく。そこで「チーム医療」を念頭に、更には医療上の緊急事態における対応も含め、医療現場のパフォーマンスを改善し、より安全なケアを提供するために考案された『SBAR/ISBAR/ISBARC』『TeamSTEPPS framework』『Handoff／Handover/I PASS THE BATON』等々を理解・認識した上で、様々な事例を活用し、各医療文書の「読み」を実践する。

★尚、全ての講義は「ICT」を活用し、受講 format は「peer learning in small collaborative groups」で実践していく！

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	Introduction, Course organization, Roster, Syllabus, and more (シラバス＆スケジュールの説明等) ／「動画」による問題提議 & Discussion／既習医療語彙の復習	Hospital divisions, signs and symptoms 既習語彙の復習クイズ／動画『I'm NOT just a nurse!』（単なる看護師ではない！）とはどういう意味なのか議論ができる、その内容を文書化できる
2	Review MEDICAL English Vocabularies through pictures—three sections （医療語彙の復習） Video: Empathy—The Human Connection to Patient Care & What is “I am the patient experience”?	What is empathic and compassionate care in nursing? Why is every patient deserves to be treated with empathy, dignity and respect? （看護師としての人間的必須要素とは？）に関し議論ができる、その内容をレポートとして文書化できる
3	What Are Epidemics, Pandemics, and Outbreaks? (相違点とは？) ／medical questionnaire form—INTERNAL MEDICINE（「内科」『問診表』）日本語翻訳	Medical article: Pandemic or Epidemic or Endemic? 3種の用語の相違点が理解・認識できる／Vocabulary on General Internal Medicine outpatient Questionnaire（内科問診票に記載された用語の日本語翻訳ができる）
4	medical English vocabulary training—three sections／What is the difference between Acute and Chronic?	Illness and Ailment & Treatment List（様々な病気＆治療方法のリストの日本語翻訳ができる）／What is RICE? (RICE 法の理解・認識ができる)
5	Common vocabulary used in nursing 看護医療用語／Procedure Checklist: Admitting a Patient to a Nursing Unit（入院患者のための受入手順のチェックリスト）	DNR/ catheter/ administer/drain fluids/saturation 等々の用語認識ができる／How to Admit a Patient to the Hospital—13 Steps for Admission（入院患者の受け入れ手順の理解・認識ができる）
6	HOSPITAL ADMISSION CHECKLIST 「入院受入用チェックリスト」本格的な文書で記入実践	Welcoming a patient on admission（入院患者の受け入れ手順の理解・認識ができる）／ADMISSION CHECKLIST（入院受入書の日本語翻訳ができる）

7	What is History and Physical (H&P) Report? ——病歴聴取＆身体診察／身体所見等々	『H&P Report』内の記入項目の用語が理解・認識できる＆『H&P Report』の全項目の日本語翻訳もできる／Medical Reports（様々な事例が理解・認識できる＆その内容の日本語翻訳ができる）
8	What is Triage?（『トリアージ』とは？）& How to use Medical Triage correctly（『トリアージ』実施方法）	Triage color-coding systems & triage process の理解ができる／『トリアージ』実践現場の動画内容が理解できる
9	What is SBAR/ISBAR/ISBARC? ／ What is TeamSTEPPS & "I PASS THE BATON"?	SBAR/ISBAR/ISBARC／TeamSTEPPS &"I PASS THE BATON" の文書内容が理解できる＆テンプレートによる事例内容が理解できる
10	「ISBAR」への記入実践＆電話対話の実践	RN to Physician SBAR Examples「事例シナリオ」を参照し、看護師の立場で実際に SBAR を使用することができる
11	Equipment for Intravenous (IV) infusion 「点滴」用の器具／Infusion stand／ IV Stand／ IV Poles（点滴用スタンド）/ cannula（カニューレ）& needle size selection / BCMA & smart IV pump	IV Insertion—Step by Step Procedure／Bar Coded Smart Pumps Workflow（「点滴」に関する用語が理解できる／自動点滴装置などの点滴手順が理解できる）／Dialogue of IV performance（「点滴」実演時に患者とのモデル対話ができる）
12	Final Exam Study Guide（期末試験要項等々の説明）／Evaluation Grading（採点評価の説明）／「総復習」＆「期末試験」に関する質疑応答	Final Exam Part 1 & Part 2 の各問に関し、重要キーワード等々が再理解でき、「総復習」ができる／期末試験の「出題傾向」も含め全ての採点評価の内容が理解できる
13	Each Group Work for Final Exam Part 1 「課題」準備の開始	講義時間内に各グループで「課題」の準備ができる
14	Each Group Work for Final Exam Part 1 「課題」準備の継続&Group work リハーサル & 最終調整	講義時間内に前週の「課題」を各グループでリハーサルができる
15	Each Group Work for Final Exam Part 1 「課題」実演	講義時間内に各グループで「課題」プレゼンができる
留意事項（履修条件等）		
<p>◆Note: Lecture Schedule (The schedule listed on the page is tentative and may change during the term!!!)</p> <p>★小テスト等々全ての講義内容の Feedback は次回の講義中に実施し、時間外では個別に対面／メールで実施する。</p> <p>◆前期コースで学習した知識を「体系化」することに努め、新たに学習したことの知識化を促進させること。</p> <p>◆英語の「医療文書」への無意識的な脳内「拒否反応」を自覚し、それをできるだけ抑制することに努めること。</p> <p>◆本コースで実践する「医療文書」における記載内容の「誤読／読み違え」は患者の「命取り」に繋がることを留意し、医療現場における通常業務上の「Human Error」要因は「看護技術（テクニカルスキル）」よりも『ノンテクニカルスキル』に起因することを常に念頭に置き、「教室」が「医療現場」だと想定した上で学習していくこと。</p>		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
<p>★科目の単位を修得するに当り、およそ 60 時間の学習時間外の学修（本枠内の事前・事後学習内容）が必要である</p> <p>■事前学習： 毎回の講義に、すでに受け取った全ての「配布プリント」等々を必ず持参すること！</p> <p>また、前回までのその講義内容や配布プリント内容を 1～2 時間ほど『精緻化リハーサル』（短期記憶で一時的に保持している情報を他の知識と結びつけたり構造を理解しながら反復学習）し、効果的に復習しておくこと。</p> <p>■事後学習： 当日の「配布プリント」内容を復習し、1 時間ほど重要な用語は「反芻」し記憶し、脳内に定着化させること。また、毎回講義内容に関し、「自律学習（学習者による自主的な学び）」を実践し、同時進行しているその他の「科目」内容と関連させつつ、「自問自答」を繰り返し、最終的には「自分の言葉」で他者に説明できるようにすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループのメンバーで、相互的に学習内容を共有し、意識化し、今後の「チーム医療」へ繋がる「協働学習」を実践すること。 		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
<p>N/A ★正式な Office Hours は設定されていないが、「講義前」や「講義後」の時間帯を利用することを推奨！</p> <p>★Contact: E-mail: joycemsayohime@beetle.ocn.ne.jp (Emailによる>Contactも可能)</p>		

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

■教科書：原則、毎回の講義は配布する「Lecture Note」を活用し、PROJ で投影し講義を遂行する！

- No Required text. (本授業では特定の教科書は使用しない) ★「辞書」「電子辞書」「スマホ」「PC」等々を持参すること！
- Supplemented by additional handouts, visual materials, and videos. 「配布プリント」等々で実施

■参考書：『Google 検索エンジン』 & 『Weblio 翻訳機能』等々を活用する等々、様々な「IT 媒体」を駆使し課題を遂行する。

最終到達目標

- 『単義語』である英語の「医療用語」にも『類義語』は多い故、「日本語」との「ズレ」を理解し「使い分け」が可能となる。
- 英語の「医療文書」を効率よく、そして正確に「speed reading (速読)」する「スキル」が向上する。
- 医療現場における「ヒューマンエラー防止策」として『社会人基礎力』が強化され、「テクニカルスキルを補い完全なものとする人間力」や「安全且つ効率的なタスク遂行に寄与する状況判断認識スキル」が向上する。
- 「I love nursing because...」看護師という職業に従事している「その理由」を想像し自分の身に置き換える自覚できるようになる！

評価方法及び評価基準

★下記の評価方法&基準に関しては「第1週目」&「第13週目」講義中に説明するため、質問等々はその際に受けることとする！

- Final Exam : The final exam is divided into two parts: Part 1 & Part 2 —— Percent Complete —— **45%**
——★Part 1 is an in-class group work assignment or presentation 各グループによる「課題」／「プレゼン」試験
 - ★Part 2 is an Open-Book Exam (multiple choice questions) 各グループによる「多項選択式の筆記問題」試験
 - Quiz, Homework, Group Work Reports, etc. (小テスト／宿題／グループレポート等々) —— **30%**
 - Performance/Participation/Diligent Attitude in class (授業態度／積極的授業参加／真面目な姿勢) —— **10%**
 - Great Efforts on learning in class and out of class (クラス内外における最大限の学習「努力」達成率) —— **15%**
- ※状況に応じ Extra Credit／Bonus Points あり！ **★Total Percent Complete (総計達成率) —— 100%**

成績評価基準（学則第34条）

- S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

★この「シラバス」内容に関する「質問」等々は担当講師である「わたくし」に「直接」問うこと！他講師に尋ねることは厳禁！

- ・講義中の「態度」や「姿勢」、そして最大限の「努力」が「最終評価」に大きく影響するため、主体的に受講すること。
- ・講義中は様々な「動画」を活用するため、その「動画」再生中は、再生後のディスカッションができるよう真剣に観ること。
- ・各グループメンバーはチームの一員としてお互いの「協働学習」を促進させ、主体的に対話的な「深い学び」を実践すること。
- ・『小テスト』『宿題』等々に関し、必ずグループメンバー「全員」で課題を遂行すること。 (★『他力本願』的な行為は禁止！)
- ・『小テスト』『宿題』等々の採点返却後は翌講義中に詳細な解説を実施するため、その解説内容を真剣に受容しメモをとること！

★課題遂行のため活用した資料や情報は全て「引用文献」や「参照文献」として宿題提出用紙に必ず明記しておくこと！

★たとえ「他のグループメンバー」と共に協力し合って遂行した場合にも、正直にそのグループ番号を必ず明記しておくこと。

授業コード	ENB0401,ENB0402			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎				広い視野と倫理観		
授業科目名	英語IV	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力		
担当教員	高久保 文惠				探求心		
講義目的							
1.	英語の「読む・書く・聴く・話す」の4技能のうち、主に「読む」、「聴く」、「話す」に焦点を当て、将来の医療現場で役立つ英語スキルの向上を図る。						
2.	様々な医療場面での患者および患者を取り巻く人々の言動、表情、感情、心情などを、会話を中心とした英語表現から読み取る感性を養い磨くと共に、そのための基礎的な英語読解スキルを習得する。						
3.	また、それらを基礎として外国の文化や社会に対する認識を深めながら、医療現場で生きた英語を発信することができる力を育む。						
授業内容							
テキストは「The Dramas of Hospital Life: ある看護師のみた病院生活のドラマ」を選んだ。これは看護師として長年カナダの病院に勤務した著者の、様々な経験の記録を原著とする。これを用い、以下の内容を授業で扱う。							
・症状、処置に関する語彙・用法、英語表現を習得する。							
・医療場面での患者および患者を取り巻く人々の言動、表情、感情、心情などを、英語表現から読み取る感性を養い磨くと共に、そのための基礎的な英語読解スキルを習得する。							
・上記を駆使して、生きた英語を発信する練習をする。							
・より良い英語発音、リズム、イントネーションで発話できる。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	イントロダクション	・授業の概要、学習の進め方、評価法などについて理解し、これから学習のポイントを理解できる。					
2	Tribulations of a Student Nurse I :看護学生の試練	・看護学生の病院実習の様子についての語彙、英語表現を理解できる。					
3	Tribulations of a Student Nurse II	・英語で表現された看護学生の病院実習の内容、看護学生及び学生を指導する著者の心理を読み取ることができる。 ・学習した重要英語表現を用いて発信できる。					
4	Emergency Ward I :救命病棟	・救命病棟での看護師の仕事についての語彙、英語表現を理解できる。					
5	Emergency Ward II	・英語で表現された救命病棟での看護師の仕事の内容や登場人物の心理を読み取ることができる。 ・学習した重要英語表現を用いて発信できる。					
6	An Alzheimer's Patient I :アルツハイマー病	・アルツハイマー病患者と看護師である著者のやり取りの語彙、英語表現を理解できる。					
7	An Alzheimer's Patient II	・2人の会話から、状況や心理を読み取ることができる。					
8	An Alzheimer's Patient III	・アルツハイマー病患者、その家族、看護師の関わりのDVDを見て、内容、心情、コミュニケーションのポイントが理解できる。 ・学習した重要英語表現を用いて発信できる。					
9	Brain Damage I :脳損傷の男性	・自動車事故で脳損傷を受けた患者及びその妻と、看護師である著者のやり取りの語彙、英語表現を理解できる。					
10	Brain Damage II	・2人の会話から、状況や心理を読み取ることができる。 ・学習した重要英語表現を用いて発信できる。					
11	Psychotherapy I :心理療法	・心理療法の英語の読み物やDVDなどを見て、療法、患者の心理などに関する英語表現を理解できる。					

12	Psychotherapy II	・学習した重要英語表現を用いて発信できる。
13	Review（第2～12回）	第2～12回の語彙・用法、英語表現、内容などを復習し、応用できる。
14	まとめ I	習得したスキルと学習した内容を基盤に、自分の意見を持つことができる。
15	まとめ II	・習得したスキルと学習した内容を基盤に、自分の意見を英語で発信できる。

留意事項(履修条件等)

- ・辞書(電子辞書を含む)は、必ず毎回授業に持参すること。
- ・英語をできるだけ吸収し発信しようとする姿勢を高く評価する。これらの姿勢を持って授業に臨むこと。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習:

- ・授業で取り扱う部分は必ず授業前に予習し、わからない単語や表現は辞書などで調べてから授業に臨むこと。
- ・予習の目的で課された宿題や課題は必ず行い、忘れずに授業に持ってくること。

事後学習:

- ・授業中の活動をもとにした提出物や課題は、学習内容を復習しながらしっかりと仕上げ、締め切りまでに忘れずに提出すること。
- ・試験には準備して臨むこと。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: (The Dramas of Hospital Life)ある看護師の見た病院生活のドラマ:Henry Meyer著, 田中 芳文 編著、三修社 ISBN 978-4-384-33373-2

最終到達目標

- ・医療の場面での英文や英語表現から、看護師として特に患者の言動、表情、感情、心情などを読み取れる感性とスキルを持つことができる。
- ・上記を基盤にして、生きた英語を発信することができる。

評価方法及び評価基準

- ・授業:30%(授業態度、積極的授業参加、提出物などによる総合評価)

- ・終講時筆記試験:30%

- ・終講時実技試験:40%

など配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- ・授業はペア・ワーク、グループ・ワークを中心に進めるので、人まかせにせず積極的に参加すること。
- ・授業中にペアやグループでプレゼンテーションを行う場合が有る。授業は遅刻や欠席をしないこと。
- ・プレゼンテーションでは英語を読み上げるのではなく、できるだけ覚えて自分の言葉として英語を発信すること。
- ・宿題、予習、復習は自分の英語力向上のためなので、必ずやっておくこと。
- ・辞書(電子辞書を含む)は、必ず毎回授業に持参し試験時以外は使用すること。
- ・独創性を大切にすること。人マネや、何かをそのままコピーした英語ではないこと。

授業コード	ENB0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎				広い視野と倫理観	○					
授業科目名	コンピュータ基礎・情報処理法	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力						
担当教員	野口一人、上西孝明				探求心						
講義目的											
<p>現代は、インターネット技術の発展と情報端末の普及により、コンピュータに囲まれた情報化社会となっています。そのため学生生活はもちろん、職業生活においてもコンピュータの活用は必須です。このような情報化社会の中では、コンピュータを効果的かつ効率的に、また安全に使うことが求められています。本講義の目的は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 適切な情報リテラシを身につけた上で、コンピュータおよび汎用ソフトウェアの基本的な操作を理解し、情報を適切に活用する知識を身につけること レポート作成、データ処理、プレゼンテーションに必要な基本的な知識を身につけること 											
授業内容											
<p>実際にコンピュータ(Windows)を利用し、汎用ソフト(Microsoft Word、Excel、PowerPoint)の使用方法を学び、学生および社会人として必要最小限の知識および操作を学習します。</p> <p>Word を用いたレポート作成、Excel を用いたデータ処理、PowerPoint を用いたプレゼンテーションについて演習を行います。また、インターネットを使った情報収集などで注意すべきセキュリティとルールを理解し、安全にコンピュータを利用するための知識を身につけることを目指します。</p>											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	授業オリエンテーション	本科目を受講するまでの授業内容・受講上の注意点・機器の利用等について理解することができる。									
2	情報セキュリティ	モラルやセキュリティといった情報化社会で必要な情報倫理を身につけることができる。									
3	インターネットとネットワークサービス	インターネットの仕組みやネットワークサービスの利用方法を理解することができる。									
4	文書作成ソフト(Word)を使う(1) 基本文書の作成	Wordを用いた文書作成についての基本操作について学習することができる。									
5	文書作成ソフト(Word)を使う(2) 表現力をアップする	文書の編集や図表の挿入などより表現力のある文書作成技術を習得することができる。									
6	文書作成ソフト(Word)を使う(3) 演習:レポートの作成	課題文書をもとにWordを用いてレポートを作成することができる。									
7	表計算ソフト(Excel)を使う(1) 表の作成	Excelの基本操作と表の作成について学習することができる。									
8	表計算ソフト(Excel)を使う(2) データの活用	グラフの作成や関数、データベース機能について学習することができる。									
9	表計算ソフト(Excel)を使う(3) 演習:集計表の作成	課題データをもとに集計表を作成することができる。									
10	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使う(1) PowerPointの基本操作	PowerPointの特長と基本操作について学びプレゼンテーションについて学習することができる。									
11	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使う(2) 機能の活用	オブジェクトの挿入やアニメーションなどの効果について活用できる手法を学習することができる。									
12	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使う(3) 演習:プレゼンテーションの作成	課題テーマをもとにプレゼンテーションを作成することができる。									

13	情報処理演習(1)	課題データをもとにソフトウェア(Word・Excel・PowerPoint)を活用し、資料を作成することができる。
14	情報処理演習(2)	課題データをもとにソフトウェア(Word・Excel・PowerPoint)を活用し、資料を作成することができる。
15	情報処理演習(3)発表	作成した資料をもとに発表することができる。
留意事項(履修条件等)		
<p>初回授業において、授業内容・評価方法等について詳細な注意事項を伝えします。やむを得ず欠席する場合には、必ず後日確認すること。</p> <p>また、学習した知識を活用するためにも積極的に授業に参加してください。</p> <p>※ 習熟状況や進捗状況に応じて授業内容を変更することがあります。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間程度の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学習)が必要です。</p> <p>事前学習: 教科書を読むこと、コンピュータの操作を積極的に行うこと。</p> <p>事後学習: しっかり課題に取り組むこと、授業内容について振り返り、復習すること。</p>		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
<p>授業の前後をオフィスアワーとします。質問があればその時にしてください。</p> <p>E-mail: noguchi.kazuto.mx@ehime-u.ac.jp</p>		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
<p>教科書:『情報リテラシー入門 2019 年度版』、日経 BP 社、ISBN:978-4-8222-9236-2</p> <p>参考書:『情報リテラシー 総合編』、FOM 出版、ISBN:978-4-86510-246-8</p> <p>必要な資料を授業内で適宜配布します。</p>		
最終到達目標		
<p>コンピュータおよび汎用ソフトの基本的な操作を理解し、情報を適切に活用する知識を身につけること、また、レポート作成、データ処理、発表資料の作成に必要な基本的な技量を身につけること</p>		
評価方法及び評価基準		
<p>最終レポート 50%</p> <p>平常点 50%※ 配点得点を合計 100 点満点として評価する。</p> <p>※平常点内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題(提出状況・内容評価) ・授業への参加態度 		
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</p>		
学生へのメッセージ		
<p>実践的な授業です。受け身ではなく、手を動かし能動的に受講してください。道具であるコンピュータの知識・技量は、使った分だけ身に付き、学生生活はもとより、職業生活の礎となります。指示されたことを行うだけでなく、考え方工夫する応用力を持って受講することで技量が向上します。楽しみながら学んでください。</p>		

授業コード	ENC0101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	日本国憲法	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力		
担当教員	中曾久雄				探求心		
講義目的							

- 憲法の歴史的背景、人権保障、権力分立といった憲法の基本的・基礎的諸概念を正確に理解できる。
- 人権については、憲法の主要判例を手掛かりに、人権の内容、保障範囲を正確に理解できる。
- 統治機構については、各国家機関の役割、さらに、各機関の抱える現代的諸問題を正確に理解できる。

授業内容

日本国憲法を、歴史、国際的人権動向、人権論の動向を柱に理解する。具体的には、日本国憲法を、近代人権成立の過程と大日本帝国憲法との対比により明らかにしたうえで、個別の人権について、判例と国際的な人権動向に基づき学ぶ。統治機構については、日本国憲法が採用している三権分立と内閣、司法、国会という各機関の意義と問題として指摘されている内容を、判例を中心に理解する。個別の人権の中では、教育人権と福祉人権について詳述し、発問と討議により受講生が考察できることを目的とする。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	憲法の基本概念	憲法の基本概念、憲法の思考枠組みを理解できる。
2	憲法史	憲法の歴史的背景、展開を正確に理解できる。
3	人権の基本概念	人権の基本的概念、人権と公共の福祉、人権の国際動向を理解できる。
4	人権の私人間効力	人権の私人間効力の問題を正確に理解できる。
5	幸福追求権	幸福追求権の保障範囲、射程を正確に理解できる。
6	平等権	平等権の構造、平等権の審査を正確に理解できる。
7	精神的自由権① (思想良心の自由・信教の自由)	思想良心の自由の意義・射程、信教の自由と政教分離を理解できる。
8	精神的自由権②(表現の自由)	表現の自由の構造、基本的諸問題を理解できる。
9	経済的自由権	経済的自由権、社会権の意義・射程を理解できる。
10	社会権	社会権、さらに教育や福祉に関わる人権を理解できる。
11	国務請求権	国務請求権の意義、種類を理解できる。
12	国会と立法権	国会の構造、立法権の意義を理解できる。
13	内閣と行政権	行政の構造、行政権、議院内閣制を理解できる。
14	裁判所と司法権	裁判所の構造、司法権の意義を理解できる。
15	憲法改正・地方自治	憲法改正、地方自治の現代的問題を理解できる。

留意事項(履修条件等)

学習課題を積極的に予習すること。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習: 予め配布した資料を通読すること。

事後学習: 講義で説明した内容をまとめ直すこと。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後 質問や要望のある場合は、nakaso.hisao.my@ehime-u.ac.jp にご連絡をいただければ幸いです。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

参考書: 「ベーシックテキスト憲法 第3版」、君塚正臣編、法律文化社、2017 年

ISBN: 978-4-589-03849-4

最終到達目標

憲法の基本的概念、さらには、憲法の具体的問題を自分なりに考察できるようになる。

評価方法及び評価基準

筆記試験(90%)、授業への参加度(10%)の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

興味を持って勉強していただければ幸いです。授業に関する質問や要望を心から歓迎いたします。上記の私のアドレスに連絡をください。

授業コード	ENC0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	愛媛を学ぶ	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	森賀盾雄, 八木健				探求心	○	

講義目的

- 「俳句王国」とも称される愛媛の俳句文芸の歴史を学ぶこと。俳句とはなにかを知り、俳句の作り方を学ぶこと。
- 愛媛県という地域を、文化、歴史、産業、風土、文学、観光資源など多様な切り口から学ぶ。
- 愛媛県も四国・日本・世界の一部である。地域は際限なく広がる概念であり、様々な関連性により存在している。つながりの中での地域というものの理解を学ぶ。
- 多くの島嶼部と山間部地域を含む日本と愛媛県は、非常に多様性に富む地域である。その日本と愛媛県について様々な側面から学ぶことで、将来看護職として従事する際に、保健医療や健康面を通じた地域貢献、地域連携につながるような知見や知識を、本講義を通じて涵養する。

授業内容

- 俳諧の連歌から俳句への歴史を学ぶ。子規山脈と称される愛媛の俳人群像を概観する。
- 俳句の基本を学ぶ 俳句の実作 俳句会の体験。
- グローバル・ローカル両側面から愛媛の地域を多様な視点で取り上げて考察することにより、地域に生きる楽しさ・困難さ・よろこび・課題を学ぶ。
- 地域概念から、愛媛県の歴史・産業・風土・文化を取り上げ、地域で暮らすとはこうした多様な具体性の中で生きるということを学ぶ。
- 「四国遍路」「保健・医療・看護の本県先進事例」等を取り上げて、我が国の「おせっかい文化から地域に根差す」包括ケアの思想を学ぶ。また地域で活躍する具体的人材に学ぶことにより「地域で主体的に地域課題に取り組む」意義を考察する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	愛媛は俳句王国 なぜでしょう 俳句をつくります あなたも今日から「俳人」です (八木)	★子規山脈の俳人の俳句鑑賞し愛媛の俳句の歴史を知る。 ★季語とはなにかなど俳句の基本を学ぶことができる。 ★俳句を作ります。誰でも簡単に俳人になることができる。
2	俳句をアート表現してみましょう 作った俳句を絵にしてみましょう (八木)	★俳句を声に出して読むことで俳句を理解できる。 ★作った俳句をアートで表現することができる。
3	俳句の楽しさは 俳句を語ることです 話し方もあまくなる (八木)	★句会を楽しむ。 ★俳句を非評することで俳句の素晴らしさを体感できる。
4	地域とは・世界の中心で愛を叫ぶとは (森賀)	制度的に決められた地域と、それとは別に伸縮自在の地域という概念を理解できる。
5	日本・四国の中の愛媛とは (森賀)	愛媛県を地理的に概観しながら、四国・日本の中での各種のジャンルでのウェイト・意義を考察することにより、地域に暮らす意義が理解できる。
6	日本史の中の愛媛の歴史 (森賀)	日本史の中での愛媛県の過去の主な出来事の考察を通して、現在・未来のために地域の歴史を学ぶことの意義が理解できる。
7	愛媛県の産業Ⅰ 農林水産業 (森賀)	愛媛県の農林水産業を具体的実例とデータを通して考察することにより、大地と人の営みの意義が理解できる。
8	愛媛県の産業Ⅱ 商工業 (森賀)	愛媛県の商工業を具体的実例とデータを通して考察することにより、二次・三次産業と地域の暮らしの関係性が理解できる。
9	愛媛県の産業Ⅲ 観光 (森賀)	観光的側面から実例を交えて愛媛県を考察することにより、地域の魅力の源を理解することができる。

10	愛媛の道と四国遍路 (森賀)	道路が運ぶ四国遍路の起源から今日に至る「おもてなし文化」を考察することにより、旅と生活者の営みから「ケアの思想」を理解できる。
11	保健・看護・医療の愛媛の先進事例 (森賀)	稻葉峯雄の「草の根に生きる」・美須賀病院の「てあ～て」・在宅医療の「ゆうの森」など愛媛の先進事例を通して、地域で人々と共に生きる方向性と意義が理解できる。
12	佐田岬半島の医療・看護・保健を考える I (森賀)	松山看護学部が連携協定を結んでいる伊方町を考察することにより地域看護・保健の果たす今日的役割が理解できる。
13	佐田岬半島の医療・看護・保健を考える II (森賀)	松山看護学部が連携協定を結んでいる伊方町を考察することにより地域看護・保健の果たす今日的役割が理解できる。
14	地域再生に挑む愛媛の人たち I (森賀)	地域再生で頑張る人たちの考察を通して、地域に生きる覚悟と使命が理解できる。
15	地域再生に挑む愛媛の人たち II (森賀)	地域再生で頑張る人たちの考察を通して、地域に生きる覚悟と使命が理解できる。
留意事項(履修条件等)		
時間厳守、授業中はスマホ・私語・飲食厳禁。分からないうちがあれば積極的に質問すること。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習: テキストの指定した箇所・配布資料によく目を通しておくこと。授業時間に次回までの課題を示しますので、きちんと学習すること。 事後学習: 授業で学んだことをよく復習すること。復習できているか小テストで確認します。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
授業時間の前後		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書: 句碑マップ 無償にて配布します 教科書: 「地域からの未来創生」、望月照彦・森賀盾雄編著、学文社、ISBN : 978-4-7620-2570-9 あとは適宜作成配布して行います。		
最終到達目標		
俳句を理解し俳句を詠むことができる 愛媛という地域の学習を通じて「地域に生きるとは」どのような意義・課題があり、その使命があるかを理解することができる。		
評価方法及び評価基準		
俳句の作品提出と評価 試験 50%、レポート 30%、受講態度 20%など配点得点を合計 100 点満点として評価する。 (八木先生が 3 コマ受け持ちますが、100 点満点で採点いただき試験の 10% 分で繰り入れます。)		
成績評価基準 (学則第 34 条)		
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)		
学生へのメッセージ		
私たちの住む日本は豊かな自然環境が私たちの感性、人間性を育んでくれます。地域を愛し、地域に住む人々を愛することによって貴方も愛されて、豊かな人生を送ることができます。本授業を通じて地域で生きていくことの意義を楽しく学びましょう。		

授業コード	ENC0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	人間関係論	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力		
担当教員	富田英司				探求心		
講義目的							

人は、日々誰かと関わりあいながら生活をしている。そのような日常生活における人間関係は、私たちのこころを安定させたり、成長させたりする一方、コミュニケーションそのものがストレスになったりもする。授業では以下のことを学ぶ。

1. 人間関係のプロセスや特徴について理解し、社会における自己と他者の関わりのメカニズムなどを学ぶ。
2. 医療場面や援助場面において、人とのコミュニケーションが果たす役割や相互作用などについて把握する。

授業内容

人間関係の基本的なプロセスやメカニズムについて学習し、私たちの日常生活や支援のための人間関係に関わるコミュニケーションについて理解する。

また、対人援助職を目指す者として、様々な場面での援助的コミュニケーションについて体験などを通して学習し、他者と関わるために必要な技法などを把握する。さらに、円滑な人間関係を築くために必要なコミュニケーションとはどのようなものなのかを理解する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	愛着と発達	人と人との付き合い方のタイプが生まれた当初の主要な養育者の関わり方によって決まることを学ぶことができる。
2	成人の愛着	子どもの頃に形成された愛着システムがどのように大人になって機能するか理解することができる。
3	コミュニケーションの男女差	男女によってコミュニケーションの方法が異なることを人間の進化の過程から理解することができる。
4	攻撃のコミュニケーション	世の中にはある一定の割合で、他者を自分の意のままに操ることに長けた人格障害者が存在する。その存在について学び、利用されない方法を学ぶことができる。
5	偏見の基本的なしきみ	偏見はしばしば問題を引き起こすが、人はなぜ偏見を持つのかその基本的なしきみを理解することができる。
6	偏見を測る	偏見は実は意識に上るものだけではなく、本人さえも気づかないこともある。そのような隠れた偏見を測る方法を体験しながら理解することができる。
7	差別を防ぐには	偏見が差別に繋がらないようにする方法について学ぶことができる。
8	中間まとめ	これまでの内容の理解を確認して、いくつかのテーマについてディスカッションすることができる。
9	ニューロダイバーシティとコミュニケーション	アスペルガー症候群の示す中心的な認知機能の特徴とコミュニケーションの特徴との関係を理解することができる。
10	コミュニケーションの文化差	コミュニケーションに関して、文化的な差のいくつかを具体的に理解することができる。
11	支援のコミュニケーション	誰かを助けようとするがなぜ軌轍を生み出したり、相手を弱い立場に追い込んだりしやすいのか理解することができる。

12	看護コミュニケーション能力の発達過程	看護師がその業務を通してどのように典型的に発達するのかを理解することができる。						
13	授業内容と日常のコミュニケーションを結びつける	受講生が関心のあるコミュニケーション事象を取り上げ、これまで講義で扱った理論等と結びつけて理解することができる。						
14	グループワークによる発表準備	第13回の内容について、プレゼンテーションのための準備をおこなうことができる。						
15	プレゼンテーション	第12回及び第13回の内容を踏まえて口頭発表をおこなうことができる。						
留意事項(履修条件等)								
<p>人間関係について、日常生活の身近なできごとから、職業的に必要な知識まで幅広く学ぶ授業です。日々の生活での人との関わり方と関連させながら授業を受けてください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>								
授業時間外の学修(事前・事後学習)								
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習: 前の時間に関連の文献や資料を紹介するので、それを熟読した上で授業に臨んでください。</p> <p>事後学習: 授業で配布した資料に基づいて、授業を振り返り、理解を深めてください。</p>								
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)								
授業時間の前後								
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)								
<p>資料はオンラインで配布します。携帯端末やノートパソコンを授業中にご活用ください。</p> <p>参考書「身近な人の「攻撃」がスーツとなくなる本」 2012 年 水島広子(著) 大和出版 ISBN-13: 978-4804762012</p> <p>「ステレオタイプの社会心理学—偏見の解消に向けて」 2002 年 上瀬由美子(著) サイエンス社 ISBN 978-4781910055</p>								
最終到達目標								
<p>コミュニケーションの個人差を様々な面から理解し、他者との円滑な人間関係を実践することができる。</p> <p>対人援助職に必要な人間関係を理解することができる。</p>								
評価方法及び評価基準								
授業活動 30%, 提出物 30%, レポート 40%として、配点得点を合計 100 点満点にして評価する。								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">成績評価基準 (学則第 34 条)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			成績評価基準 (学則第 34 条)	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
成績評価基準 (学則第 34 条)								
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)								
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)								
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)								
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)								
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)								
学生へのメッセージ								
授業中に日常生活と照らし合わせながら、理解することにつとめ、できるだけ授業中に質問やコメントをおこなうようことを期待します。自分の関心が強いテーマを見つけ、それを中心に学びを広げてください。								

授業コード	ENC0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	教育心理学	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力		
担当教員	富田 英司				探求心		
講義目的							

教育心理学は非常に幅の広い学問分野であるが、この講義では、その中でも特に人がどのように知的に成長し、学ぶことができるのか、様々な現代の諸理論を通して、最新の知見を学ぶ。

授業内容

この授業では、人の学びについて、①赤ん坊の時代にどのように学んできたか、②狩猟採集時代には人々がどのように学んできたか、③現代においてほとんどの人が経験する学校を中心とした学びのあり方はどのようにものか、④インターネットの時代でどのように学びは変わってきたかという4つの観点から理解する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	オリエンテーション	教育心理学の歴史や領域について理解できる。
2	赤ちゃんの学び	母子の相互作用のあり方から人の学びの原理について理解できる。
3	ヴィゴツキーの発達理論	概念的な発達がどのように進むのか、ヴィゴツキーの理論から理解できる。
4	進化心理学入門	人間がどのような能力を進化の過程で身につけてきたか、進化心理学の考え方を理解できる。
5	人は狩猟採集時代どのように学んできたか	人が典型的にどのようなスタイルで生活し、学んできたか、狩猟採集時代にさかのぼって理解することができる。
6	中世の人々の学び	中世では社会的制度の中でどのようにして人が学んできたかを理解できる。
7	近代の人々の学び	近代から今まで学校のなかで人はどのように学んできたかを理解できる。
8	民主主義的学びの場	米国サドベリー・バー・スクールで子どもがどのように学んでいるか理解することができる。
9	中間まとめ	これまでの授業内容を総まとめし、理解が不十分な点について議論し、理解を深める。
10	インターネットの時代における学び	インターネットの時代の多様な学びのスタイルを知る。
11	趣味を通した学び	趣味の世界を発展させる過程から、人の学びの特性を理解できる。
12	正統的周辺参加論	人の学びは知識の獲得ではなく、所属集団内でのアイデンティティ変容過程の副産物として生じることを理解できる。
13	大学生の学び：実習を通した学びの過程	大学生をはじめとした大人が実践的な取り組みを通してどのように学んでいくか事例を通して学ぶことができる。
14	大学生の学びにおける振り返りの役割	大学生をはじめとした大人が学ぶときに、振り返りがどのような役割を担っているか理解できる。
15	まとめ	これまでの学習内容を総合して、人の学びにおける特徴について理解することができる。

留意事項(履修条件等)					
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習: 前の時間に関連の文献や資料を紹介するので、それを熟読した上で授業に臨んでください。 事後学習: 授業で配布した資料に基づいて、授業を振り返り、理解を深めてください。					
オフィスアワー					
授業時間の前後に質問を受け付けて対応します。 E メール(tomida@ehime-u.ac.jp)でも対応可能です。					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
資料はオンラインで配布します。携帯端末やノートパソコンを授業中にご活用ください。					
参考書					
<ul style="list-style-type: none"> ● 「状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加」、1993 年、ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウェンガー(著) 産業図書、ISBN-13: 978-4782800843 ● 「遊びが学びに欠かせないわけ」、2018 年、ピーター・グレイ(著)、筑地書館、ISBN-13: 978-4806715559 					
最終到達目標					
人がどのように学ぶのか、教育心理学の諸理論ではどのように考えられているか、専門的な概念を用いて説明することができる。					
評価方法及び評価基準					
期末試験 60%、小レポートおよび授業への参加状況 40%など配点得点を合計 100 点満点として評価する。					
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
授業中に日常生活と照らし合わせながら、理解することにつとめ、できるだけ授業中に質問やコメントをおこなうこと期待します。自分の関心が強いテーマを見つけ、それを中心に学びを広げてください。					

授業コード	ENC0501			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目-人間と生活の理解				広い視野と 倫理観		
授業科目名	フィットネススポーツ	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/ 前期	単位数	1		判断力		
担当教員	佐野 和幸				探求心		
講義目的							
運動は体力を向上させるだけでなく、健康維持及び成人病対策に有効である。また、運動をすることによりストレスを解消させると共に、ストレスマネジメントを学ぶことで、自己管理能力の向上を促し、生涯スポーツに進展する実践力を身につける。授業では、ダンス及びダンス系フィットネスの効果を活用しながら、他者と協力するグループワークで、社会人基礎力に必要なアクション・シンキング・チームワークの3要素を理解すると共に、自己効力感やコミュニケーション能力の向上を目的とする。							
授業内容							
ダンス及びキックスを通して体力の向上と共に、自己の心と体と向き合いながら他者と協力して課題を達成することによりコミュニケーション能力の向上を図る。 具体的には、リズムダンスⅠでは、音楽に合わせて踊ることに挑戦し他者と交流しながら課題を克服する方法を考え実践する。また、キックスでは体力向上やストレス解消だけでなく、真剣に相手と向き合う姿勢を学ぶ。さらに、リズムダンスⅡでは、他者と共に一つのダンス作品を組み立てることで、協力しながら体を動かし一つの物事を達成していく過程を学ぶ。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	社会人基礎力について/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/レクリエーションダンス	体力向上、健康維持及びストレスマネジメントの観点から運動の必要性を理解し、自己の運動に対する意識を高めることができる。 体ほぐし運動やレクリエーションダンスを通して体を動かすことの効果を実感できる。					
2	ウォームアップ/ストレッチ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅠ(振付①)	ウォームアップやストレッチを行うことで、自己の体の特性や課題を発見し、課題克服に向けて意識を高めることができる。振付を覚えて踊るという課題に向き合い、失敗しても粘り強く、自らの力で挑戦することができる。					
3	ウォームアップ/筋肉・体幹トレーニング/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅠ(振付②)	自己の体を維持、向上させていくために必要な筋肉とその特性を理解できる。 振付を覚えて音楽に合わせて踊ることに挑戦し、自己の課題と向き合いながら、生き生きと踊ることができる。					
4	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅠ(振付③)	他者と共に振付を覚えて踊り、人と協力する向き合い、チームの課題を共有し、課題解決に向けて取り組むことができる。					
5	ウォームアップ/ダンス、ミニツツテストⅠ	リズムダンスⅠの内容に全力で取り組み、他者と協力して課題を乗り越えることができる。					
6	ウォームアップ/ストレッチ/筋肉・体幹トレーニング/コミュニケーションワーク/キックス①	キックスにおける体の使い方及び基本の動き①(ストレート、フック、アッパー、ガード)について理解し実践することができ、相手としっかり向き合うことができる。					
7	ウォームアップ/ストレッチ/筋肉・体幹トレーニング/コミュニケーションワーク/キックス②	キックスにおける基本の動き②(膝蹴り、前蹴り、回し蹴り等)について理解し実践することができ、相手としっかり向き合うことができる。 キックスにおける基本の動き①②を、音楽に合わせて全力で実践することができる。					

8	ウォームアップ/ストレッチ/筋肉・体幹トレーニング/コミュニケーションワーク/キックス(組み合わせ)	キックスにおける基本の動きの組み合わせを理解し実践でき、相手としっかりと向き合うことができる。
9	ウォームアップ/ストレッチ/筋肉・体幹トレーニング/キックス、ミニツツテストⅡ	音楽に合わせて組み合わせの動きを行い、キックスを通して他者と真剣に向き合うことができる。
10	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ①	6~8人のグループで行うリズムダンスを他者と協力し踊ることができる。自ら積極的にダンスに取り組み、失敗しても前に一步踏み出し、仲間と共に全力で踊ることができる。
11	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ②	自己の課題とグループの課題に向き合い、自ら発信し他者に働きかけながら取り組むことができる。
12	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ③	グループで課題について議論し、成果発表に向けての大まかなダンスの内容を組み立てることができる。自らが情報を発信すると共に、仲間の意見を聞きながら、内容を組み立てることができる。
13	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ④	課題に対してグループで議論することで、独創的な発想を生み出し、人と同じではなく自分達ならではの要素を取り入れたダンスを組み立てることができる。
14	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ⑤	グループで課題の内容を深め、ひと流れで踊ることができる。一人一人が生き生きと踊り、ダンスを通して体を動かすことの大切さを実感することができる。
15	まとめとミニツツテストⅢ	成果発表。ダンスを通して発見した課題に向き合い、グループで協力しダンス作品を発表することができる。

留意事項(履修条件等)

- ・動きやすい恰好、上履き用のシューズを持ってきてください。
- ・必ず汗をかくので水分も忘れず持ってきてください。
- ・全講義終了後にレポート提出があり評価の対象とします。
- ・確認テストのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題: 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: ダンス及びダンス系フィットネスを使い、体力の向上とコミュニケーション能力の向上を行っていくにあたり、自身の体力や内面的な課題を知っておくことが明確な課題達成に繋がっていきます。

事後学習: ミニツツテストが 3 回あります。課題は各講義で段階的に伝えていきます。講義中に与えられた課題に対して内容を理解し、課題達成には何が必要か考えて実践できる準備をしてください。

また、講義内で体ほぐし運動やストレッチ等も行っていくので、日々の生活で体を動かす意識を高め、生涯スポーツにも繋げてもらいたいです。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

テコンドー用ミット

最終到達目標

運動の必要性を理解し、自己の課題と向き合うと共に他者と協力し課題を乗り越えることができる。

評価方法及び評価基準

授業への取り組み及び態度 50%、ミニッツツテスト 30%、レポート 20%など配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

上手く踊れる必要はありませんが、課題に対して全力で取り組む姿勢が必要です。また、他者とのコミュニケーションを自らとるように心掛けて臨んでください。

授業コード	ENC0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目-人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	体育実技	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力		
担当教員	田中雅人				探求心		
講義目的							

- 1)自己の健康や体力を保持増進させるための目的や方法を説明できる。
 2)健康や体力を保持増進させ、スポーツに親しむための具体的な運動方法を実践できる。
 3)スポーツの楽しさを体感し、仲間とコミュニケーションをとりながら、主体的に取り組むことができる。

授業内容

体力測定を行い、自己の体力について理解したのち、体力を保持増進させるための方法について学習する。また、ストレッチングの方法を学習し、スポーツ活動によるケガの予防について理解する。

フライングディスク、ネット型ボールゲーム、ゴール型ボールゲームに必要な用具やボールの操作を学習するとともに、各スポーツのルールについて理解する。また、学習した基本的な技能を用い、仲間とコミュニケーションをとりながらゲームが展開できることを目指す。

健康や体力を保持増進させるための目的や方法を理解し、今後のライフプランを作成することで、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣を身に付ける。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	ストレッチング 体力測定	1)ストレッチングの方法を説明できる。 2)体力を測定する方法を説明できる。
2	ゲーム(1) ドッジビー	1)フライングディスクの操作に慣れる。 2)フライングディスクを使ったゲームを展開できる。
3	ゲーム(2) バドミントン	1)ラケットの操作に慣れる。 2)バドミントンのルールを説明できる。
4	ゲーム(2) バドミントン	1)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2)仲間と連携した動きでゲームを展開できる。
5	ゲーム(2) バドミントン	1)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2)仲間と連携した動きでゲームを展開できる。
6	ゲーム(2) バドミントン	1)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2)仲間と連携した動きでゲームを展開できる。
7	ゲーム(2) バドミントン	1)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2)仲間と連携した動きでゲームを展開できる。
8	ゲーム(2) バドミントン	1)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2)仲間と連携した動きでゲームを展開できる。
9	ゲーム(3) ソフトバレーボール	1)ソフトバレーボールのルールを説明できる。 2)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。
10	ゲーム(3) ソフトバレーボール	1)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2)仲間と連携した動きでゲームを展開できる。
11	ゲーム(3) ソフトバレーボール	1)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2)仲間と連携した動きでゲームを展開できる。
12	ゲーム(3) ソフトバレーボール	1)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2)仲間と連携した動きでゲームを展開できる。
13	ゲーム(4) アルティメット	1)アルティメットのルールを説明できる。 2)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。
14	ゲーム(4) アルティメット	1)基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2)仲間と連携した動きでゲームを展開できる。

15	理論:スポーツと健康	1)健康や体力を保持増進させるための方法を説明できる。 2)健康や体力の保持増進に留意したライフプランを作成できる。
留意事項(履修条件等)		
<p>運動に適したウェア、シューズを使用し、ケガ防止のため装飾品等は身に付けない。</p> <p>筆記用具を準備する。</p> <p>学習内容(ルールの理解、基本的な技能の習得、連携した動きの実践など)に関わるフィードバックは、その都度講義時間内に行う。</p> <p>履修者の人数は最大 36 名とする。</p> <p>履修者人数超過の場合は履修者抽選を行い、受講生を決定する。</p>		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修が必要です。</p> <p>事前学習: 必要に応じて配付する資料を用いて、ゲームのルールや学習方法を理解する。</p> <p>事後学習: 学習したストレッチングやトレーニングの方法を用いて、体力の保持増進に努める。</p>		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
メールアドレス: m-tanaka@ehime-u.ac.jp		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書:		
なし		
最終到達目標		
スポーツの楽しさを体感するとともに、健康や体力を保持増進させるための運動を実践できる。		
評価方法及び評価基準		
学習態度の観察(50%)、実践スキルの観察(30%)、レポート(20%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。		
成績評価基準 (学則第 34 条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		
学生へのメッセージ		
QOL(生活の質・人生の質)を高める手段のひとつとして、スポーツは重要な役割を担っています。また、スポーツは、自発的で自由な活動です。生涯に渡って幸福で豊かな生活を送るために、スポーツを楽しむ習慣を身に付けて欲しいと思います。		

授業コード	ENC0701			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目-人間と生活の理解				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	社会・環境と健康	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力		
担当教員	岡 靖哲				探求心		
講義目的							

この授業では、社会・環境の中での人間のありかたについての基本的な理解を通じて、生活やライフスタイルが大きく変化している現代社会における健康の問題について学習します。ライフステージごとの家族・健康の課題を理解するとともに、国際的な社会・医療の動向の実情を、多数の動画を使って紹介します。将来の看護職として、知っておくと役立つ、健康を増進するためのアプローチについて学習することを目的とします。

授業内容

- ① 現代社会の特徴と、健康・QOL・ライフスタイル・生活習慣病の関連について学びます。
- ② ライフステージ別の家族・健康の課題について学習します。
- ③ 社会・健康・医療の国際的動向の理解を通じて、我が国の健康・医療をめぐる問題点を考えます。
- ④ 健康を増進するための科学的進歩と、最新医療の貢献と問題点について学習します。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	現代社会の特徴:社会変動と健康	社会の変化に応じて、それぞれの年代が持っている社会的背景を知り、近年の24時間化の社会的影響を理解できる。
2	個人の生活構造とライフスタイル	個人の生活時間・ライフスタイルによって、健康習慣や生き方にどのような違いがあるかを理解できる。
3	ライフスタイルと健康・疾病	生活習慣病の背景にある生活習慣の問題、特に睡眠の障害が疾病に及ぼす影響について理解できる。
4	ライフステージ別の家族・健康の課題(1)	乳幼児期から児童期の家族・健康について、現代の子育ての問題点や、子どもの発達について理解できる。
5	ライフステージ別の家族・健康の課題(2)	青年期の家族・健康について、家族との関係性や、生活習慣の乱れによる発達への影響を理解できる。
6	ライフステージ別の家族・健康の課題(3)	成人期の家族・健康について、生活習慣病やがん等の疾患にどのように取り組むのかについて理解できる。
7	ライフステージ別の家族・健康の課題(4)	老年期の家族・健康について、介護、在宅医療、認知症といった問題への関わりについて理解できる。
8	人間にとっての集団・組織	社会の集団の形態と、NPO・NGOといった組織の役割、病院組織の形態と現実的な機能について理解できる。
9	個人・集団における協業と対立	医療現場における協業とコンフリクトについて、医療事故や、難病患者家族の葛藤などについて理解できる。
10	地域社会とコミュニティ	健康をサポートするネットワークとして、地域社会やコミュニティの役割について理解できる。
11	社会・健康のグローバリゼーション(1)	国際社会の多様性と健康の関わりについて、海外の動向、医療における外国人の受け入れについて理解できる。
12	社会・健康のグローバリゼーション(2)	医療システムの多様性について、日本と海外の医療の違い、日本の医療の利点と欠点について理解できる。
13	社会・健康のグローバリゼーション(3)	先進国と途上国との医療の違いについて、途上国医療を改善するために看護職が果たせる役割について理解できる。
14	生命倫理	生殖医療・再生医療・遺伝学をめぐる、近年生じてきた新たな生命倫理の問題について理解できる。
15	ヘルスプロモーションとメンタルヘルス	健康行動と科学との関連について、健康をどのように推進していくか、身体的・精神的側面から理解できる。

留意事項(履修条件等)					
科目的単位を修得するにあたり、授業で触れた内容についてのミニレポート(自由記載、所要5分)は、その都度講義時間内に行います。					
全体のフィードバックについては講義時間内に行います。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。					
事前学習: テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を深めてください。事前に提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨んでください。					
事後学習: 課題レポートがある場合は次回の授業までに提出してください。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
授業時間の前後					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書: 「ナーシング・グラフィカ 健康と社会・生活 健康支援と社会保障①」: 平野かよ子、メディカ出版 ISBN: 978-4-8404-4912-0					
授業で使用するスライド内容は、当日レジュメを配布します。					
最終到達目標					
現代社会における健康をめぐる課題を理解し、健康を増進するために看護が果たせる役割についての知識を得て、自分なりに考えることができることを目標とします。生活基盤、ライフスタイルの変化にともなう健康への影響について知るとともに、ライフステージごとの家族・健康の課題を理解し、国際的な社会・医療の動向とも対比しながら、看護職として知っておくべき、健康を増進するためのアプローチについて理解できることを目指します。					
評価方法及び評価基準					
筆記試験(60%)、課題・小テストおよび授業への参加度(40%)など、配点得点を合計 100 点満点として評価します。					
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)					
学生へのメッセージ					
将来に看護師として仕事をするうえで知っておきたい、社会、環境、ライフスタイルといった背景と、健康・医療についての基礎的な知識を学びます。ニュース映像や動画を多数用いて、これらの内容をわかりやすく解説します。国際社会とのかかわりも増えてくることから、社会・健康の国際化(グローバリゼーション)について、海外の現状を、実例を交えて紹介します。授業では、最新の社会・健康の動向を知ることで、看護職としてどのようなやりがいや可能性があるかを学びます。					

授業コード	ENC0801			定める 能力 デイプ ロマ・ ボリシーに 成する	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	家族社会学	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	岡 多枝子				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的

家族は社会を構成する基本単位であり、家族社会学を修めることは成員である学生にとって当事者研究としても意義がある。本講義の目的は、家族の成立と変遷を概観して家族の形態や機能、役割を理解するとともに、今日の多様化する家族が抱える生活・健康課題に保健・医療専門職としてどのように関わっていくか、アクティブラーニングを通して主体的・対話的に学び深く考察することである。

授業内容

授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。

1. 近代家族の成立(家族の形態・機能・役割、産業・人口・経済の変化と家族)
2. 多様化する家族の生活・健康課題(結婚・妊娠・出産・子育て・就業)
3. 生活・健康課題の援助(ジェンダー・セクシュアリティ・貧困・疾病・障害・高齢化・グローバル化と社会的孤立・社会的包摂)
4. アクティブラーニング活動とグループ KJ 法

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	オリエンテーション：家族社会学の概念と 本科目の目的・内容・方法・評価	家族社会学の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案することができる。
2	1. 近代家族の成立(家族の社会的役割 や機能・形態)	家族の社会的役割や機能・形態に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
3	1. 近代家族の成立(産業・人口・経済の 変化と家族)	産業・人口・経済の変化と家族に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
4	1. 近代家族の成立(単元の総括と小テスト①)	近代家族の成立に関するグループ発表と全体討論を行い、社会的背景との関係や機能を考察し、学習課題を小テストで確認することができる。
5	2. 多様化する家族(結婚・妊娠・出産・子 育て・就業)	結婚・妊娠・出産・子育てに関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
6	2. 多様化する家族(就業・男女雇用均等 法・新たな制度)	就業・男女雇用均等法・新たな制度に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
7	2. 多様化する家族(単元の総括と小テスト ②)	多様化する家族に関するグループ発表と全体討論を行い、社会的背景との関係や機能を考察し、学習課題を小テストで確認することができる。
8	3. 生活・健康課題の援助(ジェンダー・セ クシュアリティ)	ジェンダー・セクシュアリティに関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
9	3. 生活・健康課題の援助(貧困・疾病・障 害・高齢化・国際化・社会的包摂)	貧困・疾病・障害・高齢化・国際化・社会的包摂に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
10	3. 生活・健康課題の援助(単元の総括と 小テスト③)	生活・健康課題に関するグループ発表と全体討論を行い、社会的背景との関係や機能を考察し、学習課題を小テストで確認することができる。
11	4. アクティブラーニング活動(計画の立 案と準備)	近代家族の成立、多様化する家族、生活・健康課題の援助に関するアクティブラーニング活動の計画立案と準備を行うことができる。

12	4. アクティブラーニング活動(計画の実施)	近代家族の成立、多様化する家族、生活・健康課題の援助に関するアクティブラーニング活動を行うことができる。
13	4. グループ KJ 法の実施(第1段階)	家族社会学の学習成果をもとに、グループで協力して狭義の KJ 法(ラベル作成・統合・図解作成)を行うことができる。
14	4. グループ KJ 法の実施(第2段階)	家族社会学の発表資料 KJ 法図解をもとにグループで叙述化とプレゼンテーションを行い、全体で学習課題の発展と深化を共有することができる。
15	総括: 家族社会学の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行うとともに、保健・医療専門職として適切な家族支援のあり方を考えることができる。

留意事項(履修条件等)

家族社会学は看護教育を支える基礎科目であり、保健師コースの選択必修科目であるため、家族を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習(毎回 2 時間):

教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾いしておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、隨時、科目担当教員と相談の上で進める。

事後学習(毎回 2 時間):

個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

時間: 火・水・木曜日の昼休み 場所: 研究室 714

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「問い合わせはじめる家族社会学—多様化する家族の包摂に向けて—」、有斐閣ストゥディア、2015、ISBN: 978-4-641-15016-4

教具: リフレクションシート

※この教具は他科目と共にため 1 冊購入すれば良い(教科書販売と同時)。

最終到達目標

看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、家族の成立と役割や諸課題を理解した上で、家族が抱える生活・健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、家族社会学に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。

評価方法及び評価基準

期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト(3 回)を実施する。評価の比率は、期末試験成績(60%)、小テスト(20%)、発表を含む学習活動(20%)で総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- ① 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。
- ② シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。
- ③ リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。

授業コード	ENC0901			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	生命倫理学	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力		
担当教員	野元 正弘				探求心		
講義目的							

1. 医療の現場で倫理的問題の起こる場面を理解できる。
2. インフォームド・コンセントの歴史と現状を説明できる。
3. 生命倫理学の原理原則について説明できる。
4. 出生をめぐる倫理問題を理解し、生殖補助医療、出生前診断等について説明できる。
5. さまざまな形の死を理解し、脳死は人の死かという質問に答えられる。
6. 尊厳死、安楽死、緩和ケア、ACP(人生会議)の用語を十分説明できる。

授業内容

20世紀後半から今日に至る医療技術の進歩は、医療の現場においてさまざまな倫理的問題を提起してきた。医療に従事する看護師は生命倫理についてその概略を心得ておく必要がある。具体的には、脳死、臓器移植、生殖補助医療、緩和ケア、尊厳死、安楽死など医学的内容を理解するとともに、どこに倫理的問題が存在するのかを明らかにできなくてはならない。その場合、共通の課題として医療におけるインフォームド・コンセントの重要性とその実態について理解を深めておく。脳死判定、脳死症例の家族の悩み、臓器提供における本人の意思、生体移植における臓器提供者の立場、体外受精に伴う親子関係、人生の最終段階の医療体制と患者の意思などは、倫理的問題と関係することが多い。生命倫理が問われるような問題では、当事者はもとよりその親しい周辺の人々にもいろいろな悩みや葛藤が見られるので、この講義では看護学的アプローチによる支援の可能性を考察する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	生命倫理学とは何か	①生命に関する新たな倫理的問題を理解できる。 ②生命倫理学に関する生物学的知識を理解できる。
2	生命倫理学の今日的課題	①生命医学倫理における四原則を理解できる。 ②四原則に当てはまらない生命倫理を理解できる。
3	医療現場での生命倫理学的問題と医療従事者の持つべき人間性	①健康、疾患、病気について理解できる。 ②医療現場での医療者と患者の関係、医療従事者の持つべき人間性を理解できる。
4	インフォームド・コンセント	①インフォームド・コンセントについて理解できる。 ②同意能力のない患者に対するインフォームド・コンセントについて理解できる。
5	医療現場における守秘義務と個人情報保護	①患者の守秘義務の重要性が理解できる。 ②守秘義務の例外について考察できる。
6	医学研究と生命倫理	①臨床研究の目的と方法を理解できる。 ②ヘルシンキ宣言の内容と目的を理解できる。
7	人工妊娠中絶と出生前診断	①人工妊娠中絶の倫理的問題を理解できる。 ②出生前診断の倫理的問題を理解できる。
8	生殖補助医療	①生殖補助医療の現状を理解できる。 ②生殖補助医療の倫理的問題を理解できる。
9	新生児医療	①新生児医療の現状を理解できる。 ②出生をめぐる生命倫理学的問題を理解できる。
10	死の定義	①さまざまな死の基準を理解できる。 ②死の定義の倫理的問題が理解できる。

11	脳死に関する倫理的考察	①脳死とはどのような状態か理解できる。 ②脳死の判定基準を理解できる。
12	臓器移植	①さまざまな臓器移植を理解できる。 ②臓器移植の倫理的問題が理解できる。
13	患者の QOL と医療における患者の権利	①患者の QOL が問題となる倫理学的領域を理解できる。 ②患者の権利に関する倫理学的問題を理解できる。
14	終末期医療	①終末期医療をめぐる倫理学的問題が理解できる。 ②延命治療の中止・継続に関する倫理的問題を理解できる。 ③ACP(人生会議)を理解できる。
15	安楽死と尊厳死	①安楽死に関する倫理的問題が理解できる。 ②尊厳死に関する倫理的問題が理解できる。

留意事項(履修条件等)

生命倫理では職業として医療に従事する時に要求される倫理的事項を取り上げる。高校で倫理の授業がなかった人、倫理の授業を受けたがつまらなかった人も、是非この講義を通じて生命倫理を理解していただきたい。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題・事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。教材に示した参考書を少なくとも 1 冊は読んでくる。

事前学習:教科書および参考書を用いて、講義内容の予習を1時間程度を目安に行う。

事後学習:講義プリント、講義時にとったノートおよび教科書、参考書を用いて、1時間程度の復習を行う。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書は特に指定しないが、参考書として以下のものを利用する。

「生命倫理と医療倫理」、伏木信次、櫻則章、霜田求編、金芳堂、ISBN:978-4-7653-1598-2

「生命倫理学入門」、今井道夫著、産業図書、ISBN:978-4-7828-0213-7

「看護のための生命倫理」、小林亜津子著、ナカニシア出版、ISBN:978-4-7795-0479-2

「本当にわかる倫理学」、田上孝一著、日本実業出版社、SBN:978-4-534-04774-8

「もう一度読む山川倫理」、小寺聰 編、山川出版社、ISBN:978-4-634-59071-7

最終到達目標

臨床現場で遭遇する生命倫理学的問題を持つ症例について合理的(筋道立てて)に考えることができる。

医療に関するあらゆる生命倫理学的問題に適切に対応できる。

評価方法及び評価基準

筆記試験あるいはレポート(85%)、授業への参加度(15%)の総合得点とし、60 点以上を合格とする。

配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

生命倫理では、職業として医療に従事するときに遭遇する必須の内容を取り上げる。看護師としての豊かな人間性、課題を解決できる実力をつけてほしい。

授業コード	ENC1001			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>							
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>							
授業科目名	社会福祉学	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>							
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>							
担当教員	岡 多枝子				探求心	<input checked="" type="radio"/>							
講義目的													
本講義の目的は、「地域の保健・医療・福祉制度、健康に関する情報、指標」、「日本における社会保障制度の変遷と特徴」、「社会保障制度の種類(社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、医療等)」の3点について説明できること及び、「地域の様々な社会資源を列挙し、どのような利用者に活用できるか」、「ノーマライゼーションの支援」の2点について理解できることである。													
授業内容													
講義目的を達成するために、以下の内容を、主体的・対話的に深く学ぶアクティブラーニングを導入して、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。													
1.「生活と福祉(保健・福祉・医療の連携、社会福祉の定義、グループリーダー)」 2.「社会福祉の歴史と援助技術(近代国家と社会福祉の潮流、高度経済成長と福祉政策、ソーシャルワークとケアマネジメント)」 3.「福祉制度と施策(福祉6法、社会福祉基礎構造改革と社会福祉法)」 4. アクティブラーニング活動とグループKJ法													
授業計画及び学習課題													
回	標 題	学習課題											
1	オリエンテーション:社会福祉学の概念と 本科目の目的・内容・方法・評価	社会福祉学の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案することができる。											
2	1. 生活と福祉(保健・福祉・医療の連携、 社会福祉の定義)	保健・福祉・医療の連携、社会福祉の定義に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。											
3	1. 生活と福祉(ライフスタイル、グループ リーダー)	ライフスタイル、グループリーダーに関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。											
4	1. 生活と福祉(単元の総括と小テスト①)	生活と福祉に関するグループ発表と全体討論を行い、看護職者に求められる社会福祉の視点を考察し学習課題を小テストで確認することができる。											
5	2. 社会福祉の歴史と援助技術(近代国家 と社会福祉の潮流)	近代国家と社会福祉の潮流に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。											
6	2. 社会福祉の歴史と援助技術(高度経済 成長と福祉政策、SW とケアマネジメント)	高度経済成長と福祉政策、SW とケアマネジメントに関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。											
7	2. 社会福祉の歴史と援助技術(単元の総 括と小テスト②)	社会福祉の歴史と援助技術に関するグループ発表・全体討論・看護職者に求められる視点の考察・小テストによる課題の確認を行う。											
8	3. 福祉制度と施策(福祉6法)	福祉6法に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。											
9	3. 福祉制度と施策(社会福祉基礎構造改 革と社会福祉法)	社会福祉基礎構造改革と社会福祉法に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。											

10	3. 福祉制度と施策(単元の総括と小テスト③)	福祉制度と施策に関するグループ発表と全体討論を行い、専門職連携のあり方を考察するとともに、学習課題を小テストで確認することができる。
11	4. アクティブラーニング活動(計画の立案と準備)	生活と福祉、社会福祉の歴史と援助技術、福祉制度と施策に関するアクティブラーニング活動の計画立案と準備を行うことができる。
12	4. アクティブラーニング活動(計画の実施)	生活と福祉、社会福祉の歴史と援助技術、福祉制度と施策に関するアクティブラーニング活動を行うことができる。
13	4. グループ KJ 法の実施(第 1 段階)	社会福祉学の学習成果をもとに、グループで協力して狭義の KJ 法(ラベル作成・統合・図解作成)を行うことができる。
14	4. グループ KJ 法の実施(第2段階)	社会福祉学の発表資料 KJ 法図解をもとにグループで叙述化とプレゼンテーションを行い、全体で学習課題の発展と深化を共有することができる。
15	総括:社会福祉学の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行うとともに、保健・医療・福祉の専門職連携のあり方を考えることができる。

留意事項(履修条件等)

社会福祉学は看護教育を支える基礎科目であるため、社会福祉を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習(毎回 2 時間):

教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、隨時、科目担当教員と相談の上で進める。

事後学習(毎回 2 時間):

個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

時間:火・水・木曜日の昼休み

場所:研究室 714

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:「新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③社会福祉 第 11 版」、メディカルフレンド社、ISBN: 978-4-8392-3318-1

教具:リフレクションシート ※この教具は他科目と共通のため 1 冊購入すれば良い(教科書販売と同時)。

最終到達目標

看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、社会福祉の概念と役割や諸課題を理解した上で、家族が抱える生活・健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、社会福祉学に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。

評価方法及び評価基準

期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト(3 回)を実施する。評価の比率は、期末試験成績(60%)、小テスト(20%)、発表を含む学習活動(20%)で総合評価する。

小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- ① 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。
- ② シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。
- ③ リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。

授業コード	ENC1101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	教育社会学	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力		
担当教員	石川 良子				探求心		
講義目的							
教育とは、学校教育だけでなく、社会と密接に関連しています。個人は、社会との相互作用の中で、様々な影響を受けながら社会化していきますが、社会が急激に変容していく現代社会においては、社会事象を理解するとともに、教育とは何か、学びとは何かということを考える必要があります。本科目では、社会問題や社会病理に対する知見を深め、その影響(教育現象)について理解し、自ら考えることのできる力を養うことを目的とします。							
授業内容							
現代社会に起きている社会問題や社会病理といった社会事象を学びながら、個人に与える影響(教育現象)について理解を深めるとともに、グループワークを通じて、問題解決の方法を探求していきます。 具体的には、乳児期や幼児期、学童期、青年期、老年期といった各ライフステージにおける社会的事象を取り上げ、知見を深めるとともに、グループワークやディスカッションおよび発表を通じて、自ら考える力(クリティカルシンキング)を養うことを目指します。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	授業オリエンテーション	本科目を受講するまでの授業内容・受講上の注意点等についてのガイダンスを行うことができる。					
2	社会の理解	社会の枠組み、近年の社会変化、社会との相互作用における教育との関連について学ぶことができる。					
3	ワーク①社会問題について考える	グループワーク: 現代社会の事象(問題)について考えることができる。					
4	子どもの教育①家族と子育て	家族の在り方や子育てに起きている問題について理解を深めることができる。					
5	子どもの教育②学校問題	いじめや不登校など学校で起きている問題について理解を深めることができる。					
6	ワーク②子どもの問題について考える	グループワーク: 現代社会の事象(問題)について考え、問題解決に向けたディスカッションを行うことができる。					
7	青少年の生活①職業生活	就職・離職等を含めた職業生活に関する問題について理解を深めることができる。					
8	青少年の生活②結婚生活	恋愛や結婚、男女共同参画を含めた問題について理解を深めることができる。					
9	ワーク③青少年の問題について考える	グループワーク: 現代社会の事象(問題)について考え、問題解決に向けたディスカッションを行うことができる。					
10	マイノリティの理解①ジェンダー	ジェンダーに関する知識と問題について理解を深めることができる。					
11	マイノリティの理解②逸脱行動	非行、薬物、差別などの問題について理解を深めることができる。					
12	ワーク④マイノリティの問題について考える	グループワーク: 現代社会の事象(問題)について考え、問題解決に向けたディスカッションを行うことができる。					
13	高齢期の学習:生涯学習社会	生涯学習社会についての知識と高齢期の問題について理解を深めることができる。					

14	メディアと教育	マス・コミュニケーションだけでなく、電子メディアの発達が与える影響や問題について理解を深めることができる。
15	ワーク⑤教育について考える	グループワーク：これまでに学んだ知見を活かし、教育の問題についてディスカッションを行うことができる。
留意事項(履修条件等)		
初回授業において、授業内容・評価方法等について詳細な注意事項をお伝えしますので、やむを得ず欠席する場合には、必ず後日確認すること。また、学習した知識を活用するためにも積極的に授業に参加してください。 ※ 受講生の興味関心や進歩状況に応じて授業内容を変更することがあります。 グループワークや課題のフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習)に示されている内容の学修が必要です。		
事前学習：社会の様々な問題について興味関心を持ってください。具体的には、新聞を読む、書籍を読むなどして現代社会の現象について知識を得るような学習を心掛けてください。 事後学習：課題が出ますので、しっかり課題に取り組むこと、また、授業内容についてしっかり振り返り、復習するよう心掛けてください。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
授業時間の前後		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書：指定はしませんが、必要に応じて参考図書等を購入することをお勧めします。 資料・参考図書等については授業内で適宜配布・紹介します。		
最終到達目標		
社会問題や社会病理に対する知見を深め、教育現象について理解し、自ら考えることのできる力を養うこと、また、論理的に考える力を身に付けること		
評価方法及び評価基準		
最終レポート 60% 授業への参加態度※ 40% 配点得点を合計 100 点満点として評価する。		
※評価内容 ・ワークへの積極的な参加 ・授業に臨む姿勢		
成績評価基準（学則第34条） S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）		
学生へのメッセージ		
知識を学ぶことだけが授業ではありませんので、様々な視点で考えること、積極的に授業で発言することなど主体的に参加してください。受講生の皆さんの興味・関心に応じて、授業内容を変更することができますので、問題意識をもって受講されることを望みます。		

授業コード	ENC1201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	社会保障論	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	岡 多枝子				探求心	○	
講義目的							
<p>社会保障は救貧や防貧にとどまらず、国民生活の保障と生活の安定を図る視点が求められており、多様化する生活・健康課題に保健・医療専門職としてどのように関わっていくか、主体的・対話的に深く学び考察することが求められている。本講義の目的は、「地域の保健・医療・福祉制度、健康に関する情報、指標」、「日本における社会保障制度の変遷と特徴」、「社会保障制度の種類(社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、医療等)」の3点について説明できること及び、「地域の様々な社会資源を列挙し、どのような利用者に活用できるか」、「ノーマライゼーションの支援」の2点について理解できることである。</p>							
授業内容							
<p>講義目的を達成するために、以下の内容を、主体的・対話的に深く学ぶアクティブラーニングを導入して、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。</p> <p>1. 社会保障の概念・歴史・制度体系(社会保障概念の形成・社会保障の定義と歴史・制度の分類と目的・方法) 2. 日本の社会保険制度(医療保険・介護保険・年金保険・雇用保険・労災保険・高齢者医療制度・診療報酬制度) 3. 社会保障制度の動向(少子高齢社会・社会保障制度改革・マイナンバー制度) 4. アクティブラーニング活動とグループKJ法</p>							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	オリエンテーション:社会福祉学の概念と 本科目の目的・内容・方法・評価	社会保障の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案することができる。					
2	1. 社会保障の概念・歴史・制度体系(社会 保障概念の形成・社会保障の定義と歴史)	社会保障概念の形成・社会保障の定義と歴史に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
3	1. 社会保障の概念・歴史・制度体系(制 度の分類と目的・方法)	定義と歴史・制度の分類と目的・方法に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
4	1. 社会保障の概念・歴史・制度体系(單 元の総括と小テスト①)	社会保障の概念・歴史・制度体系に関するグループ発表と全体討論、社会保障の概念を考察し、学習課題を小テストで確認することができる。					
5	2. 日本の社会保険制度(医療保険・介護 保険・年金保険・雇用保険・労災保険)	医療保険・介護保険・年金保険・雇用保険・労災保険に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
6	2. 日本の社会保険制度(高齢者医療制 度・診療報酬制度)	高齢者医療制度・診療報酬制度に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
7	2. 社会保険制度(単元の総括と小テスト ②)	社会保険制度に関するグループ発表と全体討論を行い、社会的背景との関係や機能を考察し、学習課題を小テストで確認することができる。					
8	3. 社会保障制度の動向(少子高齢社会)	少子高齢社会・核家族化に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
9	3. 社会保障制度の動向(少子高齢社会・ 社会保障制度改革・マイナンバー制度)	社会保障制度改革・マイナンバー制度に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					

10	3. 社会保障制度の動向(単元の総括と小テスト③)	社会保障制度の動向に関するグループ発表、全体討論と考察を行い、小テストによって学習課題を確認することができる。
11	4. アクティブラーニング活動(計画の立案と準備)	社会保障の概念・歴史・制度体系、社会保険制度、社会保障制度の動向に関するアクティブラーニング活動の計画立案と準備を行うことができる。
12	4. アクティブラーニング活動(計画の実施)	社会保障の概念・歴史・制度体系、社会保険制度、社会保障制度の動向に関するアクティブラーニング活動の計画立案と準備を行うことができる。
13	4. グループ KJ 法の実施(第 1 段階)	社会保障論の学習成果をもとに、グループで協力して狭義の KJ 法(ラベル作成・統合・図解作成)を行うことができる。
14	4. グループ KJ 法の実施(第2段階)	社会保障論の発表資料 KJ 法図解をもとにグループで叙述化とプレゼンテーションを行い、全体で学習課題の発展と深化を共有することができる。
15	総括社会保障論の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行うとともに、保健・医療専門職としての社会保障への視点を説明できる。

留意事項(履修条件等)

社会保障論は保健師コースの選択必修科目であるため、社会保障を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習(毎回 2 時間):

教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、隨時、科目担当教員と相談の上で進める。

事後学習(毎回 2 時間):

個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

時間: 火・水・木曜日の昼休み 場所: 研究室 714

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:「新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③社会福祉 第 11 版」、メヂカルフレンド社、ISBN: 978-4-8392-3318-1

教具:リフレクションシート ※この教具は他科目と共にため 1 冊購入すれば良い(教科書販売と同時)。

最終到達目標

看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、社会保障の機能と役割や諸課題を理解した上で、生活・健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、社会保障論に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。

評価方法及び評価基準

期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト(3 回)を実施する。評価の比率は、期末試験成績(60%)、小テスト(20%)、発表を含む学習活動(20%)で総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。

成績評価基準（学則第34条）

- S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)
B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)
D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- ① 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。
- ② シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。
- ③ リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。

授業コード	ENC1301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○					
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と倫理観	○					
授業科目名	哲学	選択・必修	選択		知識・技術						
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	○					
担当教員	森川 孝吉				探求心	○					
講義目的											
医療のあり方が患者の意思を尊重するものへと変貌しつつある、そうした時代に医療に携わるものが患者と人間として共有できるものは何か?を、考慮することを迫られている。こうした観点から現代人として日々突き当たる諸問題に真正面から向かい合い、反省的思考ができる資質を形成することを目指す。											
授業内容											
共感、人間的愛、人間的自由、正義といったテーマを深めていく。これらは誰もが関心を持つ一方、古今東西で絶えず思考され、論じられてきたテーマでもある。古典的文献における代表的主張を踏まながら、現代的テーマとして再構築していく。											
授業計画及び学習課題											
回	標 題	学習課題									
1	他者への関心 共感(1) 共感の本質	単一の源泉をもつ感情の伝染による共感と、二つの源泉(当事者を取り巻く事情と想像力)を持つ共感の区別を把握し、前者の限界を見極めることができる。									
2	他者への関心 共感(2) 共感の成立条件	観察者から当事者に寄り添うだけでは、共感は成立しない。当事者が観察者視点を身に着ける必要性を理解することができる。									
3	他者への関心 共感(3) 賢者の原理と弱さ	他者から称賛されることを目的とするのではなく、他者からの称賛に値することを目指すことが、社会道徳の腐敗を防ぐ力ぎを握ることを把握することができる。									
4	他者への関心 共感(4) 自然の欺瞞と秩序	公平な観察者が供する限りにおける自己利益の追求は、それが人間の心の弱さから発生するものであっても、社会の繁栄に貢献しうるなど市民的徳性に関わること。併せて人間の幸福について思索を深めることができる。									
5	人間存在の本質と他者(1) 愛の諸類型	愛の古典的諸類型の理解を通して、それが快楽や有用性とは区別されること。また人間的愛を築くには相互性が基調になることを理解することができる。									
6	人間存在の本質と他者(2) 愛は'Art'か「感情」か?	愛は感じ取られるだけのものではなく、むしろ本質的にはアーティストや技術者と同じく修練や努力によって磨き上げられるものであることを理解することができる。									
7	人間存在の本質と他者(3) 自己愛と人類愛	'自分自身を愛せない人は他者をも愛せない'という命題の意味を理解すること、また愛は二人の愛が成就するのは、二人の世界に閉じ込もることではなく、世界に開かれた関係であってこそ可能であることについて認識を深めることができる。									
8	公共性と私(1)自由 バーリンと消極的自由	現代自由論の一つの典型を示すバーリンの消極的自由の概念から、個人が他者から干渉されるべきではない領域の意味を理解することができる。									
9	公共性と私(2)自由 アーレント行為の自由	社会生活を送る人間が自由を語る場合、単なる内面、暗がりの自由ではなく、他者と語り合い行為する公共的空間が必要であることについて認識を深めることができる。									

10	公共性と私(3)正義 ロールズ 無知のヴェールの下での正義の原理の選択	「最大多数の最大幸福」を目指すことが正義だと考える功利主義的正義観に潜む問題性、また社会における公正な配分は善行 Beneficence の問題か正義 Distributive Justice の問題かを考えることができる。
11	公共性と私(4)正義 サンデル 公共性の衰退と正義	優生思想が戦後国際的に断罪されたのは、断種を国家が推奨したことが問題なのか(→個人の選択に委ねれば可?)、優生思想そのものがはらむ問題なのかを把握しうる正義の原理を考えることができる。
12	公共性と私(5)正義 セン 現実指向型対比視点と包括的結果主義	制度の正しさとそれが運用された際に生じる不公正のどちらに焦点を当てるべきか、また不正一般の破棄ではなく、まずより大きな悪を避ける選択がなぜ有効なのか理解を深めることができる。
13	災害と防災の哲学(1) 大災害時求められるのは「命と財産の保全」か 「命の保全」か?	東日本大震災以降、大災害時に備える防災訓練のあり方が問い合わせられるようになりつつある。その最たるもの、「危険の察知→火元の確認→避難行動」から「危険の察知→避難行動」への変化だ。こうした訓練の変化が何を意味するかを考えることができる。
14	災害と防災の哲学(2) 災害時求められるのは消極的義務か積極的義務か?	通常時の日常生活では、消極的義務(他者が自分にしてほしくないことを他者に対して行わない)が、積極的義務(自分が他者からしてほしいことを他者に対して行う)に優先する。しかし、大災害時にこうした義務がどのように変転するのかを考えることができる。
15	まとめ	これまでの講義内容を振り返ることで理解を深めることができる。

留意事項(履修条件等)

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習: シラバスの学習課題に目を通し、それぞれの講義で何がテーマとなるか事前にイメージを抱いておくこと。

事後学習: 講義の中で提示された諸問題を一人で振り返ってみる時間を確保しよう。そこで培った発想法、思考方法が普段の日常生活や人生の岐路に立った時役立てるために。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:なし。毎回原則としてプリント資料を配布する。

参考書:「道徳感情論」、アダム・スミス、講談社、ISBN:978-4-06292-176-3

「ニコマコス倫理学」、アリストテレス、都大学学術出版会、ISBN:978-4-87698-138-0

「愛するということ」、フロム、紀伊国屋書店、ISBN:978-4-31400-558-6

「自由論」、バーリン、みすず書房、ISBN:978-4-62204-974-6

「過去と未来の間」、アーレント、みすず書房:ISBN 978-4-62203-648-7

「正義論」、ロールズ、紀伊国屋書店、ISBN: 978-4-31401-074-0

「これからの正義の話をしよう」、サンデル、早川書房:ISBN 978-4-15050-376-5

「正義のアイデア・セン」、明石書店、ISBN:978-4-75033-494-3

最終到達目標

既存の価値観を疑い、再構築する勇気と寛容性を涵養する。

評価方法及び評価基準

学期末に実施する教場試験の結果を基本とするが、テーマごとに課すレポートの評価を加点材料とする。合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

大学生活の意義は、これまでの半生の中で自然に身につけてきた価値観や思考法を問い合わせ直す機会が得られるところにあります。こうした作業が本来の意味の教養の形成ということになります。こうした過程を経ないまま大人になった人は周りの刺激に順応することしかできない、自我の欠けた大人になってしまいます。勢いそうした人たちで満たされた社会は、潤いのない殺伐とした社会となります。そうした社会にあっても人間固有の豊かさと潤いを発信できるような自我を形成するために人は哲学を学ぶのです。

授業コード	ENC1401			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と 倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	芸術の世界	選択・必修	選択		知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	菅春二				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的

この講義では、人と色のかかわりを学びながら、みなさんが楽しく充実した毎日の生活を送ることができるよう、豊かな人間性を養うことを目指します。また、芸術の世界から「ちょっとしたヒント」を探し、調べ、学び、話し、体験することで、専門職として看護の現場でも使える知識を学び、能力を養うことを目指します。

授業内容

授業は、各回、講義、会話、グループワーク等を織り交ぜた方法で行います。講義では、色が人のこころ、身体、感情、行動に及ぼす影響やその関連性について、普段みなさんが何気なく見過ごしていることや、日常の身近なことを題材にしながら、具体事例(画像や実物も使用)を紹介、解説します。そして、その内容をもとに、会話、グループワーク、プレゼンテーション等対人とのコミュニケーション方法を体験します。また、宝石、貝殻ほかを使った絵具つくりなど、ワークショップ(体験型)の授業時間も設けます。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	色を知るⅠ「服装・表情」 ファッションチェックから友達との会話まで	講義の目的、流れを理解し、終了時の達成目標が確認できる。自分の服装や色の好み、選択の心理が理解でき、声と表情による自己印象の変化にも気づく。
2	色を知るⅡ「人と色」	色が見える原理や色の科学、人間と色のかかわりの歴史が理解できる。
3	色を知るⅢ「こころ・身体と色の関係」	人が色から受けるイメージや、こころ、身体への影響について考え、知ることができる。
4	色を知るⅣ「身近な話題から」	自分の生活やまちの風景にある色について、使い方や意味、その影響を受けた人間の行動、心理の関係を知ることができる。
5	コミュニケーションⅠ	これまでの講義内容を他人に伝えることで、コミュニケーションの大切さや難しさを認識できる。
6	色はどう見えるⅠ「錯視」	「ベンハムのコマ」を例に、人間の色の見え方の理論が体験できる。陰影、色の重なりや線がもたらす錯覚や遠近法について理解できる
7	色はどう見えるⅡ「多様な捉え方」	「虹」を例に、多様な捉え方、表現があることを知り、色と音楽、美術、科学の関係を理解することができる。
8	色はどう見えるⅢ「多彩な表現・感性」	人類と美の起源(美しいということの芽生え)、世界の人々が美しいと感じる心や表現方法の多様性を知ることができる。
9	コミュニケーションⅡ	第6~8回の内容、成果が確認でき、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を養うことができる。
10	色をつくるみようⅠ「絵具つくり」	自然・天然の素材から、簡単な色づくりを学ぶことができる。絵具作りをとおして、ものづくりの理論やその簡単な構造を体験、学習することができる。
11	色をつくるみようⅡ ラピスラズリ(青い宝石)の不思議な魅力	ラピスラズリを例に、人間が太古から現代まで築いてきた、色とのかかわりや色のもととなる地球資源をどのように活用してきたのかを学ぶことができる。
12	色をつくるみようⅢ「青い色」をつくる	多くの画家が追い求めた、金よりも高価といわれる「青い色」(絵具)をつくる体験ができる。

13	コミュニケーションⅢ	第 10~12 回の内容、成果が確認でき、コミュニケーション・プレゼンテーション能力がスキルアップできる。
14	看護と色・コミュニケーションを考える I グループワーク「ユニフォーム」	看護の現場で使える様々な案を考え、提案することができる。
15	看護と色・コミュニケーションを考える II まとめ	目標の達成度を確認し、確認受講後の生活への活用方法を見つけることができる。

留意事項(履修条件等)

意欲的、積極的に授業に参加してください。

確認テストのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: テキストとして配布する資料はよく目を通してください。

次回授業までに課題を確認してください。

事後学習: 事業で学んだ事を良く復習してください。

適宜小テストなどで確認します。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 適宜資料は用意し、配布します。

最終到達目標

「色」を知り、考えることが、心身ともに健康で心豊かなライフスタイルを確立するうえで大切なことや、看護の専門職として、将来の業務に応用可能な知識であることを理解するとともに、それを説明、活用できる能力を養うことを目標とします。

評価方法及び評価基準

期末試験50% 課題テスト30% 受講態度20%など配点得点を合計 100 点満点として評価します。

成績評価基準 (学則第34条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

会話やコミュニケーションを深め、新しい発見や喜び、感動と一緒に見つけていきましょう。

授業コード	ENC1501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	日本の歴史と文化	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力		
担当教員	山内 譲				探求心		
講義目的							

大学生として必要な歴史的教養を身に付けるとともに、社会的諸問題を歴史的に考察する力を養う。

授業内容

近現代史上の諸問題を取り上げ、世界の動きと関連させながら、明治・大正・昭和の各時代はそれぞれどのような歴史的特質を持っていたのか、また現代社会はどうのようにして出来上がったのか、などについて考察する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	ペリー来航と開国	ペリー来航の目的、新しく締結された条約の内容、開国による社会の混乱などについて理解できる。
2	坂本龍馬とは何者か	幕末期の政治的変動の推移を、この時期のキーパーソンともいるべき坂本龍馬の動きと関連させて理解できる。
3	明治維新とはどのような変革か	明治維新という社会的変革の特質を、世界のできごとと関連させながら理解できる。
4	立憲国家の成立	大日本国憲法の内容や歴史的意義を、明治期の社会の動きの中で理解できる。
5	日清・日露戦争	日清・日露戦争の原因や経過について、中国・朝鮮・ロシアの動きと関連付けて理解できる。
6	第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦と日本のかかわりや戦後の社会の変化について理解できる。
7	大正デモクラシーと市民文化	政党内閣の成立や大正デモクラシーの新しい社会的風潮、その中で生まれた市民文化の様相について理解できる。
8	軍部の台頭	経済の破綻などによって、軍国主義が台頭し、二・二六事件などによって社会のあり方が変わっていく状況について理解できる。
9	第二次世界大戦の始まり	ファシズムの台頭によって第二次世界大戦が始まり、日独伊三国同盟などによって日本が戦争に向かっていく状況について理解できる。
10	太平洋戦争と国民生活	日米交渉の決裂による太平洋戦争の始まり、悲惨な戦争の経過、それによる国民生活の崩壊などについて理解できる。
11	占領と改革	太平洋戦争の終結によって占領が始まり、社会的混乱の中で、様々な民主的改革が行われることを理解できる。
12	冷戦と講和	東西両陣営による冷戦が始まり、その影響を受けて占領政策が転換し、講和条約の締結によって独立が回復される過程について理解できる。
13	高度成長と社会の変貌	朝鮮戦争の特需によって経済復興がなされ、高度経済成長によって国民生活の様相が大きく変化することを理解できる。

14	世界の中の日本	どのようにすれば戦争や大規模災害を防ぐことができるか、また、今後国際社会の中でどのように生きていくべきか、などについて考えることができる。
15	まとめ	講義内容を振り返り、学習内容について総合的に考察することができる。
留意事項(履修条件等)		
現代社会との関連を考えながら、歴史の大きな流れをつかむように学習してください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題: 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。		
事前学習: 前時の学習プリントの確認(30 分)		
事後学習: 紹介した参考文献の活用(30 分)		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
授業時間の前後		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書: 毎時間学習プリントを配布する。		
参考書: 必要に応じて参考図書を紹介する。		
最終到達目標		
1 各時代の特質や社会の移り変わりについて正しく理解することができる。 2 社会的諸問題を時間の流れの中で考える歴史的思考力が身に付く。		
評価方法及び評価基準		
基礎的事項が身についているかどうかを確認するミニレポート 20%、歴史の流れが理解できているかどうかを見る試験 70%、平常の受講態度 10%などを総合的に勘案して評価する。		
成績評価基準 (学則第 34 条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)		
学生へのメッセージ		
毎時間配布する学習プリントの内容をよく確認し、歴史の流れをつかんでおくこと。		

授業コード	ENC1601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	経営学の基礎	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	森賀盾雄				探求心	○	

講義目的

大学生のキャリア教育の基礎いわば社会人としての必須教養として、広く社会経済への関心を促すと共に、組織社会における経済・経営の問題について考える力を涵養することを意図し、経営学の入門的知識を組織社会で生きる行動知識を修得させる。さらに、アップトゥデイトな話題を紹介しつつ、経営学の看護・介護分野への適用理論を修得させる。

授業内容

今日の企業・NPO 等全ての組織運営にとって「マネジメント」「イノベーション」「マーケティング」は必要不可欠な理論であることから、この三つの基礎理論と関連性について具体的な適用事例を学び、看護分野における組織運営の基礎力を身につける。

具体的には、マネジメントの発明者であるドラッカーのマネジメント論に至る背景から今日的広がり、営利・非営利の組織等におけるマネジメントの共通性と違い、イノベーション理論、今日的マーケティング論の世界、我が国経営学者が生み出した知識経営論、ボディケア・ライフケアの企業製品の開発、チーム医療におけるマネジメントの基礎的理論を学ぶ。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	マネジメントの誕生	ドラッカーのマネジメント論誕生の背景と目的を考察することとマネジメントの基本概念を修得することによりマネジメントの今日的重要性と基本知識が理解できる。
2	マネジメントの広がり	今日の時代のあらゆる組織分野へのマネジメントの広がりを考察することにより、マネジメントなくして生きていけない時代であることが理解できる。
3	企業マネジメントと地域マネジメント	営利を目的にする企業マネジメントと非営利を目的とする地域マネジメントの違いと共通点を考察することにより、マネジメントがより深く理解できる。
4	イノベーションとは	「ビジネスにはマーケティングとイノベーションを通じた顧客創造が大事」とドラッカーは指摘している。マネジメントとの関連でイノベーションの重要性を考察することにより事業経営の基礎的フレームが理解できる。
5	マーケティング論 I	「市場志向の戦略づくり」を考察することにより今日的マーケティングの狙いが理解できる。
6	マーケティング論 II	「戦略志向の組織体制づくり」を考察することにより今日的マーケティングの組織の在り方が理解できる。
7	マーケティング論 III	「顧客との接点のマネジメント」を考察することにより今日的マーケティングの顧客第一主義が理解できる。
8	マーケティング論 IV	「組織の情報リテラシーを確立する」を考察することにより、今日的マーケティングの情報活用が理解できる。
9	知識経営 I	日本の経営論の到達点である「知識経営論」が生み出された哲学が理解できる。
10	知識経営 II	日本の経営論の到達点である「知識経営論」の基本的内容を理解できる。

11	知識経営Ⅲ	臨床の知と科学の知。日本の経営論の到達点である「知識経営論」を科学の知と臨床の知の相互作用でとらえて看護の知の展開をダイナミックに展開することにより知識経営論の真髄が理解できる。
12	看護・介護用品開発企業の経営	我が国マーケティング最優良企業であるユニ・チャーム等の経営を創業から発展経過を考察することにより、企業経営の具体例を通して経営の在り方が理解できる。
13	看護イノベーションⅠ	ナイチンゲール・ドラッカー・クリステンセンに学ぶ組織を生き生きとさせるイノベーションが理解できる。
14	看護イノベーションⅡ	ナイチンゲール・ドラッcker・クリステンセンに学ぶ組織を生き生きとさせるイノベーションが理解できる。
15	チーム医療と経営	医者・看護師・療法士・栄養士等の専門職連携によるチーム医療のマネジメントの在り方を考察することによりキュア・ケアの連携について理解することができる。

留意事項(履修条件等)

授業中に発表を求めます。授業中は飲食・スマホ・私語厳禁。

分からないうがあれば積極的に質問すること。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: 授業開始までに事前学習の心構えと内容をお知らせします。テキストの予習必要部分を適宜示しますので読んでおくこと。さらに授業の展開過程で課題レポートの提出を求めますからレポートを仕上げてくること。

事後学習: 毎回の授業の終了時までに事後学習の内容を提示します。授業で習ったことを考察しながら復讐すること。事後学習が出来ているかを確認するため適宜小テストを行います。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:『マーケティングを学ぶ』;石井淳蔵著, 筑摩書房, 2010 年, (ISBN 978-4-48006-530-8)

参考書:『ドラッカーマネジメント』NHK「100 分 de 名著」ブックス;上田惇生著, NHK 出版, 2012 年,
(ISBN 978-4-14-081520-5)

最終到達目標

看護の専門職として組織や地域を経営的視点で活躍するための基礎的能力を獲得する。

評価方法及び評価基準

試験 50%、レポート 30%、受講態度 20%など配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

天を見て矢を射ることこそよけれ、届かずとも、屋根よりは、高からん(志を高くもてということです。)

授業コード	END0101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目—人体の構造と機能				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	解剖生理学ⅠA	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	吉村裕之				探求心	○	
講義目的							
人体を構成する細胞、組織、体液、骨格、筋、神経などの基礎的知識を学ぶと共に、恒常性を保つよう営まれている生理現象を説明できるよう理解を深める。看護学の根幹を為す科目であることを考慮し、患者の訴える痛みや障害の部位を正確に表現して医師や医療従事者に伝えられるよう、また、看護計画を策定する上で、人体の構造と機能の理解は極めて大事な要件となる。							
授業内容							
人体の基本構成、身体各部の呼称、関節運動の表現など医療現場で必須となることを最初に学び、次に組織、体液、血液、血液循环、主要な血管の名称、骨格、関節、筋、神経などの基本構造と機能を学習する。重要な人体構造については、資料を配布して講義する。解剖生理学は、薬理学や病態学、疾病学の基礎であり、また、領域看護学を学ぶ際にも、人体の構造と機能の知識がなければ、対処できない。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	人体の基本構成	細胞の構成成分、体幹と体肢、体腔などの解剖学用語を漢字で書き、説明できる。					
2	身体各部の呼び方	医療現場で必要な身体前面・背面・腹部などの主要部位の名称、脈拍測定部位、血管の名称を書き、説明できる。					
3	人体の断面と方向	断面の呼び方、関節運動の表現(外旋・内旋、回外・回内など)を示し、説明できる。					
4	組織の種類と特徴	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の特徴を理解し、代表的な部位の名称を理解できる。					
5	体液	体液の区分、体液の組成、電解質バランス、酸塩基平衡、浸透圧の調節、緩衝作用などが理解し、説明できる。					
6	血液	血液成分、血液の機能、造血・破壊、止血と血液凝固などを理解し、説明できる。					
7	血液循环(1)	動脈、静脈、毛細血管、動脈血と静脈血、体循環、肺循環などを説明できる。					
8	血液循环(2)	脳循環、冠状血管、門脈、胎児循環などの特性を理解し、説明できる。					
9	リンパ系	リンパ組織、リンパ節、リンパ液、浮腫などの機能を説明できる。					
10	骨格の構造と機能	骨の基本構造、骨の種類、軟骨、骨芽細胞と破骨細胞、リモデリング、主要な骨などを説明できる。					
11	関節の構造と機能	関節の基本構成、関節の種類、代表的な関節と機能などを説明できる。					
12	骨格筋の構造と機能	筋の基本構成、筋収縮の機序、筋と骨の結合、代表的な骨格筋の名称と機能を説明できる。					
13	筋の種類と機能	骨格筋、平滑筋、心筋、赤筋・白筋などの種類と特性を説明できる。					
14	神経系の基礎	神経細胞の構造と機能、情報伝達の基礎、神経化学伝達物質、伝達と伝導などを説明できる。					
15	総括	第1回から第14回までを総括して、重要事項について理解する。					

留意事項(履修条件等)
解剖学の専門用語は、「音読み」がほとんどであり、例えば「舌」は「ゼツ」、「骨」は「コツ」と読むので、最初は違和感を抱くが、部位の名称は医療現場でも頻繁に使われることを念頭に置き、漢字で書け、読めることが基本となる。解剖生理学 I A は、系統的な器官中心の解剖生理学 I B の授業と並行して進めるが、人体各部の呼称など基本的な部分により重点を置く。高等学校の生物を履修していない学生にも充分配慮するが、自分自身の身体の成り立ちと生理機能を知る機会と捉え、丸覚えではなく講義時間内に理解することが重要となる。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。
授業時間外の学修(事前・事後学習)
科目的単位を履修するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容)が必要となる。 事前学習: 受講前に、専門用語の読み方と書き方を練習して覚えておくこと、これは講義内容をノートする際に役立つ。読み書きできない事項を、講義を通じて、理解して覚えることは極めて難しくなる。 事後学習: 各授業項目を受講後、専門用語の意味(正しい読み方、書き方も)をまとめておく必要があります。自分の身体で指し示すこと、略図を書き、具体的な位置関係を示せること、それらの生理機能を説明できること、これらを忘れずに繰り返すことが基本です。
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
講義の日に、午後 4 時から 5 時 30 分までの間とします。
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)
教科書:「看護形態機能学」菱沼典子、日本看護協会出版会。ISBN:978-4-8180-1626-2 参考書:看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル、百田龍輔 監修、照林社。ISBN: 978-4-7965-2399-8 標題ごとに資料を配布し、これまでの看護師国家試験を踏まえた授業展開をする。
最終到達目標
健常な身体各部の構成を正しい呼称で表現し、その機能を学び、恒常性とは何かを知ることです。そうすれば、患者が健康障害を訴えた時に、部位を正確に解剖用語で記述でき、どんな生理機能が障害を受けているのかを理解し、健康障害の改善に向けてどんな看護ケアを実践すべきか、してはならない行為は何か、医療人になった時に理解して行動できることに結びつきます。
評価方法及び評価基準
期末試験成績 80%、講義内容に関する小テスト 20%などの配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。 期末試験および小テストは、専門用語が正しくなければ減点するので、正しく書けるようにすること。
成績評価基準 (学則第 34 条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
学生へのメッセージ
○医療人として看護ケアを実践する際に、基本となる授業科目ですから、真剣に取り組むことが重要です。 解剖用語は、「腔」、「窩」、「孔」などのように漢字の意味が分かれれば、理解しやすく、間違いません。 ○看護計画、関連図、看護報告が誤字脱字だらけでは、受理されませんから気をつけること。医療人に共通した専門用語と意味は必須のアイテムです。 ○健常な身体の構成と機能を充分に学び、理解しておけば、障害に対する医療処置を理解して対処することが容易になります。

授業コード	END0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目—人体の構造と機能				広い視野と倫理観	
授業科目名	解剖生理学ⅡA	選択・必修	必修		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	本田和男				探求心 <input checked="" type="radio"/>	
講義目的						
<p>生体を構成する各臓器について、その構造と働きに関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>臓器の正常の構造と機能を正しく理解することにより、機能障害や疾病と関連づけて、臨床で必要とされる基本的な知識を習得する。</p>						
授業内容	<p>呼吸器(上気道、気管、肺)、消化器(口腔、食道、胃、小腸、大腸、肝臓・胆嚢・脾臓)、泌尿器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)について、各々の構造と機能について学習する。それぞれの臓器について、臨床的に頻度の高い代表的な疾患の病態と関連付けながら、正常な働きと機能不全状態のちがいを理解する。</p>					
授業計画及び学習課題						
回	標題	学習課題				
1	上気道の構造と機能	気道を構成する臓器の機能を理解できる。 誤嚥のメカニズムを説明できる。				
2	気管と気管支の構造	気管の構造と機能を理解できる。 気管支の分岐を説明できる。				
3	肺	肺胞の構造を説明できる。 胸腔と肺の構造を理解できる。				
4	呼吸の生理学	肺と全身の臓器における酸素・炭酸ガス交換の関係を説明できる。				
5	呼吸の調節	呼吸の調節に関わるさまざまな受容器を説明できる。 異常呼吸のメカニズムを理解できる。				
6	咀嚼と嚥下	咽頭・喉頭の構造を理解し嚥下運動の重要性を理解できる。口腔の構造を説明できる。				
7	消化(胃・小腸)	胃と小腸の構造を知り、食物消化にはたす役割を理解できる。胃酸の分泌調節について説明できる。				
8	消化(肝・胆・脾)	肝臓と胆嚢の構造とはたらきを理解できる。 外分泌臓器としての脾臓の役割を説明できる。				
9	吸収	糖質・脂肪・タンパク質・水・ビタミンの吸収のメカニズムを説明できる。				
10	排泄	大腸の構造と機能を説明できる。 排便中枢のはたらきを理解できる。				
11	腎臓の構造	ネフロンの構造を説明できる。 腎小体の構造を理解できる。				
12	尿の生成	糸球体での濾過と尿細管での物質の再吸收を理解することができる。				
13	血液成分の調節	腎臓が血液の水・電解質・pHの調節を行うしくみを理解できる。アシドーシスとアルカローシスを説明できる。				

14	尿管・膀胱・尿道	尿管の生理的狭窄部位を説明できる。 膀胱と尿道の構造を理解できる。
15	排尿の生理	排尿中枢のしくみとはたらきを説明できる。 失禁のメカニズムを理解できる。

留意事項(履修条件等)

解剖生理学は医学知識を学ぶ上での基礎となる科目できわめて重要です。

病気を理解するためには、あらかじめ正常な体のしくみとはたらきを知識として身につけておくことが必要です。

科目的単位を修得するにあたり、医学用語を正確に書けるようになるなど授業時間以外の自主的な学習が絶対に必要です。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：あらかじめ講義内容に該当する教材に目を通しておき、読めない専門用語や疑問点、よく理解できない部分を整理しておくこと。

事後学習：講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。

確認テストの前に必ず講義内容を復習すること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

火曜日 3 時限

場所：研究室 704

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書：「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 第4版」；林正健二、メディカ出版、
ISBN:978-4-8404-5374-5

参考書：「人体の構造と機能 第4版」；内田さえ、佐伯由香、原田玲子編 医歯薬出版、
ISBN:978-4-263-23595-9

「看護機能形態学 生活行動からみるからだ 第4版」；菱沼典子、日本看護協会出版会、
ISBN:978-4-8180-2061-0

最終到達目標

各々の臓器の構造とはたらきを説明できる。

代表的な疾病と関連づけて、臓器の正常なはたらきと機能不全の状態を理解する。

評価方法及び評価基準

期末試験(85%)、各分野の講義5回終了毎に行う確認試験(ミニテスト)(15%)、必要に応じてレポート提出など、配点得点を合計100点満点として総合評価する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している(Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている(Pass)

D(59点以下)：Cのレベルに達していない(Failure)

学生へのメッセージ

医学を学ぶ上で、すべての基本となる重要な科目です。

患者さんの病気を理解するためには、まず正常な臓器の構造とそのはたらきを知っていなければなりません。

正常なからだのしくみとはたらきのどこかに異常がおきた状態が病気なのです。

1年生のうちに何度も教科書を見直し復習して、この基本的な知識をしっかりと身につける必要があります。

授業コード	END0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目—人体の構造と機能				広い視野と倫理観		
授業科目名	解剖生理学ⅠB	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	本田和男				探求心	○	
講義目的							
生体を構成する各臓器について、その構造と働きに関する基礎的な知識を習得する。 臓器の正常の構造と機能を正しく理解することにより、機能障害や疾病と関連づけて、臨床で必要とされる基本的な知識を習得する。							
授業内容							
内分泌器(視床下部、脳下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、卵巣、精巣)、生殖器(卵巣、子宮、膀、精巣、外生殖器)、免疫系(獲得免疫、自然免疫、感染症、アレルギー、自己免疫)について、各々の構造と機能について学習する。 それぞれの臓器について、臨床的に頻度の高い代表的な疾患の病態と関連付けながら、正常な働きと機能不全状態のちがいを理解する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	ホルモンとフィードバック	ホルモンの古典的概念と現在の概念のちがいを説明できる。 負と正のフィードバックのちがいを理解できる。					
2	視床下部と脳下垂体	視床下部から脳下垂体へのホルモンの連鎖を説明できる。 脳下垂体前葉と後葉のちがいを理解できる。					
3	甲状腺と上皮小体	甲状腺ホルモンの作用を説明できる。 体内でのカルシウムの動態を理解できる。					
4	膵臓と副腎	膵ランゲルハンス島と血糖の関係を理解できる。 副腎皮質と副腎髄質からなるホルモンを説明できる。					
5	卵巣と精巣のホルモン	性ホルモンの分泌の制御と、男性と女性でそれ異なるはたらきを説明できる。					
6	卵巣の構造と機能	卵巣の解剖とはたらきを説明できる。					
7	卵管・子宮・膀	女性生殖器の構造を説明できる。					
8	性周期と妊娠・出産	性周期でのホルモンのはたらきを説明できる。 周産期の体の変化を理解することができる。					
9	男性生殖器	男性生殖器の構造を説明できる。					
10	精子形成と男性二次性徴	精子形成と減数分裂を説明できる。 思春期の体の変化を理解できる					
11	免疫系のしくみ	生体防御に関わるさまざまな仕組みを列挙して説明できる。					
12	獲得免疫系	液性免疫と細胞性免疫について、そのちがいを説明できる。					
13	自然免疫系	自然免疫と獲得免疫の関係を説明できる。					
14	感染症とアレルギー	感染症発症時の生体の反応を説明できる。 アレルギーの種類と病態を理解できる					
15	自己免疫	代表的な自己免疫疾患について説明できる。					

留意事項(履修条件等)

解剖生理学は医学知識を学ぶ上での基礎となる科目で、重要なことです。

病気を理解するためには、あらかじめ正常な体のしくみとはたらきを知識として身につけておくことが必要です。

科目的単位を修得するにあたり、医学用語を正確に書けるようになるなど授業時間以外の自主的な学習が絶対に必要です。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: あらかじめ講義内容に該当する教材に目を通しておき、読めない専門用語や疑問点、よく理解できない部分を整理しておくこと。

事後学習: 講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。

確認テストの前に必ず講義内容を復習すること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

火曜日 3 時限

場所: 研究室 704

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 第4版」; 林正健二、メディカ出版、

ISBN: 978-4-8404-5374-5

参考書: 「人体の構造と機能 第4版」; 内田さえ、佐伯由香、原田玲子編 医歯薬出版、

ISBN: 978-4-263-23595-9

「看護機能形態学 生活行動からみるからだ 第4版」; 菱沼典子、日本看護協会出版会、

ISBN: 978-4-8180-2061-0)

最終到達目標

各々の臓器の構造とはたらきを説明できる。

代表的な疾病と関連づけて、臓器の正常なはたらきと機能不全の状態を理解する。

評価方法及び評価基準

期末試験(85%)、各分野の講義 5 回終了毎に行う確認試験(ミニテスト)(15%)、必要に応じてレポート提出など、配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

医学を学ぶ上で、すべての基本となる重要な科目です。

患者さんの病気を理解するためには、まず正常な臓器の構造とそのはたらきを知っていなければなりません。

正常ながらだのしくみとはたらきのどこかに異常がおきた状態が病気なのです。

1 年生のうちに何度も教科書を見直し復習して、この基本的な知識をしっかりと身につける必要があります。

授業コード	END0401			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	基礎専門科目—人体の構造と機能				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	解剖生理学ⅡB	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	吉村裕之				探求心	○	

講義目的

身体機能は、細胞から個体の行動に至るまで、恒常性を維持する方向で調節されている。この講義では、恒常性とは何か、その重要性を認識した上で、神経系調節機序(末梢神経系、脳神経系、中枢神経系、脳神経核)、知覚情報系、心臓脈管系、ストレスと疾患との関係など医療人となるのに必要な知識を習得する。

授業内容

生体が維持する恒常性が破綻すると、健康障害が起こる。この授業では、恒常性、これを調節する神経系、情報入力の感覚器系、さらに循環動態の要である心臓、血圧の調節機序を講義する。さらに、嫌悪刺激によって精神活動が影響を受け、ストレスが持続した場合に如何なる身体症状が起るのか、胃粘膜障害を例として採り上げ、脳神経核、神経系、内分泌系の関与について学習を総合的に連関させる。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	生体リズムと生体の恒常性	概日リズム、生体機能の日内変動、恒常性の維持機能、細胞内と細胞外の調節などを説明できる。
2	行動の恒常性	行動の恒常性、欲求と欲求不満、葛藤の種類などを説明できる。
3	末梢神経系	体性神経、知覚神経、脊髄神経、自律神経(交感神経、副交感神経)などの違いを理解し説明できる。
4	脳神経系	脳に直接出入りする 12 対の末梢神経である脳神経の名称と機能を説明できる。
5	中枢神経系(1)	頭部の構成(頭蓋骨、骨縫合、脳髄液)、神経核と機能局在などを説明できる。
6	中枢神経系(2)	大脳、大脳辺縁系、脳幹、小脳、錐体、脊髄、などの構造と機能を説明できる。
7	感覚(知覚)の基礎	体性感覚の情報伝達、表在感覚と深部感覚、痛覚伝導路、などを説明できる。
8	視覚	眼球と付属器の構造と機能、眼球運動、明暗覚と色覚、視覚伝導、反射の意義、などを説明できること。
9	聴覚	外耳・中耳・内耳・耳管および付属器官の構造と機能、聴覚や平衡覚などを説明できる。
10	味覚・嗅覚・内臓感覚	舌の構造と機能、味蕾、嗅上皮、嗅脳などを説明できる。咀嚼と嚥下の機序を理解して説明できる。
11	心臓の構造と機能	心臓の内部と外部、心音、心周期、刺激伝導系、心機能の調節などを説明できる。
12	心電図の基礎	測定の原理、心電図の読み方、異常心電図、などを説明できる。
13	血圧の調節機序	心臓の拍出量、腎臓の関与、末梢抵抗、自律神経中枢、内分泌の関与などを説明できる。
14	ストレス	ストレス学説、対処法、胃潰瘍の発現機序などを説明できる。
15	総括	第 1 回目から第 14 回目までの内容のまとめ、重要事項の確認ができる。

留意事項(履修条件等)					
解剖生理学ⅡB は、前学期で履修した解剖生理学ⅠA およびⅠB の知識に積み重ねる講義となっており、それらのノートや配布資料を参考する努力が必要となる。後学期に予定されている看護師国家試験の模擬試験は、「構造と機能」が中心であり、四年後の本試験を受験する準備として、極めて重要な中核科目であることに刮目すべきである。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
科目的単位を履修するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容)が必要となる。 事前学習：解剖生理学ⅠA およびⅠB の内容をノートおよび配布資料を再読して、確かめておくこと。シラバス 沿授業展開するので必ず事前学習で確認しておくことが重要となる。 事後学習：受講後、ノートおよび配布資料を整理し、重要事項は小テストに備えて、確実に理解しておくことが 必要となる。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
講義の日に、午後 4 時から 5 時 30 分までの間とします。					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書：「看護形態機能学」、日本看護協会出版会、ISBN:978-4-8180-1626-2 参考書：「看護師国家試験 解剖生理学クリアブック」、医学書院、ISBN:978-4-260-00494-7 標題ごとに資料を配布し、看護師国家試験の土台となる授業展開を実施する。					
最終到達目標					
神経系は、骨格、筋、血液などと異なり、イメージしにくいのであるが、感覚器からの入力情報を脳に伝え、その判断が出力され、生理学的变化がもたらされる。この連続した事象に神経系が果たす役割は大きい。とくに医療現場では、多様な痛みの緩和は極めて重要となる。看護師という国家資格を取得するためには、苦手意識を捨て、基礎を固めておくこと。					
評価方法及び評価基準					
期末試験成績 80%、講義内容に関する小テスト 20%などの配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。 期末試験および小テストは、国家試験と類似した選択問題形式で慣れさせる。					
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)					
学生へのメッセージ					
○丸暗記しようとせずに、理解することが早道です。理解したことは、忘れないですから。 ○そのためには、専門用語を読めなければなりません。読めない用語を理解することは無理ですから。 ○看護専門科目に必要な知識であり、また、薬理学、疾病学、治療論の土台となる極めて重要な科目と心して、真剣に取り組むことが望まれます。					

授業コード	END0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性				
科目区分	専門基礎科目—人体の構造と機能				広い視野と倫理観				
授業科目名	微生物学	選択・必修	必修		知識・技術	○			
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○			
担当教員	加納 誠				探求心	○			
講義目的									
人間に感染症を起こす目に見えない小さな生き物について、微生物学を学ぶことで理性の目・学問の力を養い、敵を知ることが目的となる。微生物学を学ぶことで医学・生物学の理解を深めて、その知識を医療の現場でいかすことが出来るようになることをを目指す。									
授業内容									
病原微生物と感染症について学び、感染症の治療及び予防のための基本的知識の習得を目指す。病原微生物として細菌、ウイルス、真菌ならびに原虫の性質を説明した後に、肺炎、尿路感染症など各種感染症のメカニズムと発病、それに伴う生体の反応について理解できる。さらに、感染症の検査、感染防止対策、滅菌・消毒方法等を学ぶ。また、微生物による感染から生体を守り異物の侵入に対して特異的に反応する力である免疫について理解できる。									
授業計画及び学習課題									
回	標 題	学習課題							
1	微生物の性質 微生物学の歩み	微生物の種類と特徴を理解できる。 微生物の病原性と近代微生物学の歴史を理解できる。							
2	細菌の性質 真菌の性質	細菌の形態と特徴を理解できる。 真菌と細菌の相異、真菌の形態と特徴を理解できる。							
3	原虫の性質 ウイルスの性質	原虫の形態と特徴を理解できる。 ウイルスの形態と特徴を理解できる。							
4	感染と感染症	各々の微生物の感染機構と特徴を理解できる。							
5	感染に対する生体防御機構	自然免疫と獲得免疫の生体防御における役割を理解できる。ワクチンについて理解できる。							
6	感染経路からみた感染症 滅菌と消毒	微生物の自然界での分布と感染源、感染経路を理解できる。 滅菌消毒の重要性と方法を理解できる。							
7	感染症の検査と診断 化学療法薬	病原体の検出と遺伝学的検査、血清学的検査、診断を理解できる。 化学療法薬の種類、作用メカニズム、副作用、薬剤耐性などを理解できる。							
8	感染症の現状と対策	新興・再興感染症、院内感染とその対策を理解できる。 世界と我が国の感染症監視体制について理解できる。							
9	病原細菌と細菌感染症-1	細菌の形態、染色性、酸素要求性と感染症について理解できる。グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性通性桿菌。							
10	病原細菌と細菌感染症-2	細菌の形態、染色性、酸素要求性と感染症について理解できる。グラム陽性桿菌、抗酸菌、嫌気性菌。							
11	病原細菌と細菌感染症-3	細菌の形態、染色性、酸素要求性と感染症について理解できる。スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチャ、クラミジア。							
12	真菌感染症 原虫感染症	真菌感染症を部位別に分類し理解できる。 原虫感染症を感染症法の対象疾患を中心に理解できる。							

13	ウイルス感染症-1 (DNA ウィルス)	DNA ウィルス感染症の感染経路、症状、特徴について理解できる。
14	ウイルス感染症-2 (RNA ウィルス)	RNA ウィルス感染症の感染経路、症状、特徴について理解できる。
15	肝炎ウィルス プリオンとプリオン病	肝炎ウィルスの A～E 型の特徴を理解できる。 プリオンの病原性と消毒、プリオン病について理解できる。

留意事項(履修条件等)

高校で学習した生物学の復習と当該科目教材の復習と課題をノートにまとめてください。
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修が必要です)。

事前学習: 講義内容のポイントとなる事項をまとめた小テストを事前に配布するので教科書を読んで鉛筆で記入し予習しておくこと。

事後学習: 自分が記入した答えが間違っていた場合、赤字で訂正し正確な知識を身につけること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「系統看護学講座 専門分野⑦ 微生物学 第 13 版」、医学書院、ISBN: 978-42600-18272

最終到達目標

微生物学の基礎を把握し、実際の看護を行ううえで役立っていく。微生物とはどのようなものか、我々にどのような病気を起こすのか、それらに対してどのように対処すべきか、という3つの側面から学びっていく。

評価方法評価基準

前期の本試験により合否を判定する。小テストは合否の判定に使用する場合がある。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

自分が理解しやすいように要点をノートにとり、講義の予習・復習を行う。

毎回、小テストを実施するのでこの内容を十分に理解しておくこと。

授業コード	END0601			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野と倫理観	
授業科目名	生化学	選択・必修	必須		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	東山繁樹				探求心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的

人体の普遍的かつ多様な生命現象に対して、個々の細胞やそれを構成する様々な分子がどのように関わっているかを理解する。そのために、組織ごとにみられる特異的で多様な代謝経路を学び、各生体分子や酵素、細胞器官がどのように機能しているのかを理解する。さらに、様々な細胞外刺激に対して細胞がいかに反応するのかを分子レベルで説明でき、それらの異常および機能不全が、結果としてさまざまな病態を生む分子機構を理解することを目的とする。

授業内容

1: 細胞の構造と機能

- 1-1: 細胞の構造を理解し、細胞内各小器官の役割を理解し、説明できる。
- 1-2: 細胞外刺激外貨に細胞の中で処理され、それに的確に応答するかを理解し、説明できる。
- 1-3: 細胞の分化と特性変化、組織形成、器官形成について理解し、説明できる。

2: 生体構成成分とその代謝

- 2-1: 生体の4大構成成分(タンパク質、糖質、脂質、核酸)を理解し、説明できる。
- 2-2: 各4大構成成分の機能を理解し、説明できる。
- 2-3: 各成分の異化と同化(酵素反応)の様式を理解し、体内での物質の流れを説明できる。
- 2-4: 各成分代謝間のつながりを理解し、説明できる。
- 2-5: 代謝異常と疾患の関連を理解し、説明できる。

3: 遺伝子異常と疾患

- 3-1: 遺伝子発現について転写、翻訳およびその調節の分子機構を理解し、説明できる。
- 3-2: 遺伝子異常と機能変換、および疾患との関連について理解し、説明できる。
- 3-3: DNA検出、構造決定、PCR法などの遺伝子解析や操作の原理と方法を理解し、説明できる。
- 3-4: 遺伝子診断の原理と方法を理解し、疾患診断への利用について説明できる。

4: 生体微量成分の機能

- 4-1: ビタミンや無機物質などの生体微量成分の機能について理解し、説明できる。

5: 生体成分分析と疾患診断

- 5-1: 生体成分の分析法について理解し、説明できる。
- 5-2: 疾患診断マーカーについて理解し、説明できる。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	生体の化学反応と恒常性の維持	生体の化学反応の破綻が疾患に繋がることを事例を通して理解する。
2	細胞の構造と機能	細胞の構造を理解し、分化による特性変化を理解する。
3	生体の構成成分－タンパク質	タンパク質の生体における役割を理解する。
4	生体の構成成分－糖質	糖質の生体における役割を理解する。
5	生体の構成成分－脂質	脂質の生体における役割を理解する。
6	生体の構成成分－核酸	核酸の生体における役割を理解する。
7	各生体分子の代謝 I	生体分子の代謝のつながりを理解し、物質の異化と同化の意味を理解する。
8	各生体分子の代謝 II	生体分子の代謝のつながりを理解し、物質の異化と同化の意味を理解する。
9	生体分子の代謝異常と疾患	代謝異常の事例を通し、疾患との関連性を理解する。

10	遺伝子異常と疾患Ⅰ	遺伝子解析法を理解するとともに、遺伝子変異と機能変換について理解する。
11	遺伝子異常と疾患Ⅱ	遺伝子診断について理解する。
12	生体微量成分の役割	ビタミンやミネラル等の生体微量成分の役割について理解する。
13	生体成分の分析と疾患診断への応用Ⅰ	生体成分の分析法を理解するとともに、疾患との関連性について理解する。
14	生体成分の分析と疾患診断への応用Ⅱ	血清診断と尿成分診断について理解する。
15	生化学のまとめ	講義内容の振り返りをすることで、系統的・総合的に考察できる。

留意事項(履修条件等)

当該科目の学習課題を積極的に予習・復習してください。

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習)に示されている内容の学修が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

事前学習: 授業内容については、事前にテキストをよく読んで授業に臨むこと。

事後学習: ノートを復習しておくこと。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「わかりやすい 生化学 第5版」、ヌーヴェルヒロカワ、ISBN 978-4-86174-069-5

最終到達目標

生体成分を理解し、その代謝とその異常による疾患発症の機序を理解する。

評価方法及び評価基準

筆記試験(90%)、授業への参加度(10%)の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

自分自身の体の様々な反応に照らし合わせて学ぶと、とても面白いと思います。

授業コード	END0701			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	栄養学	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	藤井文子				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的

医療における栄養の意義を理解する。チーム医療について学習し栄養管理における看護分野の役割を理解する。栄養素の働きを学習し、栄養不足や栄養過多で発症する疾患について理解し、看護に生かすことができる。現代社会で多発する生活習慣病や高齢者の低栄養、ライフステージ別の食の問題点について学習し、看護に生かすことができ、患者の自己実現や医療に貢献できる栄養管理の基本を学ぶことを目的とする。

授業内容

栄養素の種類や働きを解説し、消化吸收を科学的に学習する。ライフステージ別の栄養の必要性を理解し、食と健康との関りを考える。さらに糖尿病など生活習慣病や栄養管理に関りの深い疾患について解説し、看護に生かすことができる内容とする。超高齢社会における低栄養の問題などを解説し、食と免疫の関係について考え、食や栄養が健康寿命や疾患治療に及ぼす影響について学習する。グループワークを取り入れ、テーマを決めて発表する学習もある。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	医療における栄養の意義・チーム医療	医療における栄養の意義についてチーム医療を通して学ぶことができる。 栄養管理計画・実施における看護師の役割、栄養管理と栄養補給法や食事提供の概要を理解できる。
2	栄養素の種類と働き、消化と吸收	5大栄養素(炭水化物、たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラル)の働きについて理解できる。必要量、欠乏症、過剰症について理解する。栄養素の消化と吸収について理解できる。
3	栄養状態の評価 ライフステージ別栄養管理	栄養管理計画に参画するために必要な知識である栄養状態の評価について理解できる。 幼児から高齢者、妊娠中などの栄養管理について理解できる。
4	生活習慣病の栄養管理1	生活習慣病の代表的疾患である糖尿病、メタボリックシンドローム(代謝疾患)などの栄養管理について理解できる
5	生活習慣病の栄養管理2	生活習慣病のうち高血圧、心疾患(循環器疾患)や腎疾患などに関する栄養管理について理解できる。
6	低栄養1	高齢者の低栄養の原因(誤嚥性肺炎等)について考察し、その対策と栄養管理について理解できる。
7	低栄養2	がん、COPDなどの疾患による低栄養の栄養管理について理解できる。 免疫と栄養の関係や健康や治療に及ぼす影響について理解できる。
8	その他の主だった疾患の栄養管理まとめ	消化器疾患、肝疾患などの栄養管理について理解できる。 今までの学習を総括できる。

留意事項(履修条件等)										
医療における栄養管理の重要性を学ぶことが大切である。多職種で栄養管理に関するこころを理解し、看護に生かし、患者の回復や医療に貢献する意味を理解して授業に臨む。										
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。										
授業時間外の学修(事前・事後学習)										
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。										
事前学習:教科書に目を通し、重要なところにはマークを入れる。										
事後学習:講義を受けたことを復習し、理解を深める。課題が出された場合は、自己学習をして講義に臨む。										
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)										
授業時間の前後										
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)										
教科書:「コンパクト栄養学(改訂第 4 版)」、南江堂、ISBN 978-4-524-25945-8										
最終到達目標										
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における栄養の意義を理解し、説明できる。 2. 主だった疾患の栄養管理について看護師の立場から説明できる。 										
評価方法及び評価基準										
期末試験 60%、小テスト課題レポート 20%、授業参加態度 20%、合計 100 点満点として評価する。										
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>S(100~90 点) :</td> <td>学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) :</td> <td>学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) :</td> <td>学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)									
A(89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)									
B(79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)									
C(69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)									
D(59 点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)									
学生へのメッセージ										
超高齢社会を迎えた日本では、元気で長生きするために栄養問題の解決が重要である。病気になつても重症化を予防し、早期回復を目指すには栄養が重要なポイントになる。医療の現場では多職種協働のチーム医療で栄養管理を実施し、早期回復につなげることが常識となつてゐる。栄養に興味を持ち、理解を深め、看護の現場で役立てることができるよう学習する。課題が事前に出された場合は自己学習をしておくこと。										

授業コード	ENE0101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目—疾病の治療と回復促進				広い視野と倫理観		
授業科目名	病理学	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	本田和男				探求心	○	
講義目的							
さまざまな疾患の原因を科学的に理解し、疾患の発症の機序を学ぶ。 その結果として、人体にどのような影響が現れ臨床症状を呈するかを学習する。 病的状態での、生体を構成する器官の組織学的形態や機能に現れる異常を理解する。							
授業内容							
臨床病理学の方法論と、さまざまな疾患の組織を検査することにより確定診断に至る過程を学ぶ。 それぞれの臓器について、臨床的に頻度の高い代表的な疾患における病理学的变化を、症状や病態と関連づけて理解する。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	病理学の概要	疾病の概要を理解できる。 臨床病理診断の方法と役割を説明できる。					
2	細胞・組織の障害	細胞・組織の構造と障害・再生の機序を理解できる。 ネクローシスとアポトーシスの差を理解できる。					
3	循環障害	出血・凝固異常、塞栓症を説明できる。 高血圧症、ショックについて病態を理解できる。					
4	炎症	炎症のメカニズムと生体における意義を説明できる。 急性炎症と慢性炎症のちがいを理解できる。					
5	免疫とアレルギー	免疫系の仕組みを理解できる。 アレルギーの異なる病態を説明できる。					
6	感染症	病原微生物の種類、感染と生体防御の仕組みを理解できる。 抗菌薬、予防接種、院内感染対策について説明できる。					
7	代謝異常と老化	糖質の代謝異常の病理と臨床を説明できる。 脂質・核酸代謝異常、生活習慣病を理解できる。					
8	新生児の病理と先天異常	新生児特有の病理を理解できる。 代表的な先天異常について説明できる。					
9	腫瘍と重篤疾患	肿瘍の発生と進展について説明できる。 重篤化するさまざまな病態を理解できる。					
10	循環器系と呼吸器系	代表的心臓血管の疾患について説明できる。 呼吸器のさまざまな疾患の病態を理解できる。					
11	消化器系	代表的消化管の疾患について説明できる。 肝臓・胆嚢・脾臓疾患について理解できる。					
12	内分泌系と造血系	代表的内分泌疾患について説明できる。 造血器の主要な疾患について理解できる。					
13	腎・泌尿器系と生殖器・乳腺	腎臓・尿路・膀胱・生殖器の疾患について理解できる。 乳癌の病態について説明できる。					
14	脳神経系	脳血管障害の発生機序について説明できる。 神経のさまざまな疾患の病態を理解できる。					
15	運動器系と感覺器系	代表的骨・関節・筋肉の疾患を説明できる。 眼・耳・皮膚の疾患の病態を理解できる。					

留意事項(履修条件等)					
病気を理解するためには、あらかじめ正常な体の仕組みと働きを知識として身につけておくことが必要です。病理学の学習と同時に、1年生で学んだ解剖生理学の復習をすることが大切です。					
確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
科目的単位を取得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外学修(事前事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習: あらかじめ講義内容に該当する教材に目を通しておき、読めない専門用語や疑問点、よく理解できない部分を整理しておくこと。 事後学習: 講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。 確認テストの前に必ず講義内容を復習すること。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
火曜日 3 時限(研究室番号:704)					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書:「カラーで学べる病理学 第4版」、渡辺照男、ヌーベルヒロカワ、ISBN:978-4-86174-062-6					
最終到達目標					
病気の原因となる体内のメカニズムを理解する。 各々の臓器の代表的な疾病における病理学的变化を、臨床症状と関連づけて理解する。					
評価方法及び評価基準					
期末試験成績 100%で、100 点満点として評価する。					
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
講義の対象となっている関連分野の解剖生理学の教科書をもう一度復習することは、正常な臓器の構造と機能を再確認することにつながり、それらが異常をきたした状態=病気を理解する上できわめて重要です。					

授業コード	ENE0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野と倫理観		
授業科目名	疾病・治療論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	本田和男 檜垣實男				探求心	○	

講義目的

1. 生体(臓器)の形態や機能についての知識をベースとして、疾病と症状の関係を理解する。
2. 症状と関連した検査項目の重要性やデータの解釈・評価法を学ぶ。
3. 疾患の症状・進行度に応じた代表的な治療法を学習する。
4. 各臓器の代表的な疾患について、その病因、病態を理解し、症状と症候から検査、確定診断までのプロセスを理解できるようにする。
5. 治療に関しても理解を深め、チーム医療の一員として、適切な看護が行えるようにする。
6. ベッドサイドで汎用される胸部レントゲンや心電図、血液ガスなどの基本的な検査データに関しては、患者の状態を判断できる能力を身につける。

授業内容

疾患(消化器、代謝・内分泌、泌尿器、脳神経、血液、免疫・感染症、運動器)の病態について理解し、症状や検査データに基づいた適切な対応と、標準的な治療法について講義する。外科的治療の適応疾患については、手術術式、麻酔法、人工換気療法を含めた集学的治療について解説する(本田)。

循環器と呼吸器の疾患について、解剖、病因、病態、症状、症候、診断、治療について講義を行う(檜垣)。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	救急・麻酔法 (本田)	救急蘇生法の基本を説明できる。 局所麻酔、全身麻酔、人工換気法を理解できる。
2	消化管(症候・検査法・治療法) (本田)	消化管の解剖を復習し、特有の症状を学び検査法と治療法について説明できる。
3	消化管(主な疾患) (本田)	食道、胃・十二指腸、大腸、肛門について、それぞれに頻度の高い疾患について説明できる。
4	肝臓・胆嚢・脾臓 (本田)	肝胆脾疾患の症候と検査法・治療法について学び代表的な疾患について説明できる。
5	代謝・栄養(生理と症候、検査法) (本田)	生理学について復習し、特有の症候、検査法、治療法を理解できる。
6	代謝・栄養(主な疾患) (本田)	糖尿病、低血糖、肥満、脂質異常、痛風、ビタミン欠乏症、骨粗鬆症について説明できる。
7	内分泌(症候と検査・治療) (本田)	内分泌の生理について復習し、代表的な症候、検査・治療について説明できる。
8	内分泌(主な疾患) (本田)	視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の疾患について説明できる。
9	腎臓・泌尿器(症候と検査・治療) (本田)	解剖と生理を復習し、症候と検査法・治療法について説明できる。
10	腎臓・泌尿器(主な疾患) (本田)	主な腎疾患、尿路系感染症、尿路結石症、腎癌、前立腺癌、腎不全について理解できる。
11	脳神経(症候と検査治療) (本田)	神経疾患特有の症候について学び、検査法と治療について説明できる。
12	脳神経(主な疾患) (本田)	脳血管障害、神経変性疾患、末梢神経疾患、腫瘍について理解できる。
13	血液(症候と検査・治療) (本田)	血液疾患の代表的な症候と検査法・治療法について説明できる。

14	血液(主な疾患) (本田)	赤血球の疾患、白血球の疾患、血液凝固疾患について理解できる。
15	免疫疾患とアレルギー(症候・検査・治療) (本田)	代表的な症候と検査法、治療法について説明できる。
16	免疫疾患とアレルギー(主な疾患) (本田)	関節リューマチ、全身性エリテマトーデスなどの膠原病について理解できる。アレルギー性疾患についてメカニズムを説明できる。
17	感染症(症候・検査と治療) (本田)	さまざまな感染の様式と症候、検査法、治療法について理解できる。
18	感染症(主な疾患) (本田)	細菌性疾患と真菌性疾患、ウイルス性疾患について代表的な病態を説明できる。
19	運動器(解剖と生理、症候・検査と治療) (本田)	種々の計測、検査法、保存的治療、手術治療について理解できる。
20	運動器(主な疾患) (本田)	外傷、骨折、脱臼、捻挫、脊椎疾患、上肢の疾患、下肢の疾患、運動器腫瘍、末梢神経疾患について理解できる。
21	循環器病の症状と診断 (檜垣)	循環器の形態と機能の関係を理解し、循環器病の症状から診断に至るプロセスを理解できる。
22	虚血性心疾患(狭心症と心筋梗塞) (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解できる。
23	心筋疾患(心筋症と心筋炎) (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解できる。
24	弁膜症と不整脈 (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解できる。
25	動脈疾患・高血圧 (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解できる。
26	心不全とその管理 (檜垣)	心不全の病態について理解し、チームの一員として適切に患者の看護ができる。
27	呼吸器病の症状と診断 (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解することができる。
28	慢性閉塞性肺疾患と気管支喘息 (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解できる。
29	肺炎と肺がん (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解できる。
30	呼吸不全と呼吸管理 喫煙による健康被害と対策 (檜垣)	呼吸不全の病態について理解し、チームの一員として適切に患者の看護ができる。
留意事項(履修条件等)		
あらかじめ講義の内容に該当する教材に目を通しておき、疑問点や理解できない部分を整理しておくこと。 また、講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。 テストのフィードバックは講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要となる。 事前学習:あらかじめ講義内容に該当する教材に目を通しておき、読めない専門用語や疑問点、よく理解できない部分を整理しておくこと。 事後学習:講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。 講義に出てきた項目について、解剖生理学の教科書を復習すること。		

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
本田 火曜日 3 時限(研究室 704) 檜垣 授業の前後をオフィスアワーとします。質問があれば、その時にしてください。					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書:「看護のための臨床病態学 改訂 3 版」、南山堂、ISBN:978-4-525-50513-4 参考書: 「成人看護学[2] 呼吸器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01991-0 「成人看護学[3] 循環器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01987-3 「成人看護学[4] 血液・造血器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02001-5 「成人看護学[5] 消化器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02000-8 「成人看護学[6] 内分泌・代謝」、医学書院、ISBN:978-4-260-01988-0 「成人看護学[7] 脳・神経」、医学書院、ISBN:978-4-260-02190-6 「成人看護学[8] 腎・泌尿器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01996-5 「成人看護学[10] 運動器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02176-0 (看護の臨床の現場と関連づけながらそれぞれの疾患を理解でき、卒業後もなにかと役にたちます)					
最終到達目標					
それぞれの臓器に関連する代表的な疾病の症状と診断法、治療法を説明することができる。					
評価方法及び評価基準					
期末試験成績 100%で配点得点を合計 100 点満点として評価する。					
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
新しく学んだ個々の疾患と関連付けて、臓器の正常な構造と機能を再確認するために、解剖生理学の教科書を復習することが大切です。					

授業コード	ENE0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに 沿った教育の実現	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野と 倫理観		
授業科目名	疾病・治療論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	高田清式,石川正憲				探求心	○	
講義目的							

- 1.高齢者の総合的な健康問題の特徴について理解できる。
- 2.高齢者の循環器、呼吸器疾患の特徴について理解できる。
- 3.高齢者の内分泌、代謝および血液疾患の特徴について理解できる。
- 4.高齢者の消化器疾患の特徴について理解できる。
- 5.高齢者の四肢運動器疾患および感染症の特徴について理解できる。
- 6.眼科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。
- 7.皮膚科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。
- 8.耳鼻咽喉科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。
- 9～15.精神医学の代表的な疾患の原因、症状や治療法について理解できる。

授業内容

この科目では、看護師が知っておくべき精神医学、老年医学、皮膚科、眼科、耳鼻科の基礎的な知識を得る。精神医学では、代表的な精神疾患、統合失調症、気分障害、摂食障害、てんかん、不安障害などの病因、症状、治療法について理解できる。老年医学では、高齢者の健康問題の特徴と高齢者がかかりやすい疾患やその予防、治療法について理解できる。耳鼻科、眼科、皮膚科の代表的な疾患の病因、症状と治療法についてその基本が理解できることを目的とする。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	高齢者の特徴 総論(高田)	高齢者の総合的な健康問題の特徴について理解できる。
2	高齢者の特徴・各論 循環器、呼吸器(高田)	高齢者の 循環器、呼吸器疾患の特徴について理解できる。
3	高齢者の特徴・各論 内分泌、代謝、血液(高田)	高齢者の内分泌、代謝および血液疾患の特徴について理 解できる。
4	高齢者の特徴・各論 消化器(高田)	高齢者の消化器疾患の特徴について理解できる。
5	高齢者の特徴・各論 四肢運動器、感染症(高田)	高齢者の四肢運動器疾患および感染症の特徴について理 解できる。
6	眼科学総論(高田)	眼科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解で きる。
7	皮膚科学総論(高田)	皮膚科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解で きる。
8	耳鼻咽喉科学総論(高田)	耳鼻咽喉科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を 理解できる。
9	精神科疾患の総論(石川)	種々の精神科疾患の種類や概要について説明できる。
10	統合失調症 1(石川)	統合失調症について理解を深め説明できる。
11	統合失調症 2(石川)	統合失調症について理解を深め説明できる。
12	気分障害、ストレス関連障害 1(石川)	気分障害、ストレス関連障害について理解を深め説明でき る。
13	気分障害、ストレス関連障害 2(石川)	気分障害、ストレス関連障害について理解を深め説明でき る。

14	認知症 1(石川)	認知症について理解を深め説明できる。
15	認知症 2(石川) その他の精神疾患	認知症及びその他の精神疾患について理解を深め説明できる。
留意事項(履修条件等)		
1年次に修得した基礎的な科目的復習と当該科目的学習課題を積極的に予習してください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
1年次に修得した基礎的な科目的復習と当該科目的学習課題を積極的に予習してください。 科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。また、授業中の重要な点は、事後学習のために配布資料やノートに積極的に記入してください。 事前学習:当該学習目標に関して、成書などで可能な範囲で自主的に事前学習を行ってください。 事後学習:授業での配布資料をもとに、事後学習を行ってください。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
文書質疑で可能な範囲の内容については、高田(takada@m.ehime-u.ac.jp)に連絡願います。 なお、面会には、089-960-5098(愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター)に連絡し、日時を決めてもらつてください。→(高田)		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書:授業中にレジュメを配布 「老年看護学技術(改訂第2版) 最後までその人らしく生きることを支援する 看護学テキスト NICE」、 南江堂、ISBN 978-4-52425-902-1		
最終到達目標		
看護の技術を適切に習得するための、精神医学、老年医学、皮膚科、眼科、耳鼻科の基礎的な知識を得ることを目標とする。		
評価方法及び評価基準		
期末試験 100% (出席点を含む)とし、総合評価する。不合格の場合、再試験またはレポート課題を課す。		
成績評価基準 (学則第34条) S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		
学生へのメッセージ		
授業内容については、事前にテキストをよく読んで授業に臨むこと。 配布資料を、授業後は十分に見直し復習すること。		

授業コード	ENE0401			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野						
授業科目名	疾病・治療論Ⅲ	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	江口真理子(檜垣高史、濱田淳平、太田雅明、永井功造、越智史博、元木崇裕、中野直子) 杉山隆(松原圭一、宇佐美知香、内倉友香、安岡稔晃、高木香津子)				探求心	○					
講義目的											
<p>1. 胎児から始まる小児期の各疾患の病態生理、診断、治療について知るとともに、その疾患が小児の成長・発達に与える影響を理解し、より良いQOLを目指す医療について学習する。</p> <p>2. 多くの成人疾患の根本的な原因が小児期に始まることを知り、その予防についても学習する。</p> <p>3. 妊娠や分娩の経過等については、母性看護学概論で終了しているが、不妊症を取り扱う生殖医学や妊娠に伴う異常や基礎疾患有する女性の妊娠に関する周産期学、さらに女性生殖器の腫瘍学など臨床の現場の問題点を統合する。代表的疾患を学習することにより、病態と関連付けた理解ができ、治療方法を学び、援助方法に結びつけたアセスメントができるように学習する。</p>											
授業内容											
<p>1. 小児科学は小児の発育・発達および栄養と心身発育を理解するとともに、以下の小児疾患の病態と疾患の診断、治療の基本を理解する。未熟児・新生児疾患、感染症、免疫不全、アレルギー、内分泌・代謝、循環器、血液・腫瘍、神経・筋疾患、腎。</p> <p>2. 産婦人科学は、出生前から胎児、新生児、幼少期、思春期、性成熟期、更年期、老年期までまさに“ゆりかご前から墓場まで”女性の健康を支援する学問である。また、母子保健は母と子のみならず家族を支援につながる大切な領域である。これら女性のライフステージ別に種々の疾患が生じ得るので、各種疾患の理解を深めるために以下の内容で授業を進める。</p> <p>3. 具体的には、不妊症、妊娠時の異常のみならず基礎疾患有する女性の妊娠、更年期障害や女性生殖器特有の良性および悪性腫瘍に関する授業を行う。これらの授業を通して、産婦人科領域の疾患の理解を深め、患者支援に役立てるなどを期待する。</p>											
授業計画及び学習課題											
回	標 題	学習課題									
1	小児保健・栄養 (江口)	発育・発達、予防接種、学校保健について理解できる。									
2	未熟児・新生児 (太田)	胎児、新生児、未熟児の疾患について理解できる。									
3	神経疾患 (元木)	神経、筋疾患について理解できる。									
4	循環器疾患 (檜垣)	先天性心臓病、不整脈、川崎病について理解できる。									
5	感染症 (越智)	ウイルス感染、細菌感染について理解できる。									
6	アレルギー・腎・膠原病 (中野)	アトピー性皮膚炎、喘息、腎疾患、リウマチ性疾患について理解できる。									
7	内分泌・代謝 (濱田)	内分泌疾患、先天代謝異常、糖尿病について理解できる。									
8	血液・腫瘍・免疫不全 (永井)	血液疾患・小児がん・先天性免疫不全について理解できる。									
9	女性生殖器の構造・機能と異常、妊娠の成立、更年期障害 (高木)	女性生殖機能の理解と妊娠について理解できる。 生理性の機能と更年期障害について理解できる。									
10	分娩の進行と異常、児の発育と異常、胎児機能不全、不妊症 (杉山)	分娩の3要素と実際の分娩時の異常との関連の理解ができる。 胎児の生理や異常、不妊症について理解できる。									
11	異常妊娠:妊娠合併症(異所性妊娠、切迫流・早産、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離) (松原)	妊娠中に生じる合併症、特に妊娠によって起こるものについて理解し、看護を理解できる。									

12	母子感染、性感染症、双胎妊娠 (内倉)	若年世代で増加傾向にある性感染症の理解と母子感染に関する事、双胎妊娠について理解することができる。
13	異常妊娠:合併症妊娠(糖尿病、妊娠糖尿病、甲状腺機能異常、自己免疫疾患、血液疾患) (杉山)	妊娠前より何らかの合併症を有する女性の場合の基礎疾患が妊娠に及ぼす影響、妊娠が基礎疾患に及ぼす影響を理解することができる。
14	女性生殖器の良性疾患 (安岡)	良性の卵巣腫瘍や子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症、骨盤臓器脱に対する理解を深めることができる。
15	女性生殖器の悪性腫瘍 (宇佐美)	女性生殖器の主要3部位におけるがん(子宮頸部癌、子宮体部癌、卵巣癌)に関する学習を深めることができる。

留意事項(履修条件等)

健康に問題がある子どもと家族、妊娠・分娩・産婦人科領域の疾患等について学びながら必要な看護方法を考えていく科目です。「小児看護学概論」、「母性看護学概論」で学んだ小児期の成長・発達の特徴や生活援助の基本的知識、母性看護の基本知識を復習した上で講義に臨んでください。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習:教科書に目を通し、概要を把握してください。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。講義によるフィードバックと疑問点は質問してください。

事後学習:講義とそのプリント内容を理解してください。教科書を復習し、知識を整理してください。

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

毎回準備されるプリント

教科書:1~ 8回「看護学入門 12 母子看護 第5版」、メディカルフレンド社、ISBN:978-4-8392-2248-2

9~15回「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 第15版」、医学書院、

ISBN978-4-260-03567-5

最終到達目標

- 1.小児の基本的病態と代表的疾患の診断と治療を理解することができる。
- 2.女性特有の病気について説明できる。
- 3.女性および小児のライフステージ別の疾患の把握、治療法について説明できる。

評価方法及び評価基準

成績評価は筆記試験を行う。

期末試験:80%、学習態度など:20%として、配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第34条)

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

教員も講義の準備を頑張って準備して臨みますので、学生の皆も頑張って講義を聞いてください。疑問があれば、遠慮せずに積極的に質問してください。

授業コード	ENE0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門基礎科目-疾病の治療と回復促進				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	老年疾病治療論	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	伊賀瀬道也				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的												
老年に特有の疾患の特徴、病因、経過、治療の特徴を理解できる。特に、認知症の種類を学び、種類によって看護に違いがあることをエビデンスとともに理解できるようにする。看護に活かせるコミュニケーションの取り方や、総合的な機能評価も含めた講義を行い、高齢者への関わり方の基礎が修得できるようにする。												
授業内容												
老年者の診療、疾患、治療について学ぶ。 健康長寿診療ハンドブックに準拠した授業を行う。												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	高齢者のみかた	高齢者の特徴を理解できる。										
2	高齢者の総合機能評価と多職種連携	高齢者診療の基本となる総合機能評価法と臨床応用、評価に基づいた看護計画の立案を学習できる。										
3	認知、行動障害 総説	認知症診療の基礎となる認知機能評価法、行動異常評価法を学ぶことができる。										
4	アルツハイマー病の診療	アルツハイマー病の病因、病態、症状、治療につき学ぶことができる。										
5	その他の認知症の診療	血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の病因、病態、症状、治療につき学ぶことができる。										
6	うつ病とせん妄	認知症と鑑別すべき、うつ病とせん妄の病因、病態、症状、治療につき学ぶことができる。										
7	転倒と骨折	骨折、転倒のリスク因子、診断、予防を学ぶことができる。										
8	高齢者で重視すべき慢性疾患の要点	高齢者の高血圧、糖尿病、脂質異常症に対するアプローチを学ぶことができる。										
留意事項(履修条件等)												
基礎科目的理解を前提とする。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要。 事前学習:健康長寿ハンドブックの該当箇所を読み、授業の内容を把握しておく。 事後学習:授業内容を振り返り、重要なポイントを復習する。老年病疾患に関するニュースや情報を収集する。												
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)												
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)												
教科書:「健康長寿ハンドブック」日本老年医学会のホームページよりダウンロード可能(無償)												

最終到達目標

認知症を中心とした高齢者に特有な病態を理解し、治療・看護計画を立案できる。

評価方法及び評価基準

筆記試験(60%)、出席および授業への参加度(40%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

高齢者の一般的疾患とその特性の理解を深め、老年看護の医学的知識を学びます。

授業コード	ENE0601			定める 能力 デイプロマポリシーに 養成する	豊かな人間性						
科目区分	専門基礎科目—疾病の治療と回復促進				広い視野と 倫理観	○					
授業科目名	薬理学	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	吉村裕之				探求心	○					
講義目的											
臨床各科で薬を使わない科ではなく、広範な薬物が疾患の予防・治療に処方されている。薬理学は、薬物療法の科学的根拠、薬効の発現機序、作用特性、有害作用などを系統的に学び、理解することに主眼を置く。看護職が、処方目的、服用方法、服薬前及び服薬後の患者に対する留意点などできることに主眼を置く。											
授業内容											
総論は、用語の定義、基礎理論、法的規制を講義する。各論は、系統的に自律神経系作用薬、体性神経系作用薬、循環器系作用薬、高血圧症治療薬、鎮痛薬、麻酔薬、脳神経系作用薬、抗生物質などを学習する。その際に、代表的薬物名、薬理作用、臨床適応、有害作用に焦点を絞り、看護過程や看護計画に役立つよう授業展開する。											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	薬物の概念と専門用語の定義	薬物とは何か、専門用語の定義、薬物療法と看護職の役割などを理解し、説明できること。									
2	基礎理論と薬物の法的規制	薬物受容体、用量作用曲線、効果と効力の差、法的規制と取締法、などを理解し、説明できること。									
3	薬物の適用方法と体内動態	経口と注射の利点・欠点、薬物の生体内動態などを理解し、説明できること。									
4	自律神経系作用薬(副交感神経系)	副交感神経系に作用するコリン作動薬、抗コリン薬、酵素阻害薬を理解し、説明できること。									
5	自律神経系作用薬(交感神経系)	交感神経系に作用する交感神経作動薬、 α -あるいは β -遮断薬、酵素阻害薬を理解し、説明できること。									
6	体性神経系作用薬、消化器系作用薬	骨格筋あるいは平滑筋に作用する薬物について理解し、説明できること。									
7	循環器系作用薬(強心薬、虚血性心疾患治療薬)	うつ血性心不全と虚血性心疾患整脈などの治療薬について理解し、説明できること。									
8	高血圧症治療薬	高血圧症に対する非薬物療法と薬物療法、作用機序による分類などを理解し、説明できること。									
9	麻薬性鎮痛薬	麻薬や合成麻薬など深部痛、骨折、ガン疼痛などに有効な薬物を理解し、説明できること。									
10	解熱鎮痛薬	体性痛に有効な鎮痛薬を分類して、その作用機序を理解し、説明できること。									
11	局所麻酔薬と全身麻酔薬	神経細胞の興奮性膜を安定化し痛覚を麻痺させる薬物を理解し、説明できること。									
12	脳神経系作用薬(抗不安薬、抗うつ薬)	臨床各科で使われている精神活動に影響を与える抗不安薬と抗うつ薬を理解し、説明できること。									
13	脳神経系作用薬(抗精神病薬、催眠薬)	統合失調症の治療薬および不眠症の治療薬を理解し、説明できること。									
14	抗生物質概論(作用機序と有害作用)	病原菌に対する抗生物質の作用機序による分類と有害作用を理解し、説明できること。									
15	総括(学習した知識の整理)	第1回から第14回までを総括して、重要事項について理解する。									

留意事項(履修条件等)

各論は、毎回の内容項目ごとに、代表的薬物名、作用部位と作用機序、主作用・副作用・有害作用、臨床適応に分けて整理し、看護過程や看護計画に役立つよう授業を展開する。解剖学と生理学の基礎的知識が土台となるので、統合的な取り組みが必要となる。

確認テストや課題レポートのフィードバックは適時講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容)が必要となる。

事前学習：薬物は生理機能に影響を及ぼす物質であり、各学習課題を必ず講義前に把握し、その学習課題に必要な解剖生理学の事項を復習して、末梢神経、脳、骨格筋、平滑筋、内臓、分泌腺などの構造と機能についての基礎的知識を振り返り、整理しておくと理解しやすくなる。

事後学習：各学習課題で学んだ代表的薬物が、どこに作用し、どのような機序で処方目的(薬効)を発現するのか、医療職は何に留意せねばならないのか、有害作用はなぜ起こるのか、これらを整理するとともに、薬物を服用前に患者から如何なる情報を聞いておかねばならないのか、自問自答することが理解を深める。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

講義の日に、午後 4 時から 5 時までの間とします。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

標題ごとに学習課題について、板書によるノート講義を行うが、指定した教材を各自が通読して、復習すること。

教科書：「系統看護学講座 薬理学」、医学書院、ISBN：978-4-260-03184-4

最終到達目標

医師の処方により患者が服用する薬物の薬理作用(副作用や有害作用を含めて)を理解しているか否かは、看護師の立場からも極めて重要であり、看護過程・看護計画に欠かせず、患者の容態の変化を予測・評価・対処できることが目標となる。

評価方法及び評価基準

期末試験成績 80%、講義内容に関する小テスト 20%などの配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- ① とくに、解剖生理学の教科書、ノート、配布資料などを熟読して、理解しておくことが大事です。
- ② 標題と学習課題を講義の前に必ず読んでください。
- ③ 代表的な薬物の名称(一般名)、作用部位・作用機序、薬物効果、有害作用、臨床用途について論理的に理解するよう心がけてください。
- ④ 総論の専門的用語の意味は、薬理学全般に用いられますから、理解しておいてください。

授業コード	ENF0101			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	統計学	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	吉村裕之				探求心	○	

講義目的

統計学は、数学ではなく、社会心理学的に状況や状態を論理的に説明するために発達してきた。数学は嫌いという苦手意識を払拭し、看護研究を行う際に必要な実践的な統計学の基礎と手法を習得させることを目的とする。観察した「事実」に、普遍性・信頼性・再現性を付加して「真実」を保証するための手法を習得させる。

授業内容

総論では、対象に対する倫理的配慮、統計学用語の意味、有意差検定法の原理、尺度水準の重要性、図表作成上の規則などを説明する。各論では、医療現場で遭遇する具体的な例を示し、統計処理の手続きに沿って、関数電卓を用いて各自が計算し、どのように結論できるか、個々人が実践できるよう授業展開する。医療現場では、正規分布する数値だけではないことを考慮し、パラメトリック法のみならずノンパラメトリック法も学習する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	総論: 対象に対する倫理的配慮と倫理規定	研究には科学的合理性と倫理的妥当性が求められることを理解し、看護学部の倫理規定を説明できる。
2	総論: 統計用語の解説と意味	無作為化、代表値と散布度(中央値と平均値)、独立変数と従属変数、四つの尺度水準などを説明できる。
3	総論: 研究計画と検定法	倫理的・効率的な研究計画とは何か、検定方法を選択する方法、独立型と関連型などを理解し、説明できる。
4	総論: 有意差検定法の原理	仮説の設定、統計量、計算方法、判定、という共通した流れを理解し、実施できる。
5	独立2群の有意差検定(パラメトリック法)	仮説の設定、統計量、Students t-test、t 分布表の見方を説明でき、自分の力で例題を解け発表できる。
6	独立2群の有意差検定(ノンパラメトリック法)	仮説の設定、統計量、Mann-Whitney U-test、U 表の見方を説明でき、例題を解け発表できる。
7	関連2試行の有意差検定(パラメトリック法)	仮説の設定、統計量、paired t-test を説明でき、例題を解け発表できる。
8	関連2試行の有意差検定(ノンパラメトリック法)	仮説の設定、統計量、Wilcoxon matched-pairs signed-ranks test を説明でき、例題を解け発表できる。
9	出現度数・比率の有意差検定(独立試料)	出現度数(比率)の取り扱い方、カイ自乗検定とは何かを説明でき、例題を解け発表できる。
10	出現度数・比率の有意差検定(関連試料)	服薬前と服薬後など関連型に適用できる McNemar の検定が説明でき、例題を解ける発表できる。
11	独立変数と従属変数との関連	独立変数と従属変数の間に関連があるのか、ピアソン積率相関係数を用いて例題を解け発表できる。
12	独立多群の有意差検定	一元配置分散分析法あるいは Kruskal-Wallis test が適用できることを理解し、説明できる。
13	関連多試料の有意差検定(パラメトリック法)	関連3試料以上の場合には、二元配置分散分析を適用すべきことを理解し、説明できる。
14	関連多試料の有意差検定(ノンパラメトリック法)	関連3試料以上の場合には、Friedman test が適用できることを理解し、説明できる。
15	総括(学習した知識の整理)	第1回から第14回までの講義内容を総括し、重要事項について理解を深める。

留意事項(履修条件等)					
数理論ではなく、実践的な統計手法の習得と統計用語の理解を目指しており、微分積分などを用いず、四則演算(+、-、÷、×)のみで解けるように配慮している。関数電卓の基本操作だけは(スマホより簡単)、講義前にマニュアルに沿って慣れておく必要がある。演習問題の解答や問題解決などのフィードバックは、講義時間内に行うが、算数が苦手と思い込んでいる学生に対する個別の対応は、時間外に設定する。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている学修)が必要です。 事前学習: 統計学を数学と捉えないこと、四則演算が正確にできれば大丈夫と心得ること。指定した関数電卓は、統計用機種ですが、マニュアルを読みながら慣れておく必要があります。 事後学習: 時間の制約上、演習問題は各自で解く必要があります。講義中は分かったつもりでも、いざ自分自身で解いてゆくと必ず壁に阻まれます。どこまでを理解し、どこが分からぬのか、これを明らかにしておいてください。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
講義当日、もやもや感をすっきりさせたい方は、午後 12 時半から 1 時までに訪問してください。 しばらく自分自身あるいは友人と話してもすっきりしない方は、当日の午後 4 時から 5 時までの間とします。					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
統計学の基本的な部分を学生に理解しやすく記述した成書が少ないので、板書によるノート講義を中心に行うが、必要な統計表および理解度を確認するための演習問題は、配布する。 参考書:「ナースのためのデータ処理」、技術評論社、ISBN 978-4-7741-4532-7					
最終到達目標					
医療現場で観察した事実を、信頼性・再現性・普遍性を備えた真実に近づける統計学の論理的方法を学習して、問題解決のための手順・技術を習得する。看護研究の実施計画を立案し、実施して、得られた資料の正しい統計解析と判定までを個々の学生が関数電卓さえあればできること。					
評価方法及び評価基準					
期末試験を基本とするが、講義の際に提示する演習問題を解き、発表して正解であれば、加算する。 筆記試験(80%)、演習問題の解答と発表態度(20%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。					
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
<p>① 総論は、各論に進むためには極めて重要です。必ず受講すること。</p> <p>② 関数電卓のマニュアル(とくに「統計計算」の箇所)は必ず通読しておくこと。</p> <p>③ 各標題の講義を行った後に、演習問題を個々の学生に解いてもらい、発表してもらいますから、自分自身で解けるように心がけること。</p> <p>④ 期末試験になると、必ず配布資料の紛失や関数電卓のマニュアルを紛失した学生がいますので、名前と学籍番号を書き込み、保管しておくように。</p>					

授業コード	ENF0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	疫学	選択・必修	必修		知識・技術							
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	中村 哲				探求心	○						
講義目的	保健師並びに看護師としての活動の中で、特に地域保健並びに地域看護実践の中で疫学的思考に基づく保健並びに看護活動の展開の重要性が理解できるようになる。											
授業内容	疫学の概念と定義また曝露の概念と疾病リスクについて理解する。さらに統計学の知識を基礎として疫学で扱う母集団を通じたリスク把握に必要なコホート研究法や症例対照研究法、介入研究法などの基本的な分析方法や偏りと交絡の概念について講義を通じて学修する。集団の疾病予防の方策としての疾病スクリーニング、サーベイランスと疾病登録の種類について理解する。そして疫学の倫理的側面を理解した上で、感染症や非感染症の世界的動向について理解を深めることで看護や保健師としての職務が果たせる内容とする。特に第10回でアクティブ・ラーニング(AL)に係わるグループを作り、13回および14回を反転学習(グループワークと講義としてのプレゼンテーション、ディスカッション、討議)とその評価に当てる。											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	疫学とは？ 疫学の定義とその歴史	教科書第1章 疫学の定義と暴露について理解できる。										
2	疫学指標 ①頻度の指標 ②曝露効果の指標	有病率と罹患(死亡)率、致死率の違いを理解できる。 また、相対頻度、相対リスク、寄与リスクの区別ができる。										
3	疫学研究方法Ⅰ. ①分析と統計資料の活用 ②コホート研究	統計資料の種類と活用法について基礎的理解ができる。 また、コホートとその研究法の有用性と限界が理解できる。										
4	疫学研究方法Ⅱ. ③症例対照研究 ④介入研究	症例対称研究の有用性とその限界について理解できる。 また、介入研究とその有用性と倫理について理解できる。										
5	交絡とその制御、相関と因果関係	交絡の制御法について理解できる。 相関と因果関係の成立条件について理解できる。										
6	疾病スクリーニング 概念と方式	スクリーニング目的と要件、評価法について理解できる。										
7	サーベイランスと疾病登録 がんと脳卒中の事例	疾病監視・登録の種類と法制度について理解できる。										
8	疾病の自然史と臨床疫学	未知の病因の探しに係わる方法論が理解できる。										
9	臨床疫学と倫理	人を対象とした研究倫理指針の内容が理解できる。										
10	疫学と社会 課題学習	① 映像による学習とレポート ②反転授業用課題の提示とグループによるALを開始し、授業に備えることができる。										
11	主要な疾患の疫学 I. 感染症	世界の感染症の頻度と分布、危険因子が理解できる。										
12	主要な疾患の疫学 II. 非感染症	世界の非感染症の頻度と分布、危険因子が理解できる。										
13	グループ発表による反転授業と評価 I. 発表	第10回で示した課題について反転授業ができる。										
14	グループ発表による反転授業と評価 II. 討議と講評	反転授業の結果について討議と講評を行うことができる。										
15	特別講義 疫学海外調査・研究の実際と事例	国外での疫学調査・研究の事例について理解を深めることができる。										
留意事項(履修条件等)												
講義の中でALとして感染症や非感染症の予防に関わる問題を課す。その学習成果を講義時間の一部を活用してグループあるいは個人単位で発表する。活発な討議を期待したい。												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。												

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習:本講義の理解度を上げるために講義中に小テストを実施する。これは予習の程度を知るための評価である。

また、一部の講義では AL 手法を取り入れた演習(反転授業等)とその評価を実施する。

事後学習:本講義では復習も大切である。特に、上記小テストで重要と考えられる項目およびその関連用語については、1日 30 分以上復習するつもりで履修する必要がある。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

教材

教科書:「基礎から学ぶ楽しい疫学 第 3 版」、医学書院、ISBN:978-4-26001-669-8

参考書:「初めて学ぶやさしい疫学 第 2 版」、南江堂、ISBN:978-4-52426-086-7

「厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2018/2019(「厚生の指標」8 月増刊)」、厚生労働統計協会、
雑誌コード:03854-08

最終到達目標

疫学の成立背景と概念を理解し、多くの疫学用語および分析手法の共通理解を通じて、疫学的思考に基づく保健実践活動の展開ができるようになる。

評価方法および評価基準

学期末試験の結果が筆記試験の評価である。必要と判断される場合、これに AL 等のレポートの評価を加えて評価とする。筆記試験等(80%)と学習態度(20%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

「疫学」とは大勢の人に流行っている病気がどのような原因で起きるのか、またはどのような要因で流行するのかを調べるもので、疫学の懐刀とも言われます。聞きなれない用語や定義、計算問題も出てきますが、楽しく学習できるように支援します。

授業コード	ENF0301			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	人間性	<input type="radio"/>	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	保健看護情報学	選択・必修	必修		知識・技術		
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力		
担当教員	船田 千秋				探求心	<input type="radio"/>	

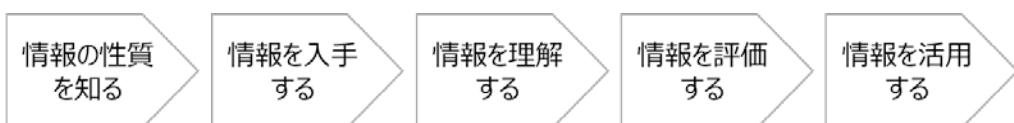
講義目的

医療のIT化が進み、医療に関わるさまざまなもののがIT化されている今、情報リテラシーは医療者に必要なスキルとなっている。加えて看護職は、電子カルテ(System)に最も長くかつ最も多く関わる職種である。本科目では、電子カルテ(System)を使う上で、臨床の看護職に必要な情報リテラシーを、講義(知識の習得)とグループワーク(実践)から学ぶ。

授業内容

本科目では、情報リテラシーの獲得を中心に授業を展開します。

情報リテラシーとは「データを適切に評価して、よりよい意思決定のために活用できる能力」として、リテラシーの詳細を、1)情報の性質をよく知る、2)必要な情報を入手し、理解する、3)2)の情報を評価し、活用できる、とします。授業は以下の図のような流れで、講義+グループワークを行います。



授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	情報の性質を知る	情報とは何か、情報の特性、看護情報とは何か、を理解できる 第1章:情報の定義と特徴 第4章:看護と情報 第5章:医療における情報システム
2		グループワーク:事例のデータ分類
3		
4	情報を入手する	情報を入手するにあたって留意すべき事項と取り扱いについて理解できる 第6章:情報倫理と医療倫理 第7章:患者の権利と情報 第8章:個人情報の保護
5		グループワーク:看護基礎情報の作成
6		
7	情報を理解する	入手した情報を整理・分析できる 第4章:看護と情報 第5章:医療における情報システム
8		グループワーク:看護計画の作成
9		
10	情報を評価する	整理・分析した情報を評価できる 第4章:看護と情報 第10章:既存の情報の収集 第11章:調査によるデータ収集方法
11		グループワーク:看護計画の評価
12		

13	情報を活用する	第5章:医療における情報システム クリニカルパス	
14		グループワーク:クリニカルパス作成	
15		病院情報システムの利用者心得解説とミニテスト	
留意事項(履修条件等)			
確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。			
授業時間外の学修(事前・事後学習)			
科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習: 学習課題に示されている教科書の章を読み込み、学習ノートに沿ってまとめてみましょう。 事後学習: 講義やグループワークで得た知識と経験と事前にまとめた内容を合わせてまとめておきましょう。			
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)			
質問があれば、グループワークの休憩中や授業の前後に来てください。また、メールでの問い合わせも可能です。 cfunada@med.nagoya-u.ac.jp 尚、メールでの問い合わせの場合は「差出人名」「件名」を必ず明記してください。			
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)			
教科書:「系統看護学講座 別巻 看護情報学」、医学書院、ISBN:978-4-260-02771-7 「看護業務指針 2016」「看護者の倫理綱領」を日本看護協会の HP からダウンロードして各人用に準備してください。 参考書:「病院情報システムの利用者心得解説書」、日本医療情報学会医療情報技師育成部会、 ISBN:978-4-524-25709-6 「何がなぜ看護の情報なのか」、日本看護協会出版会、ISBN:978-4-818-00368-2 「エキスパートナースの実践をポライテス理論で読み解く」、医学書院、ISBN:978-4-260-03025-0			
最終到達目標			
医療に携わるものとして、看護師として、各人が情報創生者・発信者であることを自覚し、対象(患者)にとって価値を生む情報とは、について考えることができる。			
評価方法及び評価基準			
期末試験 80%、学習ノート 20%を合計 100 点満点として総合評価する。			
成績評価基準 (学則第34条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)			
学生へのメッセージ			
情報(記録を含む)は、実習生でも臨床看護師でも、患者と接したならば日々取り扱うことになります。記録のよしあしは看護のよしあしを表す、と言われるように、毎日取り扱う看護情報(看護記録)のスキル(リテラシー含む)は自身の看護スキルを示すもの、とも捉えることができます。本科目で情報リテラシー獲得のための本質的な概念や原理原則を学んで頂ければと思います。			

授業コード	ENF0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	公衆衛生学	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	中村 哲				探求心	○						
講義目的	公衆衛生学の概念と範囲、実社会の中で人々の健康へどのように関わってくるのかを理解し、公衆衛生学の特徴である多視点から、より豊かな保健並びに地域看護活動の実践を目指す。											
授業内容	公衆衛生活動の地球規模の側面、集団としてのヒトの生存についての生態学的意識を喚起しつつ、その活動の対象である地域生活と健康との関わりを学修する。近年の生物科学の進歩と社会・経済環境の変化にもなう感染症流行の極度の減少や非感染症の増加の背景とそれらの疾病予防に関わる保健管理技法の基本を理解する。公衆衛生学は地域行政と深く関わり、疫学分野が住民個人を取り巻く自然・社会環境内の疾病リスクの認識と制御およびヒト集団の健康維持・増進に深くかかわっていることを理解する。また、公衆衛生活動・研究の対象である母子や老人、産業、精神、国際分野の保健の仕組みについて、それらの動向と現状を解説する。そのうえで、第14回の講義時間を公衆衛生の課題についてグループ・ディスカッションを通じてより深く学ぶ。また最終回に世界の公衆衛生の動向について解説する。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	公衆衛生学の概念と歴史	公衆衛生学の史的背景を理解し、健康の定義ができる。										
2	健康問題と公衆衛生活動	公衆衛生学の範疇と隣接領域が理解できる。										
3	公衆衛生と保健統計	保健統計の意義と公衆衛生上の有用性が理解できる。										
4	公衆衛生と疫学	疫学とその方法論の有益性を理解できる。										
5	予防医学と健康管理	予防の段階説と疾病スクリーニング理論が理解できる。										
6	主な疾病と予防 I. 感染症	感染症に関わる予防・健康教育手法が理解できる。										
7	主な疾病と予防 II. 非感染性疾患	非感染症に関わる予防・健康教育手法が理解できる。										
8	環境保健 I. 地球と物理・化学的環境保健	地球の物理・化学環境と健康との関連が理解できる。										
9	環境保健 II. 生物と水環境、廃棄物、公害等	生態学と水環境汚染と浄化の仕組みを理解できる。										
10	疾病対策と健康管理 保健行政制度と法規	健康増進と地域包括保健管理の趣旨が理解できる。										
11	母子保健と老人保健福祉	老人保健法および健康増進法の背景が理解できる。										
12	産業保健と精神保健	労働安全衛生法と精神保健法の趣旨が理解できる。										
13	学校保健と地域保健	保健教育と健康管理、地域連携の要点が理解できる。										
14	公衆衛生活動をテーマとしたグループ学習	地域と健康増進に関わる課題発表ができる。										
15	国際公衆衛生	国際保健の現状と動向、日本の役割が理解できる。										
留意事項(履修条件等)												
確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。												
事前学習:本講義の理解度を上げるために予習・復習が要求される。予習の程度と講義内容の理解度を評価するため講義中に小テストを10回以上実行する。このテストでの用語のまとめとノート作成も能動的学习に役立つ。												
事後学習:本講義では復習も大切である。特に、上記小テストの結果から自身に必要で重要な項目およびその関連用語については、1日30分以上復習するつもりで履修する必要がある。												

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
教材
教科書:「シンプル衛生公衆衛生学(最新版)」、南江堂、ISBN: 978-4-524-24019-7 参考書:厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2018/2019(「厚生の指標」8月増刊)」、厚生労働統計協会、雑誌コード:03854-08
最終到達目標
公衆衛生学の概念、定義並びに範囲を理解し、実社会の中の多種多様な健康問題の存在を認識し、公衆衛生学の特徴である多視点から、健康問題の解決並びに予防のための実践力を獲得する。
評価方法および評価基準
小テストと学期末試験の結果を筆記試験の評価とする。必要と判断される場合、これにグループ学習の課題レポート等の提出物を加えて評価とする。筆記試験等(80%)と学習態度(20%)など配点得点を合計 100 満点として総合評価する。
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <p>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
皆さん方にとって「公衆衛生学」という言葉は、何か大変な高尚な学問というイメージかも知れません。しかし、それは平たく言うと「みんなのけんこう」をまもること(丸山博)です。健康は人々の生活そのものです。私たちは、よりよく生きるために健康な生活をどのように守るのか、その方策を考え、それを実践することが重要です。

授業コード	ENF0501			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	保健医療福祉行政論	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	宮内清子				探求心	○	
講義目的							
保健医療福祉行政論は、地域における保健医療福祉活動の根底をなす概念である。少子・高齢化の進む社会背景のなかで、人々の生活や健康を支える保健医療福祉の仕組みはどのように構築されているか、現行法制度の体系やそのシステムは保健医療福祉計画においてどのように機能しているかを理解し、人々の健康レベルの向上やQOLを高める援助について考えることができるようになる。							
授業内容							
保健医療福祉システム構築の意義、保健医療福祉に関する法制度やその内容、地域における保健医療福祉のネットワーク及び地域システムについて学び、利用者の立場に立った看護が提供できる基盤となる保健医療福祉計画を理解できる。更には保健、医療、福祉サービスの連携について理解できる。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	保健医療福祉行政の目標 1	保健医療福祉行政の根柢、公衆衛生の定義、保健医療福祉行政の目指すもの、健康な生活について理解できる。					
2	保健医療福祉行政の目標 2	Health for All 実現に向けてのキーワード(プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション、ノーマライゼーションなど)が理解できる。					
3	わが国の保健医療福祉制度の変遷と今日的課題	公衆衛生の基盤形成(萌芽期、戦争中の公衆衛生、戦後の公衆衛生の基盤形成、地域保健法)、新たな健康課題の出現と保健医療福祉政策の発展について理解できる。					
4	保健医療福祉行政財政の仕組み	国、都道府県、市区町村の行政の仕組みと役割、保健医療福祉の財政(国、地方財政、保健事業の企画立案例)について理解できる。					
5	社会保障制度 1:わが国の社会保障制度	社会保障制度の構成、社会保障制度の現状と今後のあり方、社会保障制度改革の方向性について理解できる。					
6	社会保障制度 2:医療提供体制	医療提供体制の概要、医療保障制度、訪問看護制度等について理解できる。					
7	社会保障制度 3:介護保険制度	介護保険制度の概要、介護保険サービスの内容、市町村・都道府県・国の役割、制度の実施状況と今後の方向性について理解できる。					
8	社会保障制度 4:社会保障・社会福祉の制度	社会保障・社会福祉の概念、法規・行政体系、年金保険の役割・体系・制度の概要が理解できる。					
9	同 上	各種福祉制度(公的扶助・児童家庭福祉・高齢者福祉・障害者福祉等)の沿革・理念・制度の概要が理解できる。					
10	地域保健の体系と保健師活動 1	地域保健の体系、保健所・市町村保健センターの役割と機能、関係機関との連携について理解できる。					
11	地域保健の体系と保健師活動 2	行政における保健師活動の意義と役割、活動の実際が理解できる。					
12	地域保健の体系と保健師活動 3	地域単位の保健師活動の意義と役割、活動の実際が理解できる。					
13	地域保健の体系と保健師活動 4	健康危機管理の概要と対応の特徴、保健師の役割と対応について理解できる。					

14	保健医療福祉の計画と評価 1	地方公共団体(都道府県・市町村)における保健医療福祉計画の必要性、各種保健医療福祉計画の変遷・現状・今後の方向性について理解できる。					
15	保健医療福祉の計画と評価 2	保健計画の策定プロセス、保健計画の推進と評価について理解できる。					
留意事項(履修条件等)							
基礎科目的社会福祉学、社会保障論、専門基礎科目の公衆衛生学等の関連科目の学習と関連づけて学修を深める。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行なうが、個別のフィードバックは時間外に設定する。							
授業時間外の学修(事前・事後学習)							
法体系や行政制度などは、身近な学問としてのイメージができにくい科目である。地域保健医療福祉活動の実践事例を素材に演習などを組みこむ予定なので、地域における人々の生活や健康状態などを具体的に想起しながら、わが国の保健医療福祉の仕組みやその適用の実際を、参加学習のなかで自分のものとして習得すること。 科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要となる。							
事前学習:「基礎科目—人間と生活の理解」で学修した人々・人々の生活に関わる科目、なかでも「社会保障論」「社会福祉学」、および「専門基礎科目—健康と生活支援」で学修した「公衆衛生学」については、本科目の基盤となる科目であり、関連付けて授業を展開するので復習して授業に臨むこと。上記科目は1年次の履修科目であり、3年次までに時間が経過しているので特に留意する必要がある。							
事後学習:授業時間外の学習については、必要に応じて課題を提示するなど学修を深める工夫をするとともに、授業内容の関連性や授業内容全体が俯瞰できることを意図してレポート作成を課す。							
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)							
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)							
教科書:「標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論」(最新改訂版)、医学書院、ISBN:978-4-260-02772-4 参考書:「厚生の指標増刊」「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」(最新版)、厚生労働統計協会 その他授業内容に沿ったプリントを適宜配布							
最終到達目標							
1. 保健医療福祉の一翼を担う専門職として、時代とともに変化する社会背景を踏まえて、地域における保健医療福祉活動について考えることの意義を理解できる。 2. わが国全体及び各地域における、人々の生活や健康を支える保健医療福祉の仕組み、現行の法制度の体系・システム・地方公共団体における保健医療福祉計画について理解し、各分野における看護活動及び保健師活動と関連させて考えることができる。							
評価方法及び評価基準							
授業終了後の筆記試験: 70%、課題レポート: 30%など、配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。							
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)							
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)							
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)							
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)							
学生へのメッセージ							
本科目は、講義目的でも記しているように、地域社会で生活するすべての人々が、健康で質の高い生活を送るうえで重要な社会のしくみを理解し、健康的な地域づくり・社会づくりについて考える科目です。 看護職をはじめ保健医療福祉に関わるすべての専門職にとって重要な学修領域ですが、とくに保健師国家試験の受験資格を得ることを目指している学生さんにとっては、国家試験の受験科目でもあり、選択科目になっている「地域看護学—公衆衛生看護学分野」の科目とも関連させて理解しておくことが重要です。							

授業コード	ENF0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	臨床心理学	選択・必須	選択		知識・技術							
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	吉田京子				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的												
この授業は3年次前期の「カウンセリング」に続くものとして設計しています。 臨床心理学における基礎的な理論などを紹介し、その概略を理解するとともに、現代の人間をめぐる問題を、臨床心理学的視点から提供することを通じて、臨床心理学の考え方や人間理解の在り方について学ぶことを目的します。												
授業内容												
本講義では心のしくみ、心の発達段階、アセスメント、心理療法、倫理について学んでいく。随時、カウンセリングのワーク、事例などを教材として取り上げます。												
授業計画及び学習課題												
回	内容	学習課題										
1	ガイダンス	臨床心理学とは何かについて理解できる。										
2	心のしくみ	臨床心理学の創始者であるフロイトとユングの心の構造について理解できる。										
3	心の発達段階 その1	E.H.エリクソンの発達理論の内、乳児期、幼児初期、幼児後期が理解できる。										
4	心の発達段階 その2	E.H.エリクソンの発達理論の内、学童期、青年期、成人初期が理解できる。										
5	心の発達段階 その3	E.H.エリクソンの発達理論の内、成人期、老年期が理解できる。										
6	心理学的問題のアセスメント	アセスメントのあり方、実際が理解できる。										
7	心理療法	心理療法の概要について理解できる。										
8	臨床心理学の倫理	臨床心理学の実践、倫理について理解できる。										
留意事項(履修条件)												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。												
事前学習:毎回のテーマに関する本などを読み、関心を深めておいてください。 事後学習:配布した資料や紹介した参考図書などを読み、振り返りを行ってください。												
オフィスアワー(常勤職員のみ記入)												
質問等についてはE-mail(Kyoko_1243@yahoo.co.jp)で受け付けます。												

教材
レジュメを配布します。 下記以外でも参考図書は適宜授業内で紹介します。
参考書:「はじめての臨床心理学」、北樹出版、 ISBN:978-4893845504 「ライフサイクル、その完結」、みすず書房、 ISBN:978-4622039679
最終到達目標
臨床心理学的な考え方や人間理解の在り方について、興味を持ち、自らの考えとして整理を行い、論述することができる。
評価方法および評価基準
期末試験 60%、小レポート及び授業への参加状況 40%など配点得点を合計 100 点満点として評価する。
<p style="border: 1px solid black; padding: 10px;">成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
授業のテーマに関して、事前事後学習を通して理解を深めてください。

授業コード	ENF0701			デイブロマボランティアに定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>						
授業科目名	カウンセリング	選択・必修	選択		知識・技術							
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	<input type="radio"/>						
担当教員	相模健人				探求心	<input type="radio"/>						
講義目的												
<p>この授業は、2年次後期の「臨床心理学」に続くものとして設計しています。</p> <p>この授業では、カウンセリング・心理療法理論の基本を学びます。</p> <p>カウンセリングには、精神分析療法、認知行動療法、家族療法、ブリーフセラピーなどのアプローチがあります。この授業ではブリーフセラピーの一派である解決志向アプローチを主軸として、そして他のアプローチにも少しづつ触れながら、進めて行きます。講義だけでなくワークを通して体験的に学び、日常のちょっとした場面で「カウンセリング的な関わり」ができるすることを目的とします。</p>												
授業内容												
本講義では、各種心理療法を事例を交えながら学んでいく。隨時、カウンセリングのワークを行う。												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	カウンセリングとは	カウンセリングについて説明できる。										
2	各論Ⅰ 精神分析療法	精神分析療法の概要について説明できる。										
3	各論Ⅱ 精神分析療法	精神分析療法の事例を通じた実践が説明できる。										
4	ワークⅠ 非言語的対応	表情や姿勢といった非言語的表現に気づくことができる。										
5	各論Ⅲ 認知行動療法	認知行動療法の概要について説明できる。										
6	各論Ⅳ 認知行動療法	認知行動療法の事例を通じた実践が説明できる。										
7	ワークⅡ 傾聴	傾聴の姿勢を取ることができる。										
8	各論Ⅴ 家族療法	家族療法の概要について説明できる。										
9	各論Ⅵ 家族療法	家族療法の事例を通じた実践が説明できる。										
10	ワークⅢ 家族を体験	家族員それぞれの立場を経験し、家族システムの視点から家族関係を考えることができる。										
11	各論Ⅶ 解決志向ブリーフセラピー	解決志向ブリーフセラピーの概要について説明できる。										
12	各論Ⅷ 解決志向ブリーフセラピー	解決志向ブリーフセラピーの事例を通じた実践が説明できる。										
13	ワークⅣ 心理的技法①	ロールプレイを通して例外を探り、発展させることができる。										
14	ワークⅤ 心理的技法②	ロールプレイを通してミラクル・クエスチョンを用いることができる。										
15	ワークⅥ カウンセリング	簡単な相談を行うことができるようになる。										
留意事項(履修条件等)												
<p>「臨床心理学」を履修済みであることが望ましい。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習)に示されている内容の学修)が必要です。												
事前学習:毎回のテーマに関する本などを読み、関心を深めておいて下さい。												
事後学習:配布した資料や紹介した書籍などをよみ、振り返りを行って下さい。												

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

質問等については E-mail (sagami.takehito.mg@ehime-u.ac.jp) で受け付けます。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 指定しない。レジュメを配布する。

参考書: 参考図書などは適宜授業内に紹介する。

最終到達目標

カウンセリングや心理療法の意義や、それぞれのアプローチの相違点について説明することができる。

評価方法及び評価基準

期末レポート 60%、小レポートおよび授業への参加状況 40%とし、配点得点を 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

授業のテーマに関して、事前事後学修を通して理解を深めて下さい。

授業コード	ENF0801			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性								
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と 倫理観	○							
授業科目名	チームケア論	選択・必修	必修		知識・技術	○							
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○							
担当教員	小西 美智子				探求心								
講義目的													
在宅療養者の療養生活及び介護する者の介護生活を支援するために、医療・保健・福祉職が連携・協働を基に、チームケアを実施する目的・方法について学修する。													
1) 我が国の保健・医療・福祉制度の仕組みとその内容を理解する。 2) 在宅療養を支援する医療・保健・福祉職の専門性とチームケアの理念と実施方法を学修する。													
授業内容													
在宅療養する者及び介護する者の生活ニーズを理解して、保健・医療・福祉サービス及び地域にある社会資源を活用して、これら専門職と連携・協働して、効果的で有効なチームケアを実践する方法について基本を講義する。その後、必要時スペシャルゲストを招いて事例提供・分析を行いながら理解を深めていく。そしてチームケアを実践する看護職として、事例を用いてグループワークを行い、施設内の療養生活と在宅での療養生活の特徴を理解すると共に、地域の中で療養生活を支援するサービス内容を調べて、事例が持っている課題の解決方法について検討する。医療の質及び生活の質を支えるチームケアについて発表・討議を行い、学修を深めていく。													
授業計画及び学習課題													
回	標 題	学習課題											
1	在宅療養を支援する保健・医療・福祉制度のサービス内容と社会的背景との関連性	在宅療養を支援する制度の概要が理解できる											
2	保健・医療・看護・福祉・介護専門職が連携・協働して在宅ケアを展開するためのチームケアの理念と目的及び実施方法	在宅ケアにおけるチームケアの必要性と特徴が理解できる											
3	医療依存度の高い在宅療養者への医師・看護職・介護職とのチームケアによる医療・生活支援の特徴(グループワーク含む)	医療依存度の高い在宅療養者への医師・看護職・介護職間におけるチームケアの進め方が理解できる											
4	医療依存度の高い在宅療養者への医師・看護職・介護職とのチームケアによる質の高いサービス 主に呼吸管理・ターミナルケアについて	呼吸管理が必要な者及び終末期にある者の医師・看護職・介護職間におけるチームケアの進め方が理解できる											
5	疾患や虚弱等により ADL 自立が困難な者への看護・介護・福祉専門職の連携による療養生活の質の向上支援と共に家族介護力の指導・支援	日常的に家族介護者が行う ADL 介助時における危機管理と安全管理への指導が理解できる											
6	看護職として、理学療法士、作業療法士、言語療法士との連携による ADL 及び IADL を支援するリハビリテーションに関するチームケア(グループワークを含む)	ADL 及び IADL の低下予防を目指した理学療法士、作業療法士、言語療法士等のチームケアが理解できる											
7	介護保険制度における介護支援専門員(ケアマネジャー)の役割とチームケアを支える介護計画(ケアプラン)の作成方法	介護計画(ケアプラン)とチームケアの関連性が理解できる											
8	介護計画の作成、実施、評価、修正(PDCA)のためのカンファレンスとチームケア力の向上	チームケアの成果を評価し改善する方法について理解できる											

留意事項(履修条件等)					
看護学実習において受け持った事例の中で、退院支援調整を行う必要があった 1 事例について、チームとして関わった保健・医療・福祉職の専門性を整理しておく。 授業中に事前学習課題及び事後課題の報告を受ける。 課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
科目的単位を取得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習)に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習:授業終了時に、「国民衛生の動向」または「国民の福祉と介護の動向」について、次回の授業と関連する章とページを指示するので、内容の概要を把握しておくこと。 事後学習:配布するレジュメの内容から、理解できなかったことを自己学習すること。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書:「国民衛生の動向 2018/2019 年」(第 65 卷第 9 号)、厚生労働統計協会 「国民の福祉と介護の動向 2018/2019 年」(第 65 卷第 10 号)、厚生労働統計協会					
最終到達目標					
看護専門職として在宅療養者及び家族を支えるチームケアの目的を理解し、在宅療養者の生活状況とその課題を個別的に把握し、チーム員として倫理的配慮の基に、療養生活及び介護生活を支援できる看護職の役割と機能を説明できる。					
評価方法及び評価基準					
授業ごとのミニレポートとグループワークでの学び(10 回 × 5 点)と最終レポート(最終到達目標)50 点で合計 100 点満点として総合評価する。 提出されたミニレポートとグループワークでの学びと最終レポートの内容評価は、授業の感想ではなく、また資料の転記ではなく、学びのキーワードを基に各自が考えた内容であることを評価します。					
成績評価基準 (学則第 34 条) <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
授業時に 2 回グループワークを開催しますが、意見交換ができるように講義に加えて看護実習の学びも復習しておいてください。					

授業コード	ENF0901			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性								
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野と倫理観	○							
授業科目名	医療リスクマネジメント論		選択・必修		知識・技術	○							
配当学年/学期	3年/前期		単位数		判断力	○							
担当教員	村上早苗				探求心	○							
講義目的													
リスクマネジメントとは、損失を生む原因や要因を分析して回避または低減をはかるために組織的に管理(マネジメント)していく過程をいう。医療におけるリスクマネジメントは、医療従事者が正しい知識と的確な技術をもち、的確に実施すること、これらを実現するためのシステムを構築し、安全を保障する方法を考えられることである。看護師を目指す学生として、医療安全を学ぶことの意義を理解し、知っておくべき基本的事柄を学ぶことを目的とする。													
授業内容													
わが国の医療安全対策および医療安全に関する法律や理論を概観し、組織的に取り組む安全対策についての概略を理解でき、事故発生のメカニズムと発生防止の考え方や、医療現場および地域におけるリスクマネジメントの考え方を修得できる。さらに事故分析と危険予知の事例演習をとおして自己のリスクマネジメントへの関心を高めることができる。(主な内容 全8回)													
医療安全の法律や理論、医療現場におけるリスクマネジメントについて、感染管理を含む安全対策、地域におけるリスクマネジメントについて、在宅看護におけるリスク管理、訪問看護ステーションや行政機関との連携についても理解することができる。													
2014年5月29日厚生労働省労働基準局は、「発がん性等を有する化学物質を含有する抗がん剤等に対するばく露防止対策について」を通達した。看護師等が抗がん剤を取り扱う際に、意図せず曝露した場合に健康障害を発症する恐れがあるため、必要な防止対策を実施する必要性があり、その内容をできる。													
授業計画及び学習課題													
回	標 題	学習課題											
1	医療安全の歴史と医療・看護を取り巻く状況 ・医療事故に対する最近の動向と考え方	わが国で、医療事故への関心が高まったきっかけとなった2つの重大医療事故を知ることができる。また、医療安全に関する厚生労働省や日本医療機能評価機構の取り組みについて知ることができる。看護職が起こしている医療事故の実態を理解できる。											
2	医療安全の概念の導入(人は何故間違いを起こすのか)	医療安全に用いられる基本的な用語(医療事故、医療過誤、医療紛争、ヒヤリハット、インシデント、アクシデント、オカレンスなど)を理解できる。また、ヒューマンエラーの構造、ハイアーリッヒの法則、スイスチーズモデルなどから医療事故の考え方を理解できる。											
3	医療事故と看護業務について(組織におけるチームでの取り組み)	保健師助産師看護師法の第5条「看護業務」の、診療の補助と療養上の世話から看護事故を考えることができる。そして、看護事故の構造、看護事故防止の考え方を理解できる。「してはならないことをしない」「するべきことをする(危険の予測)」、事故発生後の患者の傷害拡大の防止について理解できる。安全文化形成に向けて、チームで取り組むことの意義について理解できる。医療機関の取組み、組織における安全対策の実際を理解できる。											
4	ミスを防ぐための対策と事故後の対応について I	診療の補助の事故防止(患者に投与する業務、継続・管理中の危険な医療行為の観察・管理における業務)について理解できる。患者参加の重要性を理解できる。システムとしての事故防止の具体例から防止対策を理解できる。											

5	ミスを防ぐための対策と事故後の対応について Ⅱ	療養上の世話事故(転倒・転落、褥瘡など)および事故防止の考え方、援助上の留意点を理解できる。システムとしての事故防止の具体例から防止対策を理解できる。業務領域を超えて共通する間違いと発生要因、防止対策を理解できる(患者間違い、タイムプレッシャーと途中中断など)。在宅における医療事故と介護上の留意点を理解できる。
6	感染管理 I ・感染のメカニズムと予防対策の概要	感染・感染症の成立、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策を理解できる。スタンダードプリコーションは、11の具体策で構成されているため、その内容を理解できる(手指衛生、個人防護具の使用、呼吸器/咳エチケット、腰椎処置の際の感染予防、安全な注射処置、患者配置、患者に使用した物品の安全な取り扱い、環境への対策、リネン類などの洗濯、職員の安全、安全な蘇生処置)。
7	感染管理 II ・感染制御の組織、チームでの取り組みの実際 ・抗がん剤の曝露防止対策	感染源への対策、感染経路への対策、宿主への対策の実際と留意点について理解できる。針刺し・粘膜曝露の防止策等の職業感染防止対策について学ぶことができる。また、地域連携における医療関連感染管理の実際、組織で取り組む感染防止対策の実際を理解できる。抗がん剤を取り扱う際の曝露による健康への影響を踏まえて、曝露経路とリスクを正しく理解した上で、曝露防止対策を理解できる。
8	医療安全(感染管理) ・臨地実習における医療安全について ・まとめ	医療安全(感染管理)における看護師の責務と役割を理解できる。インシデント(ヒヤリハット)レポートの目的を理解し、必要性について理解できる。患者への援助の際に、実習で気を付けるポイントを理解できる。
留意事項(履修条件等)		
<p>医療安全に関する用語は様々あり、基本的な用語は理解する必要がある。そのため、予習で用語の意味を調べて授業に出席すると理解し易い。予習、復習を行ったうえで講義に出席してほしい。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
<p>科目的単位を取得するにあたり、およそ 30 時間の時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。</p> <p>事前学習:</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の導入に関する課題は、自己学習をしてレポートにまとめること。 <p>事後学習:</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業前に、前授業内容に関する小テストを行うため、授業の復習は行うこと。 		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
水曜日 or 木曜日		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
<p>教科書:「系統看護学講座 医療安全」、医学書院、ISBN:978-4-260-01914-9</p> <p>参考書:「医療におけるヒューマンエラー 第2版:なぜ間違える どう防ぐ」、医学書院、ISBN:978-4-260-01937-8 「写真でわかる看護安全管理」、インターメディカ、ISBN-13:978-4-899-96180-2 「看護職の健康と安全に配慮した労働安全衛生ガイドライン」、日本看護協会ホームページ、 https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/rodoanzeneisei.pdf</p>		

最終到達目標

1. リスクマネジメントの概念について説明できる。
2. 医療過誤と法的責任について説明できる
3. 看護事故とその防止対策を説明できる
4. 組織的に取り組む医療安全(感染管理)について説明できる。
5. 職業性曝露について説明できる
6. 医療安全の必要性と看護師の役割について説明できる

評価方法及び評価基準

期末試験 70%、課題レポートおよび小テスト 20%、講義(グループワーク)参加状況と発表 10%とし、配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

課題レポートおよび小テストが期末試験に繋がっていることを説明し、期末テストは看護師国家試験の内容を踏まえて作成する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| S(100~90 点) | : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80 点) | : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70 点) | : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60 点) | : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59 点以下) | : C のレベルに達していない (Failure) |

学生へのメッセージ

- ・講義に関する教科書や配布した資料に目を通しておくこと。
- ・課題は、自己学習をしてレポートにまとめて提出し講義に出席すること(提出期限遵守)。

授業コード	ENF1001			定める 能力 デイプロマポリシーに 養成する	豊かな人間性							
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と 倫理観	○						
授業科目名	人権擁護と成年後見制度	選択・必修	選択		知識・技術							
配当学年/学期	3年/ 前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	菅野慎二				探求心	○						
講義目的												
<p>障害や疾病を有することで、日常生活の判断能力が不十分なために、自らの生活が不利益を被らないよう、成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用し、権利擁護の取り組みを学ぶ。</p> <p>また、高齢者や障害者の虐待への支援を通じ、狭義の権利擁護から広義の権利擁護に視野を広げるとともに、障害者等に対する犯罪から司法領域まで幅を広げた権利擁護を学ぶ。</p>												
授業内容												
<p>成年後見制度設立の背景となった戦後の社会福祉の変遷と権利擁護活動の必要性について理解することを目標とする。特に財産管理や身上監護等権利侵害を中心とした狭義の権利擁護から、エンパワメント、自己決定まで含めた多職種連携による広義の権利擁護の視点を身につける。授業の形態は、映像や教材を中心に講義を進めるとともに事例を基に意見交換や判断根拠を講師とやり取りしながら理解力を高める。また、権利擁護関係者(社会福祉士、社会福祉協議会職員、司法書士等)の実践報告を聞く。</p>												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	現代における人権とは何か	憲法、権利擁護(アドボカシー)等について理解できる。										
2	戦後の社会福祉制度の変遷、権利擁護の関連法規と行政組織と専門職	戦後から現在に至るまでの社会福祉制度の変遷の基本的理解と権利擁護関連法規、行政組織、社会福祉士、司法書士、介護支援専門員等の専門職について理解できる。										
3	成年後見制度の目的・概要	行為能力と成年後見制度の関係について理解し、成年後見制度の意義・目的・概要について理解できる。										
4	成年後見制度の手続き	成年後見の対象者、成年後見制度の申立手続きについて理解できる。										
5	成年後見制度活用の事例及び日常生活自立支援事業	判断能力の不十分な高齢者、障害者等に対する成年後見制度活用の実際について学ぶことが出来る。										
6	成年後見制度の課題、未成年後見制度	医的侵襲行為や被後見人死後の業務、未成年後見など制度の課題について成年後見制度利用促進法から学ぶことが出来る。										
7	権利擁護事業に関わるゲスト講師による実践報告	現場で活躍する権利擁護関係者(社会福祉士、社会福祉協議会職員、司法書士等)の実践事例を学ぶことが出来る。										
8	まとめ、総括	講義やグループ演習等を振り返り、権利擁護等について系統的、総合的に考察できる。										
留意事項(履修条件等)												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業外の学修(事前・事後の学習)が必要です。</p> <p>事前学習: 権利擁護に関する日本国憲法、社会福祉法などの条文の基本的理解をしておく。</p> <p>権利擁護に関する新聞記事などに目を通しておく。</p> <p>事後学習: 民法、社会福祉法、介護保険制度、医療関連の法改正について情報を得ておく。</p> <p>権利擁護に関する新聞記事等を読み解く。</p>												
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：「新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度」（第4版）、中央法規出版、
ISBN: 978-4-8058-3936-2

最終到達目標

人権とは何かについて理解し、知的障害や認知症等により、日常生活上の支援が必要な人々の権利擁護の理念、法体系、取組について理解できる。

評価方法及び評価基準

期末試験 60%、授業参加やプレゼンテーション 30%、課題の提出 10%などを総合評価して合計 100 点とする。

成績評価基準（学則第 34 条）

- S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

上手に表現できない、しゃべれない方々をはじめ、誰でもいつそうした状況になるかもしれない私たち。看護職を目指されている学生さんだからこそ、誰もが当たり前に普通に暮らし医療を受ける権利について理解し、その人らしい生活とは何なのかまで考えた看護師の基礎知識としてください。

授業コード	ENF1101			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	医療経営論	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力		
担当教員	中橋 恒、一井美哉子				探求心	○	
講義目的							
本科目の達成目標							
中橋恒							
1)看護師として、人をケアする上での看護論の一つとして緩和ケアについて学ぶ。							
2)緩和ケアを理解する上で、患者のみならず家族も含めたケアの視点を学ぶ。							
3)全人的苦痛について学ぶ。							
4)全人的ケアとケアの到達点としてのQOLの向上の意味について学ぶ。							
一井美哉子							
1)医療・介護を取り巻く社会情勢とそれに対応する政策の動向を学び、保健・医療・福祉制度を理解する。							
2)医療・福祉・介護チームにおける看護の役割を理解し、円滑な連携・協働のあり方を学ぶ。							
3)自分の看護観を育成する一歩となる。							
授業内容							
中橋恒(第1回ー第4回)							
看護の本質はケアにあると考える。疾患に関わるケアは、より専門化された診断・治療をスムーズに安全に進める上で大切な事であるが、疾患を持った人をケアすることが基本であり根本である。人をケアする事を理解するための方法として、緩和ケアを理解することが実践的で理解を容易にするものと考える。緩和ケアの定義に込められた全人的苦痛、QOLの向上、全人的ケアを一つ一つ明確にすることで、ケアの本質的な理解につなげる。実践的なケアの理解として医療法人聖愛会で実践している緩和ケアの在り方を紹介し、理解につなげる。医療・看護・介護が求めるケアは、在宅でのケアの在り方をより鮮明にした方向付けがなされており、後半の講義へつなげてゆく。							
一井美哉子(第5回ー第8回)							
在宅医療をめぐる医療・介護政策の動向を学び、診療報酬改定で明確にされた病床機能の明確化や病院完結型医療から地域完結型医療への移行、退院支援の充実、在宅医療の普及とその考え方を様々な事例から学ぶ。							
住み慣れた地域で、患者としてではなく一人の人として、最期まで暮らし続ける、そんな当たり前の生き方を支えることができる地域での包括的な支援・サービス提供体制の構築が必要とされる中、創造的で人間愛に満ちた看護の専門職として社会に貢献し、新たな仕組みづくりにもチャレンジできる人材に成長することを期待する。在宅医療、訪問看護の概念を理解し、必要性に応じてグループ討議を行う。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	緩和ケアの位置づけと全体についての概説 (中橋)	医療のなかにおける緩和ケアの位置づけと緩和ケアの全体について理解する					
2	QOL、トータルペイン、トータルケアの概説 (中橋)	緩和ケアを理解する上で、QOL、トータルペイン、トータルケアについて理解する					
3	スピリチュアルペイン、スピリチュアルケアの概説 (中橋)	トータルペインの中で、実存的な存在の意味の理解により、人を看うことの根本的な意味の理解としてスピリチュアルペイン、スピリチュアルケアについて学ぶ					
4	医療法人聖愛会における緩和ケア実践の紹介 (中橋)	緩和ケアの総論を学んだ上で、実践的な流れと内容を学び、緩和ケアの理解を深める					
5	在宅医療に関する医療保険・介護保険制度 ～マネジメントの質を高めるために～ (一井)	近年、国の医療施策は在宅医療に大きく舵を切ってきた。患者に適切な情報提供とマネジメントをするために医療保険と介護保険、障害者総合支援法等各種の制度等の知識が必要であり、それらを理解することで適切なマネジメントにつながることを理解できる					

6	退院支援と退院調整 (一井)	病気や障がいを抱えながらも、退院したその日から住み慣れた場所で安心して生活できるように支援することは看護そのものであり、諸制度を理解したうえで退院調整につなげることが重要であると理解できる
7	在宅医療から学ぶチーム医療と連携 (一井)	在宅医療の現場で、他機関・多職種での情報の共有と方針の統一を行う現状と課題を明らかにし、患者本位を貫くカンファレンスのあり方を共に学び合う
8	総括 訪問看護にかかわる制度と知識の確認(一井)	医療法人ゆうの森の活動を紹介 在宅医療テスト実施
留意事項(履修条件等)		
確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。		
<p>中橋恒 明確な理由なしの授業欠席は、単位取得の評価に加える。講義は、座学が中心であるが、グループワークを取り入れ、自主的・自発的態度で授業に臨めるよう留意する。</p>		
<p>一井美哉子 次回の講義内容を事前に予習し授業に臨み、授業で学んだ内容はさらに関連事項を図書などで調べておくこと。 在宅医療制度の基礎知識が不可欠となる。</p>		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
科目の単位を取得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習)に示されている内容の学修)が必要です。		
<p>事前学習: (中橋)参考図書のどれか一冊は読んでください。 (一井)最新の在宅医療の動向(厚生労働省医政局指導課 在宅医療推進室資料を参照)および 愛媛、松山の地域性や地域の保健・医療・福祉資源について調べる。</p>		
<p>事後学習: (中橋)講義内容を資料と照らし合わせて復習をすること。 (一井)在宅医療、在宅みとりに関する図書を一冊は読んでください。</p>		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
<p>参考書: 中橋恒: ①「死ぬ瞬間—死とその過程について」、中央文庫、ISBN:978-4-643-98023-3 ②「ホスピス運動の創始者」、日本看護協会出版社、ISBN:978-4-818-01939-3 ③「病院で死ぬという事」、文春文庫、ISBN:978-4-079-36836-0</p> <p>一井美哉子: ①「たんぽぽ先生の在宅報酬算定マニュアル(第5版)」、日経BP社、 ISBN:978-4-8222-5661-6 ②「退院支援・退院調整」、日本看護協会出版会、ISBN:978-4-8180-1598-2</p>		
最終到達目標		
<p>中橋恒 緩和ケアの理解を通してケアの意味を学び、学生一人一人が求める将来の看護師像の一助とする。</p>		
<p>一井美哉子 人口動態の変化によって迎える多死社会への対策として、患者の生き方に向き合う終末期医療の在り方を学ぶ。 また、病気や障がいなど健康問題を抱えながら自宅あるいはその地域で暮らしている地域住民が相談できる機能を持ち、その人らしさを大切にしながらその方や家族の暮らしを支えるためには、円滑な多職種との連携体制を構築することが重要であり、看護師はその要となる役割を担っていることを理解できる。</p>		

評価方法及び評価基準

成績は、試験(100%)を100点満点として評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

あなたはどんな看護師になりたいですか。

看護の魅力について語り合いましょう。

授業コード	ENG0101			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	看護学概論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	河野保子				探求心	○	
講義目的							
看護の定義・概念から看護とは何かについて学ぶとともに、看護の歴史的発展過程や主な看護理論から看護の対象、看護の役割・機能について理解することを目的とする。また健康と個人・家族・環境とのかかわりについて概観し、保健医療福祉チームにおける看護活動について理解する。さらに看護と倫理的側面について理解でき、医療従事者と倫理、看護実践と倫理を考察できる。本講義は看護実践科学の基礎となるものであり、カリキュラムコースの基盤に位置づくものである。							
授業内容							
看護の基本概念を踏まえて、看護学の知識体系を把握し、専門職としての看護の役割・機能について考える。看護活動の対象である人間を、成長・発達、ライフサイクル、生活主体としての側面から理解し、健康上のニードの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について学ぶ。看護の基本は安全・安楽・自立・その人らしさの保障であり、QOL を追求することにある。生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に看護を展開することの重要性を認識し、看護専門職として看護の対象に向き合うための基本的知識・態度を培う。講義展開においては、適宜、グループワーク・発表を行う。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	・本講義の概要を説明する。 ・5人とご挨拶(アクティブラーニング) 看護ってなんだろう(1)	・本講義が、看護学教育の基盤に位置づくことを理解できる。 ・多くの学友との人間関係が重要であることを学ぶことができる。 看護という言葉の意味、具体的行為としてのイメージについて認識できる。 キーワード; 看護という言葉の意味、看護の行為					
2	看護って何だろう(2)	ケアの概念、キュアの概念について理解でき、今日的なケア、キュアの在り方を認識できる。 キーワード; ケア、キュア、サイエンス、アート、技術					
3	専門的看護の発展(1)	近代看護の歴史的変遷、及び看護の専門職化について認識し、看護の定義を理解できる。 キーワード; 専門職、看護の定義					
4	専門的看護の発展(2)	わが国の看護改革と職業としての看護について認識し、保健師助産師看護師法との関連について理解できる。 キーワード; 看護の職業化、保健師助産師看護師法					
5	専門的看護の役割・機能	ヘルスケア提供システムを認識し、看護の場、及び看護の役割・機能・責任について理解でき、チーム医療としての看護活動が判断できる。 キーワード; ヘルスケア活動、チーム医療、医療法、看護の役割・機能、看護活動					
6	社会の変化と看護の役割拡大	わが国の保健・医療・福祉の状況を認識し、社会の状況、に応じた看護の役割拡大、すなわち専門看護師、認定看護師等の必要性、制度について価値を認めることができる。 キーワード; 看護の役割拡大、専門看護師、認定看護師、認定看護管理者、特定行為に係る看護師					

7	1~6回目の講義の振り返り、及び確認テスト	・1~6回の講義に対して確認テストを30分間、実施する。その後、講義の振り返りを行い、知識の定着を確認する。
8	看護の主要概念と看護実践	看護学の4つの主要概念—人間、健康、社会(環境)、看護について理解し、看護実践への適用について認識できる。 キーワード;人間、健康、社会・環境、看護
9	看護理論 ・ビデオ視聴	看護の主要理論(広範囲理論)を概観し、先人の看護に対する考え方方が理解できる。 キーワード;看護理論、理論の範囲、看護理論家(ナイチンゲール・ヘンダーソン・オーランド・ペプロウ・キング・オレム・ロイ)
10	健康とウェルネス	健康の定義・概念を認識し、ウェルネス行動について理解する。また国民の健康の全体像を評価し、健康づくりとセルフケア、及び保健行動について理解できる。 キーワード;WHOの健康の定義、ルネ・デュボスの健康観、健康新習慣と健康、保健信念モデル
11	健康と環境	人間を取り巻く環境(個人、家族、地域社会、自然、文化、生活状況)について理解し、健康との関連性で考察することができる。 キーワード;環境の概念、個人と環境、生活環境
12	人間のニーズ(1)	人間の欲求と行動、人間の基本的ニーズについて理解できる。 キーワード;統合的存在としての人間、人間の発達課題、欲求一般論、マズローの欲求段階説
13	人間のニーズ(2)	人間の健康問題とストレスについて認識し、患者心理の把握や医療・看護場面における危機について理解することができる。 キーワード;健康問題・課題、ストレス、ストレスと生体反応、ストレスとコーピング
14	看護倫理と看護実践 ・事例展開 ⇒ グループワークと発表(TBL)	看護専門職者としての倫理的態度形成を考えることができる。医療倫理・看護倫理の原則が理解できる。 キーワード;基本的人権、医療と法的・倫理的規範、医療倫理の原則、看護倫理、専門職と倫理綱領
15	患者中心の看護と医療の質保証	患者の人権について判断することができ、患者主体の医療について理解できる。また医療安全と医療の質保証について理解できる。 キーワード;インフォームド・コンセント、自己決定、守秘義務、個人情報の保護、アドボカシー、インシデントとアクシデント
留意事項(履修条件等)		
<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語や聞き慣れない言葉が多いため、教科書や資料等を参考に、予習・復習をしてください。 ・配布された資料は必ずファイルにしてください。 ・授業は講義形式ですが、質問を多くして学生との意見交換を行います。積極的な意見表明を期待いたします。また適宜、グループワーク等を行います。 ・スマホは電源を切るか、マナーモードにしてバッグ等にしまってください。 ・確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについてはリアクションペーパー等で講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定しますので、オフィスアワー等を活用してください。 		

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習)に示されている内容の学修が必要です。

[事前学習]: 講義において学習課題が十分に理解できるためには、教科書の該当領域を事前に学習してください。特に 9 回目の看護理論を学ぶときには、図書館に行き看護理論家の著書に目を通しておいてください。

[事後学習]: 毎回の講義内容を自分自身が理解・納得できるように、教科書・配布資料、キーワード、参考書等を用いてノートに整理してください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

未定。講義開始時にお知らせいたします。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:

「系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学①」、医学書院、ISBN 978-4-260-02181-4

「看護覚え書—看護であること看護でないこと—」、現代社、ISBN 978-4-874-74142-9

「看護の基本となるもの」、日本看護協会出版会、ISBN 978-4-818-01996-6

参考書: 講義の時に提示いたします。

最終到達目標

1. 看護の定義について説明できる。
2. 健康の定義が説明できる。
3. 社会(環境)の中で、生活する人間について全人的存在であることが説明できる。
4. 人間の健康問題・課題に対して看護としての関わり(役割・機能)が説明できる。
5. 保健医療福祉分野における看護活動が説明できる。
6. 生命の尊重や人間の尊厳について看護倫理として説明できる。

評価方法及び評価基準

期末試験 70%、小テスト及び課題レポート 20%、講義参加状況(積極的発言や意見表明、リアクションペーパー等)10%とし、配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

・看護学を探究することの楽しさ、素晴らしさを伝えたいと思います。

・毎回の講義終了時に、Reaction Paper(リアクションペーパー)を書いていただきます。その内容に関して、クラス全体で共有する必要のあるものは次回の講義時に報告・説明いたします。また個別指導においても必要時に活用させていただきます。

授業コード	ENG0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目—基盤看護学—基礎看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	看護学概論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力		
担当教員	奥田泰子、三並めぐる、アダラ—コリンズ、慈觀、宮崎博子、別宮直子、田中正子、上西孝明、永江真弓				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
看護の各領域である、母性看護学、小児看護学、成人看護学、高齢者看護学、精神看護学、在宅看護学、そして国際看護学とは、どのような対象への看護であるか、また、どのような特徴があるのかを知ることで、その後に続く各領域看護学の基礎を理解する。さらに、看護職となる上での倫理的な課題についても理解する。							
授業内容							
看護の対象である人々のライフサイクルに従い、母性看護学、小児看護学、成人看護学、高齢者看護学の目的や対象の特徴、倫理観などについて学び、その後は広域看護学として、精神看護学、在宅看護学について学ぶ。さらに、国際看護学について学ぶことで、今後の学習の動機付けができる。 <u>8回の授業は、それぞれ専門領域の教員によって授業が行われ、アクティブラーニングを行う授業を含む。</u>							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	コースオリエンテーション （奥田） 現代の社会・医療における子供の状況と小児看護の役割 （三並）	看護学概論Ⅱについて、目的、課題、評価について理解できる。 小児とその家族に関する看護師に必要な基本的知識や態度を学び、小児看護の目的や特徴を理解できる。					
2	母性看護学、リプロダクティブヘルスの役割と今日的課題 （永江）	現代の女性と生殖や育児のパートナーとしての男性、家族の特性について理解し、次世代が健康に生まれ育つための健康課題と看護の必要性について理解できる。					
3	成人看護学の学び （上西）	成人期にある人々を理解し、成人各期の身体的特徴や心理・社会的特徴、健康課題について理解できる。					
4	高齢者看護学の学び （奥田）	老年期にある人々の多様性を理解し個別性のある看護の必要性や倫理的課題を理解できる					
5	精神看護学の学び （別宮）	精神看護学で対象とする人々の特徴や精神看護の独自性、精神看護における倫理的課題を理解し、看護の役割を考察できる。					
6	在宅看護学の学び （田中）	在宅看護における動向や社会的背景に基づくニーズを知り、在宅看護の目的や特徴を理解できる。					
7	地域看護学・公衆衛生看護学の学び （宮崎）	公衆衛生看護の目的・対象・方法と活動の場について理解できる。また、公衆衛生看護と臨床看護との相違点について理解できる					
8	Introduction and outline of the international nursing. 国際看護学についての紹介と概略 （アダラ—コリンズ、慈觀）	Living action research (LAR) is the method of teaching and learning. Introduction to e-learning and online testing, which are at the core of the academic subjects in the international nursing, will be introduced. We mainly used student centered learning and portfolio building. Understanding what is required in terms of learning skill, action plans, self-assessment and progression mapping will be introduced. Educational learning is assessed by using portfolio and online testing of curriculum content.					

	<p>リビングアクションリサーチ(LAR)を教育および学習の方法とする。国際看護学の講義の中心となる E-ラーニングとオンライン・テストについて紹介する。学生中心の学習とポートフォリオの作成、さらに、4 年間の国際看護学の構成要素を概観し、学習技術、活動計画、自己評価、学習の進行図などを説明する。学習の程度は、ポートフォリオとオンライン上のテストを用いて評価する。</p>										
留意事項(履修条件等)											
<p>看護基礎教育の基本となる科目であり、主体的な学習を期待する。事前学習課題をして授業に臨み、授業後は事後学習によるレポート課題を提出すること。これらはすべて評価の得点となるので忘れないこと。</p> <p>本科目は 8 回の授業であり、3 回欠席すると試験を受けることができず単位修得ができなくなる。<u>単位修得の見込みがない場合、1 年次開講の「基礎看護学実習 I」、2 年次開講の「在宅高齢者看護学実習」の履修ができない</u>ので注意が必要である。</p>											
授業時間外の学修(事前・事後学習)											
<p>事前学習: 授業までに、各回に関連することで、今話題になっている記事を新聞やインターネットで調べ、その中で興味ある記事をレポート用紙に書き写して(新聞であれば切抜きでもよい)授業に持参し、授業中に発表できるように準備する(授業の中で提出を求める)。</p> <p>事後学習: 授業で学習した内容を、記憶の新いうちに振り返り、さらに興味・関心を持った内容について調べその記事をレポートして提出する(授業の翌週の月曜日 13:00 までに事務室に提出する)。</p>											
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)											
本授業はオムニバスであり、各教員が指定するオフィスアワーに従ってください。											
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)											
<p>教科書: 指定なし、各授業で必要な資料を配布する。</p> <p>参考書: 指定なし、必要時に各授業で紹介する。</p>											
最終到達目標											
本科目すべてを履修することで、各看護領域の看護の対象の特徴を理解し、それぞれの倫理的課題について述べることができる。また、国際看護学を含め、この後に続く各看護学概論や援助方法論を学ぶ <u>基本的視点</u> が持てる。											
評価方法及び評価基準											
授業の最終評価は、課題レポート提出 70%、国際看護学試験 15%、授業への参加状況(事前・事後学習課題の提出)15%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。レポート課題については、授業初回に別紙を配布して説明します。注意事項をよく読み、作成して提出してください。											
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table border="0"> <tr> <td>S (100~90 点) :</td> <td>学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A (89~80 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B (79~70 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C (69~60 点) :</td> <td>学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D (59 点以下) :</td> <td>学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>		S (100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A (89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	B (79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C (69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D (59 点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S (100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)										
A (89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)										
B (79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)										
C (69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)										
D (59 点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)										
学生へのメッセージ											
本科目は、2 年次より開講される看護の専門領域科目の導入になります。この授業を受けることで概略を理解し、専門科目への導入学習としてください。そのためにも、各看護領域の特徴を書物やインターネット等を利用して自分で調べるとさらに興味がわいてきます。現代の医療における話題なども参考にしながら、主体的に学んでください。											

授業コード	ENG0301			定める 能力 ディプロマポリシーに 養成する	豊かな人間性	<input type="radio"/>	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と 倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	看護学概論Ⅲ	選択・必修	必修		知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	河野保子				探求心	<input type="radio"/>	

講義目的

4年間の学びで身につけた看護の知識・理論、技術、倫理的態度等を振り返り、看護の定義・概念、看護実践の特徴、看護の対象、健康の考え方、人間を取り巻く環境について再認識することを目的とする。また、看護に対する自分の考え方を深め、「看護であるもの、ないもの」を考察して自身の看護観を進化・発展させることを試みる。本講義は、看護基礎教育課程の集大成として位置づくものであり、自己の看護観が形成できる。

授業内容

4年間の学修で培った看護の知識・技術・態度、及び倫理観を再認識し、看護の主要概念について、学生間でグループワークを行う。また教員とのディスカッションを通して、看護とは何かについて自身の考え方を深める。看護実践を通して、看護は患者・家族の人権擁護者としてのあり方について考察を深める。これらのことから、看護専門職として社会に貢献するためには、生涯学び続けることの意義・必要性を理解し、生涯学習者としての基盤を強化する。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	本授業のガイダンス	講義の目的、授業の方法等についてオリエンテーションを行うことができる。
2	看護における教養教育・医学的知識教育の再考	課題によるグループ討議・発表を行うことができる。
3	看護実践の再考	課題によるグループ討議・発表を行うことができる。
4	看護実践と倫理的視点の再考 ・課題(個人)レポート	課題によるグループ討議・発表を行うことができる。
5	看護と健康に関する再考	課題によるグループ討議・発表を行うことができる。
6	看護と人間に関する再考	課題によるグループ討議・発表を行うことができる。
7	看護と環境に関する再考	課題によるグループ討議・発表を行うことができる。
8	看護専門職と生涯学習、及びキャリア形成 ・課題(個人)レポート	看護の役割拡大や専門職化に関する現状と課題について講義し、自身のキャリアアップにつなげて理解できる。

留意事項(履修条件等)

全員参加型の講義を行います。グループ討議、及びグループでの考え方や自身の考え方を踏まえて、アサーティブなプレゼンテーションを期待いたします。予習・復習は勿論のこと、多くの文献提示を行ってください。

課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です

[事前学習]: 課題への取り組みは、グループ構成員の全員が力を合わせて行います。そのため事前学習として情報収集・提示したいテーマ・発表のための準備等が必要になります。

[事後学習]: 課題発表のあと、事後学習として各グループはフロアーからの助言や指摘、反省点等を踏まえ、レポートにまとめ提出いたします。また個人としても講義終了後に、参考文献や種々の資料を用いて総括としてのレポートを提出いたします。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

未定。授業開始時にお知らせいたします。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：特にない。

参考書：

各グループが提示する文献、資料

教員による資料の提示

最終到達目標

1. 看護とは何かを自己表現でき、看護であるもの、ないものが説明できる。
2. 看護の主要概念を把握し、環境・人間・健康・看護に関する関係性を説明できる。
3. 看護実践と人権擁護について説明できる。

評価方法及び評価基準

期末試験 60%、課題レポート 20%、講義参加状況（積極的発言や意見表明、アクションペーパー等）を 20% とし合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59 点以下)：学習目標の最低限を満たしていない（Failure）

学生へのメッセージ

- ・最終学年の後学期科目です。これまで看護学の知識・理論・技術を学び、臨地実習を通してその適用を図ることにより、各自の「看護」が確かなものになったと思います。そのことを再考する科目ですので、自信をもって自身の看護観を論じてください。
- ・毎回の講義終了時に Reaction Paper（アクションペーパー）を書いていただきます。その内容に関して、クラス全体の共有や個別対応が必要な場合には、次回の講義時にいたします。

授業コード	ENG0401			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と 倫理観		
授業科目名	生活援助方法論	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	中島 紀子				探求心	○	
講義目的							
1.	看護技術は人間を対象とした専門技術であることから、看護活動の場において、さまざまな健康レベル、発達段階にある人々の日常生活行動の意義を理解する。						
2.	日常生活行動における基本的な援助技術の知識を修得するとともに、基本的な生活援助技術の実践を探求する能力を養う。						
授業内容							
既習した看護学概論、看護コミュニケーション論などを活用し、人々の健康と深くかかわる日常生活行動の概念、意義を理解し、看護におけるアセスメント視点を養う。また安全、安楽、自立という原理原則を根底に、看護技術のエビデンスに基づいた基本的な生活行動に対する援助方法を探求する。							
具体的には、感染防止、環境調整、活動・休息、清潔援助、食事援助、排泄援助といった生活援助に関する技術を実践するための基礎知識および援助技術の方法を理解する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	看護技術の概念	看護技術とは、看護における安全・安楽・自立の原則、クリティカルシンキング、EBN の必要性を理解し、看護場面に応用できる思考過程を育てることができる。					
2	感染防止に関する技術 ①感染条件・経路 ②スタンダードプロセション	感染防止の重要性や基礎知識を学び、標準予防策、個人防御用具の取り扱いについて理解することができる。					
3	環境調整に関する技術 ①環境の調整 ②環境に関する測定と評価 ③シーツ交換	生活環境を基盤として、療養者にとって必要な環境について学び、環境を整える技術及び環境の評価について理解することができる。					
4	活動・休息に関する技術 1 ①睡眠 ②ボディメカニクス ③ポジショニング	睡眠と休息のバランスの必要性を学び、睡眠の基礎知識と良好な睡眠を得るために援助技術を理解する。またボディメカニクスの原理を学び、体位の安楽性、動作の経済性について理解することができる。					
5	活動・休息に関する技術 2 ①体位交換 ②移乗・移送	体位変換、移乗や移送の援助技術が理解し、苦痛の緩和や安楽を保持する援助について理解することができる。					
6	これまでの振り返り	これまでの学習内容を振り返り知識を修得する。					
7	清潔援助に関する技術 1 ①衣生活 ②入浴・シャワー・浴 ③全身清拭・部分清拭 ④寝衣交換	清潔援助の効果と全身への影響、身体への入浴の影響といった基礎知識や、全身清拭及び部分清拭、寝衣交換の援助技術について理解することができる。					
8	清潔援助に関する技術 2 ①洗髪	清潔援助の効果と全身への影響を学び、洗髪の援助技術を理解することができる。					
9	清潔援助に関する技術 3 ①手足浴	清潔援助の効果と全身への影響を学び、手足浴、口腔ケアの援助技術について理解することができる。					
10	清潔ケアまでの振り返り<中間テスト>	これまでの学習内容を振り返るとともに、不足している知識について確認することができる。					
11	食事援助に関する技術 ①誤嚥予防 ②食生活変更 ③食事介助 ④口腔ケア	栄養の評価・食事援助の基礎知識を学び、誤嚥予防や食生活変更、食事介助における援助技術及び口腔ケアについて理解することができる。					

12	排泄援助に関する技術 1 ①自然排尿、自然排便 ②浣腸 ③ポータブル便器 ④床上排泄 ⑤腹部マッサージ	排泄の意義、基礎知識と看護師の基本姿勢について学び、自然排尿、自然排便がスムーズに行われるための援助技術を理解する。ポータブル便器、床上排泄における援助技術について理解することができる。
13	排泄援助に関する技術 2 ①失禁 ②おむつ交換 ③陰部洗浄	失禁のメカニズムを理解するとともに、看護師の基本姿勢について考え、失禁に対する援助技術を理解する。おむつ交換、陰部洗浄の援助技術について理解することができる。
14	体温調整の技術 ①冷罨法、温罨法	体温調整のメカニズムを理解し、冷罨法、温罨法の必要性について理解することができる。
15	事例検討 <グループワーク>	事例に合わせ必要な援助技術を考えることができる。

留意事項(履修条件等)

日常生活行動における基本的な看護技術を、科学的根拠に基づいて探求していく科目です。まずは自己の生活行動を振り返り、セルフケアの重要性に気づくことが大切です。その上で解剖生理学、看護学概論や看護コミュニケーション論など既習した知識を活用し、日常生活援助技術のあり方について学んでください。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、約 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: 講義内容を確認し、教科書に記載されている QR コードから動画を見てイメージしてきてください。

事後学習: 演習までに講義内容を復習し、演習にのぞんでください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

火曜 5 限、木曜 5 限 場所: 716

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 第 16 版」、医学書院、
ISBN: 978-4-260-01999-6

「系統看護学講座 専門分野① 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 第 17 版」、医学書院、
ISBN: 978-4-260-02760-1

* 診療援助方法論、看護コミュニケーション論でも使用

参考書: 「看護技術がみえる① 基礎看護技術」、メディックメディア、ISBN: 978-4-89632-511-9

最終到達目標

- 看護技術の概念と日常生活行動の意義が説明できる。
- 日常生活援助に必要な基礎知識について述べることができ、日常生活行動における基本的な援助技術の方法について説明できる。

評価方法及び評価基準

期末テスト 50% 中間テスト 30% 小テスト 15%

講義の参加状況および態度 5% など合計得点を 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

教科書および配布資料で復習をして、演習にのぞんでください。

毎回の小テストは国家試験問題から出題しています。講義内容をしっかり復習して小テストを受けてください。

授業コード	ENG0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	生活援助方法演習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	中島 紀子、讚井 真理				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的	<p>1. 看護学概論、看護コミュニケーション論、生活援助方法論など既習の知識を活用し、日常生活行動におけるアセスメントの視点が理解できる。</p> <p>2. さまざまな健康レベル、発達段階にある人の看護の基盤となる、基本的な共通援助技術の方法を理解し、実践できる能力を養う。</p> <p>3. リフレクションを通して、安全・安楽・自立性を考えた援助技術のあり方を探求できる。</p>						
授業内容	<p>人々の健康と深くかかわる日常生活行動の意義を理解し、看護におけるアセスメント視点を養う。また安全、安楽、自立という原理原則を根底に、看護技術の根柢(エビデンス)に基づいた援助方法を探求する。</p> <p>具体的には、感染防止、環境調整、活動・休息、清潔援助、食事援助、排泄援助といった生活援助に関する技術を実践するための基礎知識および援助技術の方法を理解し実施する。この科目は学習課題に沿って、実際の場面を想定しグループ活動を通して演習計画に基づいて実施する。またグループダイナミクスを活かし援助技術のあり方を探求する。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	看護技術の概念	実習室の物品の把握、用途について学び、演習に対する姿勢や援助技術の実践を理解できる。看護の対象を生活者と捉え、生活の行動・習慣を把握し、それらに応じた援助技術を提供する姿勢を養うことができる。					
2	感染防止に関する技術 ①スタンダードプリコーション ②衛生的手洗い ③擦式アルコール手指消毒	感染の要因や経路を理解し、看護の観点から感染予防対策の重要性を認識することができる。「グリッターバグ」の使用により手指消毒の重要性を説明でき、正確な手洗いの実施できる。					
3	感染防止に関する技術 ①個人防御用具とは	個人防御用具の取り扱いの援助技術を実施できる。					
4	感染防止に関する技術 ①マスクの付け方 ②ガウンの着脱 ③処置用手袋の着脱	医療現場における感染予防対策の必要性及び方法を理解し、必要に応じて実施することができる。感染性廃棄物の取り扱いの援助技術を実施することができる。					
5	環境調整に関する技術 ①療養者の環境 ②室温、湿度、換気、照度調整 ③環境整備	療養者の環境を調整の必要性を理解し、整えることができる。					
6	環境調整に関する技術 ①ベッドメイキング ②臥床患者のシーツ交換	療養者の環境のあり方を踏まえ、シーツ交換の方法を理解し、安全、安楽であり快適な療養環境を提供することができる。					
7	苦痛緩和・安楽確保に関する技術 ①ボディメカニクス	基本的活動の援助と安楽確保のための援助技術を実施することができる。					
8	苦痛緩和・安楽確保に関する技術 ①良肢位の保持 ②体位交換 ③ポジショニング	基本姿勢や基本体位を理解し、苦痛緩和や安楽確保のための援助技術を実施することができる。					

9	活動・休息に関する技術 1 ①運動と休息 ②良質な睡眠	基本的活動及び安楽確保のため活動と休息のバランスを調整することができる。苦痛の緩和や良好な睡眠に対する援助技術を実施することができる。
10	活動・休息に関する技術 2 ①車椅子移乗 ②ストレッチャーの移送	安全で安楽な移送・移乗の援助技術を実施することができる。
11	技術試験【シーツ交換】	臥床患者のシーツを、制限時間内に安全に交換することができる。
12	技術試験【シーツ交換】	臥床患者のシーツを、制限時間内に安全に交換することができる。
13	清潔援助に関する技術 1 ①全身清拭 ②寝衣交換	湯温清拭時の湯の温度の実験などを通して、エビデンスに基づいた臥床患者の全身清拭及び寝衣交換の援助技術を実施することができる。
14	清潔援助に関する技術 2 ①全身清拭 ②寝衣交換	湯温清拭時の湯の温度の実験などを通して、エビデンスに基づいた臥床患者の全身清拭及び寝衣交換の援助技術を実施することができる。
15	清潔援助に関する技術 3 ①洗髪車 ②ケリーパッド ③洗髪台	患者の状態に合わせて適切な方法で、洗髪の援助技術を実施することができる。
16	清潔援助に関する技術 4 ①洗髪車 ②ケリーパッド ③洗髪台	患者の状態に合わせて適切な方法で、洗髪の援助技術を実施することができる。
17	清潔援助に関する技術 5 ①臥床患者の手浴 ②臥床患者の足浴	患者の状態に合わせた手浴・足浴の援助技術を実施することができる。
18	清潔援助に関する技術 6 ①臥床患者の手浴 ②臥床患者の足浴	患者の状態に合わせた手浴・足浴の援助技術を実施することができる。
19	技術試験【清潔ケア・寝衣交換】	輸液ラインの入っていない臥床患者の全身清拭、整容、寝衣交換の援助技術を実施できる。
20	技術試験【生活ケア・寝衣交換】	輸液ラインの入っていない臥床患者の全身清拭、整容、寝衣交換の援助技術を実施することができる。
21	食事援助に関する技術 1 ①口腔ケア	意識障害のない患者の口腔ケアの援助技術について理解し、口腔ケアの方法の実際を検討することができる。
22	食事援助に関する技術 2 ①嚥下テスト ②嚥下訓練 ③食事介助	視力障害・麻痺がある人の食事摂取における援助技術を実施することができる。
23	排泄援助の技術 1 ①自然排尿・排便 ②床上排泄	自然排尿、自然排便がスムーズに行われるための援助技術を実施することができる。患者に合わせた便器、尿器の選択及び失禁に対する援助技術を実施することができる。
24	排泄援助の技術 2 ①自然排尿・排便 ②床上排泄	排泄行動を他人に委ねなければならない心理状況を理解し、対象者のかかわり方について説明し、床上での便器、尿器の当て方の援助技術を実施することができる。
25	排泄援助の技術 3 ①おむつ交換 ②陰部洗浄	排泄困難な患者に対しての援助技術を実施することができる。陰部洗浄の援助技術を実施することができる。
26	排泄援助の技術 4 ①オムツ交換 ②陰部洗浄	排泄困難な患者に対しての援助技術を実施することができる。陰部洗浄の援助技術を実施することができる。
27	体温調節の技術 1 ①温罨法	体温調節の必要性を理解し、安全に温罨法を実施することができる。
28	体温調節の技術 2 ①温罨法	体温調節の必要性を理解し、安全に温罨法を実施することができる。
29	技術試験【事例に合わせた生活援助技術】	事例に合わせた援助技術を実施することができる。
30	技術試験【事例に合わせた生活援助技術】	事例に合わせた援助技術を実施することができる。

留意事項(履修条件等)					
人間の日常生活行動における基本的な看護技術を、科学的根拠に基づいて探求していく科目です。各単元の予習を行い演習にのぞんでください。 また看護の対象に対し安全、安楽、自立性を基本とした援助技術のあり方を探求してください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習)に示されている内容の学修が必要です。 事前学習：生活援助方法論の講義内容を復習し、テキストの動画を見て援助技術をイメージしてください。 事後学習：援助技術は授業時間外の時間も使って積極的に練習してください。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
時間：火曜5限、木曜5限 場所：研究室716					
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)					
教科書：「系統的看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③」；任和子、医学書院、2016年、 ISBN:978-4-260-01579-0 参考書：「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」；任和子、医学書院、2016年、 ISBN:978-4-260-01928-6					
最終到達目標					
1. 看護技術の概念と日常生活行動の意義が説明できる。 2. 日常生活援助に必要な基礎知識について述べることができ、日常生活行動における基本的な看護技術の方法について説明及び実施できる。					
評価方法及び評価基準					
技術試験70%、ワークシート30%の得点を合計100点満点として総合評価する。					
<p>成績評価基準(学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)					
学生へのメッセージ					
演習はグループで行いますので、リーダーシップやメンバーシップを發揮し、お互いに高めあいましょう。また実習室は、実際の病院の病棟内と想定して行いますので、演習時の態度に気をつけて下さい。演習に臨む時は、常に看護の対象者の心理状態を考えながら看護の介入をしていきましょう。					

授業コード	ENG0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	診療援助方法論	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	中島 紀子				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
1.	患者が安全・安楽に治療を受け、最大限の治療効果が得られるよう援助するために、援助技術の原理・原則を理解することができる。						
2.	治療を受ける人々のニーズを理解し、援助できる実践能力を養うことができる。						
3.	看護専門職者として、看護実践における倫理的姿勢と態度を身につけることができる。						
授業内容							
1	1 年次に学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において様々な健康レベル・発達段階にある人々の診療援助に関わる看護技術とその根拠(エビデンス)を学修する。 具体的には「生命の兆候を観察する技術」「感染予防に関する技術」「検査・処置の介助技術」「与薬の技術」「呼吸・循環を整える技術」「体温調整の技術」「食事・栄養摂取の技術」「排泄の援助技術」「創傷管理の技術」「安全確保の技術」といったことを実践するための基礎知識及び援助技術の方法を理解する。						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	診療援助方法論への導入、診療援助とは、記録とは	診療援助とは何かについて理解できる。またそれに伴う記録の重要性について理解することができる。					
2	生命の兆候を観察する技術 ①バイタルサイン ②一般状態の観察 ③記録	患者の状態を把握することの重要性を学び、基礎技術を理解することができる。					
3	感染予防に関する技術 ①滅菌と消毒 ②無菌操作	医療における感染防止の重要性を学び、滅菌と消毒及び無菌操作について理解することができる。					
4	検査・処置の介助技術 1 ①検査とは ②身体計測 ③検査の方法	検査・処置について基礎知識を学び、介助方法について理解することができる。					
5	検査・処置の介助技術 2 ①静脈血採取 ②検体採取	静脈血採取の必要性及び方法を学び、検体採取の取り扱いについて理解することができる。					
6	与薬の技術 1 ①法的根拠 ②基礎知識 ③経口・経皮・直腸 ④静脈内注射 ⑤高カロリー輸液	与薬技術について基礎知識を学び、与薬方法について理解することができる。医薬品の安全管理体制について理解することができる。					
7	与薬の技術 2 ①皮内・皮下・筋肉	与薬の基礎知識を踏まえた上で、輸液及び注射の方法について理解することができる。また輸血についての合併症と観察について理解することができる。					
8	与薬の技術 3 ①輸血 ②輸液ポンプ・シリンジポンプ	輸液の基礎知識および輸液ポンプとシリンジポンプの使用目的・方法を理解することができる。					
9	体温調節の技術・中間テスト ①体温の恒常性 ②罨法 ③9回までの範囲の中間テスト	体温調整の必要性を理解し、援助技術について理解することができる。					
10	呼吸・循環を整える技術 1 ①アセスメント ②肺理学療法 ③酸素吸入	呼吸循環に関するアセスメントを学び、肺理学療法及び酸素吸入の基礎知識を理解することができる。					
11	呼吸・循環を整える技術 2 ①口腔・鼻腔内吸引 ②気管内吸引	口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引の必要性を学び、援助方法を理解することができる。					
12	排泄の援助技術 ①排泄障害 ②自然排泄を促す技術 ③導尿	排泄援助の必要性を学び、基礎知識及び援助方法について理解することができる。					
13	創傷管理の技術 ①創傷の治癒過程 ②創傷管理 ③創傷ケア	創傷の治癒過程を学び、創傷管理の技術について基礎知識及び方法を理解することができる。					

14	食事・栄養摂取の技術 ① 栄養状態のアセスメント ② 経管栄養法・胃ろう ③中心静脈栄養	栄養状態及び食欲・摂食能力のアセスメントを学び、栄養摂取技術の基礎知識及び方法を理解することができる。
15	安全確保の技術 ①誤薬防止 ②チューブ類の抜去防止 ③患者誤認防止 ④転倒転落防止 ⑤薬剤・放射線曝露防止	医療事故、医療過誤についての基礎知識を学び、安全確保のための援助技術を理解することができる。
留意事項(履修条件等)		
<p>看護専門領域の基礎となる科目です。既習の知識・技術を活用し、診療援助方法について学んでください。</p> <p>また、1年次に学んだ解剖生理学、基礎看護学概論、生活援助方法論等を復習し、生活援助方法論と照らし合わせ、対象に合わせた必要な援助方法を探求してください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習:シラバスで講義内容を確認し、教科書の最後に記載されているQRコードから動画を見てイメージしてください。</p> <p>事後学習:演習までに講義内容を復習し、演習に臨んでください。</p>		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
時間:火曜5限、木曜5限 場所:716		
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)		
<p>教科書:「系統看護学講座 専門分野I 基礎看護技術I 基礎看護学② 第16版」;茂野香おる、医学書院 ISBN:978-4-260-01999-6</p> <p>「系統看護学講座 専門分野I 基礎看護技術II 基礎看護学③ 第17版」;任和子、医学書院 ISBN:978-4-260-02760-1</p> <p>*生活援助方法論、看護コミュニケーション論でも使用</p>		
最終到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 診療援助の技術の必要性、重要性について説明することができる。 診療援助の技術に必要な基礎知識について述べることができ、基本的な援助技術の方法について理解し説明することができる。 		
評価方法及び評価基準		
試験50%、中間テスト30%、小テスト20%など配点得点を100点満点として総合評価する。		
<p>成績評価基準(学則第34条)</p> <p>S(100~90点): 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80点): 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70点): 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60点): 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59点以下): Cのレベルに達していない (Failure)</p>		
学生へのメッセージ		
教科書及び配布資料で復習をして、演習に臨んでください。		

授業コード	ENG0701			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	診療援助方法演習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	中島 紀子、讚井 真理				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
1.	患者が安全・安楽に治療を受けることができ、最大限の治療効果が得られるよう援助するために、援助技術の原理原則を理解した上で援助技術を修得することができる。						
2.	治療を受ける人々のニーズを理解し、援助できる知識技術を修得することができる。						
3.	看護専門職者として、看護実践における倫理的姿勢と態度を身につけることができる。						
授業内容							
1	次に学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において様々な健康レベル・発達段階にある人々の診療援助に関わる看護技術とその根拠(エビデンス)を学修する。 具体的には「生命の兆候を観察する技術」「感染予防に関する技術」「検査・処置の介助技術」「与薬の技術」「呼吸・循環を整える技術」「食事・栄養摂取の技術」「体温調整の技術」「排泄の援助技術」「創傷管理の技術」といった援助技術の方法を、グループ活動を通して理解し実施することができる。						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	生命の兆候を観察する技術 1 ①一般状態の観察・記録 ②バイタルサイン	患者の状態を把握することの重要性を学び、バイタルサインの方法を理解し実施することができる。					
2	生命の兆候を観察する技術 2 ①一般状態の観察・記録 ②バイタルサイン	患者の状態を把握することの重要性を学び、バイタルサインの方法を理解し実施することができる。					
3	生命の兆候を観察する技術 3 ①血圧測定	血圧測定の意義を理解し、正確に血圧を測定することができる。					
4	生命の兆候を観察する技術 4 ①血圧測定	血圧測定の意義を理解し、正確に血圧を測定することができる。					
5	感染予防に関する技術 1 ①滅菌手袋の装着 ②無菌操作	医療における感染防止の重要性を理解し、滅菌手袋の装着、無菌操作を実施することができる。					
6	感染予防に関する技術 2 ①滅菌手袋の装着 ②無菌操作	医療における感染防止の重要性を理解し、滅菌手袋の装着、無菌操作を実施することができる。					
7	技術試験 <血圧測定>	患者に対し血圧測定前後の声かけや援助がスムーズにでき、正確に血圧を測定することができる。					
8	技術試験 <血圧測定>	患者に対し血圧測定前後の声かけや援助がスムーズにでき、正確に血圧を測定することができる。					
9	検査・処置の介助技術 1 ①静脈内採血	静脈内採血の基礎知識を理解し、安全な静脈内採血を実施することができる。					
10	検査・処置の介助技術 2 ①静脈内採血	静脈内採血の基礎知識を理解し、安全な静脈内採血を実施することができる。					
11	与薬の技術 1 ①点滴静脈内注射 ②輸液 ③バイアル	静脈内注射の基礎知識を理解し、安全な静脈内注射を実施することができる。					
12	与薬の技術 2 ①点滴静脈内注射 ②輸液 ④バイアル	静脈内注射の基礎知識を理解し、安全な静脈内注射を実施することができる。					
13	与薬の技術 3 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉注射	皮下注射、皮内注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全に実施することができる。					
14	与薬の技術 4 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉注射	皮下注射、皮内注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全に実施することができる。					
15	与薬の技術 5 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉注射	皮下注射、皮内注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全に実施することができる。					

16	与薬の技術 6 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉注射	皮下注射、皮内注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全に実施することができる。
17	技術試験 <採血・注射>	採血・注射の基礎知識を理解し、根拠に基づき安全に実施することができる。
18	技術試験 <採血・注射>	採血・注射の基礎知識を理解し、根拠に基づき安全に実施することができる。
19	体温調整の技術 1 ①冷罨法 ②温罨法	体温調整の必要性を理解し、効果的な冷罨法及び温罨法を実施することができる。
20	体温調整の技術 2 ①冷罨法 ②温罨法	体温調整の必要性を理解し、効果的な冷罨法及び温罨法を実施することができる。
21	呼吸・循環を整える技術 1 ①酸素ボンベの取り扱い	酸素ボンベの取り扱いを理解し、安全に酸素ボンベを取り扱うことができる。
22	呼吸・循環を整える技術 2 ① 口腔・鼻腔内吸引 ②気管内吸引	吸引の必要性及び基礎知識を理解し、安全な口腔・鼻腔吸引及び気管内吸引を実施することができる。
23	排泄の援助技術 1 ①導尿	導尿の必要性及び基礎知識を理解し、安全に無菌操作で導尿を実施することができる。
24	排泄の援助技術 2 ①導尿	導尿の必要性及び基礎知識を理解し、安全に無菌操作で導尿を実施することができる。
25	創傷管理の技術 1 ①創傷処置 褥瘡処置	創傷処置の基礎知識を理解し、効果的な創傷処置を実施することができる。
26	創傷管理の技術 2 ①包帯法	包帯法の基礎知識を理解し、効果的な包帯法を実施することができる。
27	まとめ	これまでの援助技術を振り返り、安全で正確な援助技術を理解することができる。
28	まとめ	これまでの援助技術を振り返り、安全で正確な援助技術を理解することができる。
29	技術試験	事例に合わせた援助技術を安全で正確に実施することができる。
30	技術試験	事例に合わせた援助技術を安全で正確に実施することができる。

留意事項(履修条件等)

看護専門領域の基礎となる科目です。1年次に学んだ解剖生理学、基礎看護学概論、生活援助方法論等で学んだ事項を復習とともに、各单元の予習を行うこと。またテキストの後ろのページにある各技術の動画を見て、イメージトレーニングをしてきてください。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: 診療援助方法論の講義内容を復習し、援助技術をイメージしてください。

事後学習: 援助技術は授業時間外の時間も使って積極的に練習してください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

時間: 火曜5限、木曜5限 場所: 716

教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)

教科書: 「系統的看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③」; 任和子, 医学書院, 2016年,

ISBN: 978-4-260-01579-0 * 診療援助方法論でも使用

参考書: 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」; 任和子, 医学書院, 2016年,

ISBN: 978-4-260-01928-6

最終到達目標

1. 診療援助の技術の必要性、重要性について説明することができる。
2. 診療援助の技術に必要な基礎知識について述べることができ、基本的な援助技術の方法を実施することができる。

評価方法及び評価基準

技術試験 70%、ワークシート 30%など配点得点を 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

既習の知識・技術を活用し、診療援助方法の技術を修得してください。演習はグループで行いますので、リーダーシップやメンバーシップを発揮し、お互いに高めあいましょう。また実習室は病棟内を想定して行いますので、演習時の態度に気をつけて下さい。演習に臨む時は、常に看護の対象者の心理状態を考え、技術演習をしていきましょう。

授業コード	ENG0801			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と 倫理観		
授業科目名	看護コミュニケーション論		選択・必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期		単位数		判断力		
担当教員	中島 紀子				探求心	○	
講義目的							
1.	看護専門職者として、なぜコミュニケーションが求められるかを理解し、良好なコミュニケーションに必要な技法について学ぶ。						
2.	看護の対象を生物心理社会的モデルでとらえるための面接技法を、グループワークやロールプレイを通じて理解する。						
3.	患者中心の看護に必要な患者自身の解釈モデルを聞くことの重要性を学び、患者-看護師における信頼関係構築のための基本的な態度を培う。						
授業内容							
看護コミュニケーション論の学習は、【看護専門職者としての対人関係を築くために必要なコミュニケーション技法】 【看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法】から構成される。 これらのコミュニケーション技法・面接技法や、患者自身の解釈モデルを聞くことの重要性を学習するために、講義だけではなくグループワークやロールプレイを通して、患者-看護師の信頼関係構築のためのコミュニケーションについて学習を深める。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションとは何かを理解し、看護コミュニケーションを学ぶ必要性について考える事ができる。					
2	コミュニケーションの種類と影響するもの	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの違いを説明できる。					
3	医療におけるコミュニケーション	看護におけるコミュニケーション場面を述べることができ、看護面接とはどのような過程か述べることができる。					
4	良好なコミュニケーションに必要な技法 <質問技法>	良好なコミュニケーションの中で聞くための技法として質問技法を述べることができる。					
5	良好なコミュニケーションに必要な技法 <積極的傾聴と共感>	良好なコミュニケーションの中で積極的傾聴と共感について説明することができる。					
6	良好なコミュニケーションに必要な技法 <関係構築技法>	良好なコミュニケーションのために関係構築が必要な理由を述べることができる。					
7	看護面接のプロセスの 13STEP グループワーク	看護面接の 13STEP を理解することができる。					
8	プロセスレコードとは	プロセスレコードとは何か説明することができる。					
9	プロセスレコードの実際	プロセスレコードを理解し記述することができる。					
10	演習 1 <事例を用いたグループワーク>	設定された状況をふまえ、環境や状況に応じたコミュニケーションに必要なことは何か考えることができる。					
11	確認テスト 演習 2 <事例を用いたグループワーク>	これまで学んだ内容を振り返り理解することができる。					
12	高度なコミュニケーション	コミュニケーションが困難な事例、ネガティブな患者の事例における対応を考える事ができる。					
13	看護コミュニケーション技法 <事例を用いたグループワーク>	提示された事例について看護面接の方法を検討し、ロールプレイについて理解することができる。					
14	看護過程におけるコミュニケーション 1	看護過程の中でコミュニケーションの必要性を理解し、看護過程の基本を理解することができる。					
15	看護過程におけるコミュニケーション 2	看護過程の中でコミュニケーションの必要性を理解し、看護過程の基本を理解することができる。					

留意事項(履修条件等)
看護専門領域の基礎となる科目です。基礎看護学実習、生活援助方法論、生活援助方法演習などの科目と直結する科目になります。またグループワークやロールプレイなどの演習も含まれているので、積極的に受講することが条件となります。
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。
授業時間外の学修(事前・事後学習)
科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習)に示されている内容の学修が必要です。 事前学習:日々の会話の中でも看護コミュニケーションにつながるヒントを見つけてください。 事後学習:毎回実施する小テストは看護師国家試験の過去問から出題しています。講義内容を復習して次の講義にのぞむようにしてください。
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
時間:火曜5限、木曜5限 場所:716
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)
教科書:「系統看護学講座 専門分野I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 第16版」;茂野香おる、医学書院 ISBN:978-4-260-01999-6 <u>*生活援助方法論でも使用</u> 参考書:「看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング」;篠崎恵美子・藤井徹也、医学書院、 2016年、ISBN:978-4-260-02063-3
最終到達目標
1. 看護コミュニケーションの必要性、重要性について説明することができる。 2. 良好な患者—看護師関係を考えることができ、様々な場面におけるコミュニケーションの取り方について考え理解することができる。
評価方法及び評価基準
期末試験50%、確認テスト20%、課題レポート10%、小テスト15%、演習の参加状況5%など配点得点を合計100点満点として総合評価する。
成績評価基準(学則第34条) S(100~90点): 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点): 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点): 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点): 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下): 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
学生へのメッセージ
自己の日常生活におけるコミュニケーションと照らし合わせながら、看護コミュニケーションについて考え方理解を深めてください。演習やグループワークには積極的に参加してください。

授業コード	ENG0901			定める 能力 デイプロマポリシーに 養成する	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	看護倫理		選択・必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/後期		単位数		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	河野保子				探求心							
講義目的												
看護は生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に展開しなければならない。看護を実践するうえにおいて、看護専門職として必要な倫理的視点を考察するとともに、医療倫理の原則や看護者の倫理綱領について把握し、看護実践への適用方法を理解することを目的とする。本講義は、看護実践の基盤となるものであり、患者中心の看護・医療の質保証を論じるときの根本原理を示す主要な科目である。												
授業内容												
医療における患者の人権について認識するとともに、患者主体の医療について学ぶ。患者の権利をめぐる歴史的変遷や権利擁護の重要性、医療従事者・看護者と倫理について理解し、看護専門職としての倫理的責務を認識する。さらに倫理的視点と看護実践、法的・倫理的ジレンマ、医療事故と医療過誤についても学修する。広く社会のあるいは医療上問題となる倫理的諸課題に対して事例をもとに検討し、倫理的認識を深める。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	医療はだれのものか。 ・グループ討議	医療における患者の主体性や医師・看護師の対応についてグループ別に討議を行い、倫理的問題や諸課題について医療従事者としての行動を分析できる。										
2	患者の権利をめぐる歴史的変遷	世界人権宣言や人権の現代的意義と課題等について理解するとともに、患者の権利獲得の状況をニュールンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ベルモントリポートから学ぶことができる。										
3	医療従事者と倫理 ・課題レポート	倫理とは、倫理原則とは、生命倫理・医療倫理とはについて理解できる。またインフォームドコンセント、自己決定権、守秘義務等の概念について理解できる。										
4	看護倫理	看護実践と倫理、看護師と倫理、職業倫理の原則等、看護行為をささえる倫理規範について理解できる。										
5	倫理的視点と看護実践	患者・家族との信頼関係、説明と同意、患者の権利擁護等の倫理原則を適用し、患者中心・主体的看護の重要性が理解できる。										
6	看護師の責務	法的な責任(医療法、保助看法)、倫理的な責任(専門職集団がもつ倫理綱領)等が把握できる。										
7	法的・倫理的ジレンマ ・事例検討	看護の現場で起こりうる価値観の対立について、事例をもとにグループ討議を行い、倫理的関心を培うことができる。										
8	医療事故と医療過誤	医療事故、医療過誤について認識し、看護実践の場で起こりうるリスクの把握と医療事故防止のための対応が理解できる。										
留意事項(履修条件等)												
専門用語や聞き慣れない言葉が多いため、教科書や資料等を参考に復習に力を入れてください。この講義をどうして、自分と異なる価値観に触れながら、自身の倫理的価値観を省察してください。配布された資料は、ファイルにとじてください。グループ討議では積極的な意見表明を期待いたします。												
課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについても講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習)に示されている内容の学修が必要です。

[事前学習]: 講義において学習課題が十分に理解できるためには、教科書の該当領域を事前に学習してください。特に 7 回目のグループ演習においては、グループメンバーの事前学習が重要になりますので各自、倫理原則を十分に理解して討議に臨んでください。

[事後学習]: 毎回の講義内容を理解するために、教科書・資料等を活用してノートを整理してください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

未定。講義開始時にお知らせいたします。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:

「看護倫理を考える・学ぶ」日本看護協会出版会 ISBN: 978-4-8180-1373-5

参考書:

プリントは講義時に配布いたします。参考書は適宜紹介いたします。

最終到達目標

1. 生命の尊重や人間の尊厳について説明できる。
2. 人間、患者個々の価値観の相違を理解し、看護職の倫理的対応について論じることができる。
3. 倫理的原則が理解でき、専門職看護者としての倫理的行動規範が説明できる。

評価方法及び評価基準

期末テスト 70%、課題レポート 20%、講義参加状況(積極的発言や意思表明、リアクションペーパー等)10%、配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準(学則第 34 条)

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| S(100~90 点) | : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80 点) | : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70 点) | : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60 点) | : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59 点以下) | : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure) |

学生へのメッセージ

- 各講義終了時に、Reaction Paper(リアクションペーパー)を書いていただきます。その内容に関してクラス全体で共有したいことがあれば、次回の講義時に報告・説明いたします。また個別指導においても活用させていただきます。
- 看護倫理は看護実践のベースになるものです。看護師は患者の権利擁護者であることを自覚・行動できることを期待いたします。

授業コード	ENH0101			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>	
科目区分	専門科目—基盤看護学—看護管理学				広い視野と 倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	看護管理学	選択・必修	必修		知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	村上早苗				探求心	<input type="radio"/>	
講義目的							
<p>従来、看護管理は、看護師長など管理者になる人が学ぶものという理解が多くあった。しかし、現在の看護管理学は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動として捉えられている。看護は対象者への援助であり、看護サービスを提供するためには、看護職同士の協働、多職種との連携、なにより対象者自身や家族の協力とともに、対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要になる。つまり、看護を提供できる知識と技術を持った人的資源、看護を提供するための環境や医療用機器などの物的資源、看護を提供するためにかかる費用の財的資源が必要である。これらの資源をどのように有効利用するかが重要であり、それを維持・活用するための「しくみ」が看護管理(マネジメント)である。チームや組織をつくり、動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割であることを理解できる。</p>							
授業内容							
<p>看護管理は、看護をしくみとして捉え、それがどのようにになっているのか、問題は何か、どのような改善策があるのか、どのようにすればよりよい看護が提供できるのかなどを追及するものである。そして、同時に多数の人々がともに働くための技である。チーム医療や多職種との協働の中で、看護を行うために必要な看護管理の概念を理解し、良質な看護を提供するためには、管理者のみならずすべての看護職が関わっていることを認識し、組織の中における看護職の役割、更に看護管理者の役割・機能を理解できる。また、実習施設における看護部門のマネジメントの実際から看護管理の必要性が理解できる。</p>							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	看護管理学とは	看護管理学の概念と看護管理の変遷、看護管理の機能(プロセス、管理のサイクルなど)を理解できる。					
2	看護ケアのマネジメント ①看護職の機能、患者の権利の尊重	看護ケアのマネジメントにおいて、重要となる看護職の機能を明確にするとともに、看護の対象者(患者)の権利について理解できる。					
3	看護ケアのマネジメント ②安全管理、チーム医療	看護ケアのマネジメントにおいて、安全管理は重要であり、医療事故対策、院内感染対策、災害対策について理解できる。患者のケアの質向上には、チーム医療は不可欠である。特にチーム医療における看護職の役割について理解できる。					
4	看護ケアのマネジメント ③看護業務の実践	看護業務の実践は、看護ケアそのものである。看護業務を実践していくうえで重要となる事柄を理解できる。					
5	看護サービスのマネジメント ①組織目的達成のマネジメント	看護サービスのマネジメントにおいて、組織目標達成に向け、どのようにマネジメントしていくのかが理解できる。					
6	看護サービスのマネジメント ②人材のマネジメント	看護サービスのマネジメントにおいて、人的資源のマネジメントは重要であり、その内容が理解できる。					
7	看護サービスのマネジメント ③施設・物品・情報のマネジメント	看護サービスのマネジメントのためには、物的資源管理も大切であり、その内容が理解できる。					
8	看護サービスのマネジメント ④サービスの評価 まとめ、総括	看護サービスのマネジメントにおいて、サービスの評価について理解できる。看護管理について小グループでの討議と発表をし、講義内容の振り返りを系統的・総合的に考察できる。					

留意事項(履修条件等)										
<p>次回の講義内容を事前に予習し、授業に臨んでください。授業で学んだ内容は、さらに関連事項を図書などで調べてください。配布された資料は、ファイリングしてください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>										
授業時間外の学修(事前・事後学習)										
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習：次回の授業内容の予習を行う。また、授業内容に関する課題は、自己学習をしてレポートにまとめ、提出すること。(提出期限遵守) 専門的な用語等が多くあるため、分からぬ内容は授業中に質問できるようにまとめておくこと。</p> <p>事後学習：講義中に指示した課題についてレポートの提出を行うこと。 毎回の授業前に、前授業内容に関する小テストを行うため、授業の復習は行うこと。</p>										
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)										
授業中に提示します。										
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)										
<p>教科書： 「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理」：医学書院 ISBN: 978-4-260-03182-0</p> <p>参考書： 「Basic & Practice 看護学テキスト統合と実践—看護管理」：学研メディカル秀潤社 ISBN: 978-4-7809-1102-2</p>										
最終到達目標										
<ol style="list-style-type: none"> 看護管理の基礎知識が説明できる。 看護におけるマネジメントが説明できる チーム医療に必要な機能や連携・協働の重要性、チーム医療における看護職の役割について説明できる 看護サービスのマネジメントにおいて、人的資源、物的資源管理について説明できる。 患者中心の良質な看護を提供するために必要なサービスの質評価について説明できる。 										
評価方法及び評価基準										
<ul style="list-style-type: none"> 期末試験 80%, 課題レポートおよび小テスト 10%, グループワークの参加状況と発表 10%など配点得点を合計100点満点として総合評価する。 課題レポートおよび小テストは期末試験に繋がっています。また、期末テストの内容は看護師国家試験の内容を踏まえて作成する。 										
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90点) :</td> <td>学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) :</td> <td>学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) :</td> <td>学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) :</td> <td>学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) :</td> <td>Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) :	Cのレベルに達していない (Failure)
S(100~90点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)									
A(89~80点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)									
B(79~70点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)									
C(69~60点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)									
D(59点以下) :	Cのレベルに達していない (Failure)									
学生へのメッセージ										
<p>看護管理は管理者が実施するだけのものではなく、看護を提供する全職員が関わっていることを認識し、組織の中における看護職の役割について、考えをまとめておきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義に関係する教科書(指定したページ)や配布した資料は目を通して講義に臨んでください。 課題は、自己学習をしてレポートにまとめて提出してください。 										

授業コード	ENH0201			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>												
科目区分	専門科目—基盤看護学—看護管理学				広い視野と 倫理観	<input type="radio"/>												
授業科目名	組織とリーダーシップ論	選択・必修	選択		知識・技術	<input type="radio"/>												
配当学年/学期	4年 /後期	単位数	1		判断力	<input type="radio"/>												
担当教員	村上早苗				探求心	<input type="radio"/>												
講義目的	看護職のキャリア形成や組織におけるリーダーシップについての考え方を理解する。病院などの組織で意欲的に継続的に働くための行動科学の諸理論を理解する。実際の病院における看護部の役割を理解し、効果的なリーダーシップの役割行動や看護師のキャリア開発に必要な教育計画なども理解できる。																	
授業内容	組織は、その組織の目標、目的、理念、戦略、方針、計画に基づいて組織化される。マネジメントは、組織が目標を達成するために、効率的、効果的に活動し、成果をあげるために必要な活動である。組織の円滑なマネジメントのためには、個人のリーダーシップが大きな影響を果たす。リーダーシップは、組織のなかの集団の人間関係において、重要な概念である。組織・集団の概念、集団の力動的機能、人間行動学的理論について学ぶとともに、リーダーシップの定義、集団の活性化、状況対応リーダーシップ、フォロワーへのアプローチについて理解できる。さらに看護師のキャリア開発、医療機関における看護職のキャリア開発の仕組み、組織変革のアプローチについて理解を深める。																	
授業計画及び学習課題																		
回	標 題	学習課題																
1	組織とマネジメント	組織構造と組織原則、マネジメントの基本について理解できる。																
2	リーダーシップの本質とは、看護業務における組織と個の関係、アシストできる能力の必要性	有機的ヒエラルキーの模式図、看護職者の自覚と組織・個の関係について理解できる。																
3	リーダーシップとマネジメント	リーダーシップの定義、特性理論、行動理論、リーダーシップ・グリッド、条件適合理論などについて理解できる。																
4	状況の構造的把握と問題意識、コミュニケーション能力	組織における人間および人間関係についての諸理論について理解できる。																
5	看護管理者のリーダーシップの重要性、看護管理者の置かれる時代・環境の変化	看護管理者にとってのリーダーシップ、サービス業としての医療、ヒューマン・サービス関連活動について理解できる。																
6	リーダーの役割、リーダーの資質と能力	成功したリーダーによくある特性とスキル、影響あるリーダーシップ特性について理解できる。																
7	看護職のキャリア開発	サービス・プロフィット・チェーン、キャリア志向と適合認知度のスコアの平均値・標準偏差および人数・構成比、女性の年齢階級別労働率、個人別キャリア形成のための条件設定、キャリア開発モデルの一例について理解できる。																
8	まとめ、総括	組織におけるリーダーシップについて、小グループでの討議と発表、講義内容の振り返りにおいて系統的・総合的に考察できる。																
留意事項(履修条件等)																		
次回の講義内容を事前に予習し、授業に臨んでください。授業で学んだ内容は、さらに関連事項を図書などで調べてください。配布された資料は、ファイリングしてください。																		
確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度、講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。																		

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習)に示されている内容の学修が必要です。

事前学習: 次回の授業内容の予習を行う。また、授業内容に関する課題は、自己学習をしてレポートにまとめ、提出すること(提出期限遵守)。専門的な用語等が多くあるため、分からぬ内容は授業中に質問できるようにまとめておくこと。

事後学習: 講義中に指示した課題についてレポートの提出を行うこと。

毎回の授業前に、前授業内容に関する小テストを行うため、授業の復習は行うこと。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業中に提示します。

教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)

教科書:

「系統看護学講座統合分野看護の統合と実践[1]看護管理」医学書院 ISBN: 978-4-260-03182-0

参考書:

「看護管理学習テキスト第2版第1巻看護管理概説」日本看護協会出版会 ISBN: 978-4-8180-2041-2

「看護管理学習テキスト第2版第4巻看護における人的資源活用論」日本看護協会出版会 ISBN: 978-4-8180-2044-3

最終到達目標

- 組織の構造とその原則、マネジメントとの関連について説明できる。
- 組織における人間および人間関係についての諸理論について説明できる
- 組織の構成員を調整する要素、そして問題解決の方法を説明できる
- 組織のなかにおいて、意思決定などの個人の能力を広げるための要素について説明できる。
- 組織の中でなかで、自身にキャリアをどのように形成していくべきかを考察できる。

評価方法及び評価基準

・期末試験 80%, 課題レポートおよび小テスト 10%, グループワークの参加状況と発表 10%など配点得点を 100 点満点として総合評価する。

・課題レポートおよび小テストは期末試験に繋がっています。また、期末テストの内容は看護師国家試験の内容を踏まえて作成する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

・講義に関する教科書(指定したページ)や配布した資料は目を通して講義に臨んでください。

・課題は、自己学習をしてレポートにまとめ講義に出席してください。レポートは提出します。

・リーダーシップは先天的なものではなく、後天的に身に付けることができるものです。講義を受ける前のリーダーシップについての考え方をまとめておきましょう。

授業コード	ENI0101			定める 能力 デイプロマポリシーに 養成する	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目—発達看護学—小児看護学				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	小児看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	三並めぐる				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
1.小児看護学概論では、小児看護の理念や特徴を学び、各小児期における成長・発達過程を理解し、小児看護の基本を修得する。							
2.小児を取り巻く生活環境や家族とのかかわりを学び、健康障害が小児とその家族に及ぼす影響について理解し、小児看護の対象者への最善の利益を考えた援助および小児看護の役割についての基本を修得する。							
授業内容							
小児と家族がおかれている状況について、諸統計資料や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について学ぶ。小児の成長・発達の基本的知識を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について理解できる。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような援助のあり方について思考し、小児看護への関心意欲を高められる内容とする。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	小児看護学概論オリエンテーション 小児看護とは 小児看護の歴史と課題 小児の人権	小児看護の対象、小児看護の目的、子どもの最善の利益を目指した小児看護師の役割と責務、小児看護の歴史的変遷と課題、小児の人権について理解できる。 P1-25					
2	小児看護における理論 小児看護における法律	小児看護の対象理解に役立つ3つの理論について理解できる。小児と家族を支援するための法律の概要と施策について理解できる。 P26-38					
3	遊びと教育 小児と家族	小児にとっての遊びと教育の意義、学習の機会の保障について理解できる。システムとしての家族と小児看護における小児と家族中心のケアについて理解できる。 P39-56					
4	健康増進に向けた政策 健康増進のための社会制度 小児をとりまく環境と対策	小児と家族の健康増進のための政策・法律、予防接種、死因順位と死亡率、セーフティプロモーションについて理解できる。 P57-78					
5	小児の成長・発達の基礎知識、子どもの栄養	成長・発達の一般的原則、成長・発達に影響する因子、成長・発達のプロセスと評価について理解できる。 P79-96					
6	新生児期の看護	新生児期の形態的、機能的、心理・社会的発達の特徴、母子関係を促進する援助について理解できる。 P97-107					
7	乳児期の看護	乳児期の形態的、機能的、心理・社会的発達の特徴、日常生活の援助について理解できる。 P108-120					
8	幼児期の看護	幼児期の形態的、機能的、心理・社会的発達の特徴、日常生活の援助について理解できる。幼児期に起こりやすい健康問題と看護について理解できる。 P121-129					
9	学童期の看護	学童期の形態的、機能的、心理・社会的発達の特徴、日常生活の援助について理解できる。学童期に起こりやすい健康問題と看護について理解できる。 P130-143					
10	思春期の看護	思春期の形態的、機能的、心理・社会的発達の特徴、日常生活の援助について理解できる。思春期に起こりやすい健康問題と看護について理解できる。 P144-157					

11	先天性障害のある小児と家族の看護	先天性障害のある小児と家族の特徴について理解できる。 先天性障害のある小児の成長・発達に応じた総合的・継続的なケアと他職種との連携について理解できる。P292-303					
12	身体障害・発達障害のある小児と家族の看護	身体障害のある小児と家族の現状、脳性麻痺、重症心身障害のある小児と家族の看護について理解できる。発達障害の種類と特徴、発達障害のある小児と家族の看護について理解できる。P340-352 P353-360					
13	児童虐待を受けた小児と家族の看護	児童虐待に対する看護職と機関連携、虐待を受けた小児と家族に対するケアの基本と予防、早期発見に向けた支援について理解できる。P361-371					
14	災害を受けた小児と家族の看護	災害を受けた小児に起こりやすい症状や状況、災害を受けた小児や家族へのケアについて理解できる。P372-376					
15	救急における小児と家族の看護	小児救急医療をめぐる諸問題と看護師の役割、小児の事故・外傷の特徴が理解できる。P272-282					
留意事項(履修条件等)							
小児看護学に関する初めての科目であり、小児看護学を学ぶ上で基盤となる重要な内容を取り上げます。子どもを理解するために、できるだけ子どもに関する文献や報道等に注目し情報収集を行うなど、主体的に学ぶことを求めます。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。							
授業時間外の学修(事前・事後学習)							
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。事前に提示する課題(予習・復習)について、自己学習をして講義に臨んでください。 事前学習: 教科書を読み、事前に提示された学習課題を行って授業に臨んでください。 事後学習: 教科書を読み返すとともに授業中に配付された資料等で授業内容を復習し、指示された課題を行ってください。							
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)							
時間: 水曜日の昼休みと3限目 場所: 研究室 708							
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)							
教科書:『小児看護学概論 改訂第3版』二宮啓子 今野美紀編、南江堂 ISBN:978-4-524-25982-3							
最終到達目標							
1. 各小児期の成長・発達の特徴と小児と家族への支援・アプローチ小児看護の基本について理解できる。 2. 小児と家族を取り巻く環境を理解し、最善の利益を考えた援助および小児看護の役割について理解できる。							
評価方法及び評価基準							
期末試験 60% 確認テストおよび課題レポート 30% 講義参加態度 10%で総合的に評価する。							
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)							
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)							
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)							
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)							
学生へのメッセージ							
子どもは愛されて、成長・発達する存在です。子どもは皆さんの元気と笑顔を待っています。子どもと家族の人権と個別性を考えながら根拠に基づいた小児看護学の基本について学びを深めてください。							

授業コード	ENI0201			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目—発達看護学—小児看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	小児看護援助論 I	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
小児は常に成長・発達過程にあることをふまえ、さまざまな健康問題や疾病経過が、小児とその家族に及ぼす影響について理解する。さらに、健康に問題がある小児と家族に対する、最善の利益を守るために必要な看護の基本的知識や方法を理解することを目的とする。							
授業内容							
小児の心身の健康問題が小児と家族に及ぼす影響について考え、健康に問題がある小児の欲求に応じた、適切な看護の方法について理解する。具体的には、病気・障害や入院が小児や家族に及ぼす影響を理解し、療養環境や疾病的経過における小児と家族への看護について基礎的な知識を修得できるようにする。さらに、小児が主体的に治療・処置・検査に取り組むことができるような看護師の関わり方について理解する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	外来・入院における小児と家族の看護	療養環境にある小児の外来・入院での看護師の役割、環境調整、発達段階に応じた看護の継続・連携の必要性が理解できる。 P214-237					
2	在宅療養している小児と家族への看護 感染症のある小児と家族への看護	在宅における小児と家族への看護について理解し、説明できる。また、感染症のある小児と家族への影響とその看護を理解できる。 P 238-248, P 330-339					
3	症状別にみる小児の看護 1	急性期にある小児の特徴を学び、小児と家族に必要な看護を理解する。特に、急性期によくみられる症状(発熱、脱水、嘔吐、下痢など)とその看護を理解できる。 P165-190					
4	症状別にみる小児の看護 2	急性期にある小児の特徴を学び、小児と家族に必要な看護を理解する。特に、生命の危機的な状況(痛み、発疹、呼吸困難、けいれん)と捉えられる症状とその看護を理解できる。 P160-164, P191-212					
5	長期療養が必要な小児と家族の看護	長期療養が必要な小児と家族の特徴、生活制限のある小児と家族への支援方法や留意点を理解できる。退院から在宅への移行期に必要な看護を理解できる。 P304-319					
6	検査・処置を受ける小児と家族の看護	小児にとっての治療、検査・処置の意味を学び、成長・発達段階に応じた適切な看護を理解できる。 P249-259					
7	手術を受ける小児と家族の看護	手術を受ける小児の特徴を学び、小児と家族に必要な看護を理解できる。また、手術による身体的・精神的影響やプレパレーションの重要性、苦痛の軽減や合併症の予防など、成長・発達段階に応じた適切な看護を理解できる。 P260-271					
8	がんの小児と家族への看護 終末期における小児と家族の看護	小児がんの特徴、がんの小児と家族のおかれる状況、がんと闘う小児と家族への関わり方を理解できる。小児の終末期の特徴、生命や死についての捉え方を学び、小児と家族への看護を理解できる。 P320-329, P283-290					

留意事項(履修条件等)					
健康に問題がある小児と家族について学びながら必要な看護方法を考えていく科目です。「小児看護学概論」で学んだ各小児期の成長・発達の特徴や生活援助の基本的知識が不可欠となりますので、復習した上で講義に臨んでください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。					
授業時間外の学習(事前・事後学習)					
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学修課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習: 講義内容を確認して教科書の該当項目を予習し、疑問点をまとめておく。 事後学習: 教科書・講義資料を振り返って復習すると共に、予習で抽出した疑問点が解決できたかを確認する。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
場所: 各研究室(三並研究室 708、羽藤研究室 709) 曜日・時間: 毎週水曜日 12:30~14:30					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書:『小児看護学概論 改訂第3版』二宮啓子 今野美紀編、南江堂 ISBN:978-4-524-25982-3 参考書:『発達段階からみた小児看護過程+病態関連図』医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0					
最終到達目標					
1. 病気や入院が小児や家族に及ぼす影響を説明できる。 2. さまざまな療養環境や疾病の経過における小児と家族に対する適切な看護の方法について説明ができる。 3. 小児が主体的に治療・処置・検査に取り組むことができる看護師の関わり方を修得することができる。					
評価方法及び評価基準					
期末試験: 60%、確認テストおよび課題レポートの提出状況と内容: 20%、講義参加状況および態度: 20% で総合的に評価する。					
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D (59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D (59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D (59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
あらかじめ教科書に目を通し、概要を把握して参加してください。また、事前に提示された課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。					

授業コード	ENI0301			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	
科目区分	専門科目—発達看護学—小児看護学				広い視野と倫理観	
授業科目名	小児看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術 ○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心 ○	
講義目的						
本科目ではさまざまな健康障害がある子どもと家族に対する健康状況を的確にアセスメントする。また、適切な看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を養うとともに、事例に基づいた看護過程の展開を学修することを目的とする。						
授業内容						
子どもの健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を考え、子どもの健康状態を的確にアセスメントすることができる。さらに、病気や入院中であっても子どもの成長・発達を促し、子どもが主体的に治療・処置に取り組むことができるよう看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。小児期にみられる疾患についての看護過程の展開を通して、子どもと家族の健康レベルに応じた看護援助方法について学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	標題	学習課題				
1	オリエンテーション(概要) アセスメント技術 コミュニケーション技術	15回で学習する講義・演習の内容について理解できる。 成長・発達過程を踏まえた健康歴・全身状態のアセスメント技術を理解し、説明できる。P 2-12				
2	コミュニケーション技術 — プレパレーション	コミュニケーションの目的や遊びの援助の重要性を理解し、説明できる。医療処置の際に、小児の力を引き出す技術について理解し、説明できる。P 46-74				
3	日常生活援助技術・アセスメント技術 1 ①環境整備 ②危険防止(転落・転倒防止等) ③バイタルサイン測定 ④身体計測	成長発達段階を考慮した環境調整を行うことで、入院生活の安全を保障するとともに、その子らしい生活が送れるような援助方法を考えることができる。 小児におけるバイタルサイン測定・身体計測の特徴を理解し、説明できる。P 224-229, P 13-44				
4	日常生活援助技術・アセスメント技術 2 ①環境整備 ②危険防止(転落・転倒防止等) ③バイタルサイン測定 ④身体計測	成長発達段階を考慮した環境調整を行い、小児におけるバイタルサイン測定の特徴を考慮し、子どもの状態を客観的かつ適切にアセスメントができる。				
5	日常生活援助技術 1 ①清潔(全身清拭・臀部浴・陰部洗浄など) ②更衣 ③排泄(おむつ交換)④採尿	子どもの成長・発達に応じた清潔・排泄に関する基礎知識を理解し、説明できる。P 183-206, P 83-86				
6	日常生活援助技術 2 ①清潔(全身清拭・臀部浴・陰部洗浄など) ②更衣 ③排泄(おむつ交換)④採尿	子どもの成長・発達に応じた清潔・排泄に関する基礎的な技術を習得できる。				
7	検査・処置技術 1 ①固定・抑制 ②酸素療法・吸入 ③吸引	処置・検査・治療などを安全に行うための身体の一部または全身の運動制限に必要な基礎的知識、状況に適した呼吸・循環を整える基礎的知識を理解し、説明できる。P 154-160, P 148-153, P 132-147, P 207-213				
8	検査・処置技術 2 ①固定・抑制 ②酸素療法・吸入 ③吸引	処置・検査・治療などを安全に行うために、身体の一部または全身の運動制限に必要な基礎的技術、状況に適した呼吸・循環を整える基礎的技術を習得できる。				
9	検査・処置技術 3 ①与薬(経口・坐薬) ②与薬(点滴静脈内注射・シーネ固定) ③与薬(点鼻・点耳・点眼)	成長・発達段階に応じた安全な与薬の基礎的知識を理解し、子どもが与薬に協力・参加するための技術を説明できる。P 103-131				

10	検査・処置技術 4 ①与薬(経口・坐薬) ②与薬(点滴静脈内注射・シーネ固定) ③与薬(点鼻・点耳・点眼)	成長・発達段階に応じた安全な与薬の基礎的技術を習得できる。また、子どもが与薬に協力・参加するための技術を習得できる。
11	救急救命処置技術(一次・二次救命処置)	一次救命処置の知識を理解でき、気道確保・胸骨圧迫・人工呼吸・AED 使用の正確な知識技術、二次救命処置の知識を理解し、説明できる。P 231-250
12	救急救命処置技術(一次・二次救命処置)	一次救命処置の知識を理解でき、気道確保・胸骨圧迫・人工呼吸・AED 使用の正確な技術を習得できる。二次救命処置の知識を理解し、説明できる。P 231-250
13	小児の看護過程 1 総論・事例のアセスメント	小児の発達段階における特徴を踏まえながら、疾患及び各種のデータの把握とその理解をし、情報収集から分析・アセスメント・看護過程の展開ができる。
14	小児の看護過程 2 看護診断・看護計画の立案	事例から看護診断を行う。また、看護診断から患児に必要な個別性かつ具体性のある看護計画を立案することができます。
15	小児の看護過程 3 まとめ	看護過程の展開をグループワークで振り返ることができます。
留意事項(履修条件等)		
小児看護学概論、小児看護援助論 Iなどの知識が基盤となる。復習した上で講義に臨んでください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学習(事前・事後学習)		
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習: 講義内容を確認し、教科書の該当項目を予習し、手順や根拠をしっかりと理解して臨んでください。 事後学習: 教科書・講義資料を復習してください。放課後の時間を使用して、看護技術を練習してください。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
場所:各研究室(三並研究室 708、羽藤研究室 709)曜日・時間:毎週水曜日 12:30~14:30		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書:「小児看護技術 子どもと家族の力を引き出す技」、南江堂、ISBN: 978-4-524-25983-0 参考書:「根拠と事故防止からみた小児看護技術」、医学書院、ISBN:978-4-260-02500-3 図書館で確認できます。 「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0		
最終到達目標		
1. 小児特有の看護技術を理解し、発達段階および子どものニーズに応じた援助方法を考え、実施できる。 2. 健康障害をもつ子どもと家族を包括的に捉えた上でアセスメントし、看護実践の方法を習得できる。		
評価方法及び評価基準		
期末試験・課題(技術確認テストを含む)60%、授業への参加姿勢や態度 40%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。		
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</p>		
学生へのメッセージ		
小児は、さまざまな援助の在り方も成人とは異なります。小児看護学概論や小児看護援助論 I の内容を理解し、根拠を示すことができる準備状態の上で、授業に臨んでください。これが授業参加の前提条件となります。		

授業コード	ENI0401			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野と倫理観	
授業科目名	小児看護援助論Ⅲ	選択・必修	選択		知識・技術 ○	
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心 ○	
講義目的	小児とその家族をより理解するための理論の活用の仕方や、小児と家族への適切な援助に役立つ知識の統合について学び、小児看護実践能力につなげられることを目的とする。					
授業内容	小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱにおける学修を基盤として、小児と家族をより理解するために必要な理論や文献レビューを活用しながら、適切な看護や教育・指導、多職種協働によるチームアプローチの必要性について理解できる。具体的には、先天性疾患あるいは心身に障害をもちながら生活している小児と家族や、慢性疾患や障害を抱えながら成人期に移行する小児と家族、こころのケアが必要な小児と家族などに焦点をあてる。					
授業計画及び学習課題						
回	標題	学習課題				
1	小児看護学に関する概念および理論とその活用	成長発達段階にある小児を理解し看護実践する上で重要な諸理論について理解することができる。(ピアジエ、ボウルビィ、エリクソンなど) 概論 P26-32				
2	小児の家族を理解するための理論とその活用	小児を取り巻く家族を理解し看護実践する上で重要な諸理論について理解することができる。 (家族発達理論、セルフケア理論、ストレスコーピング理論など) 概論 P47-56				
3	先天的な疾患や障害を抱えながら生活する小児と家族への支援	先天的な健康問題をもつ小児と家族への看護に必要な基礎知識を理解できる。(ハイリスク新生児、NICUに入院する児、先天性障害など) 概論 P292-303				
4	心身障害のある小児と家族への支援	心身に障害をもつ小児と家族への看護に必要な基礎知識を理解できる。(脳性麻痺、発達障害、重症心身障害など) 概論 P340-360				
5	慢性疾患を抱えながら成人期に移行する小児と家族への支援	成人への移行期にある健康障害のある小児と家族への看護に必要な基礎知識を理解できる。(糖尿病、気管支喘息など) 概論 P304-319				
6	こころのケアが必要な小児と家族への支援	虐待が小児に与える影響を学び、被虐待児およびその家族への看護を学修することができる。 概論 P361-371 災害を受けた小児の心と身体への影響を学び、災害時的小児と家族への看護について学修することができる。 概論 P372-376				
7	小児と家族への教育・指導 (小児科外来・在宅支援における看護など)	外来看護師の果たす役割、外来看護の現状や課題を理解できる。 概論 P214-223 在宅療養を必要とする小児と家族の特徴を学び、必要な看護を学修することができる。 概論 P238-248				
8	小児看護を支えるチームアプローチ・多職種との協働	小児とその家族を継続的にケアするためのチームアプローチ・多職種との連携について学修することができる。 概論 P6, P241-243 他				

留意事項(履修条件等)					
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習を履修し単位を取得していることが条件となります。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修が必要です。 事前学習：講義内容を確認し、教科書の該当項目を予習し、疑問点をまとめておいてください。 事後学習：教科書・講義資料を振り返り、復習するとともに、予習時に抱いた疑問点が解決できたかを確認する。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
場所：各研究室(三並研究室 708、羽藤研究室 709) 曜日・時間：毎週水曜日 12:30～14:30					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書：「小児看護学概論 改訂第3版」二宮啓子 今野美紀編、南江堂 ISBN:978-4-524-25982-3 「小児看護技術 子どもと家族の力を引き出す技」、南江堂、ISBN: 978-4-524-25983-0 (小児看護学概論・援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用)					
参考書：「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0 図書館にありますので、自主的に該当箇所を確認し、深く理解してください。 その他、適宜資料を提示・配布する。					
最終到達目標					
1. 小児と家族をより理解するための理論や既習の知識を活用することができる。 2. 既存の知識を統合して、長期的・潜在的健康問題を抱えている小児と家族への看護を考えることができる。 3. 小児と家族への支援のための多職種協働によるアプローチを学ぶ。					
評価方法及び評価基準					
グループワークの参加状況30%、プレゼンテーション20%、期末試験40%、課題10%で総合的に評価する。					
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
教科書や配布資料に目を通して内容を把握し、必要に応じて文献学習をしてください。また、授業時間外の学習が必要となりますので、グループワーク開始までに個人で進める必要がある課題を行った上で、グループワークに参加してください。					

授業コード	ENI0501			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野と 倫理観							
授業科目名	小児看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○						
講義目的	さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族を的確にアセスメントしたうえで、対象にあった看護を提供するために必要な技術を身につけることを目的とする。											
授業内容	小児看護援助論Ⅱでの学修を基盤として、さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族に対し、必要な看護を提供できるための技術を身につける。そのために、小児の解剖生理学的特徴をふまえた正しい知識をもとに、発達段階や健康状態にあわせた用具を選択し、子どもや家族にわかりやすく、納得を得る説明方法を考え、子どもの反応を確認しながら実施するための技術を習得する。また、子どもの家族の思いに沿った適切なコミュニケーションのあり方についても学ぶ。小児看護で必要な技術(輸液管理、経管栄養、浣腸、救急蘇生など)について演習を通して技術を習得する。											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	オリエンテーション、演習準備	さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族の事例に対して的確なアセスメントをし、必要な看護援助方法を考えることができる。										
2	技術演習 1 ①輸液管理 ②経管栄養 ③浣腸	子どもの健康レベルや発達段階に応じ、必要な看護援助技術(例:輸液管理、経管栄養、浣腸など)の根拠をふまえながら計画・実施・評価することができる。										
3	技術演習 2 ①輸液管理 ②経管栄養 ③浣腸	子どもの健康レベルや発達段階に応じ、必要な看護援助技術(例:輸液管理、経管栄養、浣腸など)の根拠をふまえながら計画・実施・評価することができる。										
4	技術演習 1 ①子ども・家族とのコミュニケーション、ロールプレイ	治療・処置・検査場面などの事例から、子どもの健康レベルや発達段階、家族の状況に応じた説明内容および方法について考えることができる。さらに、ロールプレイを実施し、それに対する反応から評価することができる。										
5	技術演習 2 ①子ども・家族とのコミュニケーション、ロールプレイ	治療・処置・検査場面などの事例から、子どもの健康レベルや発達段階、家族の状況に応じた説明内容および方法について考えることができる。さらに、ロールプレイを実施し、それに対する反応から評価することができる。										
6	技術演習 1 ①救急蘇生	子どもの身体の構造的・生理的特徴を考慮した救急蘇生法に関する基礎知識と技術を理解できる。										
7	技術演習 2 ①救急蘇生	子どもによくみられる、外傷や急病に対する応急処置についての基礎知識と技術を理解できる。										
8	演習の評価のまとめ	1～7回目までの技術演習の振り返りを行うことができる。										
留意事項(履修条件等)												
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習を履修し単位を取得していることが条件です。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												

授業時間外の学修(事前・事後学習)
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修が必要です。
事前学習：講義内容を確認し、教科書の該当項目を予習した上で授業に臨んでください。また、演習を実施するにあたり、手順や根拠をしっかりと理解して臨んでください。
事後学習：教科書・講義資料をふりかえり復習して、演習に臨んでください。また、演習時間に実施できなかった場合は、放課後の時間を使用して、看護技術を復習すること。
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
場所：各研究室(三並研究室 708、羽藤研究室 709) 曜日・時間：毎週水曜日 12:30～14:30
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)
教科書：「小児看護学概論 改訂第3版」二宮啓子 今野美紀編、南江堂 ISBN:978-4-524-25982-3 「小児看護技術 子どもと家族の力を引き出す技」、南江堂、ISBN: 978-4-524-25983-0 (小児看護学概論・援助論I・II・IIIで使用)
参考書：「根拠と事故防止からみた小児看護技術」、医学書院、ISBN:978-4-260-02500-3 「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0
最終到達目標
1. 小児と家族の状況にあった適切な看護を提供するための技術を修得することができる。 2. 小児の解剖生理学的特徴や健康状態にあわせた技術の提供方法を考えることができる。 3. 検査・処置を受ける小児の発達段階に応じた説明や、子どもの主体性を促す関わりについて考えることができる。 4. 子どもの親との関係構築の基本を理解することができる。
評価方法及び評価基準
期末試験 60%、小テストおよび課題レポートの提出状況と内容 20%、講義・演習の参加状況および態度 20%で総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
教科書に目を通し、概要を把握するとともに、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義・演習に臨んでください。

授業コード	ENI0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	小児看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○						
講義目的	小児看護に関連するさまざまな機関・施設の見学を通して、小児の療養環境の実際や、母子保健を支える社会資源について現状を把握し、質の高い小児看護を提供するための組織・環境について学ぶことを目的とする。											
授業内容	小児看護に関連する機関・施設の見学や、そこで働く職員および療養する小児や家族へのインタビュー、観察などを通して、小児の療養環境や健康増進、療養に必要な社会資源の現状と課題について情報を整理する。そこから、既存の知識に照らして小児の望ましい療養環境や母子保健を支える社会資源、ネットワークの活用について理解することができる。											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	小児の療養に必要な社会資源について	小児の療養に必要な社会資源の現状を知り、小児医療の特徴や役割を理解し、説明できる。										
2	母子保健を支える社会資源について	母子保健を支える社会資源の現状を知り、ネットワークの活用について理解し、説明できる。										
3	グループワーク 1【学外演習の計画立案】	施設の見学訪問に向けて、グループメンバーで演習計画および看護ケアを立案することができる。										
4	関連機関見学:療育センターなど	療養する小児の観察やインタビュー、施設の見学を通して、小児の療養環境を理解し、課題について考えることができる。										
5	関連機関見学:療育センターなど	療養する小児の観察やインタビュー、施設の見学を通して、小児の療養環境を理解し、課題について考えることができる。										
6	関連機関見学:療育センターなど	療養する小児の観察やインタビュー、施設の見学を通して、小児の療養環境を理解し、課題について考えることができる。										
7	グループワーク 2【施設見学後の振り返り】	4～6回目の学びを振り返り、現状と課題を分析することができる。										
8	小児の療養環境と社会資源の現状と課題について:発表	ディスカッションした内容をグループごとに発表し、学びを共有することができる。										
留意事項(履修条件等)												
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習を履修し単位を取得し、かつ、小児看護選択・強化プログラム選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定(授業の出席状況)に準ずる。												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修が必要です。

事前学習(1~2 時間):

講義や演習について、主体的に情報収集や予習を行ったうえで、授業やグループワークに参加してください。

事後学習(1~2 時間):

学習課題を達成できるよう、個人およびグループで協力し、ディスカッションを深めてください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

場所: 各研究室(三並研究室 708、羽藤研究室 709)

曜日・時間: 毎週水曜日 12:30~14:30

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「小児看護学概論 改訂第 3 版」二宮啓子 今野美紀編、南江堂 ISBN:978-4-524-25982-3

「小児看護技術 子どもと家族の力を引き出す技」、南江堂、ISBN: 978-4-524-25983-0

参考書: 「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0

必要に応じて資料を配布する。

最終到達目標

1. 小児看護に関連する機関・施設の見学を通して、小児の療養環境や社会資源の現状を把握することができる。
2. 小児の望ましい療養環境や母子保健を支える社会資源の活用について課題を明確にすることができる。

評価方法及び評価基準

講義およびグループワークの参加状況 40%、プレゼンテーション 20%、課題レポート 40% で総合的に評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

教科書や事前に配布する資料に目を通し、自己学習をして目標をもってその目標が達成されるように万全な準備をして学外演習に臨んでください。

授業コード	ENI0701			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	小児看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○						
講義目的												
小児看護援助論・小児看護技術論・学外演習等で学んだ知識・技術の内容をもとに、小児看護学実習で担当した患者事例を用いた看護実践を振り返り、関心のある小児疾患の事例検討を学ぶことで、よりより小児看護ケアに必要な知識と技術の統合をはかる。												
授業内容												
小児看護学の講義・演習・実習で学んだ基礎的知識・基本技術を基盤とし、いかなる状況においても小児の成長・発達を促し、小児と家族の最善の利益を守りながら、健康問題における優先性を判断することのできる能力を養う。その判断や予測に基づいて適切な看護を提供するための応用的な看護実践能力の習得を目指す。さらに、このを通じて、学生から専門職業人への移行に伴う責任の自覚をもち、小児看護における自己の課題を明確にすることができる。												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	小児と家族の健康問題に応じた看護 1 事例紹介・事例検討	4～5事例をグループに分かれ、事例検討する。 小児の成長・発達段階に応じた形態的・身体的生理の特徴を理解した上で、小児と家族の状況をアセスメントすることができる。										
2	小児と家族の健康問題に応じた看護 2 情報収集・情報の分析	事例について、データ収集、データの整理・分析を繰り返し、問題の明確化をすることができる。										
3	小児と家族の健康問題に応じた看護 3 計画立案	事例について、看護計画を立案することができる。 (目標の設定、具体的なケア計画)										
4	小児と家族の健康問題に応じた看護 4 演習準備	事例について、看護計画を実施(演習)するために必要なケア内容の選択・決定をし、準備することができる。										
5	小児と家族の健康問題に応じた看護 5 演習発表・討議	事例について、グループごとに発表し討議することができる。										
6	小児と家族の健康問題に応じた看護 6 演習発表・討議	事例について、グループごとに発表し討議することができる。										
7	小児と家族の健康問題に応じた看護 7 演習発表・討議	事例について、グループごとに発表し討議することができる。										
8	小児と家族の健康問題に応じた看護 まとめ	様々な事例を通して小児と家族の健康問題に応じた看護について学びを深め、小児看護における自己の課題を明確にすることができる。										
留意事項(履修条件等)												
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習を履修し単位を取得し、かつ、小児看護選択・強化プログラム選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定(授業の出席状況)に準ずる。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修が必要です。

事前学習(1~2 時間) : 講義内容を確認し、教科書の該当項目を予習し、疑問点をまとめておいてください。

事後学習(1~2 時間) : 教科書・講義資料を振り返って復習するとともに、予習で書き出した疑問点が解決できたかを確認する。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

場所: 各研究室(三並研究室 708、羽藤研究室 709)

曜日・時間: 毎週水曜日 12:30~14:30

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「小児看護学概論 改訂第 3 版」二宮啓子 今野美紀編、南江堂 ISBN:978-4-524-25982-3

「小児看護技術 子どもと家族の力を引き出す技」、南江堂、ISBN: 978-4-524-25983-0

参考書: 「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0

最終到達目標

- 既習の理論、知識と技術を統合し、小児看護実践への応用が考えられる。
- 学部小児看護の学修の集大成として、専門職業人への移行に伴う責任を自覚し、小児看護における自己の課題を明確にすることができる。

評価方法及び評価基準

期末試験 60%、小テストおよび課題レポートの提出状況と内容 20%、講義参加状況および態度 20%で総合的に評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ 留意事項(履修条件等)

教科書や配布資料に目を通して内容を把握し、必要に応じて文献学習をしてください。また、授業時間外の学習が必要となりますので、グループワーク開始までに個人で進める必要がある課題を行った上で、グループワークに参加してください。

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修が必要です。

事前学習(1~2 時間) : 講義内容を確認し、教科書の該当項目を予習し、疑問点をまとめておいてください。

事後学習(1~2 時間) : 教科書・講義資料を振り返って復習するとともに、予習で書き出した疑問点が解決できたかを確認する。

授業コード	ENJ0101			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目—発達看護学—母性看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	母性看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	永江真弓				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
1.	子どもを産み育てることについて理解し、母性を取り巻く生活環境や家族とのかかわりについて考えながら学修する。						
2.	人間の性と生殖、母性の特性や健康問題について考えることができる。						
3.	妊娠(胎児を含む)とその家族の特徴および各期のアセスメントと看護方法を学ぶ。						
4.	産婦(胎児を含む)とその家族の特徴および各期のアセスメントと看護方法を学ぶ。						
授業内容							
母性看護学の導入として、母性看護の基盤となる概念について学び、次いで母性看護の対象者に対する理解を深めるために、人間の性と生殖、母性の特性や健康問題について考える。さらに、母性看護の対象者を取り巻く社会の変遷と現状を学ぶ。また、妊娠の成立と生理および分娩の概要について学ぶ。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	コースオリエンテーション 母性看護の概念:親になること、母子関係と家族 発達、リプロダクティブヘルス	母性看護学概論について、目的、課題、評価について理解できる。母性看護学の基盤となる概念について理解できる。					
2	母性看護の対象理解:女性のライフサイクルと家族、母性の発達・成熟・継承(セクシュアリティー、愛着理論、母性の世代間伝達、)	人間の性と生殖、母性の特性やライフサイクルに応じた健康問題について理解できる。 多様な性のあり方について考えることができる。					
3	母性看護の対象と取り巻く社会の変遷:歴史、環境	母性看護の対象者を取り巻く社会的変遷と現状、法令等を述べることができる。					
4	母性看護の組織と法律、施策 母子保健統計の動向	母子保健に関する歴史や諸統計を学ぶことにより、今後の母性看護のあり方を検討することができる。					
5	国際化時代の多様なお産文化	国際社会のお産の文化を学び、日本におけるお産のあり方について考えることができる。					
6	母性看護における生命倫理:人工妊娠中絶、不妊治療、胎児の人権擁護	グループワーク学習によりヒューマンケアについて学生間で共有することができる。					
7	生殖器の形態・機能:女性生殖器、男性生殖器 性分化のメカニズム、性分化疾患	性ホルモンの作用と生殖器の形態・機能を理解できる。 性分化のメカニズムと、おもな性分化疾患について理解できる。					
8	女性のライフステージ:思春期、成熟期、更年期、老年期における看護	女性のライフステージ各期の身体的特徴と心理・社会的特徴、起こり得る健康問題について理解できる。					
9	母性看護学の特徴について (中間テスト)	これまでの講義を通して、現代社会の母性の最善の利益を守るために母性看護の役割について、自己の考えを明確にすることができる。					
10	妊娠の生理、妊娠期の身体的特徴、心理・社会的特徴	妊娠の生理と、妊娠の身体的特徴および心理・社会的特性について理解することができる。					
11	妊娠期における看護1 ・妊娠と胎児のアセスメント ・妊娠の診断、健康診査	妊娠と胎児の発育についてのアセスメント方法が理解できる。また、妊娠健康診査の必要性について考えることができる。					
12	妊娠期における看護2 妊娠の日常生活のケア	妊娠の日常生活について、マイナートラブルなどを理解し支援の方法について考えることができる。					

13	分娩とは: 分娩の三要素、分娩の機序、分娩開始徵候、分娩経過	分娩の三要素や分娩の機序について理解できる。 分娩開始徵候や、分娩開始の定義を理解し、その後の経過の概要が理解できる。
14	分娩期の看護 1 分娩が胎児に及ぼす影響、産婦の心理・社会的变化、産婦と胎児、家族のアセスメント	分娩が胎児に及ぼす影響、産婦の心理・社会的变化について理解できる。 産婦と胎児、家族アセスメント方法が理解できる。
15	分娩期の看護 2 産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際	胎児を含めた産婦とその家族の看護について考えることができる。

留意事項(履修条件等)

小テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: 授業計画の各回に予定されている内容について、教科書の該当部分を読んで来てください。また、グループワークの準備等、必要時に教員が提示します。

事後学習: 授業で学んだ内容、特に授業中に重要であると伝えた部分については十分復習をしてください。重要な部分については適宜小テストを行い、成績評価に加えられます。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

時間: 火曜日の 5 限 場所: 共同研究室(720)

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①」医学書院(ISBN 978-4-260-02188-3)

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②」医学書院(ISBN 978-4-260-02179-1)

※教科書は母性看護援助論 I . II でも使用

最終到達目標

1. 母性看護の基本概念を習得して、対象をとりまく社会的変遷と母性看護のあり方を理解することができる。
2. 性と生殖について学び、多様な性のあり方について考えることができる。
3. グループワークを通して、母性看護における倫理的問題について考察することができる。
4. 妊婦(胎児を含む)とその家族の特徴および各期のアセスメントと看護方法を理解できる。
5. 産婦(胎児を含む)とその家族の特徴および各期のアセスメントと看護方法を理解できる。

評価方法及び評価基準

期末テスト(40%)、中間テスト(30%)、小テスト(10%)、課題レポート(10%)、グループワーク参加状況及び態度(10%)を総合して評価する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

母性看護学に関するニュースや話題について、適宜グループワークや意見交換を行いますので、積極的に参加してください。日々のニュース等に关心を持ち、幅広い視野で学んでいきましょう。

国家試験に頻出される等、重要な内容については、適宜小テストを行います。また、授業期間中に分娩に関する課題レポートの提出を指示します。内容や提出期限の詳細は、授業中に提示します。小テスト、課題レポートともに成績評価にも加算されますので、十分に学習してください。

授業コード	ENJ0201			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目—発達看護学—母性看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	母性看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	永江真弓				探求心	○						
講義目的												
対象の健康レベルを wellness の視点でアセスメントを行い、健康ニーズを充足する援助能力を身につけ、周産期の女性および胎児・新生児の心身の健康現象(生理的変化と病態生理・心理社会的变化)を理解できる。対象の健康レベルのアセスメント能力と看護実践を支える基本技術と日常生活適応促進の援助技法、ハイリスク状況時の適切な援助技法を理解できる。												
授業内容												
<ol style="list-style-type: none"> 前期に学んだ正常妊娠の看護を復習し、異常の予防やハイリスク妊娠の看護を学ぶ。 正常分娩の看護を復習し、異常兆候が見られる産婦や、異常分娩時の看護について学ぶ。 産褥期・新生児期にある母子とその家族の特性について理解し、アセスメント方法と正常事例の看護について学ぶ。 産褥期に起こりやすい健康逸脱と看護について学ぶ。 新生児期に起こりやすい健康逸脱と看護について学ぶ。 												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	妊娠期の異常と看護1 ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、多胎妊娠	母性看護学概論で学んだ正常な妊娠について復習し、正常妊娠、異常妊娠の違いについて理解できる。										
2	妊娠期の異常と看護2 流早産、妊娠高血圧症候群	妊娠中に起こりやすい異常の病態を理解し、その予防方法について、日常生活に即して考えることができる。										
3	分娩期の異常と看護1 分娩の進行を妨げる要因	分娩の三要素や分娩の経過を踏まえて、分娩を妨げる要因が理解できる。										
4	分娩期の異常と看護2 分娩時の損傷、異常出血、帝王切開時の看護	正常な分娩について復習し、分娩期の正常と異常を理解できる。ハイリスク産婦の看護を学ぶことができる。										
5	産褥期の正常経過と看護:退行性変化、進行性変化、その他の症状	産褥期の正常な経過(退行性変化、進行性変化等)のアセスメント方法、および予防的ケアについて説明することができる。										
6	産褥期の異常と看護:子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、精神障害	産褥期に起こりやすい異常と看護について説明することができる。										
7	新生児期の正常経過と看護:新生児の生理とアセスメント	新生児期の正常な経過とアセスメント方法、および予防的なケアについて説明することができる。										
8	新生児期の異常と看護:低出生体重児、高ビリルビン血症、NICU/GCU に入院した児と家族への看護、社会的支援が必要な母子への看護	産褥期に起こりやすい異常と看護について説明することができる。児が NICU に入院している児と家族に必要なケアについて説明できる。社会的支援が必要な母子と家族へのケアについて説明できる。										
留意事項(履修条件等)												
母性看護学概論での学びを復習するとともに、2年後期に開講される疾病・治療論Ⅲの内容も参考にしてください。小テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です												

事前学習:

- 1.事前に教科書の該当ページに目を通し、概要を把握してください。また、事前に提示する課題がある場合は、期日までに自己学習をして授業に臨んでください。
- 2.教科書の動画など、メディア教材などをを利用して学習を深めて下さい。

事後学習:

- 1.その都度、講義で説明した内容をまとめて、復習して下さい。
- 2.妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期それぞれの対象の講義終了後、次の講義の始めに小テスト(3~4回)を行います。成績評価にも加算しますので、しっかり学習をしてください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

時間:金曜日の昼休み～3限 場所:共同研究室(720)

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②」医学書院 (ISBN 978-4-260-02179-1)

最終到達目標

1. 妊娠期の異常の要因と予防のための日常生活の留意点について理解できる。
2. 分娩の3要素の異常について理解し、異常兆候が見られる産婦や、異常分娩時の手術、処置とその際の看護の概要を述べることができる。
3. 正常褥婦・新生児の経過を理解し、アセスメントと予防的ケアの方法が理解できる。
4. 産褥期に起こりやすい健康逸脱と看護の概要を述べることができる。
5. 新生児期に起こりやすい健康逸脱と看護の概要を述べることができる。

評価方法及び評価基準

期末テスト(60%)、課題レポート(20%)、小テスト(20%)を総合して評価する。

成績評価基準 (学則第34条)

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| S(100～90点) | : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89～80点) | : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79～70点) | : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69～60点) | : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59点以下) | : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure) |

学生へのメッセージ

限られた時間のなかで授業内容は多岐に亘ります。1回1回の授業を大切に、可能な限り授業の予習・復習に取り組んでください。

授業コード	ENJ0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目—発達看護学—母性看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	母性看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	永江真弓、高田律美				探求心	○	
講義目的	女性のライフサイクルの中で、周産期の母子とそのパートナーを中心とした家族の健康に焦点を当て、対象の生理的、心理的、社会的变化と生活への適応、健康逸脱時のケアなどについて学習する。母性看護援助論Ⅱでは、産褥期、新生児期の母子の看護過程を通して、対象理解とケアに焦点を当てて学習する。						
授業内容	<p>1. 主に産褥期・新生児期にある母子の対象特性を理解するための基本的な知識を振り返る。</p> <p>2. 妊産褥婦および新生児の健康診査など必要な看護技術をモデル人形の使用により実際の技術を習得する。</p> <p>3. 事例を用いた看護過程の演習：母性看護援助論Ⅰで学んだ内容と併せて、事例ケースのアセスメントから対象者の全体像を把握し、必要な看護計画の立案に取り組むことで、関連するデータの基礎的知識、情報収集とアセスメント能力の向上、対象者の複合的理解、優先順位を考慮した看護目標と具体案作成を目指す。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	コースオリエンテーション 母性看護における看護過程の考え方について	母性看護援助論Ⅱについて、目的・課題・評価方法について理解できる。					
2	妊娠期、産褥期の母子の事例を用いての演習1 正常褥婦、帝王切開術後の褥婦、切迫早産で入院中の妊婦	事例の説明およびアセスメントガイド、記録用紙の使い方を理解し、次回からの看護過程の展開に生かすことができる。					
3	妊娠期、産褥期の母子の事例を用いての演習2 第2回に提示した事例のアセスメント	提示された事例より各グループで1事例を選択し、グループワークにて協力してアセスメントし、事例の特性について理解を深めることができる。					
4	母子の生活と健康支援：入院中および退院後に各事例の対象が必要とする社会資源について	入院中および退院後の自宅での生活、母子の安全について説明する事ができる。また、地域における子育て支援についても説明する事ができる。					
5	母子の全体像の把握とケアの方向性	事例による母子の全体像の把握とケアの方向性を考え、看護計画の立案、作成に繋げることができる。					
6	妊婦ケア技術演習1 腹囲・子宮底長測定法・レオポルド触診法をモデル人形使用により実施	腹囲・子宮底測定やレオポルド触診法の目的と方法を理解し、モデル人形を使用して、対象の安全・安楽・安心を守るよう配慮しつつ、観察技術を習得することができる。					
7	妊婦ケア技術演習2 胎児心音聴取・CTG 装着法をモデル人形使用により実施	胎児心音聴取やNSTの意義を理解し、モデル人形を使用して正しい技術を習得することができる。また、その際に必要な配慮について考えることができる。CTG波形の判読の基礎を理解できる。					
8	妊婦のケア技術演習1 妊婦体験(妊婦体験ジャケットを使用)・分娩に向けて身体を整えるケア(マタニティヨガ)	妊婦体験ジャケットを装着して妊婦体験をすることで、日常生活上の困難やリスクについて考えることができる。また、分娩に向けて心身を整えるためのマタニティヨガの意義が理解できる。					
9	産婦のケア技術演習2 産痛緩和法(呼吸法と補助動作、リラクセーション法、分娩時の安楽な体位	実際に分娩時の呼吸法と補助動作やリラクセーション法を体験し、その意義が理解できる。妊婦ジャケットを装着し、安楽な体位を体験し、分娩進行に与える影響について考えることができる。					

10	褥婦のケア技術演習1 子宮底の高さ・硬度の観察方法およびアセスメントと子宮復古を促すケア	産褥期の復古を促す意義を理解し、モデル人形を使用して観察方法やケア技術を習得することができる。その際に必要な配慮について考え、述べることができる。
11	褥婦ケア技術演習2 母乳栄養確立のための援助方法をモデル人形使用により実施(乳房マッサージなど)	母乳栄養を確立するための方法を理解し、モデル人形を使用して実際の観察技術や援助方法を習得することができる。また、ケアの際に必要な配慮について考え、述べることができます。
12	新生児ケア技術演習1 新生児の観察、抱き方など育児技術をモデル人形使用により実施	モデル人形を使用し、新生児のバイタルサインの測定等アセスメントに必要な技術および育児技術を習得することができる。新生児のケアの際に必要な配慮を考え、述べることができます。
13	新生児ケア技術演習2 新生児の沐浴をモデル人形使用により実施	モデル人形にて沐浴実施体験をすることによって、安全に留意した身体清潔の技術を習得することができます。
14	母子の看護計画の立案	ペーパーシュミレーションを用いて、グループワークにより事例の看護計画を立案する事ができる(グループワーク)。
15	母子の看護計画の発表と保健指導のデモストレーション	グループワークで立案した看護計画を発表するとともに、保健指導の一部のデモストレーションを行い、全員で学びを共有できる。

留意事項(履修条件等)

2年次前期に開講された母性看護学概論、2年次後期に開講された母性看護援助論Ⅰ、疾病・治療論で学んだ妊娠期・分娩期・産褥・新生児期の看護は、実際の看護技術や学ぶ上で重要なので、復習をして講義・演習に臨んで下さい。また、講義・演習の資料は適宜配布しますが、ファイリングをして毎回講義時に持参してください。講義・演習後の復習にも活用してください。

この科目は、3年後期に行う母性看護学実習の履修条件となっており、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰとの関連科目です。妊娠・分娩・産褥・新生児期を一連の過程としてとらえることが重要となります。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学習課題:事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: 1. 教科書に目を通し、概要を把握して。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。

2. 技術演習については、教科書の動画等、メディア教材などを利用して学習を深めて下さい。

事後学習: 1. 講義で説明した内容をまとめて、個別で復習して下さい。

2. 各グループのメンバーで、相互的に学習内容を共有し、意識化し、協働学習を実践して下さい。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

時間:火曜日 5限 場所:共同研究室(720)

教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)

教科書:

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②」医学書院(ISBN 978-4-260-02179-1)

参考書:

「母性看護技術 第2版 看護実践のための根拠がわかる」メディカルフレンド社(ISBN:978-4-8392-1594-1)

その他、参考資料・図書は隨時紹介する。

最終到達目標

- 1.モデル人形を使用し、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な援助について、対象の安全・安楽・安心を守る配慮を考えながら、技術を習得することができる。
- 2.事例を用いたアセスメントから対象者の全体像を把握し、必要な看護計画の立案に取り組むことで看護過程の展開方法を習得する。
- 3.事例の対象の保健指導のデモストレーションを体験し、個別性に応じた保健指導の必要性を理解できる。

評価方法及び評価基準

期末テスト(50%)、課題レポート(20%)、グループワークおよび技術演習の参加状況および態度(看護過程の学習課題を含む)(30%)で総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| S(100~90点) | : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80点) | : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70点) | : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60点) | : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59点以下) | : Cのレベルに達していない (Failure) |

学生へのメッセージ

教科書や参考書を活用し、十分に学習をして演習に臨んでください。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして授業に臨んで下さい。看護技術については、メディア教材などを利用して学習を深めて下さい。3年生後期の母性看護学実習では、実際に妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の対象に関わります。しっかりと正しい技術を身につけ、かつ対象に必要な配慮ができるように考えながら学びましょう。

授業コード	ENK0101	定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学		広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>
授業科目名	成人看護学概論		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>
配当学年/学期	2年/前期		判断力	<input checked="" type="radio"/>
担当教員	大西ゆかり、上西孝明		探求心	<input checked="" type="radio"/>
講義目的				
1.	成人各期の発達段階を理解し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴を理解できる。			
2.	日本の成人保健の動向を理解し、成人の健康課題について考察することができる。			
3.	成人の健康レベルに対応した看護について理解できる。			
4.	成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解できる。			
授業内容				
成人各期の発達段階を解説し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を学習する。日本の成人保健の動向を知り、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解できる。急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を、基礎理論(危機理論等)を用いて習得する。急性期にある患者の看護援助に必要な概念(権利擁護など)および日本の救急医療の歴史・体制および救急患者の特徴を理解できる。				
慢性的な病気をもつ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、看護援助に必要な概念や理論(アンドラゴジー、自己効力理論等)について学習する。また、慢性的な病気をもつ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護について理解し、その意義や方法について考察できる。さらに、成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解できる。				
授業計画及び学習課題				
回	標 題	学習課題		
1	授業のオリエンテーション 成人期にある人々の理解 1	発達段階から見た成人の特徴が理解できる。 成人各期の身体的、心理・社会的特徴が理解できる。		
2	成人期にある人々の理解 2	【ミニテスト】1回目の講義内容 成人を取り巻く環境と生活および成人の健康課題が理解できる。		
3	ヘルスプロモーションと看護	【ミニテスト】2回目の講義内容 ヘルスプロモーションとは何かを知り、ヘルスプロモーションを促進する看護について理解できる。		
4	健康をおびやかす要因と看護	【ミニテスト】3回目の講義内容 健康をおびやかす要因にはどのようなものがあるか理解できる。		
5	急性期にある患者の理解	【ミニテスト】4回目の講義内容 急性期とは何かを知り、急性期にある人の特徴が理解できる。		
6	周手術期にある患者の理解	【ミニテスト】5回目の講義内容 周手術期とは何かを知り、周手術期にある人の特徴が理解できる。		
7	リハビリテーション期にある患者の理解	【ミニテスト】6回目の講義内容 リハビリテーション期とは何かを知り、リハビリテーション期にある人の特徴が理解できる。		
8	慢性期にある患者の理解	【ミニテスト】7回目の講義内容 慢性期とは何かを知り、慢性期にある人の特徴が理解できる。		
9	がん患者の理解	【ミニテスト】8回目の講義内容 がんに罹患した人の特徴が理解できる。		
10	終末期にある患者の理解	【ミニテスト】9回目の講義内容 終末期にある人の特徴が理解できる。		
11	患者教育	【ミニテスト】10回目の講義内容 患者教育で重要な概念が理解できる。		

12	保健・医療・福祉システム	【ミニテスト】11回目の講義内容 保健・医療・福祉システムについて知り、チーム医療、外来看護、退院調整、社会資源について理解できる。
13	成人期の特徴を捉えた看護過程 NANDA の看護アセスメント枠組み 1	【ミニテスト】12回目の講義内容 NANDA の看護アセスメント枠組みが理解できる。
14	NANDA の看護アセスメント枠組み 2	【ミニテスト】13回目の講義内容 NANDA の看護アセスメント枠組みが理解できる。
15	成人看護学概論のまとめ	【ミニテスト】14回目の講義内容 成人期にある人々の健康課題について説明できる。 成人期にある人々への看護について説明できる。

留意事項(履修条件等)

- 主体的に学ぶ姿勢が大切です。事前課題を行い、発表やディスカッションに積極的に参加してください。
- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学修課題・事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

- 事前学習:毎回の授業で予習課題を提示するので、その課題をしてくること。課題は授業でディスカッションや発表に活用するだけでなく、授業終了後に提出すること。
- 事後学習:前回の授業内容からミニテストを実施するので、授業内容を復習しておくこと。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

大西:木曜日の 5 限、研究室 719

上西:月曜日の 5 限、火曜日の 5 限、研究室 718

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:「成人看護学[1] 成人看護学総論」、医学書院、ISBN:978-4-260-03173-8

最終到達目標

1. 成人期にある人々の特徴について説明することができる。
2. 疾患が成人の生活に及ぼす影響について説明することができる。
3. 疾患と共に生きる成人への看護について説明することができる。

評価方法及び評価基準

筆記試験(70%)、ミニテスト(15%)、予習課題(10%)、リアクションペーパー(5%)の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

- 2 回目以降の授業開始時にミニテストを実施しますので、遅刻・欠席しないよう体調・時間管理をしてください。
- 携帯電話は電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまってください。授業中に携帯電話を使用していた場合、その日のミニテストの点数は 0 点とします。
- 予習課題の提出が遅れた場合、評価の対象としません。
- 毎回の授業終了時にリアクションペーパーを取り、出席確認の代用かつ評価の対象とします。
- 授業中の飲食・私語を禁止します。

授業コード	ENK0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目—成人・高齢者看護学—成人看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	成人急性期看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	本田和男, 大坪かなえ, 上西孝明				探求心	○						
講義目的												
1.急性期(周手術期及びクリティカルな状態)にある患者の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、基本的な看護、及びアセスメントについて学ぶ。 2.心肺蘇生法の基本を理解し、シミュレーターを用いた実践を通して技術を身につける。												
授業内容												
急性期(周手術期及びクリティカルな状態)にある患者の特徴と身体的・心理的・社会的側面を学修し、術前から術後にかけての看護、生命維持、合併症予防、全身状態改善、退院後の生活、QOL向上に関する看護について理解する。また機能障害(呼吸機能障害、消化機能障害、運動機能障害)がある患者について、周手術過程に応じた看護の特徴、及びアセスメントについて学修する。心肺蘇生法として、一次救命処置を学修し、知識と技術を習得する。												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	オリエンテーション 急性期看護とは	急性期(周手術期及びクリティカルな状態)にある患者への看護について理解できる。										
2	周手術期看護① 手術前患者の看護	術前にある患者の身体・心理状態から術前の準備について理解できる。										
3	周手術期看護② 手術中患者の看護	手術室看護とその具体的な援助、及び手術や麻酔による身体侵襲について理解できる。										
4	周手術期看護③ 呼吸機能障害:手術後患者の看護	手術後(肺切除術)における、術後合併症と合併症予防のための看護について理解できる。										
5	周手術期看護④ 消化機能障害:手術後患者の看護	手術後(胃切除術)における、術後合併症と合併症予防のための看護について理解できる。										
6	周手術期看護⑤ 運動機能障害:手術後回復期の看護	手術後(人工膝関節置換術)の早期回復に向けた看護について理解できる。										
7	クリティカルケア看護 集中治療を受ける患者の看護	生命が危機的状況にある患者の特徴、及び集中治療における看護の役割について理解する。										
8	救急蘇生法の理解と実践	一次救命処置の基本について理解し、シミュレーターを用いて実践できる。										
留意事項(履修条件等)												
本科目は解剖生理学や疾病治療論、成人看護学概論で学んだ知識が不可欠となります。主体的に取り組みましょう。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習:毎回の授業で予習課題を提示します。解剖生理学や疾病治療論で学んだ各臓器の仕組みや働き、病態生理などを振り返りながら、課題に取り組みましょう。予習課題の中からミニテストを実施します。また予習課題は授業終了後に必ず提出して下さい。 事後学習:各講義でテーマとなった状況、及び代表疾患について、内容を整理しておきましょう。												

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
本田:火曜日の3限 研究室704 大坪:水曜日の5限 研究室717 上西:水曜日の5限 研究室718
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)
教科書: 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」、医学書院、ISBN:978-4-260-02769-4 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01991-0 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01987-3 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02000-8 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経」、医学書院、ISBN:978-4-260-02190-6 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02176-0 ※テキストは急性期看護援助論Ⅱ、慢性期看護援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習で使用します。
最終到達目標
1. 成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者の身体的・心理的・社会的特徴、基本的な看護、及びアセスメントについて説明できる。 2. 心肺蘇生法の基本について説明でき、シミュレーターを用いて実践できる。
評価方法及び評価基準
①筆記試験 70%、②予習課題 10%、③ミニテスト 10%、④演習への参加度 10%で総合的に評価する。
成績評価基準 (学則第34条) S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
学生へのメッセージ
2回目以降の授業開始時に予習課題に関するミニテスト(10点満点)を行います。また授業終了時に次回の予習課題を提示します。 授業中のスマートフォンの使用は不可です。机上に置かずに鞄の中にしまって下さい。

授業コード	ENK0301			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	
科目区分	専門科目—成人・高齢者看護学—成人看護学				広い視野と倫理観	
授業科目名	成人急性期看護援助論Ⅱ		選択・必修		知識・技術 ○	
配当学年/学期	3年/前期		単位数		判断力 ○	
担当教員	本田和男 大坪かなえ 上西孝明				探求心 ○	

講義目的

1. 成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者について、事例を用いて看護過程を展開し、技術演習を通して対象者の健康問題に関する問題解決能力を養う。
2. 成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術を獲得する。

授業内容

周手術期及びクリティカルな状態にある患者について、紙上事例とシミュレーションによって、アセスメント、計画立案、実施、評価までの看護診断過程を展開する。周手術期患者への実践的知識と技術として、術後早期離床及び退院指導を学修する。またクリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術として、チームダイナミクスを活用した一次救命処置を学習し、確実な技術の習得を目指す。意識障害発症時の対応について学習する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	授業ガイドンス 我が国における救急医療の現状	日本の救急医療体制と救急医療をとりまく倫理的課題、病態の緊急度と重症度をアセスメントする方法を理解できる。
2	救急看護・クリティカルケアの基本①	ショックの病態について理解し、必要な看護をグループワークによって理解できる。
3	救急看護・クリティカルケアの基本②	ショックの病態について、事例の病態関連図をグループワークによって作成できる。
4	救急看護・クリティカルケアの基本③	重症外傷(胸部外傷)、中毒、熱傷患者の看護について理解できる。
5	救急看護・クリティカルケアの基本④	一次救命処置を正しく実践する。AED 使用時の注意事項を理解できる。
6	救急看護・クリティカルケアの基本⑤	チームダイナミクスを活用し、シミュレーションによって救命救急処置の技術を向上させることができる。
7	脳・神経障害のある患者の看護①	意識障害発症時の検査・治療・処置について理解し、必要な看護を理解できる。
8	脳・神経障害のある患者の看護②	脳卒中の事例について、病態関連図を作成できる。
9	脳・神経障害のある患者の看護③	開頭術を受ける患者の看護について理解できる。
10	脳・神経障害のある患者の看護④	神経症状のアセスメント方法をシミュレーションによって理解できる。
11	脳・神経障害のある患者の看護⑤	遷延性意識障害、高次脳機能障害について、事例を通して学び、NANDA の枠組みを用いて分類・整理することができる。
12	脳・神経障害のある患者の看護⑥	回復と生活の再構築を促進するための看護について学び、看護目標を考えることができる。
13	運動機能障害のある患者の看護①	運動器疾患の病態、治療・検査について理解し、必要な看護を理解できる。
14	運動機能障害のある患者の看護②	人工関節置換術を受ける患者の事例を通じ、術直後の看護について理解できる。
15	運動機能障害のある患者の看護③	人工関節置換術を受けた患者の術直後、術後1日目の看護をシミュレーションによって学び、看護計画を立案できる。

16	運動機能障害のある患者の看護④	手術後早期離床のための対応方法を、シミュレーションによって学び、看護計画の評価修正について理解できる。
17	排泄機能障害のある患者の看護①	大腸切除術、膀胱切除術によって排泄経路を変更した場合の基本的な看護を理解できる。
18	排泄機能障害のある患者の看護②	直腸切除術を受ける対象の術前の看護を理解できる。
19	排泄機能障害のある患者の看護③	直腸切除・ストーマ造設を受けた患者の事例に関する、病態関連図を作成できる。
20	排泄機能障害のある患者の看護④	直腸切除・ストーマ造設を受けた患者の事例を NANDA の枠組みを用いて分類・整理し、看護問題を抽出することができる。
21	排泄機能障害のある患者の看護⑤	直腸切除・ストーマ造設を受けた患者の事例のセルフケアを支援するための看護計画を立案できる。
22	排泄機能障害のある患者の看護⑥	事例のセルフケアを支援するための看護技術をシミュレーションによって理解できる。
23	排泄機能障害のある患者の看護⑦	直腸切除・ストーマ造設を受けた患者の事例のシミュレーション後、看護計画の評価修正を行うことができる。
24	排泄機能障害のある患者の看護⑧	事例のサマリーを作成し、継続看護の必要性について理解できる。
25	循環障害のある患者の看護①	虚血性心疾患の病態、治療・検査について理解し、必要な看護を理解できる。
26	循環障害のある患者の看護②	胸痛出現時の対応をシミュレーションによって理解できる。
27	循環障害のある患者の看護③	12 誘導心電図を使用したシミュレーションによって、緊急度を判断し、必要な対応方法について理解できる。
28	循環障害のある患者の看護④	ペースメーカー植え込み適応となった患者の事例を通し、必要な看護を理解できる。
29	循環障害のある患者の看護⑤	ペースメーカー植え込み適応となった患者の事例を通し、健康管理促進のための指導媒体を作成できる。
30	循環障害のある患者の看護⑥	ペースメーカー植え込み適応となった患者の事例を通し、退院支援のための指導援助技術を実践できる。

留意事項(履修条件等)

- ・知識・技術を習得するために、シミュレーションを繰り返し行います。積極的な姿勢で臨んでください。
- ・シミュレーション時には、服装を指定します。医療従事者としてふさわしい服装、白衣の着用を求めます。
- ・確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。
- ・授業で配布された資料、作成したレポートや記録物は、丁寧に扱い、絶対に紛失しないよう努めてください。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題: 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: 事前課題を毎回提示します。課題は解剖生理、病態生理、治療に関する内容です。事前学習成果を確認するためのミニテストを授業始めに実施します。また事例を用いた学習が中心になります。この事例に関する病態関連図、看護計画等、自己学習が必要です。

事後学習: ミニテスト、授業内容を復習してください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

本田: 火曜日の 3 限 研究室 704

大坪: 月曜日の 5 限、火曜日の 5 限 研究室 717

上西: 月曜日の 5 限、火曜日の 5 限 研究室 718

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器」医学書院 ISBN:978-4-260-01987-3

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器」医学書院 ISBN:978-4-260-02000-8

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経」医学書院 ISBN:978-4-260-02190-6

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器」医学書院 ISBN:978-4-260-02176-0

「看護テキスト NICE 成人看護学急性期看護 I 概論・周手術期看護」南江堂 ISBN:978-4-524-26136-9

※テキストはすべて急性期看護援助論 I・II、慢性期看護援助論 I・II、および成人看護学実習で使用します。

参考書：

「成人看護 I 急性期・周手術期第2版(パーフェクト臨床実習ガイド)」照林社 ISBN:978-4796523943

最終到達目標

1. 成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者について、事例を用いて看護過程を展開し、技術演習を通して対象者の健康問題に関する問題解決能力を修得できる。
2. 成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術を習得できる。

評価方法及び評価基準

筆記試験 40%、ミニテスト 20%、事例学習 30%、シミュレーション参加評価 10%の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない（Failure）

学生へのメッセージ

- ・ 2回目以降の授業始めにミニテストを実施します。また授業終了時に次回の学習課題を提示します。
ミニテストと学習課題は評価の対象になります。欠席、提出忘れがないよう自己管理してください。
- ・ シミュレーションは実践力だけでなく、思考力も身に付きます。参加する際には、集中して臨んでください。
- ・ シミュレーション中は間違うこと、失敗することが許されます。臨床現場で間違うこと、失敗することは許されません。そのための準備と受け止め、学内できちんと学びましょう。
- ・ 学習中に提示された事例は、実習記録物と同様に大切に扱ってください。

授業コード	ENK0401			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性					
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と 倫理観					
授業科目名	成人慢性期看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術					
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力					
担当教員	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美				探求心					
講義目的										
1.慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護について学ぶ。										
2.代表的な疾患をもつ患者の特徴や看護について理解する。										
授業内容										
慢性の呼吸機能障害、循環機能障害、脳・神経機能障害、栄養摂取・消化機能障害、代謝機能障害、内部環境調節障害に分けて、患者の特徴や看護に必要な情報やアセスメントの視点、看護について理解する。 一部TBL(Team Based Learning)を用いたアクティブラーニングを行う。										
授業計画及び学習課題										
回	標題	学習課題								
1	授業のオリエンテーション 慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護の役割	慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴及び看護の役割について理解できる。								
2	代謝機能障害をもつ患者への看護 (糖尿病)	【ミニテスト】第2回目の予習課題 代謝機能の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解できる。								
3	呼吸機能障害をもつ患者への看護 (慢性閉塞性肺疾患)	【ミニテスト】第3回目の予習課題 呼吸器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解できる。								
4	循環機能障害をもつ患者への看護 (慢性心不全)	【ミニテスト】第4回目の予習課題 循環器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解できる。								
5	脳・神経機能障害をもつ患者への看護 (脳梗塞)	【ミニテスト】第5回目の予習課題 脳・神経系の機能障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解できる。								
6	栄養摂取・消化機能障害をもつ患者への看護 (肝硬変)	【ミニテスト】第6回目の予習課題 栄養摂取・消化器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解できる。								
7	内部環境調節障害をもつ患者への看護 (慢性腎臓病)	【ミニテスト】第7回目の予習課題 腎・泌尿器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解できる。								
8	造血機能・生体防御機能の障害をもつ患者への看護 (白血病)	【ミニテスト】第8回目の予習課題 造血機能・生体防御機能の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解できる。								
留意事項(履修条件等)										
<ul style="list-style-type: none"> この授業には、解剖生理学、疾病・治療論、成人看護学概論で学習した知識が必要です。 事前課題を行い、様々な機能障害が成人にもたらす影響について理解しておきましょう。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについて は講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。 										

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学修課題・事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

- 事前学習:毎回の授業で予習課題を提示し、その課題からミニテストを実施する。課題は、授業終了後に提出すること。
- 事後学習:ミニテスト・授業内容の復習をすること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

大西:木曜日の 5 限、研究室 719

村上:オフィスアワーに従ってください。

山本:火・水曜日の 5 限、共同研究室

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:「慢性期看護論 第3版」、ヌーヴェルヒロカワ、ISBN:978-4-86174-061-9

「成人看護学[2] 呼吸器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01991-0

「成人看護学[3] 循環器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01987-3

「成人看護学[4] 血液・造血器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02001-5

「成人看護学[5] 消化器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02000-8

「成人看護学[6] 内分泌・代謝」、医学書院、ISBN:978-4-260-01988-0

「成人看護学[7] 脳・神経」、医学書院、ISBN:978-4-260-02190-6

「成人看護学[8] 腎・泌尿器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01996-5

* 上記教科書は、急性期および慢性期の看護援助論 I・II、実習で使用します。

最終到達目標

1. 成人期にある人々の特徴について説明することができる。
2. 疾患が成人の生活に及ぼす影響について説明することができる。
3. 疾患と共に生きる成人への看護について説明することができる。

評価方法及び評価基準

筆記試験(70%)、ミニテスト(15%)、予習課題(10%)、リアクションペーパー(5%)の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準 (学則第34条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

- 2 回目以降の授業開始時にミニテストを実施しますので、遅刻・欠席しないよう体調・時間管理をしてください。
- 携帯電話は電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまってください。授業中に携帯電話を使用していた場合、その日のミニテストの点数は 0 点とします。
- 予習課題の提出が遅れた場合、評価の対象としません。
- 毎回の授業終了時にリアクションペーパーを取り、出席確認の代用かつ評価の対象とします。
- 授業中の飲食・私語を禁止します。

授業コード	ENK0501			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	成人慢性期看護援助論Ⅱ				知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	3年/前期				判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	大西ゆかり、岩崎智之、村上早苗、山本千恵美				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的

- 慢性疾患をもつ人を理解し、援助するために理論・概念を学び患者の全体像を理解する。
- 慢性疾患をもつ人を理解するための看護アセスメント枠組みを理解し、看護過程を展開する。
- 患者とその家族が、生活にあつたセルフケアを継続できるよう支援するための方策を検討する。

授業内容

NANDA の枠組みを用いて、慢性疾患をもつ患者の事例の看護過程を展開する。

5つの事例の病態生理、一般的な経過、看護について理解する。

TBL (Team Based Learning) を用いたアクティブラーニングを行う。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	授業のオリエンテーション NANDA の看護アセスメントの枠組み	オリエンテーションを通して、授業の進め方を理解できる。 NANDA の看護アセスメント枠組みの概要を理解できる。
2	代謝機能障害をもつ患者の看護 1	事例で提示した情報を、NANDA の枠組みを用いて分類・整理することができる。
3	代謝機能障害をもつ患者の看護 2	【ミニテスト】代謝のしくみについて NANDA の枠組みを用いてアセスメントすることができる。
4	代謝機能障害をもつ患者の看護 3	事例の病態生理、経過をふまえ、関連図を描くことができる。
5	代謝機能障害をもつ患者の看護 4	【ミニテスト】糖尿病について 看護上の問題をあげ、看護計画を立案することができる。
6	代謝機能障害をもつ患者の看護 5	看護上の問題と看護計画を発表することができる。
7	呼吸機能障害をもつ患者の看護 1	【ミニテスト】呼吸器の解剖生理 事例で提示した情報を、NANDA の枠組みを用いて分類・整理することができる。
8	呼吸機能障害をもつ患者の看護 2	【ミニテスト】COPD について NANDA の枠組みを用いてアセスメントすることができる。
9	呼吸機能障害をもつ患者の看護 3	事例の病態生理、経過をふまえ、関連図を描くことができる。
10	呼吸機能障害をもつ患者の看護 4	【ミニテスト】COPD の看護について 看護上の問題をあげ、看護計画を立案することができる。
11	呼吸機能障害をもつ患者の看護 5	看護上の問題と看護計画を発表することができる。
12	循環機能障害をもつ患者の看護 1	【ミニテスト】循環器の解剖生理 事例で提示した情報を、NANDA の枠組みを用いて分類・整理することができる。
13	循環機能障害をもつ患者の看護 2	【ミニテスト】心不全について NANDA の枠組みを用いてアセスメントすることができる。
14	循環機能障害をもつ患者の看護 3	事例の病態生理、経過をふまえ、関連図を描くことができる。
15	循環機能障害をもつ患者の看護 4	【ミニテスト】心不全の看護について 看護上の問題をあげ、看護計画を立案することができる。
16	循環機能障害をもつ患者の看護 5	看護上の問題と看護計画を発表することができる。
17	放射線に関する特別講義 1	放射線の医療利用による人間の反応について理解できる。
18	放射線に関する特別講義 2	放射線災害が及ぼす健康影響について理解できる。

19	患者教育 1	【ミニテスト】糖尿病の看護について 自己血糖測定に関する患者教育を行うことができる。
20	患者教育 2	自己血糖測定に関する患者教育の実践を評価することができる。
21	腎機能障害をもつ患者の看護 1	【ミニテスト】腎臓の解剖生理 事例で提示した情報を、NANDA の枠組みを用いて分類・整理することができる。
22	腎機能障害をもつ患者の看護 2	【ミニテスト】CKD について NANDA の枠組みを用いてアセスメントすることができる。
23	腎機能障害をもつ患者の看護 3	事例の病態生理、経過をふまえ、関連図を描くことができる。
24	腎機能障害をもつ患者の看護 4	【ミニテスト】CKD の看護について 看護上の問題をあげ、看護計画を立案することができる。
25	腎機能障害をもつ患者の看護 5	看護上の問題と看護計画を発表することができる。
26	造血機能障害をもつ患者の看護 1	事例で提示した情報を、NANDA の枠組みを用いて分類・整理することができる。
27	造血機能障害をもつ患者の看護 2	【ミニテスト】造血のしくみと血液について NANDA の枠組みを用いてアセスメントできる。
28	造血機能障害をもつ患者の看護 3	事例の病態生理、経過をふまえ、関連図を描くことができる。
29	造血機能障害をもつ患者の看護 4	【ミニテスト】白血病と白血病の看護について 看護上の問題をあげ、看護計画を立案することができる。
30	造血機能障害をもつ患者の看護 5	看護上の問題と看護計画を発表することができる。

留意事項(履修条件等)

- 事例展開するには、疾病・治療論、成人看護学概論、慢性期看護援助論 I で学習した知識が必要です。
- 個人のワークが遅れると、グループワークに支障をきたします。メンバーシップを發揮できるよう計画的に取り組んでください。
- 2 年次の成人看護学概論で配付した NANDA の看護アセスメント枠組みは、毎回持参してください。
- 5 つの事例としっかり向き合い、後期の慢性期看護学実習に備えましょう。
- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学修課題:事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

- 事前学習:毎回の授業で課題を提示するので、その課題をしてくること。課題はグループワークやディスカッション、発表に活用する。5 つの事例で取り上げた疾患に関するミニテストを実施するので、解剖生理学や病態生理、治療、看護についての学習をすること。
- 事後学習:事例の情報の整理やアセスメント、関連図の作成、看護計画の立案などは、授業の進行に合わせて自己学習してくること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

大西 時間:木曜日の 5 限、場所:研究室 719

村上 オフィスアワーに従ってください。

山本 時間:火・水曜日の 5 限、場所:共同研究室

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:「慢性期看護論 第 3 版」、ヌーベルヒロカワ、ISBN:978-4-86174-061-9

参考書:「成人看護学[2] 呼吸器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01991-0

「成人看護学[3] 循環器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01987-3

「成人看護学[4] 血液・造血器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02001-5

「成人看護学[6] 内分泌・代謝」、医学書院、ISBN:978-4-260-01988-0

「成人看護学[8] 腎・泌尿器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01996-5

* 上記は、急性期および慢性期の看護援助論 I・II、実習で使用します。

最終到達目標

1. 成人期にある人々の特徴について説明することができる。
2. 疾患が成人の生活に及ぼす影響について説明することができる。
3. 疾患と共に生きる成人への看護について説明することができる。

評価方法及び評価基準

筆記試験(35%)、ミニテスト(20%)、事例展開(20%)、演習(10%)、ピア評価(10%)、リアクションペーパー(5%)の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

- S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）
A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）
B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）
C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）
D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない（Failure）

学生へのメッセージ

- 授業開始時にミニテストを実施します。遅刻・欠席しないよう体調・時間管理をしてください。
- 携帯電話は電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまってください。授業中に携帯電話を使用していた場合、その日のミニテストの点数は0点とします。
- 毎回の授業終了時にリアクションペーパーを取り、出席確認の代用かつ評価の対象とします。
- ピア評価は、グループメンバー間で誰がどのくらいグループワークに貢献したかを学生同士で評価して頂きます。
- 授業中の飲食・私語を禁止します。

授業コード	ENK0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>						
授業科目名	がん看護援助論	選択・必修	選択		知識・技術	<input type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	<input type="radio"/>						
担当教員	大西ゆかり、アダラ—コリンズ,慈觀、山本千恵美				探求心	<input type="radio"/>						
講義目的												
がんと共に生きる人とその家族の QOL の向上を目指した看護を提供するために、全人的な視点からの患者理解と、がんに罹患し治療を受ける患者の看護援助に必要な知識を理解する。												
授業内容	がんの早期発見とその予防についての重要性、がんに代表的な治療法である手術・放射線・化学療法における看護について必要な知識を理解する。がん患者の療養支援について考察を深める。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	授業のオリエンテーション がん医療の特徴と看護の専門性	がんの疫学、がん医療の特殊性とがん患者の健康問題、がん看護の専門性を理解する。										
2	がん患者と家族を理解するための基礎となる考え方や理論	がんサバイバーシップ、意思決定支援、EBM に基づく看護、がん治療における看護の重要性について理解する。										
3	手術療法を受ける患者への看護	手術療法を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。										
4	化学療法を受ける患者への看護	化学療法を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。										
5	放射線療法を受ける患者への看護	放射線療法を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。										
6	緩和ケアを受ける患者への看護	緩和ケアを受けるがん患者の特徴と看護について理解する。										
7	がん患者の療養支援	がん患者の療養の場に選択肢を知り、療養調整の看護について理解する。										
8	まとめ	がんと共に生きる人とその家族の QOL の向上を目指した看護について検討する。										
留意事項(履修条件等)												
<ul style="list-style-type: none"> がん体験者の闘病記を読み、がんと共に生きる人の理解を深めましょう。 主体的に学ぶ姿勢が大切です。ディスカッションには積極的に参加しましょう。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。 												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学修課題、事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。												
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習: プレゼン担当者は、与えられたテーマについて 30 分でプレゼンできるよう準備してくること。プレゼン担当者以外の学生は、ディスカッションに参加できるようそのテーマについて自分なりに考えをまとめてくること。 事後学習: 毎回の授業で学んだことをレポートにまとめ提出する。 												

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
大西:木曜日の5限、研究室719 アダラ—コリンズ、慈觀:金曜日を除く平日および月曜日から金曜日はEメールにても対応。週末は、Eメールのみ。 公式なチュートリアルは、申込みによって。 山本:火・水曜日の5限、共同研究室
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)
教科書:「系統看護学講座 別巻 がん看護学」、医学書院、ISBN:978-4-260-02763-2
最終到達目標
がん医療の特殊性とがん患者の健康問題について説明できる。 がん治療を受ける患者の特徴と看護について説明できる。
評価方法及び評価基準
期末試験(20%)、授業でのプレゼン(20%)、授業への参加度(20%)、事前学習(20%)、課題レポート(20%)の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。
<p>成績評価基準(学則第34条)</p> <p>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ● 与えられたテーマについて学生が調べてきたことをプレゼンし、ディスカッションを通して学びを深めていきます。 ● プrezen担当者は事前に教員のチェックを受け、プレゼンの内容が不足している場合は課題を追加します。 ● プrezen担当ではない学生も、積極的にディスカッションに参加できるように事前学習して授業にのぞむこと。事前学習した内容は課題レポートと合わせて提出すること。 ● 授業中は飲食・私語を禁止します。また、スマートフォンは電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまっておくこと。

授業コード	ENK0701			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	がん看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的	がんに罹患し治療を受ける患者への理解を深め、治療期にある患者への看護援助において必要な知識と技術を習得する。											
授業内容	がんの治療期にある患者のアセスメントに必要な知識や技術を理解し、具体的な看護援助について検討する。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	コースガイド 乳がん患者の臨床経過	乳がんの事例を通して、がんの臨床経過を理解する。										
2	がん看護におけるコミュニケーション	がん看護におけるコミュニケーションに必要な知識と技術を理解する。										
3	乳がんの手術療法における看護	手術療法を受ける患者に必要な術前・術後の看護を理解する。										
4	乳がん術後の化学療法における看護	化学療法中の患者への症状マネジメントに必要な知識と技術を理解する。										
5	乳がんの放射線治療における看護	放射線治療を受ける患者への看護に必要な知識と技術を理解する。										
6	乳がん治療後のリンパ浮腫のケア	リンパ浮腫のケアに必要な知識と技術を理解する。										
7	がん患者のアピアランスケア	がん患者の外見の変化に対する支援に必要な知識と技術を理解する。										
8	症状マネジメント	がん治療に伴う様々な症状のマネジメントに必要な知識と技術を理解する。										
留意事項(履修条件等)												
<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ姿勢が大切です。ディスカッションには積極的に参加しましょう。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについて は講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。 												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学修課題; 事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。												
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習: プレゼン担当者は、与えられたテーマについて30分でプレゼンできるよう準備してくること。プレゼン担当者以外の学生は、ディスカッションに参加できるようそのテーマについて自分なりに考えをまとめてくること。 事後学習: 毎回の授業で学んだことをレポートにまとめ提出する。 												
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)												
大西:木曜日の5限、研究室719 村上:オフィスアワーに従ってください。 山本:火・水曜日の 5 限、共同研究室												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：「系統看護学講座 別巻 がん看護学」、医学書院、ISBN:978-4-260-02763-2

(がん看護援助論で使用)

最終到達目標

治療期にあるがん患者のアセスメントに必要な知識や技術を理解できる。

治療期にあるがん患者への看護援助について説明できる。

評価方法及び評価基準

授業でのプレゼン(40%)、授業への参加度(20%)、事前学習(20%)、課題レポート(20%)の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

- 与えられたテーマについて学生が調べてきたことをプレゼンし、ディスカッションを通して学びを深めていきます。
- プrezen担当者は事前に教員のチェックを受け、プレゼンの内容が不足している場合は課題を追加します。
- プrezen担当ではない学生も、積極的にディスカッションに参加できるように事前学習して授業にのぞむこと。事前学習した内容は課題レポートと合わせて提出すること。
- 授業中は飲食・私語を禁止します。また、スマートフォンは電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまっておくこと。

授業コード	ENK0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	がん看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	大西ゆかり、アダラ—コリンズ、慈觀、村上早苗、山本千恵美				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的	がんに罹患し、治療を受ける患者の看護を提供する際に必要な社会資源について理解する。											
授業内容	がん患者会の活動の見学を通して、患者会の役割や機能について学習する。 がん患者を支援するための部門の見学やがん看護領域の認定看護師、がん看護専門看護師の活動の見学を通して、がん患者への看護の役割について学習する。											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	授業のオリエンテーション がん治療を受ける患者に必要な社会的資源	がん治療を受ける患者に必要な社会的資源の概要について理解できる。										
2	患者会の役割と機能	患者会の役割と機能について理解できる。										
3	がん患者の就労支援や経済的支援の実際	がん患者の就労支援・経済的支援について理解できる。										
4	在宅移行支援	在宅移行支援における社会資源の活用について理解できる。										
5	【施設見学】がん専門病院の機能	がん専門病院の機能を理解できる。										
6	【施設見学】がん看護領域の認定看護師の役割	がん看護領域の認定看護師の役割を理解できる。										
7	【施設見学】がん看護専門看護師の役割	がん看護専門看護師の役割を理解できる。										
8	まとめ	学外演習での学びを意見交換し、がん患者に必要な社会的資源について理解を深める。										
留意事項(履修条件等)												
<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ姿勢が大切です。ディスカッションには積極的に参加しましょう。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。 												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学修課題・事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。												
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習: プレゼン担当者は、与えられたテーマについて 30 分でプレゼンできるよう準備してくること。プレゼン担当者以外の学生は、ディスカッションに参加できるようそのテーマについて自分なりに考えをまとめてくること。 事後学習: 毎回の授業で学んだことをレポートにまとめ提出する。 												
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)												
大西:木曜日の 5 限、研究室 719 アダラ—コリンズ、慈觀:金曜日を除く平日および月曜日から金曜日は E メールにても対応。週末は、E メールのみ。 公式なチュートリアルは、申込みによって。 村上:オフィスアワーに従ってください。 山本:火・水曜日の 5 限、共同研究室												
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)												
教科書:「系統看護学講座 別巻 がん看護学」、医学書院、ISBN:978-4-260-02763-2 (がん看護援助論で使用)												

最終到達目標

がん治療を受ける患者に必要な社会的資源について説明できる。

がん看護領域の認定看護師、がん看護専門看護師の役割について説明できる。

評価方法及び評価基準

授業でのプレゼン(40%)、授業への参加度(20%)、事前学習(20%)、課題レポート(20%)の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

- 与えられたテーマについて学生が調べてきたことをプレゼンし、ディスカッションを通して学びを深めていきます。
- プrezen担当者は事前に教員のチェックを受け、プレゼンの内容が不足している場合は課題を追加します。
- プrezen担当ではない学生も、積極的にディスカッションに参加できるように事前学習して授業にのぞむこと。事前学習した内容は課題レポートと合わせて提出すること。
- 授業中は飲食・私語を禁止します。また、スマートフォンは電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまっておくこと。

授業コード	ENK0901			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	がん看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的	これまで学んだがん看護援助論、がん看護技術論、がん看護学外演習等で習得したがん看護の関連する知識、技術の統合を目指す。											
授業内容	事例を通して、治療期・終末期にあるがん患者と家族のニーズ、がんの経過に合わせた療養支援について検討する。											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	授業のオリエンテーション、事例紹介 がん患者・家族へのケアに有用な考え方・理論	がん患者・家族へのケアに有用な考え方・理論について理解できる。										
2	初期治療を受けるがん患者・家族の課題やニーズのアセスメント	事例のがん患者・家族の課題やニーズのアセスメントについて理解できる。										
3	乳がんの手術を受けた患者への退院指導	乳がんの手術を受けた患者への退院指導について検討することができる。										
4	薬物療法中の有害事象のマネジメント	薬物療法中の有害事象のマネジメントについて理解できる。										
5	再発したがん患者・家族の課題やニーズのアセスメント	再発したがん患者・家族の課題やニーズのアセスメントについて理解できる。										
6	再発したがん患者の療養支援	再発したがん患者の療養支援について検討することができる。										
7	アドバンスケアプランニング	アドバンスケアプランニングについて検討することができる。										
8	まとめ	事例を通しての学びを意見交換し、がん患者・家族へのケアについて理解を深める。										
留意事項(履修条件等)												
● 主体的に学ぶ姿勢が大切です。ディスカッションには積極的に参加しましょう。												
● 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学修課題; 事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。												
● 事前学習: プレゼン担当者は、与えられたテーマについて 30 分でプレゼンできるよう準備してくること。プレゼン担当者以外の学生は、ディスカッションに参加できるようそのテーマについて自分なりに考えをまとめてくること。												
● 事後学習: 毎回の授業で学んだことをレポートにまとめ提出する。												
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)												
大西:木曜日の 5 限、研究室 719												
村上:オフィスアワーに従ってください。												
山本:火・水曜日の 5 限、共同研究室												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：「系統看護学講座 別巻 がん看護学」、医学書院、ISBN:978-4-260-02763-2

(がん看護援助論で使用)

最終到達目標

治療期にあるがん患者・家族への援助方法を検討することができる。

緩和ケアへの移行について検討することができる。

症状マネジメントの方策を検討することができる。

評価方法及び評価基準

授業でのプレゼン(40%)、授業への参加度(20%)、事前学習(20%)、課題レポート(20%)の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

- 与えられたテーマについて学生が調べてきたことをプレゼンし、ディスカッションを通して学びを深めていきます。
- プrezen担当者は事前に教員のチェックを受け、プレゼンの内容が不足している場合は課題を追加します。
- プrezen担当ではない学生も、積極的にディスカッションに参加できるように事前学習して授業にのぞむこと。事前学習した内容は課題レポートと合わせて提出すること。
- 授業中は飲食・私語を禁止します。また、スマートフォンは電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまっておくこと。

授業コード	ENL0101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	高齢者看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	奥田泰子				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的

高齢者看護は、高齢者自身からの学びを取り入れつつ、他の学問領域等の成果を活用して、高齢者のQOL向上を目指した看護を実践する必要がある。本科目では、老年期にある人々を身体的・精神(心理)的・社会的側面から総合的に理解する。さらに、わが国の高齢社会の現状と高齢者の健康や生活の現状を理解し、高齢者の生活の維持・向上のための保健・医療・福祉制度を学習する。高齢者へのインタビューやグループディスカッションを通して、各自の高齢者観を構築する。

授業内容

老年期にある人とその家族を環境との関係の中で、発達段階、健康レベル、保健行動の視点から生活者として総合的に理解し、高齢者とその家族を支援する看護活動の基本的概念について学ぶ。また、高齢者のウェルネスと QOL の視点から、高齢者の特徴や個人差、その人らしさについて学びを深め、最適の健康を生きることができる援助のあり方について理解するとともに高齢者的人権や権利擁護について学ぶ。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	高齢者看護学概論の受講ガイドンス	1.受講上の注意事項や履修要件、課題提出や評価方法を知り、主体的に受講する方法を理解できる。
	高齢者看護学の成り立ちと定義	2.高齢者看護学領域で学習する科目的関連および高齢者看護学の成り立ちを理解できる。
2	「老い」の理解(1) ・加齢と老化 ・加齢による身体的・心理的・社会的变化	1.老化理論等から高齢者の特徴を理解できる。 2.老年期の疾患の特徴を理解できる。
3	「老い」の理解(2) ・ライフサイクルから見た老年期 ・老年期の発達と成熟・健康の定義	1.ライフサイクルから見た高齢期の定義を理解できる。 2.老年期の発達課題・スピリチュアリティな課題を理解する。 3.老年期の健康の定義を理解できる。
4	高齢者をとりまく社会状況 ・高齢化率、高齢者の生活、健康、暮らし	1.統計データをもとに、日本の高齢化の特徴や高齢者を取り巻く社会の変化を理解できる。
5	介護家族への支援 ・家族介護者の現状と支援	1.家族構造の変化・家族の介護負担について理解できる。 2.家族アセスメント方法と支援について理解できる。
6	高齢者に関する保健医療福祉制度(1) ・制度の変遷から地域包括ケアシステム ・介護保険制度	1.保健医療福祉施策や諸制度の歴史的変遷を踏まえ地域包括ケアシステムの概要を理解できる。 2.介護保険制度の概要・サービス内容・利用方法を理解できる。
7	高齢者に関する保健医療福祉制度(2) ・高齢者医療制度	1.高齢者の医療制度を理解できる。
8	高齢者に対する倫理的課題 ・尊厳と権利擁護・高齢者虐待、 ・自己決定の尊重・成年後見制度	1.高齢者の倫理的課題を述べることができる。 2.権利擁護の法的制度と看護師の役割を理解できる。
9	高齢者看護の役割 ・高齢者看護の特徴と看護師の責務	1.高齢者看護の理念・目標および看護師の役割・責務を理解できる。
10	高齢者観の構築 ・高齢者インタビュー	1.高齢者インタビューをもとに自己の高齢者観を構築できる。
11	高齢者看護に活用できる看護理論	1.各理論の概要と特徴を理解できる。 2.参考事例をもとに理論による看護展開を理解できる。

12	高齢者看護で活用するアプローチ	1.高齢者看護で活用する各種アプローチの意義や活用方法を理解できる。
13	エンドオブライフケア	1.エンドオブライフケアの概念を理解できる。 2.エンドステージにある高齢者の看護を理解できる。
14	介護予防とヘルスプロモーション	1.健康日本21から高齢者の介護予防を理解できる。 2.介護予防プログラム(運動器・認知機能)の詳細を理解できる。
15	療養生活の場と看護 ・介護施設 ・高齢者住宅	1.介護保険施設の特徴と看護を理解できる。 2.地域密着型サービスの概要を理解できる。 3.介護が必要な高齢者の住まいと地域包括ケアにおける位置づけを理解できる。

留意事項(履修条件等)

本科目は、高齢者看護学の基盤となる科目です。高齢者看護援助論Ⅰ、Ⅱを受講する上での基礎となる科目であり、また、本科目を修得しない場合は、2年次前期開講の「在宅高齢者看護学実習」を履修出来なくなります。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学習(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学習(学習課題:事前・事後学習に示されている内容の学習)が必要です。

事前学習:授業の初回に渡す授業計画に従って事前学習を行ってください。事前学習に関する確認テストを授業開始時に行います。これは成績評価に加えられます。

事後学習:授業終了後の記憶が新しいうちに授業を振り返りましょう。自分でわからなかつたことを確認し、自分で調べてみましょう。それでもわからない場合は、次の授業で質問してください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

毎週火曜日の12:20~14:00までをオフィスアワーとし、研究室(702)で待機しています。

教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)

教科書:「系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学」、医学書院、ISBN 978-4-260-03186-8 C3347

最終到達目標

- 老年期の特徴および高齢者の身体・心理・社会的特徴を述べることができる。
- 高齢者の病気の特徴を述べることができる。
- 高齢者を全人的に理解し、最後まで尊厳を持ち人生を全うするための看護の役割を述べることができる。
- 自己の高齢者観を構築し、看護師の役割を表現することができる。

評価方法及び評価基準

個別確認テスト20%、グループテスト10%、提出課題10%、期末試験60%で総合して評価する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点): 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点): 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点): 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点): 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下): 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

授業はTBL(Team Based Learning)をもとに改変したアクティブラーニングで行います。各授業回別に、学生が事前学習を主体的に行うことを期待して、授業開始時に事前確認テスト(個別)を行います。またグループテストやグループディスカッション、協同学習も取り入れます。授業外で高齢者インタビューをしてもらいます。3年次の高齢者看護学実習の基本となる知識を学んでください。

授業コード	ENL0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野							
授業科目名	高齢者看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	棚崎由紀子、眞鍋瑞穂				探求心	○						
講義目的												
加齢による変化、高齢者特有の生活機能障害や健康障害に対する理解をもとに、高齢者の健康レベルに応じた具体的な評価方法、援助方法などを創造的・実践的に学ぶ。												
授業内容												
高齢者特有の身体変化および生活機能障害について理解し、健康レベル、生活機能の視点から高齢者が“その人らしい生活”を実現できるためのアセスメント方法について学ぶ。高齢者に特徴的な歩行障害、排泄障害、感覚機能障害や摂食・嚥下障害などの老年症候群の原因について理解し、それらがどのように高齢者の生活に影響を及ぼし、さらに高齢者自身の自立支援にむけた看護に繋げていくのか創造的に理解する。(主な内容 全8回)												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	高齢者のヘルスアセスメント(1) ヘルスアセスメントの基本、身体の加齢変化と アセスメント:ICF、高齢者総合機能評価 (BADL・IADL) 小テスト	高齢者のヘルスアセスメントの視点について述べることができる。 加齢による身体機能の変化と生活への影響について理解できる。										
2	高齢者のヘルスアセスメント(2) 老年症候群、サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム、廃用症候群 小テスト	高齢者が要介護状態に陥る要因について理解できる。 老年症候群、サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム、廃用症候群の病態及び生活への影響について理解できる。										
3	高齢者の生活機能を整える看護(1) 基本動作と環境のアセスメント 小テスト	加齢に伴う筋・骨格系の機能低下と基本動作のアセスメントの視点および看護について理解できる。										
4	高齢者の生活機能を整える看護(2) 生活リズム(睡眠障害) 小テスト	加齢に伴う睡眠・覚醒の変調とアセスメントの視点について理解できる。 高齢者の生活リズムを整える看護について理解できる。										
5	高齢者の生活機能を整える看護(3) 食事(摂食・嚥下障害、低栄養) 小テスト	加齢に伴う摂食・嚥下機能の変化と食生活のアセスメントの視点が理解できる。 高齢者の食生活の援助について理解できる。										
6	高齢者の生活機能を整える看護(4) 排泄(尿失禁、便秘) 小テスト	加齢に伴う排泄機能(排尿・排便)の変化とアセスメントの視点及び排泄ケアについて理解できる。										
7	高齢者の生活機能を整える看護(5) 清潔(痒み・老人性皮膚搔痒症) 小テスト	加齢に伴う皮膚の特徴とアセスメントの視点が理解できる。 高齢者の清潔の援助が理解できる。										
8	高齢者の生活機能を整える看護(6) コミュニケーション(視力低下・難聴・言語障害) 小テスト	高齢者の起こりやすいコミュニケーション障害とアセスメントの視点が理解できる。 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法が理解できる。										
留意事項(履修条件等)												
本科目の履修は、「高齢者看護学概論」及び「在宅高齢者看護学実習」をすでに履修していることが条件であり、受講するには基礎となる「解剖生理学」、「生活援助方法論」の知識が不可欠となります。												

授業時間外の学習(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学習)が必要です。

事前学習:

授業の初日に配布する授業計画に従って事前学習(課題)を行ってください。事前学習に関する課題テストを授業開始時に行います。これは成績評価に加えられます。

事後学習:

講義直後、授業時間内に理解度を確認するテストを行います。これも成績評価に加えられます。また、講義終了後には記憶が新しいうちに授業内容を振り返りましょう。理解できなかった内容については、必ず自分で調べて確認しましょう。それでもわからない場合は、次の授業で質問してください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

水曜日 4 限に各教員の研究室にて待機しています。

棚崎研究室(712)、眞鍋研究室(共同研究室)

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:

「系統学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」、医学書院、ISBN 978-4-260-03186-8

(「高齢者看護学概論」の指定教科書)

「生活機能から見た老年看護過程 第3版」、医学書院、ISBN 978-4-260-02836-3

参考書:

必要に応じて講義の中で紹介する。

最終到達目標

高齢者の加齢に伴う様々な変化・変調および生活機能への影響、アセスメントの視点について述べることができる。さらに、高齢者の自立支援に向けた援助方法について説明できる。

評価方法及び評価基準

小テスト 30%、提出課題 10%、定期試験 60%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。評価基準は下表に従う。

成績評価基準 (学則第34条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

講義は、TBL(Team Based Learning)をもとに改変したアクティブラーニングを行います。学生の主体的な学修を期待して、グループディスカッションを取り入れた協同学習を行います。すでに履修している高齢者看護学概論の知識や在宅高齢者看護学実習の経験が不可欠となります。しっかりと事前学習(課題)に取り組み、高齢者看護の基本的な援助技術を学んでください。

授業コード	ENL0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と倫理観	○					
授業科目名	高齢者看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	棚崎由紀子、眞鍋瑞穂				探求心	○					
講義目的											
高齢者の特徴および倫理的課題をふまえ、健康レベルに応じた生活支援技術(看護実践力)を養う。また、事例を用いた(ペーパーペイントを素材とした)グループ学習による高齢者の個別性を踏まえた看護ケア計画立案の過程を体験する。											
授業内容											
加齢変化および高齢者の特徴的な疾病・障害を理解し、高齢者の健康レベルに応じたアセスメントとその援助方法について学ぶ。また、個性豊かに高齢期を生きる人々とその家族のQOLを高める生活支援について学ぶ。(主な内容 全15回)											
高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護、治療を必要とする高齢者の看護、認知機能障害を持つ高齢者とその介護家族の支援、高齢者のリスクマネジメント、看護過程の展開											
授業計画及び学習課題											
回	標 題	学習課題									
1	高齢者の特徴的な症状と看護 発熱・脱水・痛み	小テスト	高齢者の特徴的な症状(発熱・脱水・嘔吐・痛み)の特徴、アセスメント、看護の要点について理解できる。								
2	高齢者の特徴的な疾患と看護(1) 心不全	小テスト	高齢者の心不全の病態、症状、診断・治療、看護の要点について理解できる。								
3	高齢者の特徴的な疾患と看護(2) パーキンソン病	小テスト	高齢者のパーキンソン病の病態、症状、診断・治療、看護の要点について理解できる。								
4	高齢者の特徴的な疾患と看護(3)感染症 (ノロウイルス、インフルエンザ、肺炎など)	小テスト	高齢者特有の感染症の病態と症状、診断・治療、看護の要点について理解できる。								
5	高齢者の特徴的な疾患と看護(4) うつ、認知症	小テスト	加齢に伴う認知機能の変化、うつ、認知症高齢者の特徴と看護の基本姿勢について理解できる。 薬物療法及び非薬物療法の概要について理解できる。								
6	治療を必要とする高齢者の看護(1) 薬物療法を受ける高齢者	小テスト	加齢に伴う薬物動態の変化と薬物療法を受ける高齢者の看護の要点について理解できる。								
7	看護過程の展開(1) 生活機能モデルの理解		高齢者を対象にした生活機能モデル(看護過程)を理解できる。								
8	治療を必要とする高齢者の看護(2) 脳血管疾患(脳梗塞・脳出血)	小テスト	脳血管疾患(脳梗塞・脳出血)の病態、症状、診断・治療、看護の要点について理解できる。								
9	看護過程の展開(2) 脳血管疾患(脳梗塞、脳出血)		脳血管疾患(脳梗塞・脳出血)の高齢者の事例を用いて、生活機能モデルによる看護過程を展開できる。								
10	治療を必要とする高齢者の看護(3) 検査・手術を受ける高齢者:大腿骨近位部骨折	小テスト	検査と手術を受ける高齢者の影響と看護の要点について理解できる。高齢者の骨折の病態、発生要因とその看護について理解できる。								
11	看護過程の展開(3) 大腿骨近位端骨折		大腿骨近位端骨折の高齢者の事例を用いて、生活機能モデルによる看護過程を展開できる。								
12	看護技術演習:生活支援技術(1) (口腔ケア、食事介助、オムツ交換、車いす移乗)		高齢者に対する口腔ケア、食事介助、オムツ交換、車いす移乗の各技術援助の留意点について理解できる。								
13	看護技術演習:生活支援技術(2) 口腔ケア、食事介助		事例を用いて、高齢者に対する留意点をふまえた口腔ケア、食事介助の演習を行うことができる。								

14	看護技術演習:生活支援技術(3) オムツ交換、車いす移乗	事例を用いて、高齢者に対する留意点をふまえたオムツ交換、車いす移乗の演習を行うことができる。
15	看護過程のまとめ 高齢者のリスクマネジメント 小テスト	事例を通して展開した看護過程の内容を発表できる。高齢者に対するリスクマネジメントについて理解できる。
留意事項(履修条件等)		
本科目の履修は「高齢者看護学概論」、「在宅高齢者看護学実習」、「高齢者看護援助論Ⅰ」をすでに履修していることが条件となります。受講するには基礎となる「解剖生理学」、「生活援助方法論」の知識が不可欠となります。		
授業時間外の学習(事前・事後学習)		
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学習)が必要です。		
事前学習: 授業の初日に配布する授業計画に従って事前学習を行ってください。事前学習(課題)に関する課題テストを授業開始時に行います。これは成績評価に加えられます。		
事後学習: 講義直後、授業時間内に理解度を確認するテストを行います。これも成績評価に加えられます。また、講義終了後には記憶が新しいうちに授業内容を振り返りましょう。理解できなかった内容については、必ず自分で調べて確認しましょう。それでもわからない場合は、次の授業で質問してください。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
火曜日 4 限に各教員の研究室にて待機しています。棚崎研究室(712)、眞鍋研究室(共同研究室)		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書: 「系統学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」、医学書院、ISBN 978-4-260-03186-8 (「高齢者看護学概論」の指定教科書) 「生活機能から見た老年看護過程 第3版」、医学書院、ISBN 978-4-260-02836-3 (「高齢者看護援助論Ⅰ」の指定教科書)		
参考書: 必要に応じて講義の中で紹介する。		
最終到達目標		
高齢者の特徴的な症状や疾患に応じたアセスメントおよび援助方法について理解することができる。事例を通して、生活機能モデルによる高齢者の看護過程を展開することができる。		
評価方法及び評価基準		
小テスト 10%、提出物 30%、定期試験 60%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。評価基準は下表に従う。		
成績評価基準 (学則第34条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		
学生へのメッセージ		
講義はTBL(Team Based Learning)をもとに改変したアクティブラーニングを行います。グループディスカッションを取り入れた協同学習を行うため、各自、主体的な学習を期待します。この講義の学びは、3 年後期の高齢者看護学実習で実践することになるため、しっかりと身につけておきましょう。		

授業コード	ENL0401			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	認知症看護援助論	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	奥田泰子				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的

高齢化の延伸に伴い看護の対象となる人々に認知症高齢者が増加している現状において、認知症高齢者の QOL の維持、向上ができる看護専門職者として認知症を正しく理解する。そのうえで、家族を含めて質の高い援助ができる視点を養うことを目的とする。

授業内容

認知症の代表的な原因疾患とその特徴、及び症状に対応した最新の知識と技術について学ぶ。また、最新の薬物療法と非薬物療法の実際について知り、認知症高齢者とその家族に対する質の高い看護実践ができるための基本的技術について学ぶ。さらに、告知やターミナルケアなどの認知症をめぐる今日的な課題や、諸外国の先駆的な取組について知り、課題を明らかにする。

(主な内容 全8回)

認知症の代表的な原因疾患とその特徴と看護、認知症の中核症状と BPSD の予防・緩和、認知症の薬物療法と非薬物療法、認知症をめぐる今日的課題(告知、若年性認知症と就労、ターミナルケア)、認知症看護における倫理的課題と対応、認知症高齢者の介護家族の特徴と支援の実際、わが国と諸外国の認知症に関わる保健・医療・福祉制度の概要と課題、認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと調整

以上の内容を講義およびグループワークにより学習する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	認知症疾患の基本理解(1) MCI と認知症予防	1.認知症の代表的な原因疾患とそれぞれの特徴的症状とその看護を理解できる。 2.認知症の中核症状とは何かを理解できる。
2	認知症疾患の基本理解(2) MCI と認知症予防	1.MCI は何かを理解できる。 2.認知症を予防するための方法について理解できる。
3	認知症のBPSDと家族介護負担	1.BPSD発生のメカニズムを理解し、その発生の予防や発生時の対応を理解できる。 2.認知症高齢者の介護家族の課題を理解できる。
4	認知症の薬物療法	1.最新の薬物療法を知り、認知症の薬物療法の持つ意味を理解できる。
5	認知症の非薬物療法	1.認知症高齢者への非薬物療法の持つ意味を理解できる。 2.種々の非薬物療法を適切な対象者に適切に介入するための基本視点を理解できる。 3.対象別非薬物療法を計画することができる。
6	認知症看護における倫理的課題と対応	1.認知症患者に対する倫理的課題を明らかにし、人権を尊重した対応の必要性を理解できる。
7	急性期治療の場における認知症看護	1.急性期治療の場(急性期の医療施設)における認知症の看護の困難性とその対応について理解できる。
8	認知症をめぐる今日の課題 (告知、若年性認知症と就労、ターミナルケア)	1.認知症をめぐる様々な課題について、グループディスカッションを通して学生自身の考えを述べることができる。

留意事項(履修条件等)										
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習をすでに履修していることが必要です。										
また、認知症高齢者看護選択強化プログラムのコースを選択している学生は必ず受講してください。										
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。										
授業時間外の学習(事前・事後学習)										
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学習(学習課題:事前・事後学習に示されている内容の学習)が必要です。										
事前学習:										
授業の中で指定します。										
事後学習:										
グループワークや文献検索など、授業外での学習を行ってください。										
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)										
毎週火曜日の12:00～14:00まで、研究室702で行います。										
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)										
教科書:「認知症の人びとの看護」、第3版 医歯薬出版、 ISBN:978-4-263-23688-8 C3047										
参考書:										
授業の中で適宜紹介										
最終到達目標										
1.認知症の原因疾患別特徴を述べることができる。 2.BPSD発生のメカニズムから援助方法を述べることができる。 3.認知症予防の必要性と介入方法を説明できる。 4.対象に応じた非薬物療法を選択し、実施計画が立案できる。 5.認知症をめぐる今日的課題について自己の意見を述べることができる。										
評価方法及び評価基準										
個別確認テスト30%、グループテスト20%、提出課題10%、期末試験40%で総合して評価する。										
<p style="border: 1px solid black; padding: 10px;">成績評価基準(学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100～90点)</td> <td>: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89～80点)</td> <td>: 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79～70点)</td> <td>: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69～60点)</td> <td>: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下)</td> <td>: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100～90点)	: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89～80点)	: 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79～70点)	: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69～60点)	: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下)	: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100～90点)	: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)									
A(89～80点)	: 学習目標を相応に達成している (Very Good)									
B(79～70点)	: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)									
C(69～60点)	: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)									
D(59点以下)	: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)									
学生へのメッセージ										
認知症高齢者看護に興味関心がある学生を求める。主体的に授業に参加して学んでください。 今後も高齢者が増加する中で、臨床看護にも、在宅での看護にも非常に役立つ科目です。認知症の看護はまだ確立されていません。認知症になってもその人らしく生を全うしてもらえるような新しい看護を一緒に考えてみませんか。										

授業コード	ENL0501			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性										
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と 倫理観										
授業科目名	認知症看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術										
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力										
担当教員	棚崎由紀子、眞鍋瑞穂				探求心										
講義目的	認知症高齢者の尊厳ある生活を支援するために必要な基本的援助技術について、具体的な計画・実践を通して理解する。														
授業内容	<p>認知症高齢者の思いを理解し、認知症高齢者の健康課題と尊厳ある生活を支援するために必要なコミュニケーション技術、回想法、アクティビティケア、認知機能リハビリテーション、コンフォートケアなどの基本的な援助技術を取り上げ、その具体的な内容と留意点について実践的に学ぶ。(主な内容 全8回)</p> <p>認知症高齢者の回想法、認知症高齢者の特性をふまえたコミュニケーション技術、アクティビティケア、認知症高齢者に対するコンフォートケア</p>														
授業計画及び学習課題															
回	標題	学習課題													
1	認知症高齢者に対するケアの理念 パーソンセンタードケア、コンフォートケア (棚崎)	認知症高齢者に対するケアの理念を理解できる。 パーソンセンタードケア、コンフォートケアの視点について理解できる。													
2	認知症高齢者に対するアセスメント BPSDに対するアセスメント(センター方式) (棚崎)	認知症高齢者に対するアセスメントの視点および様々なアセスメントツールについて理解できる。													
3	認知症高齢とのコミュニケーション バリデーション (棚崎)	認知症高齢者とのコミュニケーション技術の視点について理解できる。 バリデーションの概要について理解できる。													
4	非薬物療法(回想法、音楽療法など) (眞鍋)	回想法、音楽療法などの非薬物療法の概要について理解できる。													
5	非薬物療法の実際(回想法、音楽療法など) (眞鍋)	回想法、音楽療法などの非薬物療法を体験することができる。													
6	アクティビティケア演習(1) ケア計画の立案 (棚崎・眞鍋)	グループメンバーとともに認知症高齢者を対象にしたアクティビティケアを計画することができる。													
7	アクティビティケア演習(2) ケア計画の立案 (棚崎・眞鍋)														
8	認知症の事例発表 (棚崎・眞鍋)	グループメンバーとともに立案したアクティビティケアを実践し、発表することができる。													
留意事項(履修条件等)															
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習、認知症看護援助論をすでに履修していることが条件となる。															
確認テストや課題レポート等のフィードバックはその都度講義時間内に行います。															
授業時間外の学修(事前・事後学習)															
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。															
事前学習: 授業の中で指定します。															
事後学習: 講義内容に応じて、グループワークや文献検索など、授業外での学習を行ってください。															

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)										
火曜日 4 限に各教員の研究室にて待機しています。										
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)										
<p>教科書: 「系統学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」、医学書院、ISBN 978-4-260-03186-8 (「高齢者看護学概論」の指定教科書)</p> <p>「生活機能から見た老年看護過程 第3版」、医学書院、ISBN 978-4-260-02836-3 (「高齢者看護援助論 I」の指定教科書)</p> <p>参考書: 必要に応じて講義の中で紹介する。</p>										
最終到達目標										
認知症高齢者の尊厳ある生活を支援するための視点および基本的な援助(コミュニケーション技術、回想法、アクティビティケアなど)を実践的に展開することができる。										
評価方法及び評価基準										
グループワークの参加状況 30%、プレゼンテーション 20%、提出課題 50%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。評価基準は下表に従う。										
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90点)</td> <td>: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点)</td> <td>: 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点)</td> <td>: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点)</td> <td>: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下)</td> <td>: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点)	: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点)	: 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点)	: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点)	: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下)	: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90点)	: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)									
A(89~80点)	: 学習目標を相応に達成している (Very Good)									
B(79~70点)	: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)									
C(69~60点)	: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)									
D(59点以下)	: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)									
学生へのメッセージ										
認知症高齢者看護の興味関心がある学生を求めます。主体的に授業に参加して学んでください。 今後も高齢者が増加する中で、臨床看護にも、在宅での看護にも非常に役立つ科目です。 認知症の看護はまだ確立されていません。一緒に新しい看護を考えてみませんか。										

授業コード	ENL0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	認知症看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	奥田泰子, 棚崎由紀子, 真鍋瑞穂				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的	認知症高齢者の生活の場の特徴をふまえた現状と課題を見出し、今後の認知症ケアのあり方について考察する。											
授業内容	認知症高齢者ケアに必要な社会資源として認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能ホーム・ユニット型小規模介護福祉施設等を訪問する。各施設での高齢者や職員とのかかわりを通して、その概要・現状と課題について評価分析し、今後よりよい認知症高齢者ケアの方向性について検討する。(全8回)											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	認知症高齢者の生活の場	認知症高齢者の生活の場(認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能ホーム・ユニット型小規模介護福祉施設等)について理解できる。										
2	グループワーク(1) 訪問計画の立案	認知症高齢者の社会資源である施設訪問に向けて、グループメンバーで実施内容を計画できる。										
3	施設見学	認知症高齢者の生活の場の見学訪問										
4	施設見学	認知症高齢者の生活の場の見学訪問										
5	施設見学	認知症高齢者の生活の場の見学訪問										
6	グループワーク(2) 各施設の現状と課題	施設訪問および事前学習の内容などをもとに、グループメンバーで認知症高齢者の現状と課題について分析できる。										
7	グループワーク(3) 各施設の現状と課題と将来展望	施設訪問および事前学習や関連文献などをもとに、グループメンバーで認知症高齢者の現状と課題について分析できる。										
8	認知症高齢者の現状と課題:発表会	認知症高齢者に対するケアの方向性や将来展望についてグループディスカッションし、その内容を発表できる。										
留意事項(履修条件等)												
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、認知症看護援助論、認知症看護技術論の単位修得見込みであり、なおかつ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習をすでに履修していることが条件となる。また、認知症高齢者看護強化プログラムのコースを選択している学生は必ず受講してください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題:予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。												
事前学習: 授業の中で指定します。												
事後学習: グループワークや文献検索・検討などを行い、授業外での学修を行ってください。												

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
高齢者看護学領域の教員 3 名は、水曜日の 4 限に各自の研究室で待機しています。
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)
教科書: 中島紀恵子監修:「認知症の人びとの看護」、第 3 版 医歯薬出版、ISBN:978-4-263-23688-8 C3047 (認知症看護援助論、認知症看護演習の指定教科書)
参考書: 授業の中で適宜紹介
最終到達目標
1.認知症高齢者の生活の場の特徴を説明することができる。 2.認知症ケアを行っている施設それぞれの現状と課題について発表することができる。 3.認知症高齢者の生活の場の将来展望から、看護の在り方を述べることができる。
評価方法及び評価基準
グループワークの発言や活動状況 30%、プレゼンテーション 20%、課題およびレポート提出 50%など配点得点を合計 100 点満点として総合的に評価する。
<p style="border: 1px solid black; padding: 10px;">成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
認知症高齢者看護に興味関心がある学生を求めます。主体的に授業に参加して学んでください。 今後も高齢者が増加する中で、臨床での看護にも、在宅での看護にも非常に役立つ科目です。 認知症高齢者の生活を支える施設の見学や文献を通して、認知症高齢者にとってのより良い生活支援を履修学生とともに考える科目です。 認知症の看護はまだ確立されていません。一緒に新しい看護を考えてみませんか。

授業コード	ENL0701			定める 能力 ディプロマポリシーに 養成する	豊かな人間性																											
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と 倫理観																											
授業科目名	認知症看護演習	選択・必修	選択		知識・技術																											
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力																											
担当教員	奥田泰子、棚崎由紀子、眞鍋瑞穂				探求心																											
講義目的	これまでの認知症高齢者ケアに対する学びを多角的に統合し、今後のよりよいケアのあり方について発展的に考察する。																															
授業内容	<p>認知症看護援助論、認知症看護技術論、認知症看護学外演習等で学んだ内容と、統合実習で担当した認知症高齢者的事例を用いて実践した看護を振り返って評価・分析する。不十分であった看護内容については文献を用いて総合的に整理し、よりよい認知症高齢者ケアについて発展的に考察する。(主な内容 全8回)</p> <p>認知症高齢者看護における倫理的課題の概要(事例)、認知症高齢者看護における倫理的課題の実際(事例)、認知症の予防活動、重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)、生活・療養環境のアセスメントの実際(事例)、生活・療養環境のアセスメントの実際と課題(事例)、認知症高齢者のBPSDのアセスメント(事例)、認知症高齢者のBPSDに対する看護(事例)</p> <p>本科目は、検索した文献をもとにグループディスカッションを通して課題達成を目指す。</p>																															
授業計画及び学習課題	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>標題</th> <th>学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>受講方法のガイダンス 文献検索および検討</td> <td>認知症高齢者看護をテーマにした文献を検索できる。選択した1論文を検討し、論文から得られた結果を明確にする手法を理解できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>認知症高齢者看護における倫理的課題の実際 (事例)</td> <td>認知症高齢者看護における倫理的課題について、事例を通して理解できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>認知症の予防活動(事例)</td> <td>認知症を予防するための方法について、事例を通して理解できる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)</td> <td>重度認知症高齢者の終末期の看護および緩和ケアについて、事例を通して理解できる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生活・療養環境のアセスメントの実際と課題 (事例)</td> <td>認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと課題について、事例を通して理解できる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(1) (事例)</td> <td>認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について、事例を通して理解できる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(2) (事例)</td> <td>認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について、事例を通して理解できる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>認知症高齢者ケアの発展的考察</td> <td>これまでの認知症に関連した学びを振り返り、今後の認知症高齢者ケアに対する発展的考察を行うことができる。</td> </tr> </tbody> </table>					回	標題	学習課題	1	受講方法のガイダンス 文献検索および検討	認知症高齢者看護をテーマにした文献を検索できる。選択した1論文を検討し、論文から得られた結果を明確にする手法を理解できる。	2	認知症高齢者看護における倫理的課題の実際 (事例)	認知症高齢者看護における倫理的課題について、事例を通して理解できる。	3	認知症の予防活動(事例)	認知症を予防するための方法について、事例を通して理解できる。	4	重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)	重度認知症高齢者の終末期の看護および緩和ケアについて、事例を通して理解できる。	5	生活・療養環境のアセスメントの実際と課題 (事例)	認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと課題について、事例を通して理解できる。	6	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(1) (事例)	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について、事例を通して理解できる。	7	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(2) (事例)	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について、事例を通して理解できる。	8	認知症高齢者ケアの発展的考察	これまでの認知症に関連した学びを振り返り、今後の認知症高齢者ケアに対する発展的考察を行うことができる。
回	標題	学習課題																														
1	受講方法のガイダンス 文献検索および検討	認知症高齢者看護をテーマにした文献を検索できる。選択した1論文を検討し、論文から得られた結果を明確にする手法を理解できる。																														
2	認知症高齢者看護における倫理的課題の実際 (事例)	認知症高齢者看護における倫理的課題について、事例を通して理解できる。																														
3	認知症の予防活動(事例)	認知症を予防するための方法について、事例を通して理解できる。																														
4	重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)	重度認知症高齢者の終末期の看護および緩和ケアについて、事例を通して理解できる。																														
5	生活・療養環境のアセスメントの実際と課題 (事例)	認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと課題について、事例を通して理解できる。																														
6	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(1) (事例)	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について、事例を通して理解できる。																														
7	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(2) (事例)	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について、事例を通して理解できる。																														
8	認知症高齢者ケアの発展的考察	これまでの認知症に関連した学びを振り返り、今後の認知症高齢者ケアに対する発展的考察を行うことができる。																														
留意事項(履修条件等)	<p>本科目を履修するには、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、認知症看護援助論、認知症看護技術論、認知症看護学外演習の単位修得見込みであり、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習をすでに履修していることが必要となります。認知症高齢者看護選択強化プログラムのコースを選択している学生は、必ず受講してください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>																															

授業時間外の学習(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題; 事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習:

各单元に関連する事例を文献検索し、興味関心のある論文を読みましょう。

事後学習:

授業で学習した事例を振り返りましょう。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

高齢者看護学領域の教員 3 名は、隔週金曜日 12:00~14:00 に各自の研究室で待機しています。

奥田研究室(702)、棚崎研究室(712)、眞鍋研究室(共同研究室)

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:

「認知症の人びとの看護」、第 3 版 医歯薬出版、ISBN:978-4-263-23688-8

参考書:

授業の中で適宜紹介

最終到達目標

認知症高齢者看護を多角的視点で考察し、自己の認知症高齢者に対する看護観を表現することができる。

評価方法及び評価基準

個別確認テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、期末試験 40%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。評価基準は下表に従う。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

認知症高齢者看護に興味関心がある学生を求めます。主体的に授業に参加して学んでください。

今後も高齢者が増加する中で、臨床での看護にも、在宅での看護にも非常に役立つ科目です。認知症の看護はまだ確立していません。一緒に新しい看護を考えてみませんか。

授業コード	ENM0101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	在宅看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	田中正子、永井康徳				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
在宅療養者とその家族の生活環境及び健康上の課題について理解し、質の高い療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。また在宅看護における社会資源の活用及び保健・医療・福祉チームによる多職種連携と協働の重要性を学び、在宅看護・在宅医療について理解を深めることを目的とする。							
授業内容							
在宅看護の目的と特性を踏まえた社会動向と在宅医療・在宅看護における保健・医療・福祉制度の理解ができるよう、グループワークを交えて授業を展開する。また在宅医療・看護の現状を知り、対象者の疾患及び療養状況・環境等を捉えた在宅ケアの特徴及びサービス、多職種の連携と協働、マネージメント、介護保険、地域包括ケアシステム、権利保障、尊厳と自己決定、家族の介護力、在宅看護技術・医療技術の概要、主な対象別看護等について学習する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	在宅看護の目的と特徴 (田中) 在宅看護における看護の役割	テキストを読む(10~24p)。 チーム医療の中での看護の役割について説明できる。					
2	在宅看護の対象者 看護が提供される多様な場と生活の場の特性 (田中)	テキストを読む(26~72p)。保健・医療・福祉機関の連携・協働を含めた看護の活動・役割について説明できる。また継続看護、退院支援・退院調整等地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について説明できる。					
3	日本の訪問看護制度の創設と発展経緯及び世界の訪問看護の動向 (田中)	テキストを読む(76~78p, 90~99p)。日本と世界の訪問看護について理解し、今後の日本の在宅看護について考える事ができる。					
4	在宅ケアを支える制度、 地域包括ケアの概念およびシステム (田中)	テキストを読む(78~90p)。訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センター等とその特性について説明できる。介護保険に関連する施設サービス、在宅サービス、地域密着型サービスの提供機関とその特性について説明できる。					
5	在宅医療について なぜ在宅医療か? (永井)	在宅医療について調べる。地域に暮らす人や在宅療養者とその家族の強みや主体性を引き出し、セルフケア力の発揮を促す支援について説明できる。					
6	在宅医療について 住み慣れた場所での看取り (永井)	該当部分の参考書を読む。保健・医療・福祉チーム員の機能と専門性、対象者を中心とするチームの構築方法について説明できる。					
7	在宅ケアの連携とマネージメント、 生活支援 (田中)	在宅ケアに関わる職種を調べる。テキストを読む(100~110p)。多職種連携、マネージメント等により療養者及び家族の生活支援の重要性を理解し、チーム医療の中での相互の尊重・連携・協働および効果的な話し合いをするための方法について説明できる。					
8	対象者の権利保障、尊厳と自己決定 (田中)	テキストを読む(70~72p, 165~170p, 415~416p)。 個人の尊厳と自己決定への支援、虐待について理解し、説明できる。 (在宅療養者と家族の講話を聴き、感想文を提出する)					
9	在宅で求められる看護技術の応用 (田中)	テキストを読む(174~225p)。 在宅での観察及び看護技術の応用について理解できる。					
10	在宅ケアにおける医療技術 (田中)	テキストを読む(232~298p)。 在宅における医療技術の概要について理解できる。					

11	在宅医療について 在宅医療で地域を変える (永井)	該当部分の参考書を読んでおく。
12	在宅看護介入期別の特徴 脳卒中療養者の在宅看護 (田中)	テキストを読む(306~325p)。介入期別の特徴が理解できる。脳卒中療養者の看護について理解できる。
13	小児療養者の在宅看護 (田中)	テキストを読む(344~355p)。 小児療養者の看護について理解できる。
14	医療依存度の高い療養者の在宅看護 (田中)	テキストを読む(356~368p)。 人工呼吸器装着療養者の看護について理解できる。
15	認知症療養者の在宅看護 在宅ケアの総括 (田中)	テキストを読む(334~342p)。認知症療養者の看護について理解できる。今までの講義の振り返りをしておく。

留意事項(履修条件等)

- 授業中の私語をしないこと。携帯は鞄の中に入れておくこと。
- 課題等の提出は期日・時間を厳守すること。
- 課題レポートは永井先生の3回目の講義が終了した後、2週間後の講義が始まる前に提出すること。
- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行なうが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学習(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学習(事前・事後の学習に示されている内容)が必要である。

事前学習: 毎回 1~2 時間は、該当部分についてテキスト又は参考書等を読んで予習しておく。

事後学習: 毎回 2~3 時間は、講義内容について整理し理解できるように復習する。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

火曜日5時限目: 713 研究室

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「在宅看護論 第 4 版」、医学書院、ISBN 978-4-260-02762-5

参考書: 図書館にもあるので、個々に買う必要はない。

「在宅医療を始めよう! 非がん患者の自宅での看取り」、南山堂、ISBN 978-4-525-20401-3

「在宅医療を始めよう! 医療を変える、地域を変える、文化を変える」、南山堂、ISBN 978-4-525-20741-0

最終到達目標

- 在宅看護の目的・意義を説明できる。
- 継続看護・退院支援・退院調整等について理解し、在宅看護における看護職の役割が説明できる。
- 在宅ケア機関とその特性について説明できる。
- 介護保険に関連する施設サービス、在宅サービス、地域密着型サービスの提供機関とその特性について説明できる。
- 在宅療養者の尊厳と自己決定について理解できる。
- 永井医師の講義終了後、チーム医療を推進する為に講義で習った事等を視野に入れ、保健・医療・福祉チーム員の機能と専門性、対象者を中心とするチームの構築方法等についてレポートに記述できる。

評価方法及び評価基準

試験(60%)、レポート(30%)、講義やグループワークへの参加及び態度、リアクションペーパー(10%)など配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準(学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

1. 自分の家族及び周囲の環境に興味を持ちましょう。
2. 障がい児・者、小児、高齢者等が利用できる社会資源はどのようなものがあるのか興味を持ちましょう。
3. 日頃から心のバリアフリーを意識し、社会的弱者のサポートができるように心がけましょう。

授業コード	ENM0201			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と 倫理観		
授業科目名	在宅看護援助論 I	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	○	

講義目的

在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える為に種々の工夫があることや在宅療養者とその家族のニーズに対応する為に、状況に応じた新たなケアを創造する必要性が理解できる。また、在宅生活のリスク(感染防止、災害等を含む)および、在宅療養者が安定した生活を送るための訪問看護計画の作成過程について理解し、模擬事例の訪問看護計画を立案することができる。介護保険のケアプラン内における訪問看護計画と医療保険等における訪問看護計画の違い、および在宅チーム医療について理解し考える事ができる。

授業内容

療養者と家族が「生活すること」を支える為に種々の工夫があることを理解するために、実際の工夫例を示し、グループ演習を実施する。日常生活を「生活行為」として家族や環境も含め総合的に捉え、必要な情報を収集し個々に応じた看護計画を立案できるように、机上事例を通してグループ演習を実施し、模擬看護計画を立案し発表する。また介護保険のケアプラン内における訪問看護計画と医療保険等における訪問看護計画の違いについて学習し、介護保険における模擬サービス担当者会議を実施する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	在宅療養者の日常生活支援 (グループワーク)	・在宅看護学概論で学んだ内容について復習しておく。 ・在宅療養における物品の工夫について考えることができる。 ・状況に応じた新たなケアを創造する必要性が理解できる。
2	日常生活支援の工夫について グループ発表	・日常生活支援の工夫についてグループ発表できるようにまとめておく。 ・他者の意見を聞くことができ、ディスカッションができる。
3	在宅看護過程の展開(1):ポイント	・テキストを読んでおく(p 66~70)。 ・在宅看護の特徴及び看護過程展開のポイントが理解できる。
4	在宅看護過程の展開(2):情報収集・アセスメント(グループワーク)	・テキストを読んでおく(p 70~88)。 ・収集した情報を整理し、アセスメントすることができる。
5	在宅看護過程の展開(3):計画立案・評価、事例のフェイスシート記入(グループワーク)	・テキストを読んでおく(p 88~102)。 ・事例内容をフェイスシートに記載できる。
6	在宅看護過程(1):関連因子の配置とグループピング(グループワーク)	・フェイスシートを基に四側面アセスメントシートに記載しておく。 ・他者の意見を聞くことができ、ディスカッションができる。
7	在宅看護過程(2): 関連図の作成(グループワーク)	・生活を基盤にした療養者の全体像を捉えることができる。 ・療養者の思いを中心としたアセスメントの四側面について理解できる。
8	在宅看護過程(3):アセスメント整理、看護計画の立案(グループワーク)	・看護記録用紙にアセスメント内容を記載しておく。 ・看護計画を立案し、発表準備をすることができる。
9	立案した看護計画についてグループ発表	・グループで発表出来るように資料を作成しておく。 ・他者の意見を聞くことができ、ディスカッションができる。
10	在宅看護のリスクマネージメント:特徴、感染防止、災害等(グループ別発表)	・テキストをまとめ、発表できるようにしておく(p 137~158)。 ・リスクの特徴、感染防止、災害準備・対応について理解できる。

11	介護保険におけるケアプラン:介護支援専門員、要支援・要介護度、支給限度額	・介護支援専門員の職種、支給限度額について調べておく。 ・介護保険におけるケアプランについて理解できる。
12	介護保険におけるケアプラン: 問題点の抽出、ケアプラン作成方法	・訪問看護計画との違いについて説明できる。 ・問題点の抽出、ケアプラン作成方法が理解できる。
13	事例に基づきサービス担当者会議の役割等の検討:グループワーク	・サービス担当者会議に参加する職種について調べておく。 ・サービス担当者会議について理解でき、役割分担できる。 ・地域における多職種会議の方法について理解できる。
14	模擬サービス担当者会議: グループワーク	・模擬サービス担当者会議用の資料を作成しておく(事前に役割分担をし、各自の職種について調べ、質問内容等を考えておく)。 ・チーム医療の中で効果的な話し合いをするための方法について説明できる。
15	総括	・今までを振り返り、生活者としての療養者のニーズに合った看護過程の展開の重要性を理解することができる。

留意事項(履修条件等)

- 授業はやむを得ない理由でない限り毎回参加する。
- 課題の提出は期日・時間を厳守する。
- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。
- 全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学習(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(学習課題;事前・事後に示されている内容)が必要である。

事前学習:毎回のテーマに関するテキストを読み、課題のある時は実施する(授業後提出)。

事後学習:配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習しまとめておく。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

田中:火 5 限目、713 研究室

村岡:火 3 限目・水 2 限目、共同研究室

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:「在宅看護論 第 5 版」、医学書院、ISBN 978-4-260-02762-5

参考書:「関連図で理解する在宅看護過程」、メディカルフレンド社、ISBN 978-4-8392-1571-2

最終到達目標

- 在宅療養者の日常生活における物品について考え、工夫することができる。
- 新たなケアを創造する必要性が理解できる。
- 在宅看護におけるリスクマネージメントについて理解することができる。
- 介護保険のケアプランにおける訪問看護計画と医療保険等における訪問看護計画の違いについて理解でき、模擬事例の訪問看護計画を立案することができる。

評価方法及び評価基準

試験 50%、看護計画立案 20%、グループワーク参加態度・リアクションペーパー 30% で配点得点を合計 100 点満点として総合して評価する。

成績評価基準(学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

在宅は病院等とは違い、療養者の居宅が主体の場であることを理解し、療養者・家族の思いやニードに沿った支援ができるようアセスメント力を磨きましょう。

授業コード	ENM0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と倫理観						
授業科目名	在宅看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	○					
講義目的											
在宅療養者の日常生活を「生活行為」として俯瞰的、総合的に捉えることができ、必要とされる安全安楽な介助をアセスメントする能力を養うことができる。その為の看護技術方法(日常生活援助、医療技術援助)について理解し、モデル人形等を用いて一部実施することができる。											
授業内容											
在宅で療養している対象者の日常生活援助について、「生活行為」として総合的に学習し、必要に応じてグループ別にロールプレイ等を実施する。そして在宅看護学実習で遭遇する機会が多い内容について学習しイメージできるよう、基本的日常生活や医療処置等の技術演習を実施する。											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	在宅におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む(p.174～180)。 ・在宅におけるコミュニケーションの特徴およびコミュニケーションが人々との信頼関係構築に影響することを理解できる。 									
2	呼吸に関する在宅看護技術	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む(p.181～187)。 ・在宅看護における呼吸管理・ケアの特徴・アセスメント・呼吸への援助のポイントについて理解できる。 									
3	食生活・嚥下に関する在宅看護技術 演習:口腔ケア、嚥下リハビリ等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む(p.188～195)。 ・在宅での食生活の特徴、食生活・嚥下に関するアセスメント、援助のポイント等について理解し、一部実施できる。 									
4	排泄に関する在宅看護技術 演習:摘便、陰部洗浄、おむつ交換等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む(p.195～202)。 ・在宅での排泄の特徴、アセスメント、尿・便失禁の予防と工夫等について理解でき、一部実施できる。 									
5	移動・移乗に関する在宅看護技術 演習:移動・移乗、布団で臥床時の仰臥位から座位への体位変換、歩行介助等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む(p.202～210)。 ・在宅での移動・移乗の特徴、アセスメント、ポイント等について理解でき、一部実施できる。 									
6	清潔に関する在宅看護技術 演習:入浴介助、部分浴、寝衣交換等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む(p.170～172)。 ・在宅での清潔援助の特徴、アセスメント、ポイント等について理解でき、一部実施できる。 									
7	在宅療養を支える医療福祉用具、住宅環境 演習:介護用品等	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者の住まい・生活環境、整備、留意点、制度の活用等について理解できる。 									
8	在宅医療技術（1） 演習:褥瘡の予防とケア	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む(p.232～240)。 ・在宅での褥瘡の予防とケア、発生時の対応、治療・ケア計画の実際等について理解できる。 									
9	在宅医療技術（2） 演習:尿道留置カテーテル	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む(p.240～246)。 ・尿道留置カテーテル管理の特徴、問題に対する対応等について理解できる。 									
10	在宅医療技術（3） 演習:ストーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む(p.246～254)。 ・ストーマケアの特徴、種類や支援方法等について理解でき、一部実施できる。 									

		・テキストを読む(p.254~270)。
		・経管栄養法の種類と適応、経鼻・胃瘻の合併症、生活の工夫、中心静脈栄養の留意点等について理解できる。

		・テキストを読む(p.271~289)。
		・在宅で使用されている在宅酸素機器類の説明を聴き、実際に触れる。在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法について理解できる。

		・腹膜透析における看護技術の特徴、支援、社会保障等について理解できる。
		・配布事例をよく読み、理解しておく。 ・事例を基に訪問時のマナー等を含めロールプレイを通じて理解を深め、在宅看護学実習に活かすことができる。

		・今までの内容の振り返りを行っておく。
--	--	---------------------

		留意事項(履修条件等)
--	--	-------------

1.	授業中の私語はしない。携帯電話はマナーモードに設定し鞄に入れておく。
2.	演習後の学びを演習ごとに提出する。
3.	確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。

		授業時間外の学習(事前・事後学習)
--	--	-------------------

		科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(事前・事後学習に示されている内容)が必要である。
--	--	--

		事前学習:毎回のテーマに関するテキストを読み、理解及び関心を深めておく。
		事後学習:配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習しましておく。

		オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
--	--	-------------------

		田中:火 5 限目、713 研究室
		村岡:火 3 限目・水 2 限目、共同研究室

		教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)
--	--	--------------------------------

		教科書:「在宅看護論 第 5 版」、医学書院、ISBN 978-4-260-02762-5
		参考書:「在宅看護技術 第 3 版」、メディカルフレンド社、ISBN 978-4-8392-1588-0

		最終到達目標
--	--	--------

		1. 在宅における日常生活援助技術の特徴、アセスメント、ポイント等について理解することができる。
		2. 在宅で実施される医療技術の特徴、アセスメント、ポイント等について理解することができる。
		3. 対象者のニーズに沿った個別性のあるケア・技術の重要性について理解を深めることができる。
		4. 在宅看護学実習に活かすことができる。

		評価方法及び評価基準
--	--	------------

		試験 50%、実技演習後の学び 30%、授業態度・リアクションペーパー等 20% で、配点得点を合計 100 点満点として総合して評価する。
--	--	--

成績評価基準(学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

		学生へのメッセージ
--	--	-----------

		在宅療養生活における個別的な援助等、経済的な視点も意識しながら取り組みましょう。
--	--	--

授業コード	ENM0401			定める 能力 ディプロマ ポリシーに 対応する 能力	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	終末期看護学	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	○	
講義目的	終末期ケアの背景を理解し、人生の最終段階にある療養者が尊厳をもつて個人の特性に応じた人生を送ることができるるために看護師としての倫理的態度を養う。また人生の最終段階にある療養者の死の受容プロセス、意思決定プロセスの特徴と支援方法および、療養者の家族に対する看護ケア・グリーフケアについて学ぶ。そして在宅での看取りについて考え、自己の死生観を培うことができる。						
授業内容	人の死とは何かを理解できるように、終末期ケアの背景、終末期ケアに関わる看護師として倫理的態度を養う重要性について学習する。さらに、対象者が経験する疼痛、薬物療法などの緩和ケアや終末期にある人の身体的、社会的、靈的苦痛の特徴と援助方法、家族の心理・介護負担などを考慮した看護ケアについて学ぶ。授業は必要時、少人数のグループワークや確認テストを実施する。そして講義および看取り事例等を通して、自己の死生観と終末期ケアについて考えレポートに記述する。						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	終末期ケア・緩和ケア、EOL(end of life)ケアの定義及び背景	終末期ケア、緩和ケア、EOL(end of life)ケアの定義及び背景について理解できる。死の概念、個人や家族にとっての死および見取りの意味について理解できる(テキスト 13～17p,148～151p)。					
2	死の受容プロセスと看護の対象 グループワーク (確認テスト)	終末期療養者の死の受容プロセスと身体的・心理的・社会的・靈的特徴を理解し、終末期療養者および家族の精神的ケアについて説明できる(テキスト 21～45p)。					
3	終末期医療における倫理的課題 インフォームドコンセントと意思決定 グループワーク (確認テスト)	終末期療養者の意思決定プロセスの特徴と支援方法について説明できる。インフォームドコンセントにおける看護師の役割について理解できる(テキスト 72～76p,90～99p)。ACP(Advance Care Planning)について理解できる(テキスト 77～87p)。					
4	終末期療養者とのコミュニケーション グループワーク (確認テスト)	終末期療養者の価値観や人生観、死生観を引き出し、終末期の過ごし方を考える援助関係の築き方について説明できる(テキスト 90～99p)。					
5	疼痛アセスメントと疼痛コントロール、 トータルケア グループワーク (確認テスト)	終末期療養者の全人的苦痛、疼痛のアセスメントおよびコントロールの方法を理解し、トータルケアについて説明できる(テキスト 152～167p)。					
6	在宅における看取り、チームアプローチ グループワーク	在宅での看取りにおける療養者・家族への看護について理解できる。終末期療養者が自分らしい人生を送れるように、関係機関・職種と連携する重要性を理解できる(テキスト 66～69p,292～295p)。					
7	尊厳ある死後のケア グリーフケア (ビリーブメントケア) グループワーク (確認テスト)	尊厳ある死後のケア(エンゼルケア)および死後の家族ケア(グリーフケア)の意義について説明できる(テキスト 319～324p)。					
8	居宅等における看取りの実際	様々な事例を通して在宅での看取りについて考え、自己の死生観を培うことができる(終末期ケア認定看護師による講和予定)。					

留意事項(履修条件等)					
<ol style="list-style-type: none"> 授業中の私語はしない。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておく。 講義後は、リアクションペーパーを毎回提出する(確認テストがある場合は、その中に含む)。 確認テストのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。 					
授業時間外の学習(事前・事後学習)					
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(学習課題; 事前・事後学習に示されている内容)が必要である。 事前学習: 毎回のテーマに関するテキストを読み理解及び関心を深めておく。 事後学習: 配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習しまとめておく。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
田中:火 5限目、713 研究室 村岡:火 3限目・水 2限目、共同研究室					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書:「終末期看護: エンド・オブ・ライフ・ケア」、メディカルフレンド社、ISBN 978-4-8392-3328-0 参考書:「在宅看護論 第4版」、医学書院、ISBN 978-4-260-02762-5					
必要時資料配布					
最終到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 終末期療養者が尊厳をもって個人の特性に応じた人生を送れるように、看護師としての倫理的態度を養う。 終末期療養者の死の受容プロセス、意思決定プロセスの特徴と支援方法について説明できる。 尊厳ある死後のケアおよびグリーフケアの意義について説明できる。 在宅における看取り及び自己の死生観についてレポートに記述することができる。 					
評価方法及び評価基準					
レポート 50%、確認テスト 25%、リアクションペーパー・グループワーク参加態度等 25%で、配点得点を合計 100 点満点として総合して評価する。					
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)					
学生へのメッセージ					
死は誰にでも訪れるものです。その人らしい人生の最終章を心穏やかに迎えられるといいですね。 医療人として療養者及びご家族の思いに寄り添った支援ができるよう、自己の死生観を培いましょう。					

授業コード	ENM0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	在宅・終末期看護援助論	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	○						
講義目的	在宅終末期に関する終末期ケア制度や背景を理解するとともに、加齢や疾患によって終末期に至る経過を一連のものとして理解する。また在宅終末期における病状、苦痛や苦悩、生活背景、生きる価値や希望、他者との関係の築き方等の個別性・多様性の理解を深め、全人的・個別的ケアを導く学びができる。そして終末期に携わる各専門職の連携および訪問看護のケア体制、終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢を修得する。											
授業内容	終末期ケアの制度や背景を理解し、日本における終末期ケアの現状について考えるための授業展開を行う。また、終末期に携わる専門職の連携を通して人生の終焉について学ぶ。そして総合的に終末期にある人の身体的・社会的・心理的・霊的苦痛の特徴を理解し、各々の看護介入を通して、各専門職の連携および訪問看護のケア体制について理論・知識を統合して学ぶ。											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	終末期医療と看護	日本の終末期医療の歴史や制度および終末期における医療と提供する場の特徴を理解することができる。終末期にある人のニーズの特徴、看護の成果を理解できる(47~60p)。										
2	終末期における看護の機能・役割 多職種連携と看護の役割	終末期における看護の機能・役割、多職種連携に基づくチーム医療と看護の役割について理解できる(60~69p)。										
3	終末期における身体的ケア 倦怠感、食欲不振、呼吸困難、恶心・嘔吐等	各々の症状の概要、マネージメント、看護等について理解できる(167~208p)。										
4	終末期における精神的ケア 不安、抑うつ、不眠、せん妄等	各々の症状の概要、マネージメント、看護等について理解できる(209~241p)。										
5	終末期における社会的ケア・スピリチュアルケア 家族への緩和ケア	社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛のアセスメントとケアについて理解できる。終末期にある療養者の家族が抱える苦痛とケアを理解できる(241~259p, 264~276p)。										
6	終末期における退院支援 終末期の退院支援・退院調整における看護の実際	退院支援が必要とされる背景とその実際を理解できる。終末期における退院支援・退院調整における看護の実際について理解できる(278~290p)。										
7	在宅における臨死期の看護	臨死期における全身状態の変化、看護の役割、症状マネージメントとケア、臨終までの一般的な経過について理解できる(304~316p)。										
8	まとめ	今まで振り返り、在宅看護における終末期について全般的な理解を深めることができる。										
留意事項(履修条件等)												
1. 授業中の私語はしない。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておく。 2. 療養者を自分や家族など生活者として身近にとらえ、考えながら授業に参加する。 3. 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。												

授業時間外の学習(事前・事後学習)										
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(学習課題; 事前・事後学習に示されている内容)が必要である。										
事前学習:毎回のテーマに関するテキストを読み、理解及び関心を深めておく。										
事後学習:配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習し振り返る。										
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)										
田中 :火 5限目、713 研究室										
村岡 :火 3限目・水 2限目、共同研究室										
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)										
教科書:「終末期看護; エンド・オブ・ライフ・ケア」新体系看護学全書—経過別成人看護学、メディカルフレンド社、ISBN 978-4-8392-3328-0										
参考書:「家(うち)で看取ると云うこと～人生の旅立ちは家族の声に包まれて～」、医療法人ゆうの森 看取りのパンフレット制作委員会 2014										
必要時資料配布										
最終到達目標										
1. 在宅終末期における病状、苦痛や苦悩、生活背景、生きる価値や希望等の個別性・多様性の理解を深め、全人的・個別的ケアを導く学びができる。 2. 在宅における看取りに必要な多職種とのチームケアおよび訪問看護のケア体制について理解することができる。 3. 終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢を修得することができる。										
評価方法及び評価基準										
筆記試験 60%、レポート 20%、リアクションペーパー・授業態度等 20%で、配点得点を合計 100 点満点として総合して評価する。										
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) :</td> <td>学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) :</td> <td>学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) :</td> <td>学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)									
A(89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)									
B(79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)									
C(69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)									
D(59 点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)									
学生へのメッセージ										
在宅での看取りの在り方、望ましい死の迎え方等一緒に考えましょう。あなたはどんな死の終焉を望みますか?										

授業コード	ENM0601			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	在宅・終末期看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的	在宅での看取りの理論と知識を統合して、在宅終末期における「その人がその人らしい生を全うする」ために必要な技術を修得する。臨死期における全身状態の変化について理解し、看護の役割・症状マネジメントとケア、臨終後の看護について理解を深める。											
授業内容	在宅終末期における全人的苦痛への緩和ケア(Palliative Care)、家族看護も含めた支援方法、多職種の連携方法などを含む在宅終末期ケアの知識・技術・実際を専門的な視点で統合化した看護技術について講義、演習、グループワーク等により学ぶ。また臨死期における看護の役割、臨終後の看護、エンゼルケア等について学ぶ。											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	終末期における日常生活の支援(1) ①整容・清潔の援助 グループワーク、演習	終末期療養者に対する整容・清潔の援助の意義と目的、アセスメントおよび援助の実際について理解でき、一部体験できる(テキスト 102~107p)。										
2	終末期における日常生活の支援(2) ①口腔ケア ②食事の援助 グループワーク、演習	終末期療養者に対する口腔ケア、食事援助について理解でき、一部体験できる(108~115p,125~131p)。										
3	終末期における日常生活の支援(3) ①移動・移乗の援助 ②体位変換 ③排泄の援助 グループワーク、演習	終末期療養者に対する移動・移乗、体位変換、排泄の援助について理解でき、一部体験できる(116~125p,131~136p)。										
4	終末期における日常生活の支援(4) ①睡眠の援助 ②環境の調整 グループワーク、小テスト	終末期療養者に対する睡眠、環境調整の援助について理解できる(136~145p)。										
5	認知症療養者への緩和ケア グループワーク	認知症の概要、身体疾患から生じる認知機能低下、症状マネジメント、家族との関係性を支える看護について理解できる(259~264p)。										
6	在宅での看取りの実際 エンゼルケア グループワーク	エンゼルケアの目的・留意点について理解することができる。										
7	遺族ケア グループワーク	事例を通して、遺族の反応およびケアの実際について理解することができる。										
8	まとめ 小テスト	これまでの授業を振り返り、在宅看護における終末期における援助技術、看取りについて理解を深めることができる。										
留意事項(履修条件)												
1. 授業中の私語はしないこと。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておくこと。 2. 課題の提出は期日・時間厳守すること。 3. 課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。												

授業時間外の学習(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学習(学習課題・事前・事後学習に示されている内容)が必要である。

事前学習:毎回のテーマに関するテキストを読み、理解及び関心を深めておく。

事後学習:配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習し振り返る。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

田中 :火 5 限目、713 研究室

村岡 :火 3 限目・水 2 限目、共同研究室

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:「終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア」新体系看護学全書—経過別成人看護学、メディカルフレンド社、ISBN 978-4-8392-3328-0

参考書:「家(うち)で看取ると云うこと～人生の旅立ちは家族の声に包まれて～」医療法人ゆうの森 見取りのパンフレット制作委員会 2014

必要時資料配布

最終到達目標

1. 看取りの理論と知識を統合し、在宅終末期におけるその人らしい生を全うするために必要な技術を修得する。
2. 在宅終末期看護における症状マネジメント・コミュニケーション・遺族ケアの在り方等について理解を深めることができる。

評価方法及び評価基準

小テスト40%、演習後の学び30%、リアクションペーパー・授業態度 等30% で、配点得点を合計100点満点として総合的に評価する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

在宅での看取りにおける看護職の果たす役割について考えてみましょう。

授業コード	ENM0701			定める 能力 デイプ ロマポリシー に 養成する 能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	在宅・終末期看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的	本人・家族が安心して在宅で療養するために、在宅に向けた療養移行の対応、指導方法等について学ぶ。そのために医師と看護師の情報共有および連携について説明や見学により、実際の体験から専門性を深め、実践力を養う。そして終末期における訪問看護の役割を明確にし、包括的なケア及びマネジメント方法を理解する。											
授業内容	在宅終末期を希望する本人・家族に対して、どのような看護介入が実践されているかを理解するため、豊かに穏やかに最期を迎えるための環境や体制の整備等、総合的な視点で看取りについて学習する。そのために、病院の地域連携室、緩和ケア病棟等の見学や直接専門職の活動内容について説明を受け、在宅看護、専門看護師または在宅看護のスペシャリストが実際に果たしている役割について学ぶ。											
授業計画及び学習課題												
回	内容	学習課題										
1	終末期ケアの地域連携・準備・社会資源の活用方法	終末期ケアの地域連携・準備・社会資源の活用方法について理解できる。										
2	在宅ケアの包括的視点と具体的な実践方法	在宅ケア包括的視点と具体的な実践方法について理解できる。										
3	病院の地域連携室の見学(1日)	地域連携室の機能や役割について理解できる。										
4	訪問診察医・薬剤師・理学療法士等多職種チーム医療該当者からのレクチャー(2日)	専門職の講義を受けることで訪問診療、訪問看護、他チーム医療および看護についての知見を深めることができる。										
5	同上	同上										
6	愛媛県の在宅システムの現状 (専門家によるレクチャー)	愛媛県の在宅システムの現状について理解することができる。										
7	訪問看護事例に基づく終末期看護	実際の訪問看護について、実情を学ぶことができる										
8	まとめ	講義内容を振り返り在宅終末期看護について理解を深めることができる。										
留意事項(履修条件)												
1. 授業中は私語をしない。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておく。 2. 課題の提出は期日・時間厳守する。 3. 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。												
授業時間外の学習(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(学習課題; 事前・事後学習に示されている内容)が必要である。 事前学習:毎回のテーマに関する書籍、新聞など読んでおく。 事後学習:配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習し振り返る。												

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
田中:火5限目、713研究室					
村岡:火3限目・水2限目、共同研究室					
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)					
必要時資料配布					
最終到達目標					
終末期の在宅療養者に必要な社会資源・制度等の知識や看護について、事例に結び付けて考え方理解し、レポートに記述することができる。					
評価方法及び評価基準					
最終レポート50%、見学後レポート25%、リアクションペーパー・態度25%等で、配点得点を合計100点満点として総合して評価する。					
<p>成績評価基準(学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)					
学生へのメッセージ					
各領域で学んだ知識・技術や自己学習を生かして、考えながら、積極的に学んでください。 看護学生として、身だしなみや言葉使いなど、良識ある言動がとれるようにしましょう。					

授業コード	ENM0801			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	在宅・終末期看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	○						
講義目的												
在宅終末期ケアの理論・知識・技術を通して、終末期の特徴を理解する。また、終末期に発生する症状の緩和ケアおよび基本的ニーズに対する対応方法、家族看護について事例を用いて学習を深め、基礎的な在宅看護技術の修得ができる。												
授業内容												
在宅終末期ケアの実践事例を用いた演習において、療養者と家族の意志や生活スタイル、価値観を尊重した看護援助について学ぶ。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	事例で学ぶ終末期看護の実践（1） 病院から在宅へ移行する終末期がん患者の退院支援	病院から在宅へ移行する終末期がん患者の症状ケアマネジメントとアドバンス・ケア・プランニング、家族のケアについて理解することができる(346～355p)。										
2	事例で学ぶ終末期看護の実践（2） 在宅で治療を受けているがん患者への看護	在宅療養を支えるチーム、疼痛緩和、精神面・社会面への配慮について理解することができる(355～363p)。										
3	事例で学ぶ終末期看護の実践（3） 在宅で療養中の慢性疾患の高齢者への看護	緩和ケアにおける非がんの疾患、訪問看護の導入期、増悪器、終末期における全人的ケア、信頼関係構築と意思決定、家族へのケア、苦痛緩和ケア、チームケアについて理解することができる(363～376p)。										
4	事例で学ぶ終末期看護の実践（4） 臨死期の療養者への看護(在宅での看取り) 小テスト	臨死期におけるがん療養者の治療期、治療中止期、看取り期の訪問看護が行うアセスメント及び療養者・家族への直接ケア、倫理的な判断能力の必要性について理解することができる(386～376p)。										
5	事例で学ぶ終末期看護の実践（1） ケア内容の技術展開 グループワーク	グループワークを通して、これまでの事例から在宅終末期におけるケアの実際・家族ケアの実際について、講義内容を振り返り理解を深めることができる。										
6	事例で学ぶ終末期看護の実践（2） ケア内容の技術展開 グループワーク	グループワークを通して、これまでの事例の振り返り、終末期を支える在宅看護の展開について理解を深めることができる。										
7	グループワークの発表	学びを共有することで知見を深めることができる。										
8	まとめ・解説	在宅における終末期看護の在り方について考察することができる。										
留意事項(履修条件)												
1. 授業中の私語はしない。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておく。 2. 課題の提出は期日・時間厳守する。 3. 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。												
授業時間外の学習(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(学習課題; 事前・事後学習に示されている内容)が必要です。												
事前学習:今まで配付された資料及び関連するテキストなどを読んでおく。 事後学習:毎回学んだことを振り返りながら、包括的に理解を深めていく。												

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)										
田中:火5限目、713研究室 村岡:火・木4限目～5限目、共同研究室										
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)										
教科書:「終末期看護エンド・オブ・ライフ・ケア」新体系看護学全書—経過別成人看護学、メディカルフレンド社、ISBN 978-4-8392-3328-0										
必要時資料配布										
最終到達目標										
<p>1. 療養者・家族ケアについて理解を深め、各事例に沿ってアセスメントすることができ、倫理的な判断能力を修得できる。</p> <p>2. 自分の生の一部として、終末期看護の在り方およびエンド・オブ・ライフについて考察し、レポートに記述することができる。</p>										
評価方法及び評価基準										
最終レポート 50%、小テスト 20%、リアクションペーパー・発表・グループワークへの参加度等 30%で、配点得点を合計 100 点満点として総合して評価する。										
<p>成績評価基準(学則第34条)</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90点) :</td> <td>学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) :</td> <td>学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) :</td> <td>学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) :</td> <td>学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) :</td> <td>学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)									
A(89~80点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)									
B(79~70点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)									
C(69~60点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)									
D(59点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)									
学生へのメッセージ										
在宅・終末期にある人とその家族について、今までの知識・技術等を統合できるよう真摯な姿勢で臨みましょう。 また、同時に死生観を深められるよう自己研鑽しましょう。										

授業コード	ENN0101			定める養成する能力 デイプロマ・ポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と倫理観						
授業科目名	地域看護・公衆衛生看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○					
担当教員	宮崎博子				探求心	○					
講義目的											
1. 地域での公衆衛生看護活動の対象・目的・方法・活動の場について理解できる。 2. Health for All を基本理念としたプライマリーヘルスケア、及びヘルスプロモーションの戦略が理解できる。 3. 公衆衛生看護活動における倫理的課題に配慮した看護職の役割が理解できる。											
授業内容											
地域住民全体の健康水準の向上を目的に健康増進、各分野の保健活動(母子、成人、老年、難病、精神、災害、国際等)を保健師は行う。方法として、健康相談、健康教育、家庭訪問、健康診査、機能訓練、地域組織づくり活動等がある。活動分野は行政、産業、学校、国際保健分野等である。これらの活動についての概要を学ぶ。											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	公衆衛生看護学の理念	公衆衛生を基盤とした看護学として、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目的とする。これらの概念を理解し、説明することができる。									
2	公衆衛生看護学の歴史	歴史を概観し変遷、特徴を探ることができます。									
3	社会環境の変化と健康課題	社会情勢、環境の変化・健康の社会決定要因、課題解決資源等を考察することができます。									
4	公衆衛生看護の基盤となる概念	基盤となる概念、基本的人権の尊重、看護の責任について考えることができます。									
5	対象と活動の展開	対象の特徴、生活者としての個人、家族、地域と集団を知り、活動の方法を理解できる。									
6	活動展開の場	行政、職域(産業)、学校、医療機関、社会福祉施設等の場を考え、具体的活動、役割を理解できる。									
7	行政機関での保健師活動 (1)	住民の健康づくり、母子保健活動等役割を考え、必要性を考察することができます。									
8	行政機関での保健師活動 (2)	住民の成人、老年保健活動、精神、難病保健活動について理解し、保健師の果たす役割を考察することができます。									
9	産業の場での保健師活動	労働者の身体的、精神的健康、保持増進について理解できる。									
10	学校の場での保健師活動	児童生徒の健康課題と身体、精神的健康を守るための方策を考察することができます。									
11	計画策定と施策化	保健計画策定の必要性と策定プロセス、実施、評価を理解できる。									
12	公衆衛生看護活動の計画・実施・評価の実際	地域診断の手法・計画・実践・評価の流れを理解できる。									
13	公衆衛生看護管理	国際保健、感染症等の国際的な対応事例の方法から管理を考察することができます。									
14	健康危機管理	健康危機の平常時、発生時、発生直後とその後のニーズと対応を理解する。東日本大震災時の原発事故などの対応についても考察することができます。									
15	公衆衛生看護活動の実際	公衆衛生看護活動の今後の課題・役割・方向を考察することができる。									

留意事項(履修条件等)					
地域看護・公衆衛生看護活動の基盤となる科目であり、在宅看護学、保健師コースと連動する科目である。種々の情報を集約し具体的な健康課題について、活動の対象、方法を整理し自分の考えをまとめる。その為に新聞、テレビ等メディアや本等で、現在の世界、日本の人々の健康課題に対して自分の言葉で発言する機会を積極的にもつことが重要である。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。					
授業時間外の学習(事前・事後学習)					
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学習(事前学習・事後学習に示されている内容の学習)が必要である。 事前学習:自己事前学習から課題をつかみ、講義、グループディスカッション等の方法で仲間と協議したり、レポートをまとめる。 事後学習:地域看護・公衆衛生看護の対象となる個人や家族、集団、そして地域における健康課題の解決のために、行政機関や様々な組織がどのような活動を展開しているのか、リサーチし理解を深める。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
月曜から水曜日の昼休憩、宮崎 706 研究室					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
「標準保健師講座 I 公衆衛生看護学概論 第4版」、医学書院、ISBN 978-4-260-02004-6					
最終到達目標					
地域住民の生活の現状と健康課題の解決について理解し、個人並びに組織の対処行動を看護職として、自分の言葉で語ることができる。					
評価方法及び評価基準					
試験 70%、課題レポート 20%、グループワーク参加 10%で配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。					
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)					
学生へのメッセージ					
公衆衛生学や保健福祉行政論などの関連科目の教科書やノート、配布資料などを復習しておいてください。					

授業コード	ENN0201			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目—広域看護学—地域看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅰ	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	宮崎博子、岡多枝子、藤本千里、日川幸江				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
公衆衛生看護活動は、地域の人々が自ら健康とその要因をコントロールし、維持・改善できるように援助することが求められる。地域の人々を母子、成人、高齢者、難病、感染症などの対象別に健康問題の特徴を理解し、それらに対する健康課題と支援策を学習することを目的とする。							
授業内容							
対象ごとに動向と法律などの制度、根拠データ、課題、社会資源、指導方法などを理解する。それに基づいて、グループワークを行い、関心のある課題を取り上げ、地域の中でどのようなサービスや支援が行われているか、実際の状況を調べ、まとめて発表する。こうした中で地域の人々が持つ健康課題と支援策を理解できる。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	母子保健の動向	母子の健康関連指標の動向を調べ、母子保健施策との関連を理解することができる。					
2	母子保健の課題と保健指導 (1)	母子保健各期の健康課題を調べ具体的な方法を知り、課題に対する保健指導の特徴等を理解することができる。					
3	母子保健の課題と保健指導 (2)	"					
4	母子保健の課題と保健指導の実際(グループワーク)	グループ内で検討した健康課題・問題点を抽出し、保健指導案を検討することができる。					
5	母子保健の課題と保健指導の実際(プレゼンテーション)	検討した指導案を発表し、全員で討議を重ね理解を深めることができる。					
6	成人保健の動向	成人保健指導について、生活習慣病の概念や対策の変遷を理解することができる。					
7	成人保健の課題と保健指導 (1)	健康日本21や健康増進法の主旨、骨子を調べ理解することができる。 特定健診・特定保健指導の特徴と実態を理解することができる。					
8	成人保健の課題と保健指導 (2)	"					
9	高齢者保健の動向	我が国の高齢化の特徴を年次推移や将来推計から理解することができる。高齢化の進展とともに保健・福祉施策の変遷について特徴を理解することができる。					
10	高齢者保健の課題と保健指導 (1)	高齢者の健康や生活の特徴から在宅要援護高齢者の生活支援を理解することができる。 高齢者が抱える課題を家族支援の視点も含め、保健指導の特徴を理解することができる。					
11	高齢者保健の課題と保健指導 (2)	"					
12	成人・高齢者保健の課題と保健指導 (1) (演習)	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討することができる。本演習では、生活習慣が確立し修正が困難な成人期における保健指導の特徴を理解することができる。					

13	成人・高齢者保健の課題と保健指導（2） (発表)	検討した指導案を発表し、全員で討議を重ね理解を深めることができる。
14	障害児・者の動向	障害の種類・児・者の数の推移から我が国の障害者の動向を知る。また、我が国の障害者に対する捉え方や関係法整備等対策について理解することができる。
15	障害児・者が抱える課題と保健指導	障害児・者対策の経緯と支援に関する関連法との関係を理解することができる。障害児・者に対する保健指導の実際を理解することができる。
16	精神保健の動向	精神保健の理念と歴史的変遷を理解することができる。特に措置制度を中心とした対策からノーマライゼーション、共生などの考え方を基にした現代の法整備について理解することができる。
17	精神保健の課題と保健指導（演習）（1）	精神障害者の生活上の障害を理解し、支援する他職種（精神科医、精神保健福祉士等）との連携や調整も含めた保健師の活動を理解することができる。
18	精神保健の課題と保健指導（発表）（2）	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。ここでは事例への直接的な保健指導よりも連携の相手や方法などを中心に検討し理解を深めることができる。
19	難病対策の動向	難病対策の理念・歴史的変遷を理解することができる。難病の定義、難病患者に対する医療等に関する法律、目的、基本理念を理解することができる。
20	難病の課題と保健指導（演習と発表）	難病患者を支援する保健師の活動事例から保健指導を考察することができる。
21	感染症の動向	感染症対策の歴史的変遷を理解することができる。感染者、感染症患者の動向・特徴を考察することができる。
22	感染症の課題と保健指導（1）	近年の感染症保健の課題と保健施策の方向、施策等を理解し、考察することができる。
23	感染症の課題と保健指導（2）	"
24	産業保健の動向	産業保健対策の理念・歴史的変遷を理解することができる。
25	産業保健現場での課題と保健指導	現場が抱える課題と対応策、保健指導について理解することができる。
26	学校保健の動向	学校保健対策の理念・歴史的変遷を理解することができる。
27	学校保健現場での課題と保健指導	現場が抱える課題と対応策、保健指導について理解することができる。
28	健康づくり活動の動向	健康づくり対策の変遷と国民健康づくり活動を理解することができる。
29	健康づくり活動の課題と保健指導（1）	生活習慣病の特徴とその対策・保健指導を理解することができる。実在する自治体の健康増進計画を用いて理解を深めることができます。
30	健康づくり活動の課題と保健指導（2）	"

留意事項(履修条件等)										
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師課程選択者のみ受講できる。 ・自分自身も社会の一員という認識で、積極的に参加すること。 ・確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。 										
授業時間外の学習(事前・事後学習)										
<p>科目的単位を習得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(事前・事後の学習に示されている内容の学習)が必要である。</p> <p>事前学習: 対象別の公衆衛生活動について、国民衛生の動向などで主な取り組みの概略をつかむ。提示された予習課題をしてくること。</p> <p>事後学習: 講義、グループでの討議、演習、発表等により、健康課題ごとに修得できたことをまとめること。</p> <p>授業内容を復習すること。</p>										
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)										
月曜～水曜の昼休憩、岡 714 宮崎、藤本 706 日川 717 研究室										
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)										
<p>教科書: 「標準保健師講座 第 3 版 3 対象別公衆衛生看護活動」、医学書院、ISBN 978-4-260-01820-3</p> <p>参考書: 「国民衛生の動向 最新版」、厚生労働統計協会</p>										
最終到達目標										
地域で生活する各発達段階、健康レベルに応じた個人、家族及び集団の健康状態を評価できる能力を身につける。 住民が主体的に課題解決を出来るように支援する能力を獲得する。										
評価方法及び評価基準										
試験 80%、課題レポート 10%、授業参加態度 10%で配点得点を合計 100 点満点とし、総合的に評価する。										
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">S(100～90 点)</td> <td>: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89～80 点)</td> <td>: 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79～70 点)</td> <td>: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69～60 点)</td> <td>: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下)</td> <td>: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100～90 点)	: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89～80 点)	: 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79～70 点)	: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69～60 点)	: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下)	: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100～90 点)	: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)									
A(89～80 点)	: 学習目標を相応に達成している (Very Good)									
B(79～70 点)	: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)									
C(69～60 点)	: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)									
D(59 点以下)	: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)									
学生へのメッセージ										
<p>対象別又は分野別の具体的な公衆衛生活動の学修になり、保健師の実践活動が最も理解できる内容です。保健師についての理解と興味が増す講座です。</p> <p>授業中の飲食、私語は禁止です。携帯電話は必ず鞄の中でマナーモード状態にしてください。</p>										

授業コード	ENN0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>	
科目区分	専門科目—広域看護学—地域看護学				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅱ	選択・必修	選択		知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	岡多枝子、藤本千里、日川幸江				探求心	<input type="radio"/>	

講義目的

- 1.公衆衛生看護の基本的技術として、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築等、活動の方法について理解し、技術の一部を演習により身につける。
- 2.各活動を系統的に理解し、政策、施策との関連を理解し、事業企画、立案、評価まで一連の過程を学修する。

授業内容

公衆衛生看護の基本的技術として、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築等、活動について基本となる理論について学ぶ。実際の保健指導技術の展開は演習で行い、家庭訪問の展開や健康教育等、実際を想定した企画、立案、実施、評価まで行うことができる。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	保健指導の基本	歴史的変遷、基本姿勢、求められる機能・技術について理解することができる。
2	保健指導の基盤となる理論	保健行動理論と保健指導で活用できる理論等多方面から考察することができる。
3	保健指導の展開 (1) 健康相談(親子、母子)	保健指導技術、指導の場、健康相談、健康診査場面における保健師の技術についてロールプレイ等で演習することができる。
4	保健指導の展開(2)健康相談	成人健康相談の場を想定した演習をすることができる。
5	保健指導の展開 (3)	老年健康相談、各年代の展開、地域での位置づけを理解することができる。
6	家庭訪問演習 (1)	家庭訪問の目的、機能、プロセス等を修得し具体的手順、準備、実施、記録、評価等理解することができる。
7	家庭訪問演習 (2)	"
8	家庭訪問演習 (3)	"
9	健康教育演習 (1)	地域の健康課題から健康教育の企画、技術、教育媒体の作成、実施、評価等一連の演習でグループ協動作業を行い、発表し評価することができる。
10	健康教育演習 (2)	"
11	健康教育演習 (3)	"
12	健康教育演習 (4)	"
13	セルフヘルプグループ、地区組織活動の理論と実際	地区組織活動の歴史、係わる概念、保健師の役割について考察することができる。
14	政策・施策への事業企画・立案と評価	組織活動から波及する政策、施策化への一連の流れを考察することができる。
15	事業企画・立案と評価	グループで具体的な事業の企画・立案・実施・評価等事業展開を予測し、グループ、テーマごとに発表することができる。

留意事項(履修条件等)					
グループにおける協働作業に積極的な態度で参加すること。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。					
授業時間外の学習(事前・事後学習)					
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(学習課題; 事前・事後の学習に示されている内容の学習)が必要である。 事前学習: 保健指導の概略について、事前に調べ、行動変容を促す支援手法についてプレゼン、ディスカッションし学びを深める。プレゼンの内容は事前に教員の確認を受け、内容の修正も学びとすること。 事後学習: 講義、グループワーク、演習等を通して学んだことをまとめること。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
月曜から水曜の昼休憩、岡 714 藤本 706 日川 717 研究室					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書: 「標準保健師講座 2 地域看護技術」、医学書院、ISBN 978-4-260-02193-7					
最終到達目標					
地域住民が主体的に問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な接近方法、技術を選択し介入することができる。					
評価方法及び評価基準					
試験 80%、課題レポート 10%、授業参加態度 10% で配点得点を合計 100 点満点とし、総合的に評価する。					
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)					
学生へのメッセージ					
保健師の基本的な技術について学びます。保健師ならではの技術の基礎を学び、実習に繋げができるようにならぬよう。授業中、飲食、私語は禁止です。携帯電話はマナーモードで鞄の中に入れてください。					

授業コード	ENN0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅲ	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	宮崎博子, 藤本千里, 日川幸江				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的

公衆衛生看護活動実習の準備科目である。公衆衛生看護活動の理論と実際について、保健所と市町村、産業等の場での具体的な展開を理解し、計画、実施、評価できるよう学ぶ。

授業内容

1~3年生で修得した公衆衛生看護活動の理論と実際を用いて、保健所と市町村、産業の場での具体的な保健師活動の展開を復習するとともに、家庭訪問、健康教育、組織育成等の実際の演習を通して、看護活動が出来る。さらに実習地区の健康水準と、保健師活動の計画、実践、評価について、学生各自の実習地区の実態を演習で把握出来る。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	公衆衛生看護活動の技術の理解 (1)	個別保健指導を理解できる。
2	公衆衛生看護活動の技術の理解 (2)	集団保健指導を理解できる。
3	公衆衛生看護活動の技術の理解 (3)	地区組織活動を理解できる。
4	公衆衛生看護活動の技術の理解 (4)	地域ケアシステムを理解できる。
5	公衆衛生看護活動の技術の理解 (5)	保健福祉計画を理解できる。
6	公衆衛生看護活動の技術の理解 (6)	PDCAサイクルを理解できる。
7	実習地区の地域診断 (1)	地域診断について理解できる。
8	実習地区の地域診断 (2)	地域診断の進め方について理解できる。
9	実習地区の地域診断 (3)	実習地の地域診断を発表できる。
10	実習地区の地域診断 (4)	実習地の地域診断を発表する。
11	健康情報の収集と分析 (1)	健康情報について理解する。
12	健康情報の収集と分析 (2)	健康情報の収集ができる。
13	健康情報の収集と分析 (3)	健康情報の収集ができる。
14	健康情報の収集と分析 (4)	健康情報の収集ができる。
15	健康情報の収集と分析 (5)	健康情報の分析を理解する。
16	健康情報の収集と分析 (6)	健康情報の分析を理解する。
17	健康課題の抽出方法 (1)	健康課題の抽出方法が理解できる。
18	健康課題の抽出方法 (2)	健康課題の抽出ができる。
19	健康課題の抽出方法 (3)	健康課題の抽出ができる。
20	実習地区での健康課題 (1)	実習地区での健康課題を発表できる。
21	実習地区での健康課題 (2)	実習地区での健康課題を発表できる。
22	実習地区での健康課題 (3)	実習地区での健康課題を発表できる。
23	健康課題の把握と保健師活動での展開 (1)	健康課題を保健師活動へ展開できる。
24	健康課題の把握と保健師活動での展開 (2)	健康課題を保健師活動へ展開できる。
25	健康課題の把握と保健師活動での展開 (3)	健康課題を保健師活動へ結びつけることが出来る
26	産業保健における保健師活動の展開 (1)	産業保健における保健師活動の展開を理解できる。
27	産業保健における保健師活動の展開 (2)	産業保健における保健師活動の展開できる。
28	学校保健活動の展開 (1)	学校保健活動の展開を理解できる。
29	学校保健活動の展開 (2)	学校保健活動の展開できる。
30	地域住民の健康ニーズと保健師活動展開	全体の活動についてまとめができる。

留意事項(履修条件等)										
グループワークには積極的に参加すること。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。										
授業時間外の学習(事前・事後学習)										
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学習(事前・事後の学習に示されている内容の学習)が必要です。 事前学習:実習先の保健所と市町について、地域住民の健康課題や健康問題についての視点をもちながら、既存の資料を確認する。産業保健実習の企業の業務内容、学校保健実習の学校の教育計画など、各分野の特性について確認をする。プレゼンの内容は教員の確認を受け、必要な場合は修正に応じる。 事後学習:実習に即応した授業であることから、実習における学びと統合しまとめを行う。										
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)										
月曜～水曜の昼休憩、宮崎、藤本 706 日川 717 研究室										
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)										
教科書: 「地域看護診断 第2版」、東京大学出版会、ISBN 978-4-13-062408-4										
最終到達目標										
公衆衛生看護活動の現場実習で、実習地の健康課題の抽出ができ、具体的な支援方法まで考察し、実習地で確認、評価ができる。										
評価方法及び評価基準										
試験 80%、課題レポート 10%、授業参加態度 10%で配点得点を合計 100 点満点とし、総合的に評価する。										
<p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90点)</td> <td>: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点)</td> <td>: 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点)</td> <td>: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点)</td> <td>: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下)</td> <td>: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点)	: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点)	: 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点)	: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点)	: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下)	: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90点)	: 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)									
A(89~80点)	: 学習目標を相応に達成している (Very Good)									
B(79~70点)	: 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)									
C(69~60点)	: 学習目標の最低限は満たしている (Pass)									
D(59点以下)	: 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)									
学生へのメッセージ										
実習先の保健所・市町は、地域住民の健康課題や健康問題の実態に対応した保健活動が行われています。その基盤となる地域診断について、授業と実習を連動させて学びましょう。 授業中の飲食、私語は禁止、携帯電話はマナーモードで鞄の中で保持すること。										

授業コード	ENN0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	公衆衛生看護援助論IV	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	宮崎博子				探求心	○						
講義目的	公衆衛生看護管理は地域の人々の健康水準の向上を目指して、人、物、金、情報、組織等の資源を効果的、効率的に活用することの理解が出来る。											
授業内容	公衆衛生看護管理は地域の健康課題解決に向けて、保健福祉計画等の策定と実施、評価を行う。このために行われる情報管理、組織の運営管理、事業・業務管理、予算管理、人事管理、人材育成、地域ケアの質の保証等の活動の必要性について学修する。さらに健康危機管理について平常時からの管理活動と災害時の活動について学ぶ。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	事業計画と保健師の役割	公衆衛生看護活動における計画の意義と保健師の役割を理解できる。										
2	計画策定と予算	計画策定で果たす保健師の役割と予算を理解できる。										
3	公衆衛生看護管理の特色・基本	管理の特色・基本について考察できる。										
4	情報管理、組織運営管理、事業・業務管理	組織における管理活動の具体的な理解ができる。										
5	予算・人事管理、人材の育成	組織における管理活動の具体的な理解ができる。										
6	健康危機管理	健康危機に際して保健師の役割を理解できる。										
7	自然災害時の保健師活動	地震、津波、台風等自然災害時の活動を考察できる。										
8	災害発生後から回復期の保健活動	平常時、発生時、発生後、回復期の保健活動全般の考察できる。										
留意事項(履修条件等)												
日ごろから社会情勢に关心を持ち、公衆衛生看護活動との関連、活動の展開、継続について身近なニュースから考察すること。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学習(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習(事前学習・事後学習に示されている内容の学習)が必要です。 事前学習:住んでいる地域や社会情勢から健康課題を把握し、講義、グループワーク等の方法で学生同士で協議し、レポートをまとめる。 事後学習:健康課題の解決に向けて、実際にどのような活動が行われているのか、リサーチし理解を深める。												
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)												
月曜から水曜日の昼休憩、宮崎 706 研究室												
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)												
教科書:「標準保健学講座 5 公衆衛生看護管理論」、メジカルフレンド社、ISBN 978-4-8392-2183-6												

最終到達目標

社会、地域情勢の中で公衆衛生看護活動が果たす役割について理解し、潜在化している健康問題を組織的に対処することが理解できる。

評価方法及び評価基準

レポート 10%、試験 90%で配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

1)関連する科目の教科書とノート、配布資料などに目を通し、概要を把握しておくこと。

2)現在住んでいる地域や出身市町の保健センターや保健所のホームページにて、公衆衛生看護活動について把握しておくこと。

授業コード	ENN0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>							
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>							
授業科目名	学校保健	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>							
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>							
担当教員	岡多枝子, 矢野美恵子				探求心	<input checked="" type="radio"/>							
講義目的													
保健師は養護教諭2種免許が取得できるため、保健師コースの学生には「児童生徒・教職員の健康課題への関わり方」など学校保健の視点が求められる。本講義の目的は、看護師・保健師資格に基づく養護教諭として学校教育の目的を達成する為に、学校保健の理念と歴史、学校保健の制度・対象・活動、学校保健の組織と連携を理解するとともに、アクティブラーニングを通して学校保健の知識・技術を主体的・対話的に深く学び考察することである。													
授業内容													
授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。													
1. 学校保健の理念と健康管理(学校保健と保健室、児童・生徒の発育・発達、健康診断、児童・生徒の健康課題と病気) 2. 疾病予防・救急看護・環境衛生(学校安全・危機管理・応急手当、感染症とその予防、心の健康問題と対応) 3. 健康教育と学校保健安全組織(保健教育・性に関する指導、学校保健計画と学校保健安全組織活動、学校の環境衛生) 4. アクティブラーニング活動とグループKJ法													
授業計画及び学習課題													
回	標題	学習課題											
1	オリエンテーション:学校保健の概念と 本科目の目的・内容・方法・評価	学校保健の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案できる。											
2	学校保健の理念と健康管理(1)(2) 学校保健と保健室	学校保健の理念と健康管理に関して、グループ毎に課題を設定して教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備ができる。											
3	児童・生徒の発育・発達 健康診断 児童・生徒の健康課題と病気												
4	学校保健の理念と健康管理(3) 単元の総括と小テスト①	学校保健の理念と健康管理に関するグループ発表と全体討論を行い、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認できる。											
5	疾病予防・救急看護・環境衛生(1)(2) 学校安全・危機管理・応急手当	疾病予防・救急看護・環境衛生に関して、グループ毎に課題を設定して教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備ができる。											
6	感染症とその予防 心の健康問題と対応												
7	疾病予防・救急看護・環境衛生(3) 単元の総括と小テスト②	疾病予防・救急看護・環境衛生に関するグループ発表と全体討論の後、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認ができる。											
8	健康教育と学校保健安全組織(1)(2) 保健教育・性に関する指導 学校保健計画と学校保健安全組織活動	健康教育と学校保健安全組織に関して、グループ毎に課題を設定して教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備ができる。											
9	動 学校の環境衛生												
10	健康教育と学校保健安全組織(3) 単元の総括と小テスト③	健康教育と学校保健安全組織に関するグループ発表と全体討論を、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認ができる。											
11	アクティブラーニング活動(1)(2) 計画立案と準備、実施	学校保健の理念と健康管理、疾病予防・救急看護・環境衛生、健康教育と学校保健安全組織に関するアクティブラーニング活動を行うことができる。											
12													
13	グループKJ法の実施(1)(2) 第1段階、第2段階	学校保健に関する学習成果をもとに、グループで協力して狭義のKJ法(ラベル作成・統合・KJ法図解作成)、叙述化・プレゼンテーションを行い、学習課題の発展と深化を共有することができる。											
14													

15	総括:学校保健の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外の学修成果を発表し自己・グループ評価を行い、学校保健と保健室のあり方を考えることができる。
留意事項(履修条件等)		
1. 学校保健は保健師コースの選択必修科目であるため、学校保健を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うことができるなど主体的な学修が求められる。 2. 確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。		
授業時間外の学習(事前・事後学習)		
科目的単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学習(学習課題;事前・事後の学習に示されている内容の学習)が必要である。 事前学習(毎回 2 時間):教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、随時、科目担当教員と相談の上で進める。 事後学習(毎回 2 時間):個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
時間:火・水・木曜日の昼休み 場所:714 研究室		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書: 「第 2 版 学校保健概論」、光生館、ISBN 978-4-332-520221		
教具: リフレクションシート(400 円) ※この教具は他科目と共通のため 1 冊購入すれば良い(教科書販売と同時)。		
最終到達目標		
看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、学校保健の役割や諸課題を理解した上で、児童生徒・教職員の健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、学校保健に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。		
評価方法及び評価基準		
期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト(3 回)を実施する。評価の比率は、期末試験成績(60%)、小テスト(20%)、発表を含む学習活動(20%)で配点得点を合計 100 点満点とし、総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。		
成績評価基準 (学則第 34 条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		
学生へのメッセージ		
1. 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。 2. シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。 3. リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。		

授業コード	ENN0701			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目一 広域看護学一 地域看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	養護概説	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	岡 多枝子				探求心	○	

講義目的

保健師は養護教諭 2 種免許が取得できるため、保健師コースの学生には児童生徒・教職員の健康課題に関わる養護教諭に関する基礎的知識及び技術の習得が求められる。本講義の目的は、養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割、健康教育とヘルスプロモーション・環境、学校安全、養護教諭活動の展開と評価の基本を理解するとともに、アクティブラーニングを通して学校保健の中核を担う養護教諭活動の実際を主体的・対話的に深く学び考察することである。

授業内容

授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。

1. 養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割(制度の沿革と変遷・養成と OJT・役割)
2. 健康教育とヘルスプロモーション・環境、学校安全(健康教育と保健教育・性教育、危機管理対応)
3. 養護教諭活動の展開と評価(システム化と総合学習、ピアカウンセリング・生活習慣)
4. アクティブラーニング活動とグループ KJ 法

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	オリエンテーション: 養護概説の概念と 本科目の目的・内容・方法・評価	養護概説の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案できる。
2	養護の本質と概念・養護教諭の資質と 役割(1) 制度の沿革と変遷	養護の定義・養護教諭制度の沿革と変遷に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
3	養護の本質と概念・養護教諭の資質と 役割(2) 養成と OJT・役割	養護教諭養成と OJT・役割に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
4	養護の本質と概念・養護教諭の資質と 役割(3) 単元の総括と小テスト①	養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割に関するグループ発表・全体討論を行い、養護の学習課題を小テストで確認できる。
5	健康教育とヘルスプロモーション・環 境、学校安全 (1) 健康教育と保健教育	健康教育と保健教育に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
6	健康教育とヘルスプロモーション・環 境、学校安全 (2) 性教育、危機管理対応	性教育、危機管理対応に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
7	健康教育とヘルスプロモーション・環 境、学校安全 (3) 単元の総括と小テスト②	健康教育と HP・環境、学校安全に関するグループ発表と全体討論を行い、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認できる。
8	養護教諭活動の展開と評価 (1) システム化と総合学習	システム化と総合学習に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
9	養護教諭活動の展開と評価 (2) ピアカウンセリング・生活習慣	ピアカウンセリング・生活習慣に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
10	養護教諭活動の展開と評価 (3) 単元の総括と小テスト③	養護教諭活動の展開と評価に関するグループ発表と全体討論を行い、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認できる。
11	アクティブラーニング活動 (1) 計画の立案と準備	養護の概念、健康教育と養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割、健康教育と HP に関する AL 活動の準備ができる。

12	アクティブラーニング活動 (2) 計画の実施	養護の概念・養護教諭の資質、健康教育と養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割、健康教育とHPに関するAL活動ができる。
13	グループKJ法の実施 (1) 第1段階	養護概説の学習成果をもとに、グループで協力して狭義のKJ法(ラベル作成・統合・図解作成)を行うことができる。
14	グループKJ法の実施 (2) 第2段階	養護概説の発表資料KJ法図解をもとにグループで叙述化とプレゼンテーションを行い、全体で学習課題の発展と深化を共有できる。
15	総括:養護概説の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行うとともに、養護教諭活動の基本と展開のあり方を考えることができる。

留意事項(履修条件等)

養護概説は保健師コースの選択必修科目であるため、養護概説を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。

授業時間外の学習(事前・事後学習)

科目的単位を修得するために、約60時間の授業時間外の学習(学習課題;事前・事後の学習に示されている内容の学習)が必要である。

事前学習(毎回2時間):教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、随時、科目担当教員と相談の上で進める。

事後学習(毎回2時間):個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

時間:火・水・木曜日の昼休み

場所:714研究室

教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)

教科書:

「4訂 養護概説」、ぎょうせい、ISBN 978-4-324-08594-3

教具:

リフレクションシート(400円)

※この教具は他科目と共にため1冊購入すれば良い(教科書販売と同時)。

最終到達目標

看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、養護概説の定義と諸課題を理解した上で、児童生徒・教職員が抱える生活・健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、養護概説に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。

評価方法及び評価基準

期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト(3回)を実施する。評価の比率は、期末試験成績(60%)、小テスト(20%)、発表を含む学習活動(20%)で配点得点を合計100点満点とし、総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点): 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点): 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点): 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点): 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下): 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

1. 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。
2. シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。
3. リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。

授業コード	ENN0801	定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>					
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学		広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>					
授業科目名	健康相談活動論		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>					
配当学年/学期	3年/前期		判断力	<input checked="" type="radio"/>					
担当教員	岡多枝子, 矢野美恵子		探求心	<input checked="" type="radio"/>					
講義目的									
いじめや不登校・薬物乱用・性的逸脱行動・新たな感染症出現等、児童生徒の健康阻害要因が日々増加している。保健師は養護教諭2種免許が取得できるため、保健師コースの学生には児童生徒と家族への心身の健康相談に関する理解と技術の習得が求められる。本講義の目的は、養護教諭の行う健康相談活動の基本的知識を理解するとともに、アクティブラーニングを通して健康相談活動の実際を主体的・対話的に深く学び考察することである。									
授業内容									
授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。									
1. 健康相談の基本と進め方(保健室の機能と健康相談・発達段階とエンパワーメント) 2. 健康相談に生かせる理論・方法(人格発達、精神医学、社会学、カウンセリング理論) 3. 児童生徒と家族への心身の健康相談(個別面接・グループアプローチ) 4. アクティブラーニング活動とグループKJ法									
授業計画及び学習課題									
回	標題	学習課題							
1	オリエンテーション: 健康相談の概念と本 科目の目的・内容・方法・評価	健康相談の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を 設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案できる。							
2	健康相談の基本と進め方(1)(2) 健康相談活動の基本的理解 学校教育と健康相談活動	健康相談の基本と進め方に関して、グループ毎に課題を設定して教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。							
3	健康相談活動を支える理論と技法 健康相談活動の進め方								
4	健康相談の基本と進め方 単元の総括と小テスト①	健康相談の基本と進め方に関するグループ発表と全体討論を行い、学習課題を小テストで確認することができる。							
5	健康相談に生かせる理論・方法(1)(2) 健康相談活動の実践効果を支える視点	健康相談に生かせる理論・方法に関して、グループ毎に課題を設定して教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。							
6	健康相談活動と保健指導の基本 健康相談活動と連携								
7	健康相談に生かせる理論・方法 (3) 単元の総括と小テスト②	健康相談に生かせる理論・方法に関するグループ発表と全体討論を行い、学習課題を小テストで確認することができる。							
8	児童生徒と家族への健康相談(1)(2) 子どもの問題と健康相談活動の実際	児童生徒と家族への健康相談に関して、グループ毎に課題を設定して教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。							
9	健康相談活動の記録と事例研究 健康相談活動の実践力向上								
10	児童生徒と家族への健康相談 (3) 単元の総括と小テスト③)	児童生徒と家族への健康相談に関するグループ発表と全体討論を行い、学習課題を小テストで確認することができる。							
11	アクティブラーニング活動 (1)(2) 計画立案と準備、実施	健康相談の基本と展開、健康相談に生かせる理論・方法、児童生徒と家族への健康相談に関するアクティブラーニング活動を行うことができる。							
12									
13	グループKJ法の実施 (1)(2) 第1段階、第2段階	健康相談に関する学習成果をもとに、グループで協力して狭義のKJ法(ラベル作成・統合・KJ法図解作成)、叙述化・プレゼンテーションを行い、学習課題の発展と深化を共有することができる。							
14									

15	総括: 健康相談活動の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行い、養護教諭として適切な健康相談のあり方を考えることができる。
留意事項(履修条件等)		
1. 健康相談活動論は看護教育を支える基礎科目であり、保健師コースの選択必修科目であるため、健康相談活動を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。 2. 確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。		
授業時間外の学習(事前・事後学習)		
科目の単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学習(学習課題; 事前・事後の学習に示されている内容の学習)が必要である。 事前学習(毎回 2 時間) : 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、隨時、科目担当教員と相談の上で進める。 事後学習(毎回 2 時間) : 個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
時間 : 火・水・木曜日の昼休み 場所 : 研究室 714		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書 : 「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」、ぎょうせい、ISBN 978-4324-09616-1 教具 : リフレクションシート(400 円) ※この教具は他科目と共にため 1 冊購入すれば良い(教科書販売と同時)。		
最終到達目標		
看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、健康相談活動の役割や諸課題を理解した上で、児童生徒・教職員が抱える健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、健康相談活動に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。		
評価方法及び評価基準		
期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト(3 回)を実施する。評価の比率は、期末試験成績(60%)、小テスト(20%)、発表を含む学習活動(20%)で配点得点を合計 100 点満点とし、総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。		
成績評価基準 (学則第 34 条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		
学生へのメッセージ		
1. 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。 2. シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。 3. リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。		

授業コード	ENO0101	定める 養成する 能力 ディプロマ・ポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目—広域看護学—国際看護学		広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	International Nursing I (国際看護学 I)		知識・技術		
配当学年/学期	1年/後期		判断力	○	
担当教員	Dr.Jekan Adler-Collins (アダラー・コリンズ,慈觀)		探求心	○	
講義目的					
<p>Completion of this course of study will prepare the students to be an informed member the global profession of Nursing. Students will be introduced to the challenges and complexities of culture, politics of health care and help develop the critical thinking skills need to assess and deliver care in a culturally sensitive manner. Students will learn to analyses other ideas and cultures to see how Japanese culture can help, enrich or learn from them.</p> <p>この授業は、看護の国際的な専門家となるための準備とします。この授業では、国で異なるヘルスケアの文化や政策について学び、そして国によって文化的な微妙な感じ方の違いがある場合にも、ヘルスケアを批判的思考力で考え方評価できるように支援していきます。学生達は、本授業を通して他の考え方や日本の新しい文化をつくっていくこと、分析するなど、より豊かな良い学びとなるでしょう。</p>					
授業内容					
<p>Introduction to international nursing. In the beginning, students will learn about a definition and necessary. Students will learn the situation and characteristic of the health in the world. This course is researched based requiring the student to develop their data collection and analysis skills. Students will learn how the economy, social status, education, environment, gender, a problem of population, the condition of nourishment, labor, child soldiers, trauma, first aid, incident response and control, traditional medicine, refugees, infection, and future global issues such as genetic counselling, vaccination, endemics and population exodus. International Nursing is a student centered, living action research approach to higher education. For each subject, students will complete On line reflective journals to evidence their critical thinking and engagement with the curriculum material, On line self-study tests and evaluate their learning on line. Session evaluation to develop reporting skills. A portfolio of learning will be developed to evidence the process of knowledge assimilation.</p> <p>国際看護学の導入として、学生は国際看護学の定義と必要性について学びます。そして、学生は世界におけるヘルスケアの状況と特徴について学びます。この授業では、学生がデータ収集と分析の技術を発達させつつ、調査する姿勢を基本として求めます。学生は、どのようにして経済や社会的地位、教育、環境、性差、人口問題、食糧問題、労働、子どもの兵士、トラウマ、応急手当、災害対応、戦争や災害による避難民、伝統医療、難民、感染症、そして、さらに遺伝子カウンセリング、ワクチン接種、風土病、人口爆発など地球規模の課題について学習します。この科目は、学生が主体的に取り組む科目であり、実際に調査・研究する方法(アクション・リサーチ)による活動を行いながら、学生には質の高い教育を保障します。学生は自分の批評的思考力を駆使しながら実際のカリキュラムに参加した根拠を証明するために、オンライン上で自己学習テストを行って、学習を評価します。また、学生が単元ごとに行う自己評価を通して学生自身も報告能力を向上させていきます。ポートフォリオは、各単元で得た知識の定着化が根拠をもって示され学生自身の学びを深めます。</p>					
授業計画及び学習課題					
回	標 題	学習課題			
1	History of nursing in the world, Asia, Islam, religious orders and west. 世界、アジア、イスラム世界、そして西洋における看護の歴史	<p>Models of nursing focus on the Nightingale model as modern history of nursing. International Nursing looks at how politics has shaped what we consider is the truth and offers insights to other historic nursing systems for the students to research.</p> <p>現代の看護は、その歴史としてナインゲールモデルに焦点を当てている。国際看護学では、いかに政治が形作っている私達の考えがいかに真実であるか、また学生の研究のために他の歴史上有名な看護の体系的方法について洞察する。</p>			

2	Learning tools and systems; A basic introduction 基本的な紹介; 学習の手段とシステム	This section of the course introduces the student to action research, the web and web research. On line testing, portfolios, reflective journals and critical thinking. アクションリサーチ、ウェブとウェブ上の研究、オンライン上でテスト、ポートフォリオ、リフレクティブジャーナル、そしてクリティカルシンキングについての紹介
3	Introduction to International Nursing. 1 国際看護学への招待1	This section introduces students to the complexity of culture and socialization within a culture. Nationalism, Global citizenship. 文化の中の複雑な文化と社会主義化、国家主義や地球市民についての紹介
4	Medicine and Health in the world. Insurance: Health care or wealth care? discuss 世界における医療と健康、保険: ヘルスケアかウエルスケアか? ディスカッション	Students look at health care as a business, as a policy within the country and research the different political controls in health care. Including drug companies and corporate interest. Who controls health care? ビジネスとして、また国の政策としてのヘルスケアについてみてみる。そして、ヘルスケアにおける異なる政策上の統制について調べる。製薬会社や企業の利害関係も含め、誰がヘルスケアを統制しているか?
5	Cultural research. 1 Students will in their groups carry out research on selected countries and present their finding to the class for discussion. Students will compare and contrast Japans system with those of their selected country. 文化に関する調査1: 学生は各グループで選んだ国について調べ、どのようなことを発見したか、授業中にディスカッションを行う。 日本のシステムと各グループで選んだ国との比較対照。	Students will be in groups and their country to research will be allocated by draw. The following will be researched. Location, population, Gross National Product. World rating. Political structure, education structure Healthcare systems. Birth rate, industries? Start group Portfolio. 学生はグループに分かれ、クジ引きで調べる国が割り当てられる。調べるのは、以下の項目である。 その国の位置や人口、国民総生産、世界的な格付け、政治的な構造、教育の構成、ヘルスケアシステム、出生率、そして産業。 グループでポートフォリオをスタート。
6	Cultural research. 2 Students will in their groups carry out research on selected countries and present their finding to the class for discussion. Students will compare and contrast Japans system with those of their selected country 文化に関する調査2: 学生は各グループで選んだ国について調べ、どのようなことを発見したか授業中にディスカッションを行う。 日本のシステムと各グループで選んだ国との比較対照。	Education, medical and nurse education. Do they have a national council? What is the system of training Doctors and Nurses? What are the pathways open in their culture to access nurse training? What are the major health issues? World Health Organization listings (Health) Portfolio building. 教育、医療、そして看護教育について。 その国は、国全体の評議会を有しているか？医師や看護師の教育課程はどのようなものか？看護の教育課程に通じる開かれた道は何かあるか？健康上の大問題は何か？WHO；世界保健機関について。 ポートフォリオの作成を続ける。
7	Cultural research. 3 Students will in their groups carry out research on selected countries and present their finding to the class for discussion. Students will compare and contrast Japans system with those of their selected country.	Period 1. Presentation of findings, peer to peer evaluation. 授業の前半：どのようなことを発見したか、グループのメンバー同士で評価する。

	文化に関する調査3: 学生は各グループで選んだ国について調べ、どのようなことを発見したか授業中にディスカッションを行う。 日本のシステムと各グループで選んだ国との比較対照。	Period 2. Discussions on presentation, Portfolio building 授業の後半:ディスカッションとプレゼンテーション。ポートフォリオの作成。
8	Human rights and ethics in the world, Terrorism and Health. Sexual slavery and trafficking. 世界における人権と倫理、テロリズムと健康、性的奴隸、人身売買	Period 1. What is a terrorist? How is terrorism effect health, nationally, internationally? What types of terror attacks have been used on health? Sexual slavery and trafficking. 前半:テロリズムとは何か？テロリズムが国家的、あるいは国際的な健康へどのような影響を及ぼすか？健康上の影響を受けたテロ攻撃は、どのような種類のものがあったか？ 性的奴隸と違法な売買について。 Period 2. Discussions, Portfolio building. 後半:ディスカッション、ポートフォリオの作成。
9	Population in the world and family planning, Gender issues. A boy baby is better than a girl baby?? Discuss. 世界における人口と家族計画、ジェンダーの課題、男子は女子より良いか？？ディスカッションする。	Period 1. Population issues? Birth control, religion, trends. 前半:人口問題は？産児制限や宗教、動向について。 Period 2. Discussions, Portfolio building. 後半:ディスカッション、ポートフォリオの作成。
10	Nourishment in the world. /Malnutrition and obesity. Clean water. 世界における栄養状況;栄養不良や肥満	Period 1. Famine, hunger, obesity? Clean water.. 前半:飢餓や飢え、肥満？汚染されてない水について。 Period 2. Discussions, Portfolio building. 後半:ディスカッション、ポートフォリオの作成。
11	Mental Health and Health for Child labour, Child soldiers, trauma and accident. メンタルヘルスと小児奴隸や子ども兵士、トラウマ、アクシデントに対する健康	Period 1. International mental health. War, child soldiers, traumatic stress disorder. Natural disasters. 前半:国際的なメンタルヘルス、戦争、子ども兵士、トラウマのストレスによる障害、自然災害。 Period 2. Discussions, Portfolio building 後半:ディスカッション、ポートフォリオの作成。
12	Health and Traditional Medicine (CAM) in the world. Healing, Magic, mystery or facts.. Discuss? 世界における健康と伝統医療(補完代替医療) ヒーリング、マジック、ミステリー、あるいは事実か？ディスカッション	Period 1. Complementary and Alternative Medicine, Natural healing Kikou healing, shamanic healing, healing culture and systems. 前半:補完・代替医療、自然ヒーリング、気功ヒーリング、シャーマニックヒーリング、ヒーリングの文化とシステム。 Period 2. Discussions, Portfolio building 後半:ディスカッション、ポートフォリオの作成。
13	Global Health issues.1: Childhood. a.) infections;, measles, mumps, whooping cough, cholera , scarlet fever, jaundice, hepatitis, HIV. MDRTB b.) environmental, malnutrition, rickets etc. c.) Pandemics	Period 1. Research selected diseases and their etiology. 前半:選んだ病気とその原因について調べる

	世界的な健康問題1:小児 a) 感染症、麻疹、流行性耳下腺炎、咳、コレラ、猩紅熱、黄疸、肝炎、エイズ、多剤耐性結核 b) 環境、栄養失調、くる病など c) 世界的流行病	Period 2. Discussion and Portfolio building. 後半:ディスカッションとポートフォリオの作成。
14	Global Health issues.2 : Pneumonia, diarrhea, malaria, another infection and a vaccination). 世界的な健康問題2: 結核、下痢、マラリア、他の感染症とワクチン接種	Period 1. Research selected diseases and their etiology. 前半:選んだ病気とその原因について調べる。 Period 2. Discussion and Portfolio building. 後半:ディスカッションとポートフォリオの作成。
15	Final on line web evaluation, hand in portfolios (Group). オンライン上での期末試験と授業評価、グループでのポートフォリオの提出	Period 1.web 統合 前半:オンライン上でウェブ試験 Period 2.Course debrief and evaluation. 期間 2. コースの振り返りと評価

留意事項(履修条件等)

English is the international language for communication. Students may need help with their English skills and will be encouraged to attend the English circle where conversation help from a native speaker will be available.

Smart phones, translator may be used in all these sessions to assist the student in comprehension.

No percentage of marks are awarded for attendance. If you are absent without due reason over 4 times, you will not be able to be awarded any credit.

Tutorials are on an open door policy.

英語はコミュニケーションのための国際言語です。学生は彼らの英語のスキルに対する援助が必要で、ネイティブスピーカーの援助による英会話ができる英語のサークルに参加する勇気が必要となるでしょう。

スマートフォンや翻訳機は学生の理解を補うために全授業で用いてもよいです。

出席しているからといって、成績に評価点は加えません。もし何の理由もなく 5 回以上欠席した場合、単位を取得することはできないでしょう。

個別指導に関してはオープンプランです。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を取得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学習(事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習:各学習項目についてインターネット等で調べ、調べた内容についての資料を授業時のグループディスカッションのために持参する

事後学習:オンライン上の自己学習テストおよび授業評価

オフィスアワー

オフィスアワーは金曜日を除く平日。場所は 705 研究室。月曜日から金曜日は E メールにても対応。週末は、E メールのみ。公式なチュートリアルは、申込みによって。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage.

Google を通して調べた文献を収集し、本コースの Google ウェブページも使えるよう、授業ごとのウェブリンクが学生に与えられます。

最終到達目標

By the end of this course of study the students will have been introduced to the complexity and challenges that make up the subject of International Nursing. They will be familiar with up to date ideas and have experience of research, analyzing data, presenting and discussing International Nursing.

この授業による学習を終えるまでに学生らは、国際看護の課題をつぶっている複雑さと挑戦について紹介されるでしょう。

また、国際看護についての考えをアップデートさせ、そして調査とデータ分析、プレゼンテーション、ディスカッションという経験を得るでしょう。

評価方法及び評価基準

1. Online self-testing knowledge reviews, 14 times (15%)
 2. Reflective journal entry in portfolio 14 times (15%)
 3. Session evaluation 14 times (15 %)
 4. Interactive World Flag Map test(15%)
 5. Final Exam On line (40 %)
-
1. 知識について復習するオンライン上の自己学習テスト—14回(15%)
 2. ポートフォリオに記入するリフレクティブジャーナル—14回(15%)
 3. 授業評価—14回(15%)
 4. 双方向の世界の旗マップテスト(15%)
 5. オンライン上での期末試験(40%)

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

Let us enjoy the study of international nursing and learn about different cultures, nursing styles and health systems.

どうぞ楽しんでください。国際看護を学習することによって世界の状況を知り、自分たちがいかに幸運であるかを理解することができるでしょう。

授業コード	ENO0201			定める 養成する 能力 デイプロマ・ポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門科目—広域看護学—国際看護学				広い視野と 倫理観	○					
授業科目名	International Nursing II (国際看護学 II)	選択・必修	必修		知識・技術						
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○					
担当教員	Dr.Jekan Adler-Collins (アダラー・コリンズ,慈觀)				探求心	○					
講義目的											
<p>This course of study builds on year I International Nursing. Completion of this course of study will prepare the students to be an informed member the global profession of Nursing. Students will be introduced to the challenges and complexities of culture, politics of health care and help develop the critical thinking skills need to assess and deliver care in a culturally sensitive manner. Students will develop from practical experience of interviewing subjects learn to analyses other ideas and cultures to see how Japanese culture can help, enrich or learn from them. This unit develops self-confidence and leadership skills through engagement with the challenging elements of the course.</p> <p>この授業は、国際看護学 I に基づいておこないます。この授業の修了時に学生の皆さんには、世界な広い視野を持った看護の専門職として豊富な知識を備えたメンバーになることができます。この授業は、学生に文化的な課題や複雑さやヘルスケアの政策について、国際文化を敏感に感じられる方法、専門職として必要とされるヘルスケアの提供と評価に必要な批判的な考え方の向上についても紹介します。</p> <p>学生は、他の人の考え方や文化について明らかにするためのインタビューを行い、その実際の経験によって日本の文化がいかに援助的で豊かであるか、学生自身が日本の文化を十分に学んでいるか、どのように自覚しているか学ぶことで学生は成長するでしょう。</p> <p>この授業では、授業中の挑戦的な構成課題に取り組むことにより、学生自身が自信とリーダーシップのスキルを向上させるでしょう。</p>											
授業内容											
<p>Students will learn identity and base for provide necessary care to the people who has different cultural and social situation such as an emigrant in Japan and an international student, an incoming tourist.</p> <p>Students will carry out field research in the city, interviewing foreigners, analyzing the data and presenting their findings and conclusions to their peers.</p> <p>この授業では、国内の移民や留学生、国内への旅行者のような異なる文化と社会的な状況を抱える人々に対する必要なケアを提供するための基礎的な事柄とそれに対して今の自分に何ができるのかについて学習します。</p> <p>学生は街へ実地調査に行き、外国人へのインタビューとそのデータを分析し、それらの結果と結論についてクラスメートにプレゼンテーションで紹介します。</p>											
<p>International Nursing is a student centered, living action research approach to higher education. For each subject, students will complete On line reflective journals to evidence their critical thinking and engagement with the curriculum material, On line self-study tests to evaluate their learning on line. Session evaluation to develop reporting skills. A Portfolio of learning will be developed to evidence the process of knowledge assimilation. An academic report of 500 words on each session theme written in Japanese will be submitted. A final end of course web exam will be taken.</p> <p>国際看護学は学生が主体的に取り組む科目であり、実際に調査・研究する方法(アクション・リサーチ)による活動を行ながら、学生には質の高い教育を保障します。学生は自分の批評的思考力を駆使しながら実際のカリキュラムに参加した根拠を証明するために、オンライン上で自己学習テストを行って、学習を評価します。また、学生が単元ごとに行う自己評価を通して学生自身も報告能力を向上させていきます。ポートフォリオは、各単元で得た知識の定着化が根拠をもって示され学生自身の学びを深めます。単元ごとの学術的報告書(レポート)は日本語で 500 文字で書き提出することを求めます。期末試験もオンライン上で受験します。</p>											

授業計画及び学習課題		
回	標 題	学習課題
1	Learning identity, Who am I? アイデンティティについて学ぶ、	Period 1. To understand others you first need to understand yourself. This session exams the make-up of identity, how we identify and mold our self-realization of self. Ego is explored as are the prime human emotions of bias, hatred, love and bigotry. 前半: 他者を理解するためには、最初に自分自身を理解することが必要である。この授業では、アイデンティティの構成を試みる。どのようにして私達は自分の自己実現を確認するのか。自我は、バイアスや嫌悪、愛情、頑固さなど人間の原始的な感情として探求される。 Period 2. Practical workshop of understanding emotions 後半: 感情を理解するための実践的なワークショップ
2	Research Project: Health and measures for an emigrant in Japan and an international student, an incoming tourist. 調査研究: 国内の移民と留学生、外国人旅行者と海外の日本人の健康と対策	Period 1& 2 Outlining the research plan, Aim, Objective, method, consents, Planning and logistics of the research. Developing the instrument (questionnaire). How will it be analysed, what language? Bi Lingual. 研究計画と目的、課題、方法、内容、計画立案、調査の理論性についての概要。研究道具(質問紙)の開発。 <u>どんな言語をいかにして分析するか、2か国語で表現する。</u>
3	Medical tourism: the situation in Japan and other countries. メディカルツーリズム: 日本や他国の現状	Period 1. Country will be chosen by draw. Group work and portfolio building is the method. 前半: ジャンケンで国を選び、グループワークとポートフォリオを作成する。 Period 2. Research the country selected by the group draw. Present back to class findings and collate the whole groups data. 後半: グループごとに選んだ国について調査。発見したことを教室に持ち帰り、グループで収集したすべてのデータを発表。
4	Traditional Medicine. 伝統医療	Period 1. Keeping the same country as periods 1-2. Group work and portfolio building is the method. 前半: 上述と同じ国についてグループワークとポートフォリオ作成。 Period 2. Research the country for any systems of healing or alternative Medicine. Present back to class findings and collate the whole groups data. 後半: その国の癒しや代替医療のあらゆる体系について調査。そして、発見したことを教室に持ち帰り、グループで収集したすべての資料を発表。
5	Listening to foreigner about their experience. Pain, its experience and its management. 痛みの体験とその対処について外国人から聴取	Period 1&2. By groups students will research. a.) Types of pain b.) Cultural treatments for pain c.) Cultural Conflicts d.) Pain Scales, types and usage. e.) Discuss pain with a foreigner

		<p>グループ毎に調査</p> <p>a.) どのような種類の痛みか b.) 痛みに対する文化的な治療法 c.) 文化的な矛盾 d.) 痛み尺度、種類、取扱い方 e.) 痛みについて外国人と討論</p>
6	Communication and assessment tools コミュニケーションとアセスメントツール	<p>Period 1. By groups students will research.</p> <p>a.) Types of Communications that are needed in Nursing. b.) Cultural communication, barriers, taboos c.) Cultural Conflicts</p> <p>前半: グループ毎に調査</p> <p>a.) 看護に必要なコミュニケーションの種類 b.) 文化的なコミュニケーションや障壁、タブー c.) 文化的な矛盾</p> <p>Period 2. Design an assessment sheet./scale.</p> <p>後半: 評価用紙/尺度を設計</p>
7	Understanding Cultural Backgrounds of foreigners living in Japan <u>日本に住む外国人の文化的背景を理解する</u> (外国人看護師との協働:DVD 視聴含む、中間試験)。	<p>Period 1. Research the meaning of culture and socialization.</p> <p>前半: <u>文化や社会化の意味を調査</u></p> <p>Period 2. Practical healing.. Japanese kikou exercise. Holistic touch.</p> <p>後半: 実践的な癒し、日本の気功の練習、ホリスティックタッチの演習。</p>
8	Research Project. 2. Collecting Data of foreigners feelings about health in Japan.. 調査計画 2: 日本の健康に対する感想を外国人から聞き取る。	<p>Periods 1 & 2. Field work.. Collecting data mini survey in local city.</p> <p>フィールドワーク: 地方都市での資料の収集</p>
9	Research Project. 3. Writing UP and Data of foreigners' feelings about health and living in Japan. 調査計画 3: 日本での健康と生活について外国人から聞き取り、情報を記述。	<p>Periods 1&2. Writing up your research. Presentation methods. Group discussion and Portfolio Building</p> <p>Research write up 調査を記述し、発表する。グループでの討論とポートフォリオの作成。</p>
10	Do nurses actually Nurse: Who delivers the care? 看護師が実際に看護をしているか: 誰がケアを提供しているか?	<p>Period 1. Advanced countries and developing countries. Who delivers the care? Research into this question. The Poverty trap. WHO and World Bank.</p> <p>前半: 先進国と途上国について、誰がケアするのか? この問い合わせを調べる。貧困の足かせ。世界保健機構と世界銀行。</p> <p>Period 2. Group discussion and Portfolio Building.</p> <p>後半: グループディスカッションとポートフォリオ作成。</p>
11	International Cooperation 国際的な比較	<p>Periods 1&2. Roles of International Organizations. Group discussion. Core Curriculum. JNEB</p> <p>国際機関の役割についてグループディスカッションとポートフォリオの作成。</p>
12	Presentations of Research ,Peer to Peer 学生同士のプレゼンテーション	<p>Periods 1&2</p> <p>Presentation of student's group research. Group discussion and Portfolio Building</p> <p>グループで調べたことを発表する。グループディスカッションとポートフォリオ作成。</p>

13	Sexual Health, HIV, AIDS 性に関する健康、HIV、エイズについて	Period 1. Group research into HIV and AIDS. The human cost of the disease Internationally. 前半:HIVとエイズについてグループごとに調べる。この疾患に罹患することで損なわれる、人間としての価値について国際的観点から考える。 Period 2. Group discussion and Portfolio Building. 後半:グループディスカッションとポートフォリオ作成。
14	International Health Promotion and education 国際的なヘルスプロモーションと教育について	Period 1. Health promotion and education are a basic function of all nurses. Groups will research the ideas that make up Health Promotion and present their findings 前半:ヘルスプロモーションと教育はすべての看護師の基本的な役割である。ヘルスプロモーションの考え方について調べ、見出したことを発表する。 Period 2. Group discussion and Portfolio Building. 後半:グループディスカッションとポートフォリオ作成。
15	Checking online and course work オンライン上の課題とコースワークに関する確認	Checking online and course work . 本授業におけるオンラインでの課題およびコースワークについての確認
留意事項(履修条件等)		
<p>English is the international language for communication. Students may need help with their English skills and will be encouraged to attend the English circle where conversation help from a native speaker will be available.</p> <p>Smart phones, translator may be used in all these sessions to assist the student in comprehension.</p> <p>No percentage of marks are awarded for attendance. If you are absent without due reason over 5 times, you will not be able to be awarded any credit.</p> <p>Tutorials are on an open door policy.</p> <p>英語はコミュニケーションのための国際言語です。学生は自分の英語力に対する何らかの援助が必要で、ネイティブスピーカーの手助けによる英会話ができる英語のサークルに参加することをお勧めします。</p> <p>スマートフォンや翻訳機は学生の理解を補うことになるので、国際看護学の全ての授業で用いてかまいません。</p> <p>出席しているからといって、成績に評価点は加えません。正当な理由なく 5 回以上欠席した場合、受験資格を失い、単位を修得することはできません。</p> <p>個別指導は、いつでもしています。</p>		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
<p>科目的単位を取得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学習(事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習:各学習項目についてインターネット等で調べ、調べた内容についての資料を授業時のグループディスカッションのために持参する</p> <p>事後学習:オンライン上の自己学習テストおよび授業評価</p>		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
オフィスアワーは金曜日を除く平日。場所は 705 研究室。月曜日から金曜日は E メールにても対応。週末は、E メールのみ。公式なチュートリアルは、申込みによって。		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
<p>Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage.</p> <p>授業の各単元ごとのウェブリンクは、Google を通して調べるための参考文献について引用するのと同じように学生に与えられ、本授業のための Google 上のウェブページも利用できるように作ります。</p>		

最終到達目標

By the end of this course of study the students will have been introduced to the complexity and challenges that make up the subject of International Nursing. They will be familiar with up to date ideas and have experience of research, analyzing data, presenting and discussing International Nursing.

この授業による学習を終えるまでに学生らは、国際看護の課題となっている複雑さと挑戦について紹介することができるようになるでしょう。また、学生たちは最新の考えに精通し、研究調査とデータ分析、国際看護についての発表と討論という経験を得るでしょう。

評価方法及び評価基準

1. Online self-testing knowledge reviews, 14 times (15%)
 2. Reflective journal entry in portfolio 14 times (15%)
 3. Session evaluation 14 times (15 %)
 4. Reporting activity (15%)
 5. Final Exam On line (40 %)
1. 知識について復習するオンライン上の自己学習テスト—14回(15%)
 2. ポートフォリオに記入するリフレクティブジャーナル—14回(15%)
 3. 授業評価—14回(15%)
 4. 双方向の世界の旗マップテスト(15%)
 5. オンライン上での期末試験(40%)

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

Let us enjoy the study of international nursing and learn about different cultures, nursing styles and health systems.

どうぞ楽しんでください。国際看護を学習することによって世界の状況を知り、自分たちがいかに幸運であるかを理解することができるでしょう。

授業コード	ENO0301			定める 養成する 能力 ディプロマ・ポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野と 倫理観	○					
授業科目名	International Nursing III (国際看護学III)		選択・必修		知識・技術						
配当学年/学期	3年/前期		単位数		判断力	○					
担当教員	Dr.Jekan Adler-Collins (アダラー・コリンズ,慈觀)				探求心	○					
講義目的											
<p>By their 3 years, students will have gained some understanding about nursing as a profession and the kind of work that a nurse is expected to do. This unit expands of the knowledge base of units 1 and 2, introducing in depth study of nursing globally. We focus on the politics and health care challenges of modern nursing and the direction that humanity may take in relationship to genetics. The unit is designed to create an enquiring and reflective mindset in the students extending their research skill and seeking answers to some challenging global situations.</p> <p>学生は3年生までに、専門職としての看護師について、また、看護師にはどのような仕事が期待されるかについてある程度理解している。「国際看護III」の講義は、「国際看護学I・II」の基礎的な知識を拡大するとともに、さらに地球規模の看護に関する学習を深めてゆく。現代の看護学の制度と健康ケアに関する問題点と、人間性が遺伝と関係するかも知れないという方向とに焦点をあてる。ここでは、地球規模の状況に答えを模索し、調査技術を広げようとする学生たちに、探求的かつ思索的なものの見方をするように配慮している。</p>											
授業内容											
<p>This unit of study revisits units 1&2, deepening some of the material through focused research of several different countries nurse education system, political and social structures, economics and historical positioning. This unit will examine nursing in north and south America, European Union, Islamic, Chinese, Tibetan, and Africa, comparing in depth with Japan's system of nursing and nurse education. Future educational pathways of nursing will be explored, advanced practitioner, clinical nurse specialists, masters and doctors of nursing. Systems of palliative care will be examined and the different cultural religions will be explored to see how they impact nursing care. This unit will also enquire the impact of genetics, identifying disease carry genes and counselling. Global advances of bio technology and cyborg technology presents unique ethical questions and concerns for nurses. The role of the nurse in disaster will be covered along with basic first aid, CPR and AED usage. A small mini practical session will be carried out and used for discussion purposes. A final presentation by the student of their learning in this unit to their peers will conclude this interesting unit.</p> <p>この授業では、「国際看護学I・II」を再考し、看護師の教育システム、制度的および社会的構造、経済、歴史的位置について、いくつかの異なった国々の調査に焦点を当てることにより、いくつかの題材をより深く学習する。北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ連合、イスラム教の国、中国、チベット、アフリカなどの看護について、日本の看護体制や看護教育の程度と比較しながら調査する。将来の看護の教育方針、例えば先進的な看護実践者、専門看護師、看護学の修士と博士などを展望する。緩和ケアの制度について調べ、異文化の宗教がいかに看護に強い影響を与えていたかを探索する。また、この授業は、遺伝子病や遺伝カウンセリングについて明らかにしながら、遺伝の影響力について調査する。バイオテクノロジー(生物工学)やサイボーグ(人工臓器や人工知能)技術の地球規模での進歩は、看護にとって新たな倫理的な問題や関心事となっている。災害における看護師の役割は、基本的な応急手当、心肺蘇生、AED の使用などであろう。小規模の実践演習を行い、討論を行う。この授業を履修した学生は、仲間にプレゼンテーションをして、この興味深い科目の結びとする。</p>											
授業計画及び学習課題											
回	標 題	学習課題									
1	Introduction to International Nursing 3. 国際看護学IIIへの導入	Period 1: Linking back to units 1 & 2. Period 2: Objectives of the unit Portfolio building, extension of 1&2 units. 前半:国際看護学 I および II との関連づけ、講義の目的 後半:ポートフォリオの作成、国際看護学 I・II との関連付け									

2	Nurse in the world 1: North America & South America 世界の看護師1: 北アメリカと南アメリカ	Period1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 教育体制、実践、国際法などを調査 後半: 討論およびポートフォリオの作成。
3	Nurse in the world 2: European Union 世界の看護師2: 欧州連合	Period1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 教育体制、実践、国際法について調査 後半: 討論とポートフォリオの作成。
4	Nurse in the world 3: Islamic Nursing. 世界の看護師3: 中東、アジア	Period1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 教育体制、実践、国際法について調べる。 後半: 討論とポートフォリオの作成。
5	Nurse of the world 4: China and Tibet 世界の看護師4: 中国、チベット	Period1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 教育システムや実践、国際法について調べる。 後半: 討論とポートフォリオの作成。
6	Nurse of the world 5 Africa. 世界の看護師5: アフリカ	Period1. Research education systems, practice and international law. Period 2. Discussion and portfolio building. 前半: 教育システムや実践、国際法について調べる。 後半: 討論とポートフォリオの作成。
7	Reviewing the advanced pathways in nursing. 看護における上級コースを展望	Period1: Research education systems, practice and international law. Advanced practitioner masters and doctors of nursing. Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 教育体制、実践、国際法。また高度な実践家としての看護学修士や看護学博士について調べる。 後半: 討論とポートフォリオの作成。
8	End of life care in different cultures. 異文化における終末期ケア	Period 1: Research faith systems, practice and international law in end of life care. The right to die, assisted suicide. Where do you stand?? Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 終末期ケアにおける信頼体制、実践、国際法について調べる。死ぬ権利や自殺ほう助。どのような立場か? 後半: 討論とポートフォリオの作成。
9	Genetic nursing and counselling. 遺伝子学的看護とカウンセリング	Human genes and DNA has been fully mapped. How to you assist carriers of genetic diseases? What are the ethical and social issues at stake? Period 1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Role playing. Discussion and portfolio building. 人間の遺伝子およびDNAは完全に解明されている。遺伝子病をもつ人々をどのように援助するか? 倫理的並びに社会的な課題にかかわっているものは何か? 前半: 教育システムや実践、国際法について調べること。 後半: ロールプレイ、討論、ポートフォリオの作成。
10	Nursing robotics, cyborg, biotechnology . 看護ロボット、サイボーグ、バイオテクノロジー	Modern advances in bio cyborg technology are not science fiction but science fact. What are the ethical considerations of modifying human beings? What is Ok and where must it stop. バイオサイボーグ技術における現代の進歩は、空想科学ではなく、科学的な事実である。人間を作り変えることに関する倫理的問題点は何か? 何を良しとして、何を止めなくてはならないか?

11	Disaster Nursing1: Are you ready? 災害看護1:あなたは準備ができますか?	Natural and manmade disasters are on the increase as we face an uncertain future with global warming resulting in human migration and weather changes. Period 1. Research on the subject? Period 2. What is the nurses' role in this process? Discussion. 人間の移動や気候変化に起因する地球温暖化と共に不確かな未来に直面しており、天災と人災は増加している。 前半:このテーマに関して調べる。 後半:この過程における看護師の役割は何か、討論。
12	Disaster nursing 2: International first aid, basic first aid response in CPR and AED. 災害看護2:国際的な応急手当、心肺蘇生とAEDにおける基本的な応急反応	Period 1: Research education systems, practice and international law in relationship to first aid. Period 2: Practical session CPR Discussion and portfolio building. 前半:応急手当に関する教育体制、実践、国際的な法について調べること。 後半:CPR の演習 討論とポートフォリオの作成。
13	Disaster Nursing 3: First aid and disaster scenario. Practical field work. 災害看護3:応急手当と災害シナリオ、実践的な屋外研究	How to manage an incident. Simulated disaster scenario. Period 1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building. どのようにインシデントに対応するか。 前半:災害シナリオのシミュレーション。教育体制、実践、国際法について調べる。 後半:討論とポートフォリオの作成。
14	Presentation by students: Individual presentation by the student of their learning and knowledge acquisition through the unit. 学生による発表:この授業を通して得た学習と知識を個別に発表	Student presentations. 学生による発表。
15	Portfolio hand in and Summary ポートフォリオの提出とまとめ	.Portfolio hand in. ポートフォリオの提出
留意事項(履修条件等)		
Compulsorily subject for students who take public health nurse course 保健師コースの学生は必修。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学習(事前・事後学習)		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
オフィスアワーは金曜日を除く平日。場所は 705 研究室。月曜日から金曜日は E メールにても対応。週末は、E メールのみ。公式なチュートリアルは、申込みによって。		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage. 学生には、授業の初めに、調査に必要な参考文献をグーグルにより、ウェブ上で参照ページを示します。		

最終到達目標

By the end of this course of study, the students will have extended their knowledge and maturity of the complexity and challenges that make up the subject of international nursing. Practical skillsets that help prepare an international nurse for practice will have been experienced.

この授業を終えるまでに、学生は、知識を広げ、国際看護の課題となる複雑さと疑問を成長させる。また、実践のための国際看護師を準備する手助けとなる実践的な技術を経験してゆく。

評価方法及び評価基準

Self-testing knowledge reviews, 15 times (15%), reflective journal entry in portfolio 15 times (15%), session evaluation 15 times (15 %), final examination (30 %), practical scenario (25%) and then sum up to 100 score.

知識について復習する自己学習テスト 15 回(15%)、ポートフォリオに記入する調査したことを反映する日誌 15 回(15%)、授業評価 15 回(15%)、期末試験(30%)、実践的なシナリオ(25%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

Let us enjoy the study of international nursing and learn about different cultures, nursing styles and health systems.

国際看護学Ⅲで、異なった文化、看護のスタイル、健康制度などについて一緒に楽しく学んでいきましょう。

授業コード	ENO0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	国際看護学IV (International Nursing IV)		選択・必修		知識・技術		
配当学年/学期	4年/後期		単位数		判断力	○	
担当教員	Dr.Jekan Adler-Collins (アダラー・コリンズ,慈觀)				探求心	○	
講義目的 Purpose of the subject							
<p>Grand and final program of international nursing program. This subject is summarizing their understanding of international nursing study about health and nursing, nursing with symbiotic many culture, practice in the world. This unit introduce international organizations, Non Government Organization (NGO), Non Profit Organization (NPO), which will help students to find their future career in global society and to think about international contributions through nursing.</p> <p>この授業は、これまでに習った国際看護学の総集編です。この授業では、健康と看護に関する国際看護、象徴的な多くの文化と看護、世界における看護実践など学習してきたことを要約します。いくつかの国際機関、非政府の機関、非営利活動について学びます。学生が、地球規模の社会における将来の目標を見出し、看護を通じての国際的な貢献をする手助けとなるでしょう。</p>							
授業内容 Contents of the subject							
<p>Students will learn the role of Internal and International organizations, NGOs which support international nursing mainly and talented people. Students will also learn the details for participation to International Organization officially.</p> <p>主に国際看護と特殊技能を持った人々を支援する国内および国際的な機関である NGO について学習します。また、公式に国際機関へ参加するための詳細について学習します。</p>							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	Introduction to international organization and internal organizations, NGO in the term of Health. (保健関係の国際機関と国内機関、NGO の導入論)	<p>NGOs can provide useful pathways for volunteers and work in areas that interest the nurse around the world.</p> <p>Research NGO systems and functions. Identify one that interests the student and say why.</p> <p>NGO は世界中の看護師が関心を示す地域でのボランティアや仕事への有用な道となる。</p> <p>NGO のシステムと機能について調べ、学生が関心を示すものを確認し、それがなぜなのかを示す。</p>					
2	The United Nations, organization for health in New York and Geneva, etc. 国連機関、ニューヨークやジュネーブなどの保健に関連する機関	<p>Many international policies from the United Nations, influence national health policies.</p> <p>The student will research the function of the UN.</p> <p>国際連合の多くの国際的な政策は、国家的な健康政策に影響をおよぼしている。</p> <p>学生達は、国際連合の機能について調べる。</p>					
3	International organization like The United Nations 1: the role 国連のような国際機関:役割	<p>Many international policies from the United Nations, influence national health policies.</p> <p>The student will research the function of the UN.</p> <p>国際連合の多くの国際的な政策は、国家的な健康政策に影響をおよぼしている。</p> <p>学生達は、国際連合の機能について調べる。</p>					
4	International organization like The World Health Organization: WHO のような国際機関	<p>Many international policies from the WHO, influence national health policies.</p> <p>The student will research the function of the WHO.</p> <p>WHO の国際的な政策は、国家的な健康政策に影響を及ぼしている。</p> <p>学生達は、WHO の機能について調べる。</p>					

5	Another organization related to Nursing ICN, the role of ICN and annual conference 看護に関連した他の機関 国際看護師協会, ICN の役割と年次カンファレンス	The ICN, its function and annual conference. Students will be encouraged to see if they can successfully submit an abstract for a paper presentation. ICN の役割と年次カンファレンス。 学生達は、論文発表のための抄録の投稿について学ぶ。
6	Net working and meeting other international nurses. ネットワーキングと他の国際看護師の会合	Students will research the possible ways that networking with International nurses can be developed or existing one evaluated and joined. 学生達は、国際看護師とネットで仕事する方法を調査し、ネットワークの開発や、会合への参加方法について調べる。
7	Presentation by students 学生達による発表	Students will present their 4 year portfolio as evidence of their process of learning. Students will critically evaluate that process identifying its strengths and weaknesses, what worked for them and what did not and offer ways, ideas of improving the course. 学生達は、学習の過程を示す根拠となる 4 年間のポートフォリオを発表する。そして、その強みと弱み、何が学生にとって有用で、何がそうでなかつたかを批評的に評価し、この授業科目を改善するための方法やアイデアを提案する。
8	Summary まとめ	本コースに対する総括を行う。

留意事項(履修条件等) Condition for taking this subject

Compulsory Subject for Students who take Public Health Nurse course.

Successfully passed international nursing 1-2-3 and the subject including in fundamental nursing II

保健師コースの学生は必須。

国際看護学 I・II・III、および看護学概論 II の「国際看護」を受講していること

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習) Study pre and post learning

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題: 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入) office hours

オフィスアワーは金曜日を除く平日および月曜日から金曜日は E メールにても対応。週末は、E メールのみ。

公式なチュートリアルは、申込みによって。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください) texts

online data and document searches

オンライン・データと文書検索をします

最終到達目標 Goal

Consolidation of portfolio of evidence showing the students educational growth over the whole span of international nursing programs.

エビデンスとしてのポートフォリオの統合は、国際看護学の全期間を通じた学生の教育的成長を示します。

評価方法及び評価基準

Self-testing knowledge reviews, 5 times (15%), reflective journal entry in portfolio 5 times (15%), session evaluation 5 times (15 %), interactive world map test (15%), final examination (20 %) and mini research project (20%), and then sum it up to 100 score

知識について復習する自主テスト5回(15%)、ポートフォリオに記入するリフレクティブジャーナル—5回(15%)、授業評価5回(15回)、対話方式の世界マップテスト(15%)、期末試験(20%)、ミニ研究プロジェクト(20%)など配点得点を合計100点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

Let us finish the final step of your international nursing studies. At the completion of which you will be well grounded in dealing with international patients and knowledgeable about how to address their individual care and health issues.

これであなたの国際看護学の勉強は最終段階を終えることになります。

完了時には、どのように個々人のケアや健康問題に焦点をあてるかに精通し、国際的な患者を扱う基礎が確立されているでしょう。

授業コード	ENO0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	国際看護学海外研修	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	Dr.Jekan Adler-Collins (アダラ—コリンズ,慈觀)				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

Purpose of this subject: 講義目的

To broaden the students' experience of health care systems and cultures outside Japan through tours, training and exchanges at healthcare universities and hospitals. Study abroad offers the student unique opportunities to experience different cultural situations.

学生達は、海外研修をすることによって、ヘルスケアに関係ある大学や病院での研修と意見交換を行い、ヘルスケア体制や文化を体験として深める。国際的な旅行は、学生に異なる文化的な状況を経験する独特的の機会を提供する。

Contents of this study: 授業内容

Travel & experiencing different health care systems outside of Japan: 1. Understanding the value of education in the Japanese Health Care System. 2. Having experience of intercultural and different education/ healthcare system. 3. Becoming an international member in a cross-culture focus group. 4. Making friendly relationship with international companions and peers.

海外研修で異なるヘルスケア体制の体験: 1. 日本のヘルスケア体制における教育の価値について理解すること。2. 異なる文化、教育、ヘルスケア体制を体験すること。3. 異文化間に焦点を当てたグループの国際的構成員になること。4. 国際的な友達や仲間との友好的な関係を作ること。

Session Plan & Learning Task: 授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	Study abroad 海外研修	Study Abroad requires students to be flexible about conditions, food, accommodation and travel. All of which are learning experiences. 海外研修では、学生に生活状況、食事、宿泊先、旅行などに柔軟性が求められる。それらは、すべて学習経験になる。
2	Communication skills 交流技術	Learning how to communicate in another language can be challenging and fun. Students will develop their communication skills. どのようにして他の言語で交流するかを学習することは、挑戦であり、かつ楽しみである。学生達は、自らの交流技術を発達させるであろう。
3	Formal curriculum of study provided by hosting nation. 宿泊国で提供される正規授業	4 hours of theory and 4 hours of practice, visit to national hospitals 理論を4時間と演習を4時間、国立病院を訪問
4	Social skills 社会的技術	Students will present Japanese culture to host country. Dance, song or activity. 学生達は、訪問国に日本の踊り、歌、活動を紹介する。
5	Activity diary 活動日誌	Students will keep a reflective diary of what they see, do and learn for presentation to peers on return to Japan. 学生達は、帰国してから級友達に報告発表するために、どのようなことがわかったか、何をしたか、何を学習したかなどがわかるよう日誌をつけておく。

A condition for taking this subject: 留意事項(履修条件・授業時間外の学修)

- 1) Students need to have successfully passed international nursing during first year.
- 2) Have a valid passport
- 3) Have a valid visa ,if necessary
- 4) Provide Parental release to travel outside of Japan
- 5) Fully paid all necessary fees

1)国際看護学 I の単位取得者であること。2)有効なパスポートを所持すること。3)必要に応じて有効なビザを受領していること。4)海外旅行をするにあたり、保護者の許可が得ていること。5)旅行に必要な料金を支払っていること。課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学習(事前・事後学習)

事前学習(Pre-learning): Attended a briefing and orientation on the visit

訪問に関するオリエンテーションに出席すること

事後学習(Post Learning): Students will submit a report, written in English of their active diary, and finally, present to their peers and faculty, in English

学生は英語で活動日誌を書き、レポートを提出すること、最終的に級友や学部に英語で発表すること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)Office hours

オフィスアワーは金曜日を除く平日および月曜日から金曜日は E メールにても対応。週末は、E メールのみ。公式なチュートリアルは、申込みすること。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage.

各授業題目のウェブリンクとグーグルによる調査のための参考文献と参照ページが学生に示されます。

最終到達目標

By the end of this course of study the students will have extended their knowledge and maturity of the complexity and challenges that make up the subject of International Nursing. Practical skillsets that help prepare an international nurse for practice will have been experienced. Practical test only. Oral questioning of understanding in host country. Have greater understanding. Of themselves, their culture and the cultures of others.

この授業による学習を終えるまでに、学生は、知識を広げ、国際看護の複雑さと疑問を熟成させる。また、国際的な看護師となる手助けとなる実践的な技術を経験する。実践的なテストだけ。自分自身と自分の文化、そして他の文化について理解すること。

評価方法及び評価基準

Formal written report of the active learning diaries in English (50%) and formal presentations to peers and faculty in English (50%), and then sum it up to 100 score.

英語で書いたアクティブラーニングの日誌の報告(50%)および仲間と学部に英語で発表(50%)など配点得点を合計 100 点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ Message to student

Let us enjoy the study of international nursing and travel together to experience and learn about different cultures, nursing styles and health systems.

国際看護学の研究を楽しみ、異なった文化や看護の方法、保険制度などについて学習して、経験し、一緒に旅をしましょう。

授業コード	ENP0101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに 沿った教育の実現	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－精神看護学				広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	精神保健看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	別宮直子				探求心	○	

講義目的

本講義では、精神疾患を抱える対象者を看護する上で必要な精神保健看護学に関する基礎的理論や人生の各ライフステージに顕在化する精神の健康問題、精神保健看護の歴史的変遷や法制度について学修する。その上で、統合失調症を抱える対象者への看護を、急性期、慢性期、社会復帰と経過に沿って学び、基本的知識とともに精神疾患を抱える対象者とその家族が体験する苦悩と看護への理解を目的とする。

授業内容

精神保健看護学は精神保健看護と精神科看護から構成される。そのため、心の働きや心の成長発達等の基礎的理論を学び、精神の健康問題は特定の人だけ生じるものではなく、健康増進や予防も対象となることを学ぶ。また、各ライフステージに顕在化する精神の健康問題、精神保健看護の歴史的変遷、精神障害者を取り巻く法制度と処遇、統合失調症を抱える対象者への看護を、経過に沿って学び、精神疾患を抱える対象者とその家族が体験する苦悩を学修する。対象者が体験する苦悩への理解と看護には、学生自身の思考力が必要となる、そのため、授業ごとにアクションペーパーで自身の考えを記述してもらう。また、知識確認として、適宜、小テストを実施する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	精神保健看護学の構成	精神保健看護学を構成する諸要素と本講義の位置づけを理解できる。また、精神保健の考え方が理解できる。
2	心の働き	心にはさまざまな精神機能の働きがあることを理解できる。また、フロイトの心の構造や防衛機制について理解できる。
3	心の成長発達	対象理解における、心の成長発達の視点をもつことの重要性が理解できる。特に、エリクソンの漸次的心理社会的発達段階が理解できる。
4	心の危機とストレス	危機理論やストレスと対処を学び、ストレスマネジメントのあり方が理解できる。
5	各ライフステージにおける精神の健康問題(小児期)	小児期に顕在化する精神の健康問題を、不登校や自閉症スペクトラムを中心に理解できる。
6	各ライフステージにおける精神の健康問題(思春期・青年期)	思春期・青年期に顕在化する精神の健康問題を、摂食障害を中心に理解できる。
7	各ライフステージにおける精神の健康問題(成人期)	成人期に顕在化する精神の健康問題として、嗜癖について理解することができる。
8	精神保健看護学の歴史的変遷について	諸外国や日本における精神保健看護に関する歴史的変遷を理解できる。
9	精神障害者を取り巻く法制度と処遇について	精神保健福祉法の基本的な考え方、入院形態や処遇を理解できる。また、精神医療看護における倫理的課題やアドボカシーの必要性が理解できる。
10	精神疾患を抱える人への看護(統合失調症:急性期)	統合失調症の病態、経過、急性期の治療、急性期の患者の体験世界(事例)から必要な看護が理解できる。
11	精神疾患を抱える人への看護(統合失調症:慢性期)	慢性期の位置づけ、慢性期の患者の状態(事例)から必要な看護を理解できる。また、慢性期の治療(作業療法・SST・m-ECT)とそれに必要な看護を理解できる。

14	精神疾患を抱える人への看護(統合失調症:社会復帰と家族)	精神障害を抱え地域で生活する人々を取り巻く法制度および社会資源と看護の役割を理解できる。また、精神看護における家族のとらえ方、家族への支援を理解できる。
15	援助関係の形成	援助関係の形成に関連するさまざまな理論を学び、看護学生として援助関係のあり方を理解することができる。
留意事項(履修条件等)		
本授業科目は、精神看護学実習の履修要件であるとともに、これから履修する精神看護援助論Ⅰおよび精神看護援助論Ⅱの基礎となるため、知識として定着させることが必要である。 授業ごとのリアクションペーパーは、記載と提出をもって出席とするため、必ず毎回提出すること。		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
本授業科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(事前・事後学習)が必要である。 事前学習:講義内で次回の事前学習となるテキストのページの指定あるいは資料を配布する。事前学習を前提として授業を進めるので該当箇所をよく読み重要なところに下線を入れること。 事後学習:講義内で事後学習の範囲を指定あるいは資料を配布するので、該当箇所をよく覚えること。適宜、事後学習についての小テストを行う。 講義内容への質問等については、次回講義時間内にフィードバックを行う。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
毎水曜の12時半～14時までの90分間とする。ただし、実習期間は不在となることも多いため、事前のメール等によるアポイントメントが望ましい。		
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)		
教科書 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」(第5版)、医学書院 ISBN 978-4-260-02773-1 (精神看護援助論Ⅰ・精神看護援助論Ⅱでも使用する) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」(第5版)、医学書院 ISBN 978-4-260-02774-8 (精神看護援助論Ⅰ・精神看護援助論Ⅱでも使用する)		
最終到達目標		
1. 精神疾患を抱える対象者を看護する上で必要な精神保健看護学に関連する基礎的理論や知識を記述できる。 2. 統合失調症を抱える対象者とその家族が体験する苦悩を理解し、必要な看護を説明できる。		
評価方法及び評価基準		
期末試験60%、小テスト30%、リアクションペーパー10%の得点配点を合計100点満点として総合評価する。		
成績評価基準(学則第34条) S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		
学生へのメッセージ		
初めて聞く用語や知識が多く、授業の参加だけでは理解ができない学生が多い傾向がある。そのため、事前・事後学習を確実に行うことが必要である。		

授業コード	ENP0201			定める養成する能力 デイブロマボリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－精神看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	精神看護援助論 I	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	別宮直子				探求心	○	

講義目的

本講義では、疾病・治療論Ⅱおよび精神保健看護学概論の既習の知識を踏まえ、さまざまな精神疾患を抱える対象者とその家族への看護を、疾患の病態や経過・治療、患者の体験世界から必要な看護を理解する。また、災害時における精神保健看護と心的外傷への看護を理解する。

授業内容

さまざまな精神疾患を抱える対象者とその家族への看護を、疾患の病態や経過・治療、患者の体験世界から必要な看護を学修する。また、災害時における精神保健看護と心的外傷への看護を学修する。対象者の体験世界への理解と看護には、学生自身の思考力が必要となる、そのため、授業ごとにアクションペーパーで自身の考えを記述してもらう。また、知識確認として、適宜、小テストを実施する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	精神疾患を抱える人への看護(抑うつ障害群)	うつ病の病態、経過、治療、患者の体験世界(事例)から必要な看護が理解できる。
2	精神疾患を抱える人への看護(双極性障害)	双極性障害の病態、経過、治療、患者の体験世界(事例)から必要な看護が理解できる。
3	精神疾患を抱える人への看護(アルコール物質障害)	アルコール物質障害の病態、経過、治療、患者の体験世界(事例)から必要な看護が理解できる。
4	精神疾患を抱える人への看護(不安障害)	不安障害の病態、経過、治療、患者の体験世界(事例)から必要な看護が理解できる。
5	精神疾患を抱える人への看護(強迫性障害)	強迫性障害の病態、経過、治療、患者の体験世界(事例)から必要な看護が理解できる。
6	精神疾患を抱える人への看護(パーソナリティー障害)	パーソナリティー障害の病態、経過、治療、患者の体験世界(事例)から必要な看護が理解できる。
7	災害と精神保健看護	災害時における精神保健看護の役割が理解できる。心的外傷およびストレス因関連障害群の病態、経過、治療、患者の体験世界(事例)から必要な看護が理解できる。
8		

留意事項(履修条件等)

本授業科目は、精神看護学実習の履修要件である。精神看護援助論Iの受講には、疾病・治療論Ⅱおよび精神保健看護学概論の知識が不可欠となる。また、3年前期で受講する精神看護援助論Ⅱの基礎となる内容を含むため、知識として定着させることが必要である。

授業ごとのアクションペーパーは、記載と提出をもって出席とするため、必ず毎回提出すること。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

本授業科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後学習)が必要である。

事前学習: 講義内で次回の事前学習となるテキストのページの指定あるいは資料を配布する。事前学習を前提として授業を進めるので該当箇所をよく読み重要なところに下線を入れること。

事後学習: 講義内で事後学習の範囲を指定あるいは資料を配布するので、該当箇所をよく覚えること。適宜、事後学習についての小テストを行う。

講義内容への質問等については、次回講義時間内にフィードバックを行う。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

毎水曜の12時半～14時までの90分間とする。ただし、実習期間は不在となることも多いため、事前のメール等によるアポイントメントが望ましい。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）**教科書**

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」(第5版)、医学書院

ISBN 978-4-260-02773-1 (精神看護援助論Ⅱでも使用する)

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」(第5版)、医学書院

ISBN 978-4-260-02774-8 (精神看護援助論Ⅱでも使用する)

最終到達目標

1. 本講義で取り上げた精神疾患の病態や経過・治療および看護の基本となる知識を説明できる。
2. 本講義で取り上げた精神疾患の基本となる知識および精神疾患を抱える対象者とその家族の体験世界から必要な看護を記述できる。

評価方法及び評価基準

期末試験 60%、小テスト 30%、リアクションペーパー 10% の得点配点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

初めて聞く用語や知識が多く、授業の参加だけでは理解ができない学生が多い傾向がある。そのため、事前・事後学習を確実に行うことが必要である。

授業コード	ENP0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－精神看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	精神看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	別宮直子				探求心	○	
講義目的							
本講義では、精神看護学実習に向け、疾病・治療論Ⅱ、精神保健看護学概論、精神看護援助論Ⅰの既習の知識を踏まえ、事例を用いて精神疾患患者のアセスメントから看護計画の立案まで看護過程の展開を行うことを目的とする。また、一場面を看護場面の再構成に起こし、関係形成における自己理解の必要性を理解する。							
授業内容							
精神看護学実習に向けたアセスメント力を養うため、精神科看護における薬物療法と看護および日常生活のアセスメントの視点を学修する。その後、オレム－アンダーウッドのセルフケア理論を用い、グループワークで事例のアセスメントから看護計画立案まで看護過程の展開を行い発表する。また、各自が患者との一場面を取り上げ、看護場面の再構成(課題レポート)を行う。授業内では、適宜、理解度や知識確認のためアクションペーパーや小テストを実施する。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	精神看護における看護過程の展開	既習の学習内容を振り返り、精神看護における看護過程の特徴や精神科看護がもつ独自性を理解できる。					
2	看護場面の再構成①演習	看護場面の再構成を行う目的を理解できる。患者との一場面を取り上げ、看護場面の再構成を行うことができる。					
3	薬物療法と看護	薬物療法の作用と副作用およびその看護を理解することができる。					
4	日常生活と看護①	日常生活からのアセスメントの視点、症状との関連を理解できる。また、安全な治療環境の必要性と取り組みを理解できる。					
5	日常生活と看護②および安全な治療環境の提供について						
6	オレム-アンダーウッドのセルフケア理論を用いた看護過程の展開	オレム-アンダーウッドのセルフケア理論を学び、看護過程の展開方法を理解できる。					
7	事例による看護過程の展開(患者情報、生活史、アセスメント)	事例を用い、グループワークで患者情報や生活史を整理し、アセスメントを行うことができる。					
8	事例による看護過程の展開(アセスメントと全体像)	事例を用い、グループワークでアセスメントを行い、全体像を捉えることができる。					
9							
10	事例による看護過程の展開(看護計画)	事例を用い、グループワークで看護計画の立案を行うことができる。					
11	事例による看護過程の展開(看護計画および発表準備)	グループワークで行った看護過程の展開の資料提出および発表準備を行うことができる。					
12	事例による看護過程の展開(発表)	グループの発表から、セルフケア理論に基づいた看護過程の展開方法が理解できる。					
13							
14	看護場面の再構成②	事例を用いた看護場面をロールプレイすることで、自身が取り上げた看護場面の再構成を再度振り返ることができる。					
15	リエゾン精神看護	リエゾン精神看護の役割を理解できる。					

留意事項(履修条件等)
本授業科目は、精神看護学実習の履修要件であるとともに、本授業で学修した事例を用いた看護過程の展開および看護場面の再構成は4年前期の精神看護学実習においても実施する。精神看護学実習に向けた重要な科目であることに留意し、グループワークへの参加および課題レポートの提出は必ず行うこと。 授業のアクションペーパーは、記載と提出をもって出席とするため、必ず提出すること。
授業時間外の学修(事前・事後学習)
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後学習)が必要である。 事前学習：講義内で次の事前学習となるテキストのページの指定あるいは資料を配布する。事前学習を前提として授業を進めるので該当箇所をよく読み重要なところに下線を入れること。 事後学習：講義内で事後学習の範囲を指定あるいは資料を配布するので、該当箇所をよく覚えること。適宜、事後学習についての小テストを行う。 講義内容への質問等については、次回講義時間内にフィードバックを行う。
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
毎水曜の12時半～14時までの90分間とする。ただし、実習期間は不在となることも多いため、事前のメール等によるアポイントメントが望ましい。
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)
教科書 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」(第5版)、医学書院 ISBN 978-4-260-02773-1 (精神保健看護学概論・精神看護援助論Ⅰでも使用する) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」(第5版)、医学書院 ISBN 978-4-260-02774-8 (精神保健看護学概論・精神看護援助論Ⅰでも使用する)
最終到達目標
1. オレム・アンダーウッドのセルフケア理論を用い、事例によるアセスメントから看護計画立案まで看護過程の展開を行うことができる。 2. 自己の振り返りにつながる看護場面の再構成を行うことができる。
評価方法及び評価基準
期末試験 50%、グループワーク課題および発表 20%、課題レポート 20%、小テスト等 10%の得点配点を合計100点満点として総合評価する。
成績評価基準(学則第34条) S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
学生へのメッセージ
グループワークでの事例を用いた看護過程の展開が授業時間内で終了できない場合は、授業時間外で取り組む必要がある。

授業コード	ENQ0101			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性										
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野と倫理観										
授業科目名	家族看護論	選択・必修	必修		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>										
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>										
担当教員	金子省子				探求心 <input checked="" type="radio"/>										
講義目的															
社会的背景と共に変化する家族の生活についての理解を深め、家族にかかわる看護者の役割と支援方法について学ぶ。															
<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族研究の動向を知り、今日の多様な家族について理解する。 2. 家族看護の諸理論について理解し、家族看護に関する基礎的な視座を得る。 3. 家族看護の実際と看護者の役割について、事例に基づいて考察することができる。 															
授業内容															
まず、家族に関する諸理論と現代家族について理解し、次に家族看護の諸理論を学び、家族の発達段階に即した支援課題について考察する。これらに基づき、家族看護の実際について事例に即した検討を行う。															
授業計画及び学習課題															
回	標 題	学習課題													
1	家族とは何か	学習者自身の家族観を認識するところを学習の起点とする。史的な変遷をふまえ、家族という私的関係性の多様性について理解することができる。													
2	家族に関する諸理論	家族に関する諸理論について学び、今日の家族を理解する視点を得ることができる。													
3	現代日本の家族の特徴	各種調査などから、今日の日本における家族の形態や機能について理解することができる。													
4	家族看護の理論、家族の発達段階と支援	家族看護に関する諸理論を知り、家族の発達段階に即した支援課題と諸分野からの支援の実態を理解することができる。													
5	家族にかかわる看護者の役割	家族にかかわる基本姿勢とコミュニケーションについて理解することができる。													
6	家族支援とコミュニケーションの実際	家族支援の具体的な方法について、ロールプレイングなどを通じ理解することができる。													
7	家族看護の展開	個別性のある家族支援を実施するため、事例に即して、支援の実際について理解することができる。													
8	家族看護の課題と展望	第1回～第7回までの授業を総括し、家族看護の必要性と家族支援のあり方について考察できる。													
留意事項(履修条件等)															
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体の フィードバックについては講義時間内に行い、個別のフィードバックは時間外に設定します。															
授業時間外の学修(事前・事後学習)															
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。															
事前学習:授業内容に関連する課題について、予習や情報収集を行い、課題シート等を作成して受講する。															
事後学習:各回の講義内容についての確認テストや課題を提出する。															
オフィスアワー															
授業時間の前後に受け付けます。															

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

プロジェクトと配布資料を使用します。次の 2 冊のほか、授業内でも適宜参考図書を紹介します。

参考図書

「家族看護学 改訂第 2 版 19 の臨床場面と 8 つの実践例から考える(看護学テキスト NiCE)」:

山崎 あけみ・原 礼子 編著, 南江堂, 2015 年, ISBN:978-4-524-25708-9

「家族看護学 理論と実践 第 4 版」:鈴木和子・渡辺裕子著,日本看護協会出版会, 2017 年

ISBN:978-4-8180-1697-2

最終到達目標

多様な家族の生活について理解し、家族にかかわる看護者の役割と支援方法について理解できる。

評価方法及び評価基準

授業への参加姿勢、授業・演習の課題レポート:30%、期末試験:70%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準(学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

受講生同士でロールプレイングやディスカッションなどのグループワークを行って学びを深める。

授業コード	ENQ0201			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性			
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と 倫理観			
授業科目名	看護過程	選択・必修	必修		知識・技術	○		
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○		
担当教員	棚崎由紀子、中島紀子、羽藤典子、上西孝明				探求心	○		
講義目的								
1. 疾患や障害を持つ人々の健康上の問題や生活上のニーズ及び諸問題を明らかにし、解決に向けた援助を提供するための問題解決方法を学ぶことを目的とする。								
2. ヘンダーソンの理論を用いて看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導けるようにクリティカルな思考を培うことを目的とする。								
授業内容								
基礎看護学実習Ⅱにおける看護過程の実践を目指し、その意義と基本的知識について学ぶ。看護を実践するために必要なアセスメント、看護上の問題の抽出、看護計画の立案などの看護過程の各段階について、教材を提供し、事前学習、個人ワーク、講義等を通して段階的に学習する。								
授業計画及び学習課題								
回	標題	学習課題						
1	看護過程の基礎知識:講義(1) (棚崎) ・看護過程の概要:看護過程とは何か ・クリティカルシンキング	・看護過程を学ぶ理由を説明できる ・看護過程のプロセス(5段階)を説明できる。						
2	看護過程の基礎知識:講義(2) (中島) ・ヘンダーソンの看護理論、小テスト	・ヘンダーソンの看護理論を活用した情報の系統的分析、対象を理解する必要性について説明できる ・ヘンダーソンの看護理論を基本としたアセスメントの視点を理解できる。						
3	看護過程の基礎知識:講義(3) (棚崎) ・アセスメント、小テスト	・対象理解のためのデータの種類、収集方法について説明できる。 ・科学的根拠に基づいたアセスメントの視点について理解できる。						
4	看護過程の基礎知識:講義(4) (上西) ・全体像の把握、看護上の問題の抽出、小テスト	・対象の全体像の把握、看護上の問題の抽出方法について理解できる。						
5	事例を用いた看護過程の演習 ・事例紹介、情報の分類 (棚崎)	・演習を通して、事例の状況を理解することができる。 ・事例をもとに対象理解に必要な情報を見極め、ヘンダーソンの枠組みにあわせて分類できる。						
6	事例を用いた看護過程の演習 ・アセスメント・情報収集、データの分析 ・全体像、看護上の問題の抽出、問題の優先順 (個人ワーク)(全員)		・事例をもとに対象理解に必要な情報を見極め、ヘンダーソンの枠組みにあわせて分類できる。					
7			・事例をもとにヘンダーソンの枠組みにあわせて、科学的根拠に基づいたデータの分析・解釈ができる。					
8			・事例の情報を統合し、全体像および看護の方向性について文章化できる。					
9			・事例の看護上の問題を抽出し、優先準備をつけることができる。					
10								
11	事例の全体像および看護上の問題の発表 (中島・上西)	・事例の全体像および看護上の問題について意見交換できる。						
12	看護過程の基礎知識:講義(5) (羽藤) ・看護計画の立案(看護目標の設定、援助計画) 小テスト	・事例の看護上の問題について、看護目標および具体的な援助計画を立案する方法を説明できる。						

13	事例を用いた看護過程の演習 (全員)	・事例をもとに抽出した看護上の問題 1つに対して、具体的な看護目標、援助計画を立案できる。
14	・看護計画の立案(個人ワーク)	
15	事例の看護目標、看護計画の発表 (羽藤) 看護過程の基礎知識:講義(6) (棚崎) ・実施、評価、記録	・看護計画に合わせて実施、評価、記録をする方法について理解できる。
留意事項(履修条件等)		
本科目は、基礎看護学実習Ⅱの履修条件になっています。また、この講義内容は、基礎看護学実習Ⅱだけではなく、その後に続く各領域の臨地・臨床実習の基盤にもなります。積極的に参加し、看護過程の基本知識および思考過程について習得していきましょう。		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学修に示されている内容の学修)が必要です。		
事前学習:各単元で学習課題を提示します。その内容は、その後の個人ワークにつながるため、授業までに実施し、準備しましょう。		
事後学習:講義および個人ワークの内容について再度、取り組み、整理することで理解を深めていきます。次の講義内容に合わせて計画を立てて、取り組んでいきましょう。		
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)		
本科目はオムニバス授業です。各教員のオフィスアワーの時間と場所に従ってください。		
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書: 「看護の基本となるもの」、日本看護協会出版会、ISBN:978-4-8180-1996-6(看護学概論Ⅰの指定教科書) 「基礎から学ぶ 看護過程と看護診断(第7版)」、医学書院、ISBN:978-4-260-01689-6		
参考書: 「Nursing Canvas Book 看護過程の解体新書」、学研メディカル秀潤社、ISBN:978-4-7809-1201-2		
最終到達目標		
看護過程の基本的知識を活用し、ヘンダーソンの看護理論による事例を用いたアセスメント、看護問題の抽出、および看護計画を立案することができる。		
評価方法及び評価基準		
定期試験 40%、記録物(個人ワーク)40%、小テスト 20%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。評価基準は下表に従う。		
成績評価基準(学則第34条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		
学生へのメッセージ		
この講義では、授業計画に基づいて各自学習課題に取り組み、看護過程の各段階について学んでいきます。「自ら考える姿勢」が重要ですので、主体的に取り組んでください。		

授業コード	ENQ0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と倫理観						
授業科目名	ヘルスアセスメントⅠ	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	○					
担当教員	大坪かなえ、上西孝明、山本千恵美				探求心	○					
講義目的											
1.さまざまな健康レベルにある人々の健康を客観的に把握し、看護介入の必要性を考えることができる。 2.看護の対象者の身体を査定し、人間がそのひとらしく生きていけるように援助する必要性を理解できる。 3.看護上の問題を見出すための、ヘルスアセスメント技術を学修し、臨床的に活用できるようにする。											
授業内容											
この科目は、人間の身体的側面、心理的側面、社会的側面の関係を踏まえながら全身状態を系統的に把握するために必要な情報を収集し、それらの情報の意味を理解し、基本的なヘルスアセスメントができる能力を養うことを目的とする。その中でも身体的側面から対象者の健康状態を判断するフィジカルアセスメントを学ぶ。系統的フィジカルアセスメントだけでなく、症状に焦点をあてた観察の重要性について学び、臨床推論の体験を繰り返し、状況に応じた観察方法を習得する。フィジカルアセスメントに必要な基本的技術は、高機能シミュレータを用い、シミュレーションを繰り返すことで、対象を総合的に観察することのできる力を養う。シミュレーション時には参加者全員の観察力が向上するよう、シミュレーショントレーニングルームと講義室をICTによって教室間をつなぎ、学習をすすめる。											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1.2	フィジカルアセスメントのための基本技術	視診・聴診・触診・打診の基本的手技を学び、フィジカルイグザミネーションの方法が理解できる。									
3.4	患者との初回場面における問診技術	医療従事者としての基本的には挨拶ができ、対象の状況に応じた問診をすすめることができる。									
5.6	呼吸器系のアセスメント	解剖生理に基づいた呼吸について理解し、呼吸音の聴取法、音の特徴と病態について学ぶことができる。									
7.8	呼吸症状に焦点をあてたアセスメント	「苦しい」症状のある事例シミュレーションを通して、焦点をあてた観察の方法を知ることができる。									
9.10	循環器系のアセスメント	解剖生理に基づいた循環について理解し、心音、末梢循環の観察方法について学ぶことができる。									
11.12	循環機能障害に焦点をあてたアセスメント	「動悸」症状のある事例シミュレーションを通して、焦点をあてた観察の方法を知ることができる。									
13.14	緊急性の判断と情報の共有	緊急時の情報共有するためのチームコミュニケーションの重要性を学び、ISBARを理解することができる。									
15.16	腹部・消化器系のアセスメント	解剖生理に基づいた消化について理解し、腹部の観察方法、腹部の聴診方法を学ぶことができる。									
17.18	消化器症状に焦点をあてたアセスメント	「お腹が痛い」症状のある事例シミュレーションを通して、焦点をあてた観察の方法を知ることができる。									
19.20	筋・骨格系のアセスメント	解剖生理に基づいた運動器について理解し、関節可動域、徒手筋力検査の方法を学ぶことができる。									
21.22	運動機能障害に焦点をあてたアセスメント	「手足を動かしにくい」症状のある事例シミュレーションを通して、筋・骨格系のアセスメントができる。									
23.24	脳・神経系アセスメント	解剖生理に基づいた脳・神経系について理解し、意識を観察する方法を学ぶことができる。									
25.26	意識障害に焦点をあてたアセスメント	「意識障害」のある事例のシミュレーションを通し、焦点をあてた観察の方法を知ることができる。									

27.28	心理的側面、社会的側面のアセスメント	対象の身体的症状が、心理社会的にどのように影響しているか、シミュレーションによって考えることができる。
29.30	スキルチェックシミュレーション	対象の症状に応じた観察と対応について、最終シミュレーションし、実践場面をリフレクティブに考察することができる。

留意事項(履修条件等)

- ・この授業はシミュレーションを繰り返し、学びを深める授業です。シミュレーションは繰り返すことで、実践力が身に付きます。積極的な姿勢で参加することを求めます。
- ・聴診器を必ず携帯してください。
- ・シミュレーション時には、服装を指定します。医療従事者としてふさわしい服装、白衣の着用を求めます。
- ・確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。
- ・授業で配布された資料、作成したレポートや記録物は、丁寧に扱い、絶対に紛失しないよう努めてください。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題: 予習・復習に示されている内容の学修が必要です)。

事前学習: シミュレーション前に事前課題を提示します。課題は解剖生理、病態生理、関する内容です。

事後学習: シミュレーションに必要となる知識、技術を予習復習することが必要です。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

大坪: 月曜日の 5 限、火曜日の 5 限 研究室 717

上西: 月曜日の 5 限、火曜日の 5 限 研究室 718

山本: 水曜日の 5 限 共同研究室

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「フィジカルアセスメントがみえる第1版」メディックメディア ISBN: 978-4896325669

参考書: 急性期看護援助論、慢性期看護援助論で使用したテキスト、解剖生理学、疾病・治療論で使用したテキスト等、必要に応じて持参してください。

最終到達目標

1. ヘルスアセスメントの目的・看護におけるフィジカルアセスメントの意義が説明できる。
2. フィジカルアセンスメントの基本的な技術について説明できる。
3. フィジカルアセンスメントの基本的な技術を用いてアセスメントし、看護介入の必要性を説明できる。

評価方法及び評価基準

学科試験: 50% 技術試験: 30% レポート: 10% 授業態度: 10%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

- ・シミュレーションは実践力だけでなく、思考力も身に付きます。参加する際には、集中して臨んでください。
- ・シミュレーション中は間違うこと、失敗することが許されます。臨床現場で間違うこと、失敗することは許されません。そのための準備と受け止め、学内できちんと学びましょう。
- ・学習中に提示された事例は、実習記録物と同様に大切に扱ってください。

授業コード	ENQ0401			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と倫理観	
授業科目名	ヘルスアセスメントⅡ	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	
担当教員	大坪かなえ、上西孝明、山本千恵美				探求心	

講義目的

- さまざまな健康レベルにある人々の健康を客観的に把握することができる。
- 看護職を目指す者として、既習のヘルスアセスメントの援助技術を強化し、成人看護学、小児看護学、母性看護学、高齢者看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生学における重要なスキルを修得することができる。
- ヘルスアセスメントの知識・援助技術を臨床・施設の場で活用できるような実践能力を身につけることができる。

授業内容

各専門領域における対象の理解を行うとともに、その特徴や看護の役割を根底とし、重要な症状や状況におけるヘルスアセスメントスキルについて理解できるように学修する。また専門領域実習において経験した看護技術の内容を確認するとともに、未経験項目や不十分な経験項目を補い、技術到達レベルを強化する。

具体的には、意識障害、腹膜炎、呼吸と循環の初期の観察ができるようになる。加齢の変化に伴うフィジカルアセスメントの特徴や小児、周産期、新生児のフィジカルアセスメントの特徴について、また精神障がいの症状に対するフィジカルアセスメントの特徴や在宅看護におけるフィジカルアセスメントの特徴について説明できるように学修する。これらの各専門領域の特徴に対し、ヘルスアセスメントスキルを用いて看護介入について探求する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	大学における看護実践能力の育成の充実に向けて、技術到達度の確認 各専門領域の特徴を活かしたヘルスアセスメントの視点 ①卒業時看護技術到達レベル ②各看護学領域の対象者の特徴と看護の特徴	文部科学省の卒業時における看護技術の到達度について内容と必要性が理解できる。 臨地実習開始から終了までの技術習得レベルの確認を行い、自己評価するとともに課題を見つけることができる。 各専門領域の対象者の特徴を説明でき、看護の重要なポイントを理解することができる。
2	各専門領域の共通する症状に関するフィジカルアセスメント(1) ①意識障害の初期観察の技術 ②呼吸、循環の初期観察(高齢者・成人・小児)	各専門領域の共通する症状について説明でき、意識障害及び呼吸困難の程度がアセスメントでき、看護介入について説明することができる。
3	各専門領域の共通する症状に関するフィジカルアセスメント(2) ①腹膜炎の初期観察の技術(高齢者・成人)	各専門領域の特徴を踏まえ、腹部の視診・触診・打診・聴診について説明でき、実施することができる。 腹部症状の観察が行え、アセスメントの根拠を説明できる。
4	発達年齢に応じた一般状態のアセスメント 高齢者・成人・小児のバイタルサイン測定	各発達年齢のバイタルサインの特徴について説明でき、バイタルサインの測定を正確に実施することができる。またアセスメントの根拠及び看護介入について説明することができる。
5	成人看護学における重要な技術とアセスメント(1) ①消化器のアセスメント ②腹水、疼痛、腫瘍の腫大	成人の主な死亡要因や疾患の特徴について説明できる。 消化系の疾患(癌)に関連した、問診・視診・触診・打診・聴診について理解でき、実施することができる。
6	成人看護学における重要な技術とアセスメント(2) ①消化器のアセスメント ②腹水、疼痛、腫瘍の腫大	消化系の疾患(癌)に関連した、問診・視診・触診・打診・聴診について理解し実施できる。また消化器系疾患のアセスメントの根拠が説明でき、看護介入について考えることができる。

7	高齢者看護学における重要な技術とアセスメント(1) ①筋・関節系アセスメント ②転倒に対するアセスメント	高齢者の筋・関節の特徴を踏まえ、老年性症候群について観察でき、アセスメントの根拠を説明することができる。また看護介入について考えることができる。
8	高齢者看護学における重要な技術とアセスメント(2) ①認知症におけるアセスメント	認知症の原因、メカニズムについて説明できる。認知症に対する検査について理解し、アセスメントの根拠を説明することができる。また看護介入について考えることができる。
9	小児看護学における重要な技術とアセスメント ①小児の問診・視診・触診・打診・聴診	保護者を含めた小児看護の特徴を理解できる。小児の特徴的な症状について、視診・触診・打診・聴診の技術を用いてアセスメントする重要性について学ぶことができる。また初期症状の看護介入について考えることができる。
10	母性看護学における重要な技術とアセスメント ①周産期のアセスメント	周産期の特徴について理解し、解剖生理学的变化について説明できる。周産期領域に必要な診断、検査に対してアセスメントの根拠が説明でき、看護介入について説明することができる。
11	精神看護学における重要な技術とアセスメント ①精神疾患の特徴 ②問診・検査・視診	精神疾患患者の特徴を理解でき、精神疾患に特有な症状について説明できる。複雑な精神症状に対し診断されるまでに至る問診、検査、視診について理解し、アセスメントの根拠が説明でき、精神疾患患者の看護介入について考えることができる。
12	在宅看護学における重要な技術とアセスメント ①症状と生活	さまざまな発達段階、健康レベルの人々が在宅で医療・看護の継続ができるか否か評価する重要性について理解できる。主訴、バイタルサイン、食事、呼吸、循環、排泄などその人の生活に影響する状況について、アセスメントの根拠が説明できる。また在宅における看護介入について説明できる。
13	4年間の看護技術のスキルアップ(1) [技術試験を含む]	自己の看護技術経験録に従って、不足箇所を確認できるとともに、各看護学の領域の特徴を活かしながら、技術に必要なアセスメントができる。また技術到達のレベルに応じて、技術の修得をすることができる。 各看護学領域において重要な技術に対し、ヘルスマセメントを活用した援助技術を実施することができる。
14	4年間の看護技術のスキルアップ(2) [技術試験を含む]	
15	まとめ 事例を用いて、受診時の問診から視診・打診・聴診を通して患者の持つ問題をアセスメントする [グループワーク]	コミュニケーション技術・ヘルスマセメント技術など、今まで修得した知識・技術を活用し、事例に対して適切なアセスメントができ、看護介入することができる。
留意事項(履修条件等)		
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。対象者がその人らしい生活が送れるように支援するために、ヘルスマセメントⅡは、卒業前の総仕上げという意味を持ちます。自己の課題に向けて積極的に取り組むこと。		
授業時間外の学修(事前・事後学習)		
科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習課題)に示されている内容の学修が必要です。		
事前学習:ヘルスマセメントⅠおよび各専門領域で既習した知識を活用し、4年間の臨地実習において経験した技術などを振り返り、自己の看護技術をスキルアップすること。また未経験技術や到達度が低い技術については、到達レベルに達成するようにテキストをまとめることや、演習などをおこなうこと。		

事後学習:あらゆる発達段階や健康レベルに応じてフィジカルアセスメントができるように復習し、看護に活かすことができるようとする。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

大坪:月曜日の5限、火曜日の5限(研究室717)

上西:月曜日の5限、火曜日の5限(研究室718)

山本:火曜日の5限、水曜日の5限(共同研究室)

教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)

教科書:

『ヘルスアセスメント 基礎看護学② 第5版』松尾ミヨ子、志白岐康子、城主弘美:メディカ出版

ISBN:978-4-8404-4529-0

最終到達目標

- 卒業目前にして各専門領域を横断し、看護としてのヘルスアセスメントの意義、目的、方法が説明でき、アセスメント能力を高めることができる。
- さまざまな発達段階、さまざまな健康レベルの人々に対し、基本的なヘルスアセスメントができ、看護介入につなぐことができる。

評価方法及び評価基準

学科試験:50% 技術試験:30% レポート:10% 授業態度:10%など配点得点を合計100点満点として総合評価する

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点):学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent)

A(89~80点):学習目標を相応に達成している(Very Good)

B(79~70点):学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good)

C(69~60点):学習目標の最低限は満たしている(Pass)

D(59点以下):学習目標の最低限を満たしていない(Failure)

学生へのメッセージ

演習時には更衣が必要です。演習の準備については事前に掲示をすることもありますので、注意してください。

授業コード	ENQ0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	看護教育論	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	河野保子				探求心							
講義目的												
教育とは何か、ということについて考え、看護教育制度下における「看護基礎教育」について理解することを目的とする。また、看護教育活動における基礎的な教育方法や看護基礎教育の現状と課題について考察でき、看護職の学びを生涯学習と捉え、専門職のキャリア開発の必要性について考察する。本講義は、看護の基礎教育と看護職のキャリア開発とを関連させるものであり、看護を学問としてさらに発展させるための考え方を示す。												
授業内容												
学生自らのこれまでの経験をもとに、「知る」ということ、「理解する」ということ、「できる」ということについて考え、看護基礎教育課程に関する理論教育と実践教育との関係・統合性について学修する。また看護教育の歴史的変遷や看護教育制度について理解し、これからのかの看護及び看護教育の方向性について分析でき、看護教育の向上が看護の質保証に関連することについて理解する。												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	看護教育再考 ・グループ討議、発表	自身の受けたこれまでの講義・実習を通して、看護基礎教育のあり方についてグループディスカッションを行うことができる。										
2	看護教育の歴史的変遷、看護教育制度 ・課題:個人レポート	看護職者の教育の成り立ちを体系的に把握し、看護師養成教育と学校教育制度、看護教育制度の多様化について理解できる。										
3	看護学教育課程(1) ・理論教育と実践教育 ・看護学と学問体系	看護学の理論教育と実践教育との関連性と重要性が理解できる。										
4	看護学教育課程(2) ・カリキュラム(教育課程)	看護学のカリキュラムと教育内容について理解できる。										
5	看護学教育課程(3) ・臨地実習	看護学実習の持つ意味、看護実習の特質について理解できる。										
6	看護学教育方法 ・シラバス、授業デザイン、評価	授業設計、教授—学習過程、授業評価について理解できる。										
7	看護継続教育 ・看護職とキャリアデザイン	看護継続教育の意義、看護継続教育機関とその内容について説明できる。										
8	専門職と看護専門職 ・課題:個人レポート	専門職の定義について理解し、看護の専門職性について論じることができる。										
留意事項(履修条件等)												
本科目は4年次の最終学年に開講されるため、「看護教育」そのものへの関心が深いと考えます。各自の被教育者としての体験を大切にし、看護教育の有るべき像を一緒に考えたいと思っています。 課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題に示されている内容の予習・復習)が必要です。 [事前学習]:看護師養成教育と学校教育制度についてしっかり認識するために事前学習として課題を与えます。 [事後学習]:専門職の定義を判断基準にして、看護師は専門職でありうるかをレポートとしてまとめ提出いたします。												

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
未定。授業開始時にお知らせいたします。					
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)					
教科書:特にない。 参考書:教材は講義時にプリント等を配布します。参考文献は講義中に紹介いたします。					
最終到達目標					
1.看護学教育の発展過程を把握し、今後の看護教育の方向性を考察できる。 2.看護学教育のカリキュラム、シラバス、教授—学習過程、評価方法が具体的に理解できる。 3.看護教育が果たす社会的責任及び社会的貢献について把握できる。					
評価方法及び評価基準					
期末試験:60%、課題レポート:10%、講義参加状況(積極的発言や意見表明、リアクションペーパー等):30%、配点得点を合計 100 点満点として総合評価をする。					
<p>成績評価基準 (学則第 34 条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育の歴史的発展過程をたどり、今後、看護がどのような役割を發揮すればよいのか、また看護学の発展のために後継者はどのような努力をすればよいのか、一緒に考えていきたいと思います。 ・毎回の講義において Reaction Paper(リアクションペーパー)を書いていただき、学習の内容・理解度・感想を把握し、次回の講義に役立てます。 					

授業コード	ENQ0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性																											
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と倫理観																											
授業科目名	災害看護学	選択・必修	必修		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>																											
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>																											
担当教員	大坪かなえ 松井豊				探求心 <input checked="" type="radio"/>																											
講義目的	<p>災害は誰にでも起こりうる事象であり、災害看護はあらゆるすべての人々を対象とするものである。災害看護学は看護専門領域の中で、看護統合に位置づけられており、問題解決能力を持ち、地域に貢献することが求められる分野である。災害時におこりうる諸問題について理解し、災害時に期待される看護を実践するための基本的な知識・技術を習得することを目的とする。</p>																															
授業内容	<p>災害が社会や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに災害サイクルにおける被災者の健康や生活ニーズに応じた看護職の果たすべき役割について学ぶ。具体的には①災害および災害看護に関する基礎的知識 ②災害が人々の健康や生活におよぼす影響 ③個人の備えと地域防災の課題と対策、④災害サイクルに応じた看護支援活動の在り方について学ぶ。⑤こころのケア、トリアージ等については学内模擬演習により体験的に理解する。</p>																															
授業計画及び学習課題	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>標題</th><th>学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>災害の種類、災害サイクルと看護（大坪）</td><td>災害の種類や災害サイクルについて理解できる</td></tr> <tr> <td>2</td><td>災害発生時、体系的対応の基本原則（大坪）</td><td>CSCATTの概念、トリアージ方法について理解できる。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>被災地における初動時の救護活動（大坪）</td><td>発災時に必要な医療と看護の役割について理解できる。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>惨事ストレス（松井）</td><td>広域災害における災害救援者のストレスについて説明できる</td></tr> <tr> <td>5</td><td>惨事ストレスのケア（松井）</td><td>被災によるストレスや惨事ストレスのケアや対策について説明できる。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>被災地における復旧復興期の看護活動（大坪）</td><td>災害時の生活環境調整の重要性について理解できる。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>災害医療に関する法律と政策（大坪）</td><td>地域防災計画、支援体制について理解できる。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>災害にそなえた防災・減災活動（大坪）</td><td>災害時におこりうる諸問題についてグループワークで深めることができる。</td></tr> </tbody> </table>					回	標題	学習課題	1	災害の種類、災害サイクルと看護（大坪）	災害の種類や災害サイクルについて理解できる	2	災害発生時、体系的対応の基本原則（大坪）	CSCATTの概念、トリアージ方法について理解できる。	3	被災地における初動時の救護活動（大坪）	発災時に必要な医療と看護の役割について理解できる。	4	惨事ストレス（松井）	広域災害における災害救援者のストレスについて説明できる	5	惨事ストレスのケア（松井）	被災によるストレスや惨事ストレスのケアや対策について説明できる。	6	被災地における復旧復興期の看護活動（大坪）	災害時の生活環境調整の重要性について理解できる。	7	災害医療に関する法律と政策（大坪）	地域防災計画、支援体制について理解できる。	8	災害にそなえた防災・減災活動（大坪）	災害時におこりうる諸問題についてグループワークで深めることができる。
回	標題	学習課題																														
1	災害の種類、災害サイクルと看護（大坪）	災害の種類や災害サイクルについて理解できる																														
2	災害発生時、体系的対応の基本原則（大坪）	CSCATTの概念、トリアージ方法について理解できる。																														
3	被災地における初動時の救護活動（大坪）	発災時に必要な医療と看護の役割について理解できる。																														
4	惨事ストレス（松井）	広域災害における災害救援者のストレスについて説明できる																														
5	惨事ストレスのケア（松井）	被災によるストレスや惨事ストレスのケアや対策について説明できる。																														
6	被災地における復旧復興期の看護活動（大坪）	災害時の生活環境調整の重要性について理解できる。																														
7	災害医療に関する法律と政策（大坪）	地域防災計画、支援体制について理解できる。																														
8	災害にそなえた防災・減災活動（大坪）	災害時におこりうる諸問題についてグループワークで深めることができる。																														
留意事項(履修条件等)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害、防災について関心を持ち、自ら考える姿勢を求めます。居住地域のハザードマップと避難所等の確認をした上で、授業に臨んでください。 ・実際に起きた災害事例を授業でとりあげます。画像や音等教材の影響で、気分がすぐれない場合は教員に申し出てください。 																															
授業時間外の学修(事前・事後学習)	<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習：講義までにシラバスを読み、毎回の講義内容を確認してください。</p> <p>事後学習：講義内で提示された課題についてはしっかりと学習をして、期限内に必ず提出するようにしてください。</p>																															
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)																																
大坪：月曜日の5限目、火曜日の5限目																																
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)																																
教科書：「ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 第4版」メディア出版 ISBN:978-4-8404-5797-2																																

最終到達目標

災害時におこりうる諸問題について理解し、自ら減災・防災行動をとることができる。災害時における看護者の役割について理解することができる。

評価方法及び評価基準

筆記試験 50%、レポート課題 40%、リアクションペーパー10%など配点得点を合計 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

災害はいつ起きるかわかりません。自分の身を守り、他者を支援できるためには、知識・技術を身に着けることが重要です。授業ではグループワークも行います。積極的な姿勢で講義に臨んでください。

授業コード	ENQ0701			定める 養成する 能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	緩和ケア・ターミナル看護論				知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力		
担当教員	宮脇聰子				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的

がん等、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族の状況への理解を深め、診断の初期から患者・家族が抱える身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛(トータルペイン)の緩和につながる看護の基本的知識や技術を学ぶとともに看護者としての態度を見つめる。また、人生の最終段階にある患者の特徴と患者・家族を支える上で必要な看護の基本的知識や技術を学ぶ。

授業内容

生命を脅かす疾患の特徴と疾患とともに生きる患者の特徴と、それを支える家族を理解するために必要なアセスメントや介入等、基本的な知識、技術を学ぶ。緩和ケアやターミナルケア、ケアの対象者の思考や思想の多様性を理解するために死生観を取り上げ、看護者としての態度や役割を学修する。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	緩和ケアの歴史 緩和ケアにおける倫理的課題	緩和ケアを必要とする疾患を理解する。緩和ケアの歴史とわが国での緩和ケアの現状と看護師への緩和ケア教育を理解する。緩和ケアにおける倫理的問題を考えることができる。
2	症状マネジメント(1) トータルペインの理解 身体的苦痛緩和のための知識と技術	トータルペインについて理解することができ、主要な身体症状を知ることができます。身体症状の緩和の基礎を理解することができる。
3	症状マネジメント(2) 精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛 緩和のための知識と技術	主要な精神症状を知ることができます。精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛の緩和を検討することができる。
4	患者と家族を理解するためのコミュニケーション	患者と医療者のコミュニケーションの特徴を理解し、自分のコミュニケーションの特徴を考えることができます。
5	家族ケア	緩和ケアを受ける患者の家族を理解し、家族を支援するための知識と技術を理解できる。グリーフケアの必要性と要点を理解できる。
6	看護師の態度と役割(1)	死生観について考えることを通して看護師の役割と態度を考えることができます。
7	看護師の態度と役割(2)	死生観について考えることを通して看護師の役割と態度を考えることができます。
8	チームアプローチ	医療者間のコミュニケーションの特徴を理解し、チームアプローチについて検討することができる。

留意事項(履修条件等)

生命を脅かす疾患を持つ患者と家族について学びながら必要な知識や技術を学ぶとともに、自分たちの役割について理解を深める科目です。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習課題に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習:授業時に事前課題を出した場合には取り組んでください。事前課題は必要時に提示します。

事後学習:授業時に事後課題を出した場合には取り組んでください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業の前後をオフィスアワーとします。質問があればその時にしてください。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書 未定

〈以下、参考資料〉購入の必要はありません。機会があればみてください。

リメンバー・ミー:ピクサー・アニメーション・スタジオ、2017 年

佐野洋子:100 万回生きたねこ、ISBN 978-4-06-127274-3、1977

ダニエル・キイス:24 人のビリーミリガン

最終到達目標

- ・ 生命を脅かす疾患の特徴と疾患とともに生きる患者・家族の特徴を説明できる。
- ・ 緩和ケアに必要な知識と技術を理解できる。
- ・ 緩和ケアやターミナルケアにかかる看護師の態度と役割について考えることができる。

評価方法及び評価基準

筆記試験(60%) 授業への参加及び態度(40%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準(学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

課題が事前に提示された場合には取り組んだ上で参加してください。

授業コード	ENQ0801			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	ストレスマネジメント論	選択・必修	選択		知識・技術							
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	小西美智子				探求心							
講義目的												
看護サービスを実践する場合、保健医療福祉機関等の組織の一員として、看護サービス利用者と信頼関係を構築しながら、良い看護を提供する役割があります。このような役割を果たすために、看護技術・知識の習得に加えて、業務に伴うストレスをマネジメントするセルフマネジメント能力を培うことが必要です。ストレスが過剰にならないよう、またストレスへの対処方法について学修します。												
授業内容												
軽度のストレスは人間関係や組織の見直しや、看護業務や看護ケア等の改善・工夫のきっかけになるので必要と言われています。しかしそれが個人の許容範囲を超えて強力・過剰になると、心身に変調を起こし看護業務の遂行や日常生活が困難になります。看護活動には看護サービス提供者として、他者の生命倫理に関わりながらチームスタッフとして看護ケアを遂行する等、多くのストレス発生要因が伴います。その発生要因をマネジメントするためには、看護業務の特徴を理解して、組織人としてアサーティブコミュニケーション力を育成し、人間関係を構築し、自己の生活を管理する能力を培い、さらに社会のサポート資源の活用やストレスコーピング法を学習することが大切です。前半は講義が主ですが、後半からは演習(グループ討議)を通して、実践力を育成できるように教授します。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	職業生活、家族生活、社会生活に伴うストレスの発生要因について	ストレスと生活との関連が理解できる。										
2	看護業務に伴うストレス(1) 組織の一員として、ライン構成とスタッフの役割	組織構成員としてのストレス発生要因が理解できる。										
3	看護業務に伴うストレス(2) 看護サービス利用者との信頼関係の構築と生命倫理への関わり(グループワークを含む)	他者と信頼関係を構築する時に必要な認知再構成の必要性が理解できる。										
4	看護業務に伴うストレス(3) チーム看護・チーム医療とコミュニケーション(グループワークを含む)	看護業務の遂行に伴って発生するストレスが理解できる。										
5	ストレスコーピングを目指した生活習慣や生活様式とは	各自の生活とストレスコーピングの関係が理解できる。										
6	各自のストレス耐性力を超えた状況になった時の社会的サポート資源及びシステムの活用(グループワークを含む)	職業生活に伴うストレスとその対処方法が理解できる。										
7	生活環境の変化に伴うストレス—新卒看護師とストレス発生要因とその対処方法について(グループワークを含む)	新卒看護職として職業生活開始時に予測されるストレス状況について理解できる。										
8	各自のストレスマネジメント能力育成方法について	看護職としてストレスマネジメントの必要性について理解できる。										
留意事項(履修条件等)												
看護学実習や学生生活においてストレスになった状況とその時の対処した方法について、振り返っておくこと。 授業開始 10 分間に事前学習課題及び事後課題の報告を受けます。また確認レポートのフィードバックも講義時間内に行います。												

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学習(事前・事後の学習)に示されている内容の学修が必要です。

事前学習: それぞれ授業の終了時に次回の授業における課題を提示しますので、それを基に学習をすること。

事後学習: 授業時に配布する資料を基に理解できていないことを学習すること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業の前後をオフィスアワーとします。質問があればその時にしてください。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:なし

参考書:「精神対話論」財団法人メンタルケア協会編 慶應義塾大学出版会 2013年、

ISBN:978-4-7664-2028-9

最終到達目標

・看護業務とストレスの関係、ストレス軽減方法、ストレス対処方法について説明できる。

・新卒看護職として職業生活の遂行に向けて対応力を培う準備ができる。

評価方法及び評価基準

グループワークにおける意見交換への参加度:20点(4回), 単元ごとのまとめ:40点(8回,)最終まとめレポート:40点など配点得点を合計100点満点として総合評価する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

学生生活及び看護実習を通して、強いストレスを感じた事象とその対処方法について振り返っておいて下さい。

授業コード	ENQ0901			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	研究方法論	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	奥田泰子、三並めぐる、田中正子、大西ゆかり、棚崎由紀子、中島紀子、羽藤典子				探求心	○	
講義目的	看護研究の目的や意義、看護研究の方法と論文のまとめ方など、看護研究を進めるうえで必要な基礎的知識や方法、態度を修得することを目的とする。						
授業内容	日常におこる現象や看護実践の場における観察から、研究課題を発見する感性を涵養し、課題解決のための根拠を提示する科学的アプローチのしかたや分析方法を考えることができるように、看護研究の意義や方法、研究を実施する上での倫理的視点、様々な研究方法の特徴について講義する。また文献を活用して自らの研究課題を深めることができるように、文献検討・検索を実践する。看護研究を実践するうえで必要な研究計画書の具体的な内容を講義し、グループで研究計画書を作成する。						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	看護研究とは;研究の定義、研究の目的、看護における研究の重要性	看護における研究の役割と重要性について理解できる。					
2	研究過程の概観;研究課題、概念枠組みの明確化、研究方法の選定、データ収集、データ分析、結果とその解釈および研究の発表	看護研究はどのように進めしていくのか理解できる。					
3	文献検索;関心領域の文献検索	文献検索の方法を理解し、実践できる。					
4	概念枠組みと仮説;概念枠組みの考え方、変数とは、仮設の設定	概念枠組みの考え方と変数、および仮説設定の必要性について理解できる。					
5	研究デザインとは 1. 実験研究	研究デザインの種類とその特徴について理解できる。 実験研究の種類と特徴、データの収集方法について理解できる。					
6	研究デザイン 2. 仮説検証型研究 3. 実態調査研究	仮説検証型研究および実態調査研究の特徴と違いについて理解できる。					
7	データ収集と分析 質問紙法と面接法	質問紙法と面接法それぞれにおいて、データとは何か、データ収集の方法と分析について理解できる。 変数の種類(4つの尺度)について理解できる。					
8	文献の読み方;量的研究論文	文献を読むことを通じて、量的研究論文とはどのような研究であるかを理解できる。					
9	質的研究および事例研究(1) ①質的研究の意義と方法 ②事例研究の意義と特徴	質的研究の意義、前提と種類、特徴について理解できる。 事例研究の意義と特徴を理解するとともに、事例検討と事例研究の違いを理解できる。					
10	質的研究および事例研究(2) ①質的研究、事例研究の文献の読み方 ②質的研究のクリティック	質的研究、事例研究の文献を実際に読み、データ収集や分析方法について理解できる。 質的研究の文献についてのクリティックの方法について理解できる。					
11	研究における倫理;研究実施者としての倫理、研究対象者に対する倫理	人を対象とする研究を行う上で必要な倫理的視点および行動を理解できる。					
12	研究計画書について;作成の意義、計画書の形式	研究計画書を作成する意義および計画書を構成する形式について理解できる。					

13	研究計画書作成	研究課題の探求から文献検索を通して、グループ内で研究計画書を作成できる。
14	研究計画書作成	研究課題の探求から文献検索を通して、グループ内で研究計画書を作成できる。
15	研究計画書発表会	作成した研究計画書の発表会を実施し、クラス内で情報共有を行う。また、発表会を通して、次年度履修予定の看護研究に向けて課題発見の機会にできる。

留意事項(履修条件等)

4年次の『看護研究』を履修するためにはこの科目を履修し単位を修得しておく必要があります。看護研究の必要性や、研究の目的・方法を理解し、看護研究のプロセスを学習します。学生個々の興味関心のある研究テーマをもとに学習を勧めますので、看護に関する情報に敏感になります。

課題レポート等のフィードバックはその都度授業時間内に行います。全体のフィードバックについては授業時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学習(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学習(事前・事後の学習に示されている内容の学習)が必要です。

事前学習:各単元に関連する内容を教科書・参考書を活用して調べて授業に参加してください。授業のための課題が提出された場合は、授業までに実施し、授業に持参しましょう。

事後学習:次回授業までの課題が出ます。授業終了後早いうちに課題を実施しましょう。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

各担当教員のオフィスアワーの時間と場所に従ってください。

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:看護における研究 第2版、日本看護協会出版会、ISBN 978-4-8180-2066-5

参考書:必要時、授業の中で適宜紹介する。

最終到達目標

1. 看護研究における倫理の必要性と具体的な配慮について述べることができる。
2. 看護研究の必要性、目的や科学的探究方法について説明できる。
3. 基本的な研究方法の知識を持ち、文献を活用した自己の研究課題を述べることができる。
4. 研究計画書を作成することができる。

評価方法及び評価基準

研究計画書 20%、授業参加状況とグループ活動での貢献度 10%、筆記試験 70%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第34条)

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

この科目は 4 年次の看護研究を履修する上で重要な科目です。看護研究は、学生個々の看護実践に関する疑問から始まります。この授業を通して、科学的、論理的な考え方や研究方法を身に付けてください。自分自身の関心がある内容について科学的に解決していく方法ですので、日ごろから人々の健康・看護に関する疑問や関心を持ちましょう。2 年次の基礎看護学実習Ⅱで経験することを大事にしてください。そこに看護研究の第一ステップがあります。

授業コード	ENQ1001			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性								
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野と倫理観	○							
授業科目名	看護研究	選択・必修	必修		知識・技術	○							
配当学年/学期	4年/通年	単位数	2		判断力	○							
担当教員	専任教員全員				探求心	○							
講義目的													
これまでに修得した各領域における授業や演習、実習を通して、学生個々が関心のある研究テーマを探求し、研究論文を作成することを目的とする。また、看護現象を科学的にとらえ、将来の看護実践の向上につながる研究的思考や倫理観について学修する。													
授業内容													
これまでに修得した様々な看護学実習と看護専門科目ならびに関連領域科目を統合させて志向できる能力を身につける。具体的には看護研究の意義・目的を明確にし、研究テーマの決定方法、文献検索の意義と方法、研究計画書の作成方法などの基礎的知識をもとに、学生が個人で研究の過程を実際に体験し、論文の作成を行う。また、このプロセスをたどることによって、将来の看護研究活動への基礎作りをする。													
【看護研究の進め方】													
授業は、担当教員と相談しながら研究を実施する。 「研究方法論」で学習した内容を基盤に、小人数のゼミナール形式で文献の抄読、研究テーマに関するディスカッションを行い、研究テーマの明確化、研究計画書を作成する。また、担当教員の指導下に、研究計画書に基づき、データ収集、分析、研究論文作成のプロセスを踏み、看護研究論文を作成する。 個人研究を原則とし、研究の成果を発表する。													
授業計画及び学習課題													
回	標 題												
1 ～ 30	※看護研究実施要項に従う												
留意事項(履修条件等)													
本科目を受講するには、「研究方法論」の単位を修得していることが必要です。 課題のフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては授業時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。													
授業時間外の学修(事前・事後学習)													
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習)に示されている内容の学修が必要です。 事前学習: 担当教員に指定された事前学習を行って毎回の授業に参加する。 事後学習: 自己の研究課題に対する研究指導を毎回振り返り、次回の授業に向けて準備を行う。													
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)													
各ゼミ担当教員のオフィスアワーに準じる。													
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)													
教科書、参考書: 「研究方法論」で使用した教科書(看護における研究 第2版、日本看護協会出版会、 ISBN 978-4-8180-2066-5 を参考にし、そのほかは担当教員より、適宜紹介する。													

最終到達目標

1. 興味・関心を抱いた看護上の問題や看護現象などから、主体的に研究テーマを明確にできる。
2. 研究の意義を理解し、研究課題を探求するための研究計画書を作成することができる。
3. 研究計画に基づき、研究的な手法を用いてデータ収集・分析し、結果を考察して論理的に記述することができる。
4. 規定の執筆要領に従い、研究論文を作成できる。
これらをとおして研究的思考ならびに態度を養う。

評価方法及び評価基準

提出した研究論文 50%、研究論文作成までのプロセスの理解 30% およびその取り組み姿勢 20% など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- | | |
|---------------|---------------------------------|
| S(100~90 点) : | 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80 点) : | 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70 点) : | 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60 点) : | 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59 点以下) : | 学習目標の最低限を満たしていない (Failure) |

学生へのメッセージ

これまでの授業や演習、実習を通して興味・関心を抱いた看護上の問題などについて明確にして授業に参加してください。主体的に課題解決の努力をしましょう。卒業後の臨床では必ず研究能力を求められます。
この授業を受けるまでに、「研究方法論」の講義時に使用した資料を復習することをお勧めします。

授業コード	ENR0101			定める 養成する 能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と 倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	基礎看護学実習 I	選択・必修	1		知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	必修		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	中島 紀子 他				探求心	<input type="radio"/>	

実習目的

基礎看護学実習 I は、保健・医療の患者との関わりの実際を見学し、保健・医療の分野における看護職者の役割と機能を学ぶ。また、患者の療養環境を観察し、その環境が適切なものであるかを学修する。以上のことを通して今後の学修への動機づけとすることをねらいとしている。さらに、看護専門職者に求められる基本的な態度を修得する。この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面ももつ。

実習内容

- 学生を 16 グループ(80 名を 1 グループ 5 名)にわける。
- 学生 1 人あたりの実習期間は、病院で 4 日、学内を 1 日とする。
- 実習方法は以下の通りとする。

1) 実習オリエンテーション

実習期間前に実施し、実習目的・目標、実習方法を実習要項にそって説明する。

2) 事前学習

- ①実習施設の特徴 ②実習に向けての自己の課題

3) 病院実習

①施設オリエンテーション：実習施設の概要(病院の特徴・理念、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と多職種の連携等)の説明を受ける。担当は各病院の教育担当者とする。

②施設見学：様々な看護活動の場、患者を取り巻く環境として、施設内にどのような関連部門があるか、どのような職種の人々が働いているか、また構造や環境面で患者にどのような配慮や工夫がなされているのかを知る。担当は各病院の教育担当者及び臨地実習指導者とする。

③病棟オリエンテーション：各実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者とする。

④シャドーイング実習：病棟看護師とともに行動(シャドーイング)し、看護師の行う看護実践を見学する。担当は臨地実習指導者及び病棟看護師とする。①～④の活動を通して、学生は看護の対象者をとりまく療養環境について概要を把握し、看護職者の役割及び看護の機能について考察する。

⑤学生振り返り：実習グループごとに病院実習での学びを共有する。担当は臨地実習指導者と教員とする。

4) 実習反省会

最終日に各病棟にてメンバーの体験と自分の体験を照合し、基礎看護学実習 I における自己の体験を多面的・客観的に捉えなおし、今後の課題を見出すことを目的とする。担当は教員及び臨地実習指導者とする。

実習計画

実習期間：①平成 31 年 8 月 5 日(月)～9 日(金)

②平成 31 年 8 月 26 日(月)～30 日(金) * ①②のいずれか 1 週間

実習場所：愛媛県内 9 施設

実習スケジュール

	午 前	午 後
月	施設オリエンテーション、施設見学	病棟オリエンテーション 学生振り返り
火	シャドーイング実習、受け持ち実習	受け持ち実習、学生振り返り
水	学内	学内
木	シャドーイング実習、受け持ち実習	シャドーイング実習、学生振り返り
金	受け持ち実習	実習反省会

留意事項(履修条件等)					
「看護学概論Ⅰ、Ⅱ」の単位修得見込みであること。 ・実習期間、すべての出席を原則とする。 ・実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。 ・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。 ・実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。					
授業時間外の学修(事前・事後学習)					
1 単位につき45時間の学修時間を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。 事前学習：実習施設の特徴を調べる。実習に向けての自己の課題を明確にする。 事後学習：日々の関わりをしっかり振り返り記録に残すようにする。					
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)					
時間：火曜5限、木曜5限 場所：716 研究室					
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)					
教科書：「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①」、医学書院、ISBN:978-4-260-02181-4 *看護学概論で購入					
最終到達目標					
1. 患者との関わりを通して、保健・医療の分野における看護職者の役割と機能が理解できる。 2. 患者を取り巻く療養環境を観察し、患者にとって適切な生活環境を理解できる。 3. 看護職者に求められる基本的な態度について述べることができる。					
評価方法及び評価基準					
実習目標の到達度(記録・態度・カンファレンスの参加状況)：90%、実習レポート：10%など配点得点を合計100点満点として総合評価する。					
<p>成績評価基準(学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)					
学生へのメッセージ					
看護学概論で学んだ看護の役割や看護の機能といった内容が、臨地実習につながってくると思います。多くのことを見て感じができるよう、積極的な姿勢で実習にのぞんでください。 また後期から始まる専門科目への動機付けにもなりますので、みなさんの学びがグループ間で共有できるよう多くのことを観察してきてください。					

授業コード	ENR0201			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	中島 紀子 他				探求心	<input type="radio"/>	

実習目的

基礎看護学実習Ⅱは、看護過程を展開する中で、専門的な援助関係を形成する能力と、看護実践への基礎的能力を身につけ、各領域実習に向けた基礎的能力の修得を図る。また、学内で修得したコミュニケーション技術、生活援助技術や診療の補助としての看護技術を実際の患者に提供することで、基本的な看護技術の修得を図る。

実習内容

- 実習期間は2週間とする。
 - 学生は13グループ(1グループ4~5名)で実習する。
 - 実習方法は以下の通りである。
 - 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習要項に沿って説明する。担当は実習担当教員とする。
 - 病棟実習では以下の内容を実施する。
 - 施設オリエンテーション: 実習施設の概要(病院の特徴・理念、組織、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と多職種の連携等)の説明を受ける。担当は各実習施設の教育担当者とする。
 - 病棟オリエンテーション: 実習グループに分かれ実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者とする。
 - 看護過程の展開: 1人の患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価の一連の流れを経験する。看護過程の展開における思考過程の指導は教員が実習指導者と連携して行う。
 - カンファレンス: 日々の学びを報告し共有する。テーマは学生と教員で決める。担当は教員と臨地実習指導者とする。
 - 実習反省会: 受持ち患者で展開した看護過程を中心に、2週間の学びをグループで共有する。
 - 実習全体報告会
- 学内で異なる実習グループのメンバーの体験と自分の体験を照合し、自己の体験を多面的・客観的に捉えなおし自己の今後の課題を見出すことを目的とする。

実習計画

実習期間: ①平成32年2月17日(月)～28日(金) * ①②のいずれか2週間
 ②平成32年2月10日(月)～22日(金) 実習場所: 愛媛県内9施設

実習スケジュール

	曜日	学習活動	備考
第一週目	月	病棟オリエンテーション 患者紹介、受け持ち患者との関わり、情報収集	病棟実習時はカンファレンスにて振り返り。 病棟最終日は実習反省会を実施。
	火	情報収集、看護過程の展開、看護ケアの見学	
	水	【学内】実習記録の整理、技術の再確認	
	木	情報収集、アセスメント、看護問題の明確化、看護ケアの見学	
	金	問題の明確化、看護計画立案、看護ケアの見学	
第二週目	月	看護過程の展開、看護計画に基づいた看護技術の実施	
	火	看護過程の展開、看護計画実施・評価・修正	
	水	【学内】実習記録の整理、技術の再確認	
	木	看護過程の展開、看護計画実施・評価・修正	
	金	看護計画実施・評価・修正、実習反省会	

留意事項(履修条件等)

「看護学概論Ⅰ・Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅰ」「生活援助方法論」「生活援助法演習」「診療援助方法論」「診療援助方法演習」「看護コミュニケーション論」「看護過程」の単位を修得しており、「ヘルスアセスメントⅠ」の単位修得見込みであること。

- ・実習期間、すべての出席を原則とする。
- ・実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。
- ・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。
- ・実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

1 単位につき45時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。

事前学習：実習で看護過程の展開ができるよう、事前課題を仕上げ、看護過程の復習をする。

事後学習：全体像が把握できるよう、必要な疾病や検査等について分からぬところは調べて実習にのぞむ。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

時間：火曜5限、木曜5限 場所：716研究室

教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)

教科書：「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①」、医学書院、ISBN:978-4-260-02181-4

* 看護学概論で購入

「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」、医学書院、

ISBN:978-4-260-01579-0 *1年次に購入

最終到達目標

1. 患者との関わりを通して、患者を理解し専門的な援助関係を構築することができる。
2. 患者に応じた看護過程を展開することができる。
3. 患者との関わりを通して、基本的な看護技術を修得することができる。

評価方法及び評価基準

実習目標の到達度(看護過程 66%, 看護技術 20%, 記録学習態度 14%)など配点得点を合計100点満点として総合評価する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

1人の患者を受け持ち、看護過程を展開します。また、看護技術も実施します。これまでに学んだ知識や技術を活用できるようにしっかり復習し、積極的な姿勢で実習にのぞんでください。

授業コード	ENR0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="checkbox"/>							
科目区分	専門科目—臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="checkbox"/>							
授業科目名	小児看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="checkbox"/>							
配当学年/学期	3年/後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="checkbox"/>							
担当教員	三並めぐる 羽藤典子 他				探求心	<input checked="" type="checkbox"/>							
実習目的													
小児の成長・発達過程における特徴を理解し、各発達段階に応じた援助を学ぶ。また、健康問題が小児と家族に及ぼす影響を理解し、小児の成長・発達、健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的知識・技術・態度を修得する。													
実習内容													
小児看護学実習は、事前学習、実習オリエンテーション、病院実習、外来実習、保育所実習、実習成果報告会で構成される。													
1. 実習場所は、保育所および病院の小児系の病棟と外来とする。													
2. 学生は、16グループ(1グループ約5名程度)に分かれる。													
3. 実習期間は2週間とし、保育所実習2日間、病棟実習5日間(オリエンテーションを含む)、外来実習1日間とする。													
4. 実習方法は、次のとおりとする。													
1) 実習オリエンテーションは実習開始前に実習要項に沿って行う。併せて、看護技術の振り返りと各実習施設のオリエンテーションを行う。学生は、オリエンテーションに必要な事前学習を行う。													
2) 保育所実習では以下の内容を行う。													
①0歳～5歳児クラスの保育に参加する。													
②小児との関わりや観察を通じ、成長発達段階を踏まえた児の特徴を理解する。													
③小児の基本的生活習慣の獲得やその自立の促しに必要な関わりを学ぶ。													
④小児との遊びやコミュニケーションを通して、成長発達段階に適した援助を学ぶ。													
⑤日々のカンファレンスにより情報共有を行い、学生同士のディスカッションを通して、学びを深める。													
3) 病院実習では以下の内容を行う。													
①病棟オリエンテーション: 小児病棟の構造や特殊性を学ぶ。													
②看護過程: 1名の患児を受け持ち、小児や家族とのかかわり、疾患の状態、治療、成長発達過程などを理解し、患児の状態を的確に判断し健康レベルに応じた適切な看護(看護過程の展開)を実施・評価する。													
③学生カンファレンス: グループ実習での学びを共有する。担当は教員と臨地実習指導者とする。													
4) 外来実習では、様々な健康レベルにある小児とその家族の小児科外来受診目的を理解し、実習を行う。													
5) 実習成果報告会は以下の内容を行う。													
学内にて、異なる実習グループのメンバーの体験を共有し、小児看護学実習における自己の学びを振り返り、今後の学習課題を見出す。													
実習計画													
病院実習施設: 1)西条中央病院 2)市立八幡浜病院 3)愛媛県立こども療育センター 4)市立宇和島病院 5)愛媛大学医学部附属病院 6)なか小孩科他													
保育園実習施設: 1)松山中央乳児保育園 2)未来保育園 3)未来夢保育園 4)愛隣こども園 5)虹のそら保育園 6)こどものくに保育園 7)ひよこ保育園													
実習計画:													
1週目 <実習場所>	<午前>		<午後>										
月 病棟実習	①病棟オリエンテーション		②ケア見学		③看護過程(情報収集)								
火 病棟実習	①ケア見学		②看護過程(情報収集/アセスメント)										
水 病棟実習	①看護過程(情報収集)		②中間カンファレンス										
木 病棟実習	①看護過程(アセスメント/関連図)		②看護過程(看護計画立案)		③カンファレンス								
金 病棟実習	①看護過程(実施/評価/修正)		②カンファレンス										

2週目 <実習場所>		<午前>		<午後>	
月 大学	①個人のまとめ		②グループ間での実習成果報告		
火 小児科外来	①施設オリエンテーション		②外来診療の見学と関わり	③カンファレンス	
水 保育所	①施設オリエンテーション		②保育所の日課に参加	③カンファレンス	
木 保育所	①保育所の日課に参加		②保育所の日課に参加	③振り返り会	
金 大学	①個人のまとめ		②グループ間での実習成果報告		

留意事項(履修条件等)

(履修条件)

- 1.専門基礎科目(23単位)のうち、疾病・治療論Ⅰ～Ⅲ(4単位)を修得し、かつ残り19単位のうち15単位を修得していること。
 - 2.専門科目のうち、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を修得見込みであること。
 - 3.基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。
- ・実習期間、すべての出席を原則とする。
 - ・実習(保育所実習、病院実習、帰学日)時間の5分の4に満たない場合は、単位認定しない。
 - ・実習記録物の提出が遅滞した場合は減点対象とし、未提出の場合は、単位認定しない。
 - ・実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。

実習時間外の学修(事前・事後)

1 単位につき 45 時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。

事前学習:これまでの講義や演習で学んだ内容を理解し、看護技術は自主的な練習後、実習に臨んでください。

事後学習:1日の実習を振り返り、根拠を示して看護記録をまとめ、翌日の実習に活かしてください。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

場所:各研究室(三並研究室 708、羽藤研究室 709) 曜日・時間:毎週水曜日 12:30～14:30

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

必要に応じて資料を配布

教科書:「小児看護学概論 改訂第3版」二宮啓子 今野美紀編、南江堂 ISBN:978-4-524-25982-3

「小児看護技術 子どもと家族の力を引き出す技」、南江堂、ISBN: 978-4-524-25983-0
(小児看護学概論・援助論Ⅰ・Ⅱで使用)

参考書:「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0

最終到達目標

1. 小児の成長発達段階における特徴やその違いを学び、基本的生活習慣の自立を促す援助を理解できる。
2. 小児との良好なコミュニケーションを築くことができる。
3. 健康問題のある小児とその家族の最良の健康状態に向けて、必要な看護を実践できる。

評価方法及び評価基準

課題の提出状況および内容 40%、実習の参加状況および態度 40%、最終レポート 20%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

小児の成長・発達とその援助の重要性、正確な知識との確で根拠のある看護援助を目指してください。また、小児との遊びや学習、心身の健康観察、看護援助では、ディストラクション、プレパレーション力を発揮して、個別性のある看護実践能力を追い求め続けてください。

授業コード	ENR0401			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>					
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>					
授業科目名	母性看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input type="radio"/>					
配当学年/学期	3年/後期	単位数	2		判断力	<input type="radio"/>					
担当教員	永江真弓 他				探求心	<input type="radio"/>					
実習目的											
1. 地域の周産期医療の中核を担う病院における看護職の活動について系統的に学修する。外来での健康診査・保健指導を見学し、妊娠・産褥各期の特徴と看護ケアの実際を学ぶ。 2. 病棟ではベッドサイドケアを通して、妊娠婦婦および早期新生児を身体的・心理的・社会的側面から理解し、母子の特性を理解した上で必要に応じた看護過程を展開する。 3. 周産期における母子関係および家族へのサポートの重要性を理解し、援助方法の実際を学ぶ。 4. 実習の全過程を通して、生命の尊厳と生命を守り育てていくことの重要性を考え、学生自身の母性および父性についての理解を深めることを目指す。											
実習内容											
母性看護学実習は、事前学習、実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、看護過程展開実習、実習成果報告会で構成される。 1. 実習施設は、病院および助産院で行う。 2. 病院での実習場所は、産科病棟、新生児室、産科外来とする。 3. 助産院実習は、1施設で行い、見学実習とする。 4. 病院実習では学生は、16グループ(1グループ5名程度)にわかれ、実習を行う。 1施設ごとに、必ず教員が実習指導につく。 助産院実習は、1日を当て、4グループ(20名ずつ)にわかつて行う。 5. 学生1人当たりの実習期間は、2週間の集中実習とするが、助産院実習は、別期間に設定する。 6. 実習方法は、次のとおりとする。 1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習の手引きに沿って説明する。併せて各実習施設のオリエンテーションを行う。オリエンテーションが終了したら、各自学習課題をみつけ、事前学習を行う。 2) 病院実習では以下の内容を行う。 (1) 妊産婦婦および新生児を受け持ち、母子への看護を実践する。 (2) 妊産婦婦、新生児およびその家族との触れ合いを持つ。 (3) 分娩見学、新生児の観察および沐浴を体験する。 (4) 妊産婦婦の外来健康診査および母親学級等に参加し保健指導の実際を見学する。 (5) 学生カンファレンス: グループごとに施設実習での学びを報告し、共有する。 3) 助産院では施設内見学を行い、可能であれば健康診査・保健指導などを見学する。											
留意事項(履修条件等)											
(履修条件) 1. 「基礎看護学実習Ⅱ」の単位を修得していること。 2. 「疾病・治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得していること。 3. 1年から3年前期までの専門基礎科目の全必修科目23単位のうち、「疾病・治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を除く必修科目を15単位以上修得していること。 4. 「母性看護学概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」の単位修得見込みであること。											
(留意事項) ・実習期間、すべての出席を原則とする。 ・実習(病院実習、学内日)時間の4/5に満たない場合は、単位認定はできない。 ・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。											

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習)に示されている内容の学修が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

事前学習:母性看護学概論、母性看護援助論 I、母性看護援助論 II で学んだ内容をよく復習しておくこと。具体的な学習項目は、母性看護援助論 II の授業時間内および実習オリエンテーション時に提示する。

事後学習:実習で学んだ内容は、その都度記録にまとめ、疑問点があれば積極的に教員や臨地実習指導者に質問をしたり、教科書・参考書等を活用して追加学習をすること。

実習計画

実習施設:西条中央病院、市立宇和島病院、愛媛労災病院、まつやま助産院

実習計画:

1週目: <午前> <午後>

月(病院実習) 施設オリエンテーション (病棟実習) 受け持ち対象選定、情報収集

火(病棟実習) 受け持ち対象の看護に参加 (病棟実習) 受け持ち対象の看護に参加

水(大学) アセスメント・追加学習 (大学) 計画立案・追加学習

木(病院実習) 計画に沿って看護実践 (病院実習) 計画に沿って看護実践

金(病院実習) 計画に沿って看護実践 (病院実習) 事例カンファレンス

2週目: <午前> <午後>

月(病院実習) 計画に沿って看護実践 (病棟実習) 計画に沿って看護実践

火(病棟実習) 計画に沿って看護実践 (病棟実習) 計画に沿って看護実践

水(大学) 看護実践の評価・追加学習 (大学) 看護実践の評価・追加学習

木(病棟実習) 計画に沿って看護実践 (病棟実習) 実習反省会

* 助産院実習は、実習施設との調整により行う。

時間:火曜日 5限目 場所:共同研究室(720)

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②」、医学書院、ISBN 978-4-260-02179-1

参考書:「母性看護技術 第2版 看護実践のための根拠がわかる」、メディカルフレンド社、

ISBN 978-4-8392-1594-1

最終到達目標

- 受け持ち対象者の個別性をふまえた看護活動を実践できる。
- 妊娠婦婦および新生児に対する看護観を養うことができる。

評価方法及び評価基準

実習目標達成度(実習内容・実習記録・態度)70%、事前課題・最終レポート 20%、カンファレンスの参加状況 10%で配点得点を合計 100 点満点とし、総合評価する。

成績評価基準(学則第34条)

S(100~90点): 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点): 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点): 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点): 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下): 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

母性看護の対象(妊娠婦婦、新生児とそのご家族)にとって、人生の一大イベントであり、スタートでもある貴重な時期に関わさせていただくことに感謝し、十分に事前学習をしたうえで実習に臨みましょう。

授業コード	ENR0501			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	精神看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	別宮直子 他				探求心	<input checked="" type="radio"/>	

実習目的

精神障がいをもつ人に対して援助的に人間関係を発展させながら、セルフケア能力に焦点を当てた看護過程を展開し支援する方法について学ぶことを目的とする。また、精神障がいをもつ人やその家族に対する療養生活の支援方法とリハビリテーション活動の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について学ぶことを目的とする。

実習内容

精神科病院で一人の患者を受け持ち、セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開を行い、生活者としての理解を深めながら、その人が望む生活や生き方が実現できるような支援を考え実践する。また、プロセスレコードを用いて援助的人間関係の技法を習得する。地域で生活している精神障がいをもつ人とデイケアなどのコミュニケーションをとおして、地域で生活することの重要性およびその方法について学ぶ。

実習計画

精神看護学臨地実習要項を参考すること。2週間の概要は下記のとおりであるが、具体的な実習日程と内容については4月に行われる実習オリエンテーションで説明する。

【実習日程と内容】

2週間のうち精神科病院での実習を8日間行う。そのうちの半日から1日をデイケアで実習を行うこととする。

本科目では実際に病院に出向いて、1名の患者をうけもち下記の日程で看護過程を展開する。

病棟実習初日に各実習先の病院および病棟で実施されるオリエンテーションに出席し、院内の遵守事項などを把握して実習に臨めるよう準備する。受け持ち患者については実習初日に決定する。

＜第1週＞ 月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
病院実習 病棟オリエンテー ション 受け持ち患者決定 カンファレンス	病院実習 情報収集 コミュニケーション カンファレンス	病院実習 情報収集 コミュニケーション カンファレンス	<学内> アセスメント・ 看護計画作成 看護の方向性を 考える	病院実習 コミュニケーション アセスメント・ 看護計画の発表 カンファレンス
＜第2週＞ 月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
病院実習 看護計画の実施 ・評価 カンファレンス	病院実習 看護計画の実施 ・評価 カンファレンス	病院実習 看護計画の実施 ・評価 カンファレンス	<学内> 振り返りカンファレン スでの資料作成 (看護計画の実施・評 価)	病院実習 コミュニケーション 関係の終了 振り返り カンファレンス

留意事項(履修条件)

本科目の履修要件は、精神保健看護学概論、精神看護援助論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅱ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、1年から3年前期までの専門基礎科目のうち全必修科目23単位のうち疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを除く必修科目を15単位以上修得していることである。

出席が実習時間の5分の4に満たない場合は単位認定できない。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習)に示されている内容の学修が必要である。定められた様式に沿って、1週目金曜日のカンファレンスまでに、受け持ち患者のアセスメントおよび看護計画を立案して提出する必要があるため、実習時間外に各自で学修を進め、毎日、担当教員に提出して個別に指導を受け追加修正する。

アセスメント及び看護計画が十分なレベルに達していないと判断された場合は、時間外にも個別の指導を行う。

また、毎日の記録、プロセスレコードなど記録物が多岐にわたるため、実習要項およびオリエンテーションをしっかり聞いて把握すること。記録物の未提出あるいは内容不十分であると判断された場合は単位が認定されない可能性があるため、提出期限までに内容が充実した記録物を提出する必要がある。

オフィスアワー

木曜日 15時からの90分間とする。

教材

教科書

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」(第5版)、医学書院、
ISBN 978-4-260-02773-1 (精神保健看護学概論で使用)

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」(第5版)、医学書院、
ISBN 978-4-260-02774-8 (精神看護援助論Ⅰで使用)

最終到達目標

- 精神障がいをもつ人を全人的に理解し援助的に人間関係を発展させながら支援する。
- セルフケア能力に焦点を当てたアセスメントを行い、看護過程を展開しながら看護実践を行う。
- 精神障がいをもつ人やその家族に対する療養生活の支援方法、リハビリテーション活動の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について自分の考えを述べる。

評価方法および評価基準

精神看護学臨地実習要項を参照すること。出席が実習時間の5分の4に満たない場合は単位認定できない。

記録物の未提出、提出の遅れ、内容が不十分である場合には単位を認定しない可能性がある。

評価は実習要項の評価表に沿って行う。評価基準は下表に従う。

成績評価基準（学則第34条）

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| S(100~90点) : | 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80点) : | 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70点) : | 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60点) : | 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59点以下) : | 学習目標の最低限を満たしていない (Failure) |

学生へのメッセージ

精神保健看護学概論、精神看護援助論Ⅰ・Ⅱでの講義内容については知識が定着しているとして実習を行うため、これまでの復習が必須です。教科書やノート、配布資料にあらかじめ目を通し復習しておくこと。

事前課題については、4月の実習オリエンテーションで詳しく説明します。

積極的かつ真摯に臨地実習および対象者に臨むことが大切です。実習をとおして学生と受け持ち患者双方が互いに人間的成長を望めるような実習をすることが理想ですので、短期間ですが、一生懸命に受け持ち患者さんに関わってください。

また、精神科においては個人情報の保護など倫理的な態度および視点が必須です。実習で知りえたことはどんな小さなことでも家族を含めた他者に決して相談したり、他言してはいけません。病院におけるルールについてはオリエンテーションで詳しく説明しますので、必ず遵守することが必要です。

授業コード	ENR0601			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>						
科目区分	専門科目—臨地実習				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>						
授業科目名	成人急性期看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input type="radio"/>						
配当学年/学期	3年/後期	単位数	3		判断力	<input type="radio"/>						
担当教員	大坪かなえ、上西孝明 他				探求心	<input type="radio"/>						
実習目的												
急性期にある患者及び家族の特徴を理解し、健康回復・維持に向け、患者の状態の変化に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を養う。												
実習内容												
これまでの「成人看護学概論」「ヘルスアセスメントⅠ」「看護過程」「急性期看護援助論Ⅰ」「急性期看護援助論Ⅱ」の学びに基づき、成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者の健康問題を理解し、対象者及びその家族に対して専門的援助を実施するための看護実践能力を育成する。また学内でのカンファレンスやシミュレーション演習を通して、急性期看護学実習の振り返りと急性期医療における看護の役割と機能を学修する。												
実習計画												
週	曜日	実習計画										
第1週目	月	病棟オリエンテーション、受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
	火	受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
	水	学内日										
	木	受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
	金	受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
第2週目	月	病棟カンファレンス(患者像・看護上の問題点の発表)										
	火	受け持ち患者への看護実践										
	水	学内日										
	木	受け持ち患者への看護実践										
	金	受け持ち患者への看護実践										
第3週目	月	受け持ち患者への看護実践										
	火	受け持ち患者への看護実践										
	水	学内日										
	木	受け持ち患者への看護実践										
	金	午前:受け持ち患者への看護実践 午後:病棟カンファレンス、学生カンファレンス、病棟実習のまとめ										
留意事項(履修条件等)												
(履修条件)												
1.専門基礎科目(必修23単位)のうち、疾病・治療論Ⅰ～Ⅲ(4単位)を修得し、かつ残り19単位のうち15単位を修得していること。 2.専門科目のうち、成人看護学概論、急性期看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を修得見込みであること。 3.基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。												
(出席等について)												
1.出席が実習時間の4/5に満たない場合は、単位を認定できません。 2.実習のフィードバックはその都度時間内に行います。全体のフィードバックについては実習時間内に行いますが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定します。												

実習時間外の学修(事前・事後学習)
科目的単位を修得するにあたり、およそ 45 時間の授業時間外の学習(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。
事前学習:解剖生理、病態学、急性期看護、周手術期看護をはじめ、今までに学んできた知識や看護技術を理解して、主体的に準備学習を進めること。また、看護過程演習の内容をよく復習しておくこと。
事後学習:実習で学習した疾病や、解剖生理等に関する振り返りを毎日行うこと。
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
大坪:水曜日の 5 限 研究室 717 研究室 上西:水曜日の 5 限 研究室 718 研究室
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)
成人看護学概論、急性期看護援助論 I、急性期看護援助論 II で使用したテキスト、参考書等 教科書: 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01991-0 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01987-3 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02000-8 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経」、医学書院、ISBN:978-4-260-02190-6 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02176-0 「看護学テキスト NICE 成人看護学急性期看護 I 概論・周手術期看護」南江堂、ISBN:978-4-524-26136-9 参考書: 「パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 I 急性期・周手術期 第 2 版」、照林社、ISBN:978-4-796-52394-3
最終到達目標
1.急性期にある患者の発達課題・健康障害の種類・健康の段階を捉え、病態・治療・症状が、患者の生活や心理状態に及ぼす影響について理解することができる。 2.患者に必要な看護計画を立案でき、患者の状態に適した観察及び援助が行える。
評価方法及び評価基準
① 実習内容・態度・目標達成度 60% ②実習記録・レポート 30% ③各種カンファレンスへの参加状況 10% 以上①～③を配点得点 100 点満点として総合評価する。
成績評価基準 (学則第 34 条) S(100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
学生へのメッセージ
実習事前レポート・課題があります。(実習前に掲示板にて連絡) 実習前に技術演習の自主学習時間を設けます。積極的に参加して下さい。

授業コード	ENR0701			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目—臨地実習				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	成人慢性期看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	3年/後期	単位数	3		判断力	○						
担当教員	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美 他				探求心	○						
実習目的												
1. 慢性疾患をもつ人を受け持ち、身体的・心理・社会的側面から対象を総合的に理解し、慢性疾患とともに生活することの理解を深める。 2. 対象理解をふまえた看護実践を通して、慢性疾患をもつ人への看護の役割を考察する。												
実習内容												
1. 入院中の慢性疾患をもつ人を受け持ち、実習目標に沿って患者の理解を深め、看護過程を展開する。 2. 病棟で行われている検査・処置・治療の見学を通して、慢性疾患をもつ人への看護の必要性や役割を学ぶ。 3. 臨床実習指導者、スタッフへの報告・相談、病棟カンファレンスを通して患者理解を深め、患者への看護を検討する。 4. 学内カンファレンスを通して、慢性期看護実習を振り返り、慢性疾患をもつ人への看護の役割を考察する。												
実習計画												
週	曜日	実習計画										
第1週目	月	病棟オリエンテーション、受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
	火	受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
	水	学内日										
	木	受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
	金	受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
第2週目	月	病棟カンファレンス(患者像・看護上の問題点の発表)										
	火	受け持ち患者への看護実践										
	水	学内日										
	木	受け持ち患者への看護実践										
	金	受け持ち患者への看護実践										
第3週目	月	受け持ち患者への看護実践										
	火	受け持ち患者への看護実践										
	水	学内日										
	木	受け持ち患者への看護実践										
	金	午前:受け持ち患者への看護実践 午後:病棟カンファレンス、学生カンファレンス、病棟実習のまとめ										
留意事項(履修条件等)												
(履修条件)												
1. 専門基礎科目(必修 23 単位)のうち、疾病・治療論Ⅰ～Ⅲ(4 単位)を修得し、かつ残り 19 単位のうち 15 単位を修得していること。 2. 専門科目のうち、成人看護学概論、慢性期看護援助方法論Ⅰ・Ⅱの単位を修得見込みであること。 3. 基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。												
(出席等について)												
1. 出席日数が所定の実習時間の 5 分の 4 に満たない場合は、単位認定を受けることができないので、体調管理に気を付けること。 2. 実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。												

(その他の留意事項)

1. 実習要項をよく読んで実習にのぞむこと。
2. 記録物や手帳の取り扱いには注意すること。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

1 単位につき 45 時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。

・事前学習:受け持ち患者さんの疾患や治療、看護について学習すること。

実習病棟で実施されている検査や処置についてまとめておくこと。

・事後学習:実習日誌をはじめ実習記録は、その日のうちに振り返りをして記入すること。

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

大西:水曜日の 3 限、研究室 719

村上:オフィスアワーに従ってください。

山本:火・水曜日の 5 限、共同研究室

教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書:「慢性期看護論 第 3 版」、ヌーヴェルヒロカワ、ISBN:978-4-86174-061-9

参考書:「成人看護学[2] 呼吸器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01991-0

「成人看護学[3] 循環器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01987-3

「成人看護学[4] 血液・造血器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02001-5

「成人看護学[5] 消化器」、医学書院、ISBN:978-4-260-02000-8

「成人看護学[6] 内分泌・代謝」、医学書院、ISBN:978-4-260-01988-0

「成人看護学[7] 脳・神経」、医学書院、ISBN:978-4-260-02190-6

「成人看護学[8] 腎・泌尿器」、医学書院、ISBN:978-4-260-01996-5

* 上記は、急性期および慢性期の看護援助論 I・II、実習で使用します。

最終到達目標

・受け持ち患者への理解を深め、患者像を説明できる。

・受け持ち患者への看護過程を展開できる。

・慢性疾患をもつ人への看護の役割を説明できる。

評価方法及び評価基準

実習目標の到達度・実習記録・実習態度(70%)、学内カンファレンス(10%)、事前課題・実習レポート(20%)の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

・実習における“ほう・れん・そう”(報告・連絡・相談)を心がけましょう。

・リーダーシップ、メンバーシップを発揮して、学びの多い実習にしましょう。

・実習日誌をはじめ実習記録は、期日に間に合うように担当教員に提出すること。期日に遅れた場合は、減点とします。

授業コード	ENR0801			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	在宅高齢者看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力		
担当教員	奥田泰子、棚崎由紀子、眞鍋瑞穂 他				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
実習目的	高齢者の発達課題・健康に関する概念を踏まえ、加齢による心身機能の低下が高齢者の生活に及ぼす影響について実例から課題を見出し探求する。また、高齢者の施設・在宅など居住環境によるケアの今後の課題を探求する。						
実習内容	介護保険を中心とした入所型施設サービス(介護老人福祉施設、介護老人保健施設)や自立支援在宅復帰施設、介護保険の通所サービス(デイサービス)、地域密着型サービス(小規模多機能施設、グループホーム)の見学を通して、その特徴や利用方法を理解する。また、福祉用具の開発・製作過程や介護機器・用品の最新の知識を得て、在宅で生活する高齢者や介護家族への活用方法を考える機会とする。						
実習計画	詳細は実習要項参照						
留意事項(履修条件等)	<p>①本科目の履修には、看護学概論Ⅰ・Ⅱの単位修得見込みであることが条件となる。</p> <p>②実習前にはオリエンテーションを行う。オリエンテーションを欠席した場合は実習に参加できなくなるので注意が必要である。</p> <p>③実習前事前課題を7月のオリエンテーションで提示する。提示された期間に事前課題が提出されていない場合も実習への取り組み姿勢ができていない者と判断し、実習に参加できないことになる。</p> <p>④出席が実習時間の4/5に満たない場合は、単位の認定はできない。</p>						
授業時間外の学修(事前・事後学習)	科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習: 加齢に伴う心身の変化を学習し、生活への影響を理解したうえで自立生活支援に向けた援助方法を考える。 介護保険制度の利用方法や各種介護保険サービスの基本を理解し、見学実習に備える。 事後学習: 見学実習により学んだ内容をもとに、在宅で生活する高齢者の生活上の課題を明確にし、今後の高齢者看護の在り方を創造的に考える。						
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)	高齢者看護学領域の教員3名は、水曜日の4限に各自の研究室で待機しています。						
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)							
教科書:	「系統学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」、医学書院、ISBN 978-4-260-03186-8 (「高齢者看護学概論」の指定教科書)						
参考書:	授業で使用した関連する教科書、配布した資料を参考にしてください。						
最終到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 在宅で生活する介護が必要な高齢者に必要な社会資源の特徴と利用方法を説明することができる。 疾病や障害で介護が必要な高齢者の機能を補完するための福祉用具や介護機器を活用して、高齢者の自立支援の工夫を述べることができる。 家族の介護負担軽減の方法を説明することができる。 						

評価方法及び評価基準

事前学習課題 30%、実習記録 30%、実習への参加度 20%、課題レポート 20%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価します。

成績評価基準（学則第 34 条）

- S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

学生へのメッセージ

見学実習により、施設で働く人々、施設利用者、福祉機器を利用する高齢者に直接接する機会があります。身だしなみや言動に注意し、看護学生としての自覚を持って見学実習に臨んでください。特に、高齢者への尊厳と倫理的配慮を忘れないようしてください。また、見学にあたっては、積極的な学習姿勢を期待します。見学実習をするときには、皆さんの事前学習がどこまでできているかで学びが異なります。貴重な機会ですのでしっかりと事前学習をし、実習中は貪欲に質問して学習してください。

授業コード	ENR0901			定める養成する能力 デイブロマボリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	高齢者看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/後期	単位数	3		判断力	○	
担当教員	奥田泰子、棚崎由紀子、眞鍋瑞穂 他				探求心	○	
実習目的	老年期の特徴を理解した上で、介護老人保健施設(その他の高齢者施設を含む)の生活を送っている入所者の特性に応じた統合的なアセスメント、看護援助の計画・実施・評価の過程を学ぶ。また、高齢社会における保健・医療・福祉状況に対応した多職種との連携のあり方と看護活動、その役割について考察する。						
実習内容	<p>介護老人保健施設や医療機関(療養型病床・回復期リハビリテーションなど)、認知症高齢者共同生活介護(グループホーム)において支援を必要とする高齢者を受け持ち、高齢期を生きる人々とその家族を理解するとともに対象者のニーズや生活に必要な看護支援をアセスメントし、高齢者のQOLを高める看護実践能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3週間の実習の中で、2週間は介護老人保健施設又は医療機関での実習を行う。 治療の継続あるいは治療終了後および在宅生活へ復帰するためのリハビリテーションの場の機能と役割を理解するとともに、在宅復帰支援とその課題を明らかにする。また、長期にわたり生活する場において必要な看護支援やアクティビティケア、さらに他職種と協働して提供される支援や社会資源の活用について学ぶ。 1週間は認知症高齢者共同生活介護(グループホーム)での実習を行い、認知症高齢者への支援について実践的に理解する。 <p>以上の実習を通して、高齢者が尊厳をもって最期まで生活できる看護支援活動と老年看護の役割について考察を深める。</p>						
実習計画	具体的な内容は実習要項参照						
留意事項(履修条件等)	<p>(履修条件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門基礎科目(必修23単位)のうち、疾病・治療論Ⅰ～Ⅲ(4単位)を修得し、かつ残り19単位のうち15単位を修得していること。 基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。 専門科目の、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位修得見込みであること。 <p>(出席等について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 出席日数が所定の実習時間の5分の4に満たない場合は、単位認定を受けることができない。 実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。 						
授業時間外の学修(事前・事後学習)	<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ45時間の実習時間外の学習(学習課題・予習・復習に示されている内容の学習)が必要です。</p> <p>事前学習: 実習オリエンテーションで示された事前課題を指定された日までに提出し、実習への学習面及び態度面での準備を整えてください。なお、実習オリエンテーションを欠席した場合や事前課題の未提出者は、高齢者看護学実習の履修ができなくなることがあるので十分に注意してください。</p> <p>また、実習中は指定された記録物を指定された日に提出できるように事前に準備してください。</p> <p>事後学習: 実習中は、毎日の各自の実施したことへの振り返りが必須になります。実施した看護を振り返り、考察して次の看護につなげましょう。</p> <p>その他は、実習要項を確認しましょう。</p>						

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)										
高齢者看護学領域教員3名は、水曜日の4限に各自の研究室で待機しています。										
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)										
教科書: 「系統学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」、医学書院、ISBN 978-4-260-03186-8 (「高齢者看護学概論」の指定教科書) 「生活機能から見た老年看護過程 第3版」、医学書院、ISBN 978-4-260-02836-3 (「高齢者看護援助論Ⅰ」の指定教科書)										
参考書: 授業で使用した関連する教科書、配布した資料を参考にしてください。(高齢者看護学で使用した教科書のほか、解剖生理学、疾病・治療論、看護学概論、各領域の看護援助論など)										
最終到達目標										
受け持ち高齢者の個別性をふまえた看護活動を実践できる。そのうえで、高齢者看護に対する看護観を考察できる。										
評価方法及び評価基準										
評価は、実習への取り組み姿勢20%や記録物40%、事前課題20%、最終レポート20%など配点得点を合計100点満点として総合評価する。詳細は実習要項を参照のこと。評価基準は下表に従う。										
<p>成績評価基準(学則第34条)</p> <table> <tr> <td>S(100~90点) :</td> <td>学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) :</td> <td>学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) :</td> <td>学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) :</td> <td>学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) :</td> <td>学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
S(100~90点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)									
A(89~80点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)									
B(79~70点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)									
C(69~60点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)									
D(59点以下) :	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)									
学生へのメッセージ										
健康問題がある高齢者とのかかわりを通した学習です。皆さんの健康状態が非常に影響しますので、日頃より健康には留意し、特に感染症への罹患に注意しましょう。実習中は、高齢者への看護実践が安全に実施できるように十分な睡眠と栄養に気を付けましょう。										

授業コード	ENR1001			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	在宅看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	田中正子、村岡由佳里 他				探求心	○	
実習目的	在宅生活をしている療養者およびその家族を統合的に理解し、療養者及びその家族が望んでいる生活や生き方等、自立支援に向けた在宅ケアシステムの概要を学ぶとともに在宅看護に必要な基礎的能力を養う。						
実習内容	地域における在宅看護が果たす役割と機能や在宅で療養生活を送る療養者及び家族への看護活動及び関連機関・多職種との連携等について、訪問看護師と同伴し実際の訪問看護活動を学ぶ。そして在宅療養者とその家族、及び実習施設関係者等と良好な関わりをすると共に、アドバイスを得ながら受け持ち療養者の看護計画を立案し、実施・評価をする。						
1.	2週間の実習期間のうち、8日間は訪問看護ステーションで実習を行い、2日間は学内実習とする。						
2.	訪問看護ステーションでは、オリエンテーションを受け、実習ステーションの周囲における関連機関や在宅療養者の居住地域における環境等について理解を深める。						
3.	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学んだ内容が、実際の現場でどのように展開されているか、訪問看護師の活動・役割等を学ぶ。また保険制度による訪問看護の違い、関連機関や多職種等との連携方法について学ぶ。						
4.	受け持ち療養者を決め情報収集をする。そして実際の訪問活動を通じて療養者及び家族等とのコミュニケーションを図りながら、ニーズを把握し、看護計画を立案・実施・評価する。						
5.	受け持ち以外の療養者については、訪問看護師の動きに合わせて、1日2～3件の訪問に同伴し、学んだ内容等についてアセスメントし記録する。						
6.	毎日学生、教員(可能であれば実習指導者)でカンファレンスをする。						
7.	1週間目に1回中間カンファレンス、2週間目の最後に反省会を実施する。						
8.	2週間の実習を通して、在宅療養者および家族が望むQOLを視野に入れた生活援助支援について考察し、レポートに記述する。						
実習計画							
具体的な内容は実習要項参照							
留意事項(履修条件)							
【履修条件】							
1.	本科目の履修条件は、在宅看護学概論、在宅看護援助論Ⅰ、在宅看護援助論Ⅱ、終末期看護学の単位が修得見込みであること。						
2.	専門基礎科目(必修23単位)のうち、疾病論Ⅰ～Ⅲ(4単位)を修得し、かつ残り19単位のうち15単位を修得していること。						
3.	基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。						
【留意事項】							
1.	実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。						
2.	実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。						
3.	確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。						
授業時間外の学習(事前・事後学習)							
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の実習時間外の学習(事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。							
事前学習: 訪問看護時に必要な事例、実習予定の事例について病態を含め把握しておく(実習前に提示)。							
事後学習: 日々の訪問事例について、その日のうちにまとめて振り返り記録しておく。							

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
田中:毎週金曜日 13:00~14:00、713 研究室 村岡:毎週金曜日 13:00~14:00、共同研究室
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)
教科書:「在宅看護論」;河原加代子著者代表、第 5 版、医学書院、2018 年、ISBN 978-4-260-02762-5 参考書:「在宅看護実習ガイド(パーフェクト臨床実習ガイド)」、山田雅子編著、2011 年、ISBN 978-4-796-52232-8
最終到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における在宅看護が果たす役割と機能について理解できる。 2. 在宅で療養生活を送る療養者及び家族への看護活動について理解できる。 3. 関連機関及び多職種との連携について理解できる。 4. 在宅療養者とその家族、及び実習施設関係者等と良好な関わりができる。 5. 受け持ち療養者の看護計画を立案し、実施・評価をすることができる。 6. 在宅療養者および家族が望む QOL を視野に入れた生活援助支援について考察し、実習の学びについてレポートに記述することができる。
評価方法及び評価基準
事前学習課題 20%、実習記録 40%、実習への参加度 20%、最終レポート 20% 等で、配点得点を合計 100 点満点として総合して評価する。
成績評価基準(学則第 34 条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
学生へのメッセージ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各領域で学んだ知識・技術が在宅でどのように継続・実施に結びついているか、統合して考えながら積極的に学び、生活に寄り添うことを実感してください。 2. 看護学生として、身だしなみや言葉使いなど良識ある言動を心掛けましょう。 3. 実習中は健康状態に留意し、しっかり健康管理をしてください。

授業コード	ENR1101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>							
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>							
授業科目名	公衆衛生看護学実習 I	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>							
配当学年/学期	4年/前期	単位数	3		判断力	<input checked="" type="radio"/>							
担当教員	宮崎博子、藤本千里、日川幸江 他				探求心	<input checked="" type="radio"/>							
実習目的													
1.地域で生活している人々の健康水準の向上と QOL の向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を理解する。 2.人々の健康問題を分析し、その問題解決のために個人と家族及び地域を対象としてヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動ができる基礎能力を養う。													
実習内容													
1. 実習期間は3週間とする。 2. 実習施設は県内の保健所および管内の市町で行う。 3. 保健所・市町村を1つの単位として、地域診断に必要な情報を集約し、アセスメントを行う。 4. 実習期間中に健康教育の企画、立案、実施、評価を行う。 5. 特定の健康課題解決に向けて、家庭訪問、健康相談などの保健活動に参加し、地域住民との協働活動、PDCAサイクルの実際を経験する。													
実習計画													
具体的な実習計画は保健所・市町の行事などを組み入れ、実習地の実情に合わせて作成する。													
留意事項(履修条件等)													
1.専門基礎科目及び専門科目のうち、必修科目のすべての単位を修得していること。 2.保健師選択関連科目的うち、公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を修得しており、公衆衛生看護援助論Ⅲ・Ⅳの単位を修得見込みであること。 ・実習期間すべての出席を原則とする。 ・実習時間の4/5に満たない場合は単位認定できない。 ・実習記録の提出がない場合は単位認定できない。 ・実習のフィードバックはその都度実習時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックについては実習時間内および時間外に設定する。													
実習時間外の学修(事前・事後学習)													
科目的単位を修得するにあたり、およそ45時間の授業時間外の学習(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。													
事前学習:実習施設の組織・機能等について学修する。実習施設で取り組まれている公衆衛生活動について学修する。市町の社会資源の現状や健康指標などから地域診断を行う。実習期間の保健事業の法的根拠及びその活動目的・内容について学修する。													
事後学習:実習期間を通して得られた情報・体験から地域診断を完成させる。家庭訪問や健康相談、健康教育など実習体験を通して学んだこと、気づいたこと、実習の学びの考察をグループワーク等でまとめる。													
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)													
月曜から水曜の昼休憩 宮崎、藤本、日川:各研究室													
教材(「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)													
教科書:公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用したもので再学修する。 参考書:「国民衛生の動向」一般財団法人厚生労働統計協会													
最終到達目標													
保健所及び市町村の役割、機能を理解することができる。また地域で生活する人々の健康ニーズに対して、公衆衛生看護の役割について考える事ができる。地域診断で地域の状況をとらえることができる。													

評価方法及び評価基準

事前学習(10%)、実習態度(70%)、実習記録(20%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

実習施設の保健所や市町で取り組まれている公衆衛生活動について学修し、法的根拠や仕組み、実際の活動から、行政における人々への健康づくり活動の実際について、保健師活動を通して具体的に学びましょう。

本学の学生としての自覚を持ち、後輩の目標となる、社会人としてのマナーを考えて臨むこと。

授業コード	ENR1201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4年/後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	宮崎博子、藤本千里、日川幸江 他				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
実習目的	<p>地域で生活している人々の健康水準の向上と QOL の向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を理解する。</p> <p>人々の健康問題を分析し、その問題解決のために個人と家族及び地域を対象としてヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動ができる基礎能力を養う。</p>						
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 実習期間は2週間とする。 実習場所は県内の企業、学校および瀬戸内海巡回診療船、事業所とする。 愛媛県に特有な地域、島しょ部住民、産業現場に働く労働者、学校保健分野での児童、生徒、教職員の健康問題解決に向けての保健事業に参画する。 公衆衛生看護活動展開の中で連携、協働の実践の重要性およびその方法について学ぶ。 						
実習計画	公衆衛生学実習要項参照のこと。						
留意事項(履修条件等)	<ol style="list-style-type: none"> 専門基礎科目及び専門科目のうち、必修科目のすべての単位を修得していること。 保健師関連科目のうち、公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を修得しており、公衆衛生看護援助論Ⅲ・Ⅳの単位を修得見込みであること。 <ul style="list-style-type: none"> 実習期間すべての出席を原則とする。 実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。 実習記録の提出がない場合は、単位認定できない。 実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックについては実習時間内および時間外に設定する。 						
実習時間外の学修(事前・事後学習)	<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ45時間の授業時間外の学習(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習：瀬戸内海巡回診療船済生丸事業について沿革、目的、役割について学修しておくこと。実習する学校の規模・沿革等について、関連法律、制度について学修する。実習する企業の特性を理解し、産業保健の役割・機能を学修する。</p> <p>事後学習：実習期間を通して得られた実習、体験したこと等から、実習の学びの考察をまとめる。個々の学習だけではなくグループでの活動になるため、各課題に対してそれぞれが実践的に学習することができる。</p>						
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)	月曜から水曜の昼休憩 宮崎、藤本、日川:各研究室						
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)							
教科書：公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで使用したもので再学修する。							
最終到達目標	広域的な視点で保健所及び市町村、地域福祉関連団体等の役割、機能を理解し、地域診断で地域の状況をとらえ、地域で生活する人々の健康ニーズに対して、公衆衛生看護の役割について考える事ができる。産業保健分野・学校保健分野における保健活動の役割を理解することができる。地域でそれぞれの機関、団体が連携して事業展開を図っている状況を理解することができる。						

評価方法及び評価基準

事前学習(10%)、実習態度(70%)、実習記録(20%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

実習施設の各分野で実践の公衆衛生活動について学習し、産業保健や学校保健の分野における法的根拠や仕組み、実際の活動から、健康づくり活動の実際を具体的に学ぶ。

本学の学生としての自覚を持ち、後輩の目標となる、社会人としてのマナーを考えて臨むこと。

授業コード	ENR1301			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>					
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>					
授業科目名	統合実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input type="radio"/>					
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	<input type="radio"/>					
担当教員	看護系専任教員全員				探求心	<input type="radio"/>					
実習目的											
既習の知識と技術を統合し、専門職業人としての自覚と倫理観に基づく看護の対象者への看護実践能力を修得することを目的とする。複数の看護の対象者に対し、限られた時間内で、実習病棟のケアプランに則って、必要なケアを判断し提供することや、保健医療福祉チームの中で、安全かつ効率的に看護実践を提供していくための役割遂行、看護管理、他職種との連携・協働について理解する。これらを通して、専門職業人として必要な態度や課題を明確にする。											
実習内容											
統合実習は、事前学習、実習オリエンテーション、施設実習、実習成果報告会で構成される。 学生個々の課題に基づいて実習計画を立てて実施する。											
1. 実習施設は、病院や福祉施設等とする。 2. 学生を、1グループ5名程度に分け、各機関や施設での実習を行う。 3. 学生1名あたりの実習期間は2週間とする。 4. 実習方法の詳細については、統合実習ガイドブック参照とする。											
実習計画											
実習予定施設(原則として下記施設の中から選択する) 1)おおぞら病院、2)済生会松山病院、3)南松山病院、4)松山記念病院 5)福角病院 6)道後温泉病院 7)西条中央病院 8)市立宇和島病院 9)ベテル病院 10)たんぽぽのおうち											
実習計画											
統合実習要項参照											
留意事項(履修条件等)											
・本実習を受講するには、1年から3年後期までの専門基礎科目および専門科目の必修科目的単位をすべて習得見込みであること。また3年次開講の各論実習17単位のうち14単位以上習得見込みであることが条件となる。 ・実習オリエンテーションに欠席した場合、実習ができない可能性がある。実施日時に十分に注意をすること。 ・実習期間すべての出席を原則とする。 ・実習(病院実習、学内日)時間の5分の4に満たない場合は単位認定しない。 ・実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定します。											
授業時間外の学修(事前・事後学習)											
科目的単位を取得するにあたり、およそ45時間の授業時間外の学習(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。 事前学習:実習までに、自己の課題を明確にして実習施設(看護領域)を選択する。実習までの期間に実習計画を立案し、各看護領域から出された課題を実習までに提出する。 事後学習:実習中は毎日の振り返りを通して実習計画を修正し、次の実習に臨むこと。											
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)											
各実習担当教員のオフィスアワー(時間と場所)に従ってください。											
教材(「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください)											
教科書:指定なし 参考書:今までに使用した教科書や参考書、及び自分のノートなどを参考にしてください。 実習期間を通して、指導教員から指示があります。											

最終到達目標

1. 看護職としての責任を自覚し、倫理的態度がとれる。
2. 主体的、能動的、問題解決的な学習を実践し、看護実践能力が発揮できる。
3. チーム医療におけるマネジメントの視点から、組織、機能、安全などのあり方を考えることができる。
4. 看護チームおよび他職種との協働の中で、メンバーシップおよびリーダーシップが発揮できる。
5. 専門職業人としての責任を自覚し、自己研鑽に努めることができる。

評価方法及び評価基準

授業や実習への参加度 20%、事前課題提出 20%、実習記録類 20%、課題達成度 20%、最終レポート 20%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- | | |
|---------------|---------------------------------|
| S(100~90 点) : | 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80 点) : | 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70 点) : | 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60 点) : | 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59 点以下) : | 学習目標の最低限を満たしていない (Failure) |

学生へのメッセージ

統合実習は、4 年間の実習の総まとめです。これから臨床現場に出ていく皆さんにとって、学生として学んだ看護学実習とは異なり、看護専門職者として臨床で働く看護師とともに患者あるいは入所者の人々に看護を提供するようになります。方法を学ぶのではなく、看護の基本を大切にしながら実際の看護提供ができるように責任のある行動が求められます。

